2020年度入学者用

履修ガイド

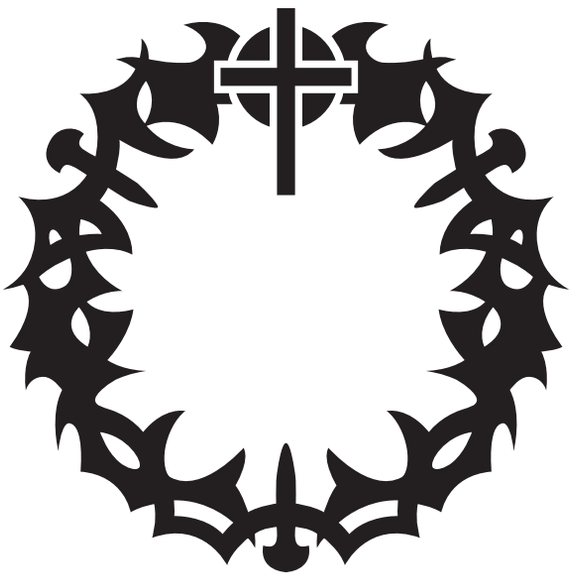
―大学での学修方法について―

この『履修ガイド』は入学した時だけ一人一冊配布されます。
卒業するまで使用しますので大切に保管し、十分活用してください。

桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群
芸術文化学群
ビジネスマネジメント学群
健康福祉学群
グローバル・コミュニケーション学群
航空・マネジメント学群



2020年度入学者用

履修ガイド

―大学での学修方法について―

◆『履修ガイド』は卒業するために必要な単位の修得方法や資格取得に必要な単位についてなど重要な項目が掲載されています。よく読んで履修計画を立ててください。

◆本ガイドは訂正される場合があります。訂正が生じた場合は、本学ウェブサイトに掲載しますので、随時確認してください。
桜美林大学ウェブサイトトップページ→在学生の方→授業・履修情報→履修ガイド

◆本ガイドと共に『大学施設案内』『学生生活ガイド』『ネットワーク利用ガイド』があります。大学生活を送るために必要な事柄が掲載されていますのでよく読んでください。

◆教務担当からのお知らせは、e-Campus の掲示板で行いますので、随時ログインして確認してください。

学籍番号		氏名	

目　次

はじめに ― 1
1．本学の教育目標 ― 1
2．建学の精神 ― 1
3．桜美林大学で学ぶこと ― 1
4．「チャペル・アワー」について ― 2
5．アドバイザーについて ― 2

Ⅰ 本学の教育課程 ― 4
1．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） ― 4
2．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） ― 4

Ⅱ 本学における履修 ― 7
1．本学の単位制と授業科目の区分　2．授業期間・授業時間帯 ― 7
3．授業方法と授業時間、単位の計算方法 ― 7
4．欠席の取り扱い ― 8
5．休講・補講　6．履修条件　7．履修制限　8．授業の統合・閉講 ― 8
9．履修登録の手順　10. 単位の修得と成績評価 ― 9
11. ＧＰＡ制度 ― 10
12. メジャーとマイナー　13. 卒業 ― 12
14. 学生証　15. 科目ナンバリングコード ― 13

Ⅲ 授業科目と履修方法 ― 16
1．基盤教育 ― 16
　1．基盤教育について ― 16
　2．コア科目 ― 16
　3．基盤教育科目 ― 17
　4．外国語科目 ― 18
2．サービスラーニング科目 ― 21
　1．「学而事人」を学ぶ科目 ― 21
　2．サービスラーニング科目の特徴、注意点 ― 21
　3．基礎教育科目におけるサービスラーニング科目 ― 21
　4．専攻科目におけるサービスラーニング科目 ― 21
3．リベラルアーツ学群 ― 22
　1．リベラルアーツ学群について ― 22
　2．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） ― 22
　3．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） ― 23
　4．卒業要件 ― 25
　5．専攻プログラム案内 ― 26
　6．専攻科目と諸注意 ― 94
4．芸術文化学群 ― 124
　1．芸術文化学群について ― 124
　2．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） ― 124
　3．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） ― 124
　4．卒業要件 ― 130
　5．専攻コース案内 ― 131
　6．学群指定科目・専攻科目と諸注意 ― 134
5．ビジネスマネジメント学群 ― 145
　1．ビジネスマネジメント学群について ― 145
　ビジネスマネジメント学類 ― 146
　1．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） ― 146
　2．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） ― 147
　3．卒業要件 ― 148
　4．プログラム案内 ― 149
　5．ガイダンス・専攻科目と諸注意 ― 152
　アビエーションマネジメント学類 ― 157
　1．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） ― 157
　2．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） ― 157
　3．卒業要件 ― 159
　4．専攻コース案内 ― 160
　5．ガイダンス・専攻科目と諸注意 ― 162
6．健康福祉学群 ― 166
　1．健康福祉学群について ― 166
　2．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） ― 166

3．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）166
4．卒業要件 173
5．専攻コース案内 174
6．ガイダンス・専攻科目と諸注意 178
7．グローバル・コミュニケーション学群 185
1．グローバル・コミュニケーション学群について 185
2．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）185
3．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）185
4．卒業要件 188
5．専修等案内 189
6．科目一覧と諸注意 194
8．航空・マネジメント学群 198
1．航空・マネジメント学群について 198
2．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）198
3．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）198
4．卒業要件 201
5．専攻コース案内 202
6．科目一覧 205

Ⅳ 他大学等における履修 209
1．海外留学による修得単位の認定 209
2．特別聴講学修プログラム 209

Ⅴ 技能審査による単位認定 210
1．英語 210
2．中国語 211
3．簿記 212

Ⅵ 資格等 213
本学で取得できる資格等一覧 213
1．教育職員免許状（国家資格） 214
1．教育職員免許状の取得について 214
2．本学の教職課程 214
3．教職課程履修上の注意事項 215
4．教職課程における最低修得単位数 216
5．教職課程の履修方法 217
6．「教育職員免許法施行規則66条の６に定める科目」の履修方法 232
7．「介護等体験」「教育実習」について 233
8．教育職員免許状の申請 235
9．各種証明書 235
10．教職課程の履修と事務手続きの日程 236
11．「教科及び教職に関する科目」と諸注意 237
2．学校図書館司書教諭（国家資格） 239
3．博物館学芸員（国家資格） 240
4．日本語教員養成課程 243
5．社会福祉士（国家資格） 246
6．精神保健福祉士（国家資格） 248
7．公認心理師（国家資格） 250
8．認定心理士（公益社団法人日本心理学会認定資格） 252
9．健康心理士（日本健康心理学会認定資格） 254
10．JPSU 認定スポーツトレーナー（一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会） 255
11．健康運動実践指導者（公益財団法人健康・体力づくり事業団認定資格） 257
12．公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会（共通科目Ⅰ＋Ⅱ）免除適応コース 258
13．初級障がい者スポーツ指導員（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会資格） 259
14．保育士（国家資格） 260
15．幼稚園教諭１種免許状（国家資格） 263
16．社会福祉主事任用資格 266
17．児童指導員任用資格 267
18．操縦士（国家資格） 268
19．航空無線通信士 269
20．ECO-TOP プログラム（東京都認証） 270

参考資料 272
1．桜美林大学学則 272
2．桜美林大学卒業規則 282
3．科目ナンバリングコード【表４】 283

2024年9月16日以降廃止

21．児童福祉司任用資格 293
22．児童心理司任用資格 294

2024年9月16日施行

はじめに

1. 本学の教育目標

本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、専門学芸の研究と教育を行い、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを目的とする。

2. 建学の精神

キリスト教主義に基づくこと。そして語学を身につけた国際人を育成すること。

学園創設者・初代学長　清水　安三（1891～1988）

桜美林学園の「寄附行為」（学校法人の根本規則。会社などの「定款」に当たる）には、「本学園はキリスト教主義の教育によって、国際的人物を養成するをもって目的とする」とある。

本学園の理事だった故大原総一郎博士はそのご生前、「百年後の日本」と題する懸賞文を募ってはどうかと、政府に提案されたが、果たして百年後に日本なる国が、世界の地図の上になおも存在しているであろうか、私はひそかに心配している。

日本国民は、世界にかつてない非攻非戦主義のパシフィックな憲法を持っているが、果たしてパシフィスト精神を持っているであろうか。

そこに、日本の存亡の問題が存している。日本国民が、軍備を用いずに祖国を護ろうと思うならば、少なくとも周囲の各国民の感情を害してはならぬ。常に、周囲の各国民との間に、意思の疎通を図るべく努めねばならぬ。

では誰が、周囲の国民に、本国民程に beloved nation “愛好すべき国民”はないと、思わせ得るであろうか。それは、語学の達人である。よって本学は、我が国の周囲の国々の言語を教えんと欲するのである。

更に、語学だけでは足りない。己を愛する如く隣人をも愛せよ、と教えるキリスト教を、みっちり教えるべきである。

かくてキリスト教主義と語学、この二つをよく体得した人材を能うだけ多数教育せんとするのが、本学の建学の趣旨である。

3. 桜美林大学で学ぶこと

学長　畑山浩昭

これから本学で大学生活を始める皆さんに激励の言葉を贈ります。大学は、あなたが大きく変われる特別な場所です。これまでの人生がどのようなものであれ、これから踏み出す第一歩が、新しい自分に生まれ変わるための大きな始まりになります。このような素晴らしい学びの機会に恵まれたことに感謝して、しっかりと準備し、一つひとつの学びを確かなものとしながら自分の理想を追求していきましょう。

この履修ガイドには、本学で学ぶ上において知っておくべき重要な事柄がまとめてあります。学修の高い成果を期待するには、学びの方法についてよく理解しておくことが大事です。自分の成長を実感できる学修になるように、本ガイドをしっかり読んで準備しておいてください。どのような学びであれ、基本はやはり「授業」です。本学にはかなり多くの授業があり、様々な知識や技能、経験を有する個性的な先生が揃っています。皆さんは授業を担当する教授陣の多様性に驚くことでしょう。個々の授業の目的や計画、担当の先生の経歴などを調べながら、履修する授業を組み合わせて自分の学修を計画することはかなり楽しい作業になるはずです。

授業の受け方については、少し発想の転換や態度の変換が必要です。より主体的に、より積極的に授業に参加するということが必要になります。大学の授業といえば、一般的に、教授が講義等を通して一定の知識を伝達し、学生がそれを受け取るといったイメージがあるかもしれません。しかし、大学の授業の本来的な目的は、個々の学生が授業を通して様々な分野を学ぶことによって「より自由になること」なのです。ここでいう「自由」とは、「開放」という意味に近く、解らないことやできないことに起因する思考や行動の制限や束縛、つまり、不自由な状態にある自分を、学問の力によって解放することを意味します。新しい知識や技術を修得することによって、それまでの

考え方や行動が大きく変わることは、私たちがよく経験することです。この経験こそが学問の醍醐味で、大学はそのような経験を得られる最高の場所なのです。知の力によって人間の生活を進化させることができるのです。

あなたが自由になるためには、能動的に、積極的に授業に参加することが重要です。その際に、「問いを持って」授業に参加し、先生や友人と、その問いの答えを捜し求めるつもりで学修を進めることです。その先に、自由に思考し、行動できる自分が待っていると考えてください。先生も学生も、ある問いに対する答えを見つけるという意味では、同じ「学徒」です。先生や学友と一緒に学究に勤しんでください。幸いにも本学は、創立当初から国際的な教育環境を整えてきていますので、かなり多くの留学生が学んでいますし、皆さんが留学できる多様なプログラムも準備されています。グローバルな視点で学ぶための仕組みを整えていますので、世界的な課題や問題にも国や文化を超えた友人とともに、果敢に挑戦してください。

大学生活の中では様々な問題や課題に直面することもあるでしょう。勉学のみならず生活上の悩みも生じるかもしれません。本学のモットーは「学而事人（がく・じ・じ・じん）」ですが、この言葉は「キリスト教精神に基づく国際人の育成」という建学の理念にも支えられています。「学んだことをできるだけ他者のために活かす、社会に還元する」という実践的な意味ですが、なぜ、これを大事にするかを考えなければなりません。自分の幸せ、他者の幸せ、あるいは広く社会の平和は、個人では実現できず、実はお互いに依存することで成り立っており、共生こそが人類に繁栄と平和をもたらすという信念に基づいたことばが学而事人なのです。他者が困っているときには助け、自分が問題を抱えている時には支えてもらい、その実践の中からお互いに学びあう姿勢、助けあう気持ちが育まれ、勉学上の、生活上の様々な問題を解決することにつながっていきます。キリスト教の精神を学び、国際的な交流を経験し、学而事人を様々な形で実践していく中で、知識や技術の修得のみならず、それよりももっと大きな学び、偉大な叡智にたどり着けるのです。

桜美林学園は2021年には創立百周年を迎えます。１万人を超える学生、10万人を超える卒業生がいます。本学の学生や卒業生はオベリンナーと呼ばれますが、オベリンナーのネットワークは世界中に広がっています。桜美林大学の一員としてのメンバーシップを手に入れた皆さんは、これからはこのネットワークが様々な形で支えてくれます。桜美林の伝統を継承しつつ、今度は皆さんに新しい伝統を創造して欲しいと願っています。勉学に、研究に、スポーツに、文化活動に、皆さんの活躍を期待しています。

4.「チャペル・アワー」について

本学には「チャペル・アワー」が設けられていますが、「チャペル」とは「学校・病院等、教会以外の施設にある礼拝堂」を指しています。本学のチャペル・アワーとは「大学で行われるキリスト教の礼拝の時間」を表しています。キリスト教の礼拝自体が教育的側面を持っていますが、特に、高等教育機関である大学の礼拝はそれが強く前面に出されています。「普遍的な真理」「究極的な存在」との出会いを通し、諸学問へのアプローチの土台が形成されると共に、自己を相対化し、真実なる自己との出会いが可能となります。その意味において、大学というアカデミックな機関における「チャペル・アワー」は大変重要な役割をもっています。大学の先生方や近隣の牧師の方など、それぞれの学問的領域や現場からの豊かな「メッセージ」を通し、多くの啓発を得ることができます。自由参加のプログラムですが、自己探求、真理探求のための貴重な機会として受け止め、積極的に出席することを期待します。

チャペル・アワーのお知らせは、下記に掲示してある案内をご覧ください。

町田キャンパス　荊冠堂チャペル前・其中館掲示コーナー・明々館エントランス・太平館１階ラウンジ・崇貞館エントランスホール・栄光館２階・サレンバーガー館２階ラウンジ・理化学館１階ロビー・徳望館１階ロビー・学而館１階エントランスロビー・一粒館１階インフォメーションセンター

PFC　エントランスホール・ ３階グループディスカッションルーム A

新宿キャンパス　電子掲示板でご案内しています。

東京ひなたやまキャンパス（THC）　所定の場所にてご案内予定です。

多摩キャンパス　所定の場所にてご案内予定です。

5. アドバイザーについて

本学には、教員がアドバイザーとして学生一人ひとりを担当し、教学指導・学生指導を行う制度が設けられています。アドバイザーは、学生の履修登録と成績をモニターするとともに、学生生活においても１学期に最低１回は学生に指導や助言を行います。

学生は学群長に対して、アドバイザーの変更を願い出ることができます。芸術文化学群、ビジネスマネジメント学群、健康福祉学群の学生が「専攻演習」を履修した場合は、その担当教員をアドバイザーにすることができます。

⑴　アドバイザーとの連絡の取り方

アドバイザーは授業の他に、オフィスアワーという時間を設けています。これは学生との相談に当てられる時間です。時間帯は e-Campus に掲示してあります。

オフィスアワーには基本的にアドバイザーが教員オフィスに在室していますが、学内の急用で席を外す場合もあります。アドバイザーとのすれ違いを無くすため、学生は可能な限りＥメール等でアドバイザーと面会時間の約束をしてください。

⑵　アドバイザーとの関係について

①　プライバシーの保護

相談や指導に際して、アドバイザーは必要に応じて家庭や個人的な事情にふれる場合があります。ただし、プライバシーに関わる事項の回答については、各学生の意思に任されます。

②　不服の申し立て

アドバイザーの指導について不服があるときは、学群長に申し出てください。学群長は、公平な立場で問題の解決にあたります。

桜美林大学は、公益財団法人日本高等教育評価機構の認証評価を2012（平成24）年度に受審し、「日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合していると認定する。」という評価をいただきました。

そのなかで、特に『学士課程のすべての科目に「レベル」を設定し、段階的かつ系統的な学修が可能となる措置が講じられていることは高く評価できる。』『専任教員が「アドバイザー」として学生一人ひとりを担当していることや教職員及び上級生が学びについての相談に応じる「コーナーストーン・センター」を設置していることなど、学生に対する学修及び授業支援の体制が充実している点は高く評価できる。』として、「優れている点」として評価もされています。

Ⅰ　本学の教育課程

1. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学は、「豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、専門学芸の研究と教育を行い、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを目的とする」（学則第１条より抜粋）を基本理念とし、本学の各学位プログラムの課程を修め、定められた在学期間、及び124単位以上の修得と通算 GPA1.5以上であることなどを卒業要件としています。

この基本理念を実現するため、本学では以下に記載した項目の能力・資質を高め、それらを総合的に活用できる者に対し、卒業を認定し学位を授与します。また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学の学びは全て学園の行動指針である「学而事人（学びて人に仕える）」に結びつくようになっています。

（１）専攻する各分野における知識・理解

専攻する分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、社会人としての常識やモラルといったジェネリックスキルについての理解も深め、社会にとって自らがどのように貢献できるのかを自覚することができる。

（２）コミュニケーション能力

諸外国（異文化）への理解も深め、グローバル社会の中でもしっかりとしたコミュニケーションが行えるようになるための語学力を身につけ、読み・書き・聞き・話すことができるようになるとともに、社会生活を営む上で必要な他者を思いやる豊かな人間性を身につけ、自分の思いや考えを的確に表現することができる。

（３）論理的思考能力

多種多様な情報を ICT などを用いて情報収集・分析し、さらに分析結果を複眼的、論理的に表現できる力を備えることができる。客観的・批判的・分析的能力、解決思考・コミュニケーション能力を備えることにより、論理的思考能力を高めることができる。

（４）問題発見・解決能力

学修や活動等へ主体的に取り組む際、自身の行動についての問題や課題を常に意識して発見する能力を養うことと、その問題や課題について何をどうすれば解決に導くことができるのかを考え、実行する行動力を高めることができる。

（５）自己管理能力と社会的倫理観

学園の行動指針である「学而事人」を実践するために、社会の規範やルールに従い自らを律して行動ができ、社会の発展のために積極的に関わることができる。また、学び続ける姿勢をもち、自分の役割を自覚することができる。本学での学びを座学のものに終わらせず、社会との関わりにまで視野を広げることによって自己管理能力と社会的倫理観を高めることができる。

（６）協調性とリーダーシップ

国内に留まらず、海外においても他者と協調・協働して行動することができる。また、コミュニケーション能力、知性と専門的な能力を活用して社会的に貢献できるリーダーシップをもって他者に対して方向性を示し、目標を実現するために自ら先頭に立つことができる。

2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を「基礎教育科目」、「専攻科目」及び他学群や他大学、各種技能審査等を単位認定する「自由選択」という区分に分けて編成しています。授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかの方法、又はこれらの併用により行います。また、

カリキュラムの体系化のために「科目ナンバリングコード（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。このような教育課程の編成と、学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方を以下のように定めています。

（1）教育課程の編成

①「基礎教育科目」・「学群指定科目」は、本学学生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎知識と技能を身につけるための科目です。キリスト教科目や、口語表現、文章表現、コミュニケーション、コンピュータ、外国語、キャリアに関する科目などを中心に、学園の建学の精神、教育目標を具現化するための知識を修得します。したがって必ず修得しなくてはならない必修科目と、関連性をもたせて修得するための選択科目あるいは選択必修科目があります。これらは、難易度の高い専攻科目で行われる授業内容を理解できるだけの基礎学力を養成し、本学における学修が円滑かつ充実するように、各学群指定の基礎的な科目で構成しています。

②「専攻科目」は、基礎教育で得た知識・技能をさらに高めるために用意された科目です。したがって難易度もナンバリングに示すように、段階を追うごとに高くなるよう設定しています。自身の学ぶ専攻を基礎教育から関連性をもって能力・資質を引き上げられるように体系化しており、専門性を高めるために各学群や学類、専攻、コース等の所属ごとに必修科目や選択科目を設定しています。

③「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することがきるように設定しています。他学群の専攻科目や他大学（海外留学、単位互換協定校、放送大学、首都圏西部大学単位互換協定会加盟校など）の科目を修得することで、自身の知識の幅を広げることが可能になります。

（2）学修方法・学修過程

①「基礎教育科目」・「学群指定科目」は、初年次教育を含め自身の学修の礎となる科目を学びます。特にキリスト教科目や、口語表現、文章表現、コミュニケーション、コンピュータ、外国語、キャリアに関する科目などは本学の学びのスタンダードとして位置づけられており、多くの学生が学修します。また、学生の主体的・能動的学び（アクティブ・ラーニング）を促進するためにサービス・ラーニング科目を設け、「大学での授業」と「フィールドでの授業」を併せ持った学修環境を用意しています。全学生を対象とした「地域社会参加」「国際理解教育」などのプログラムのほか、各学群のカリキュラムの特性を活かすための科目を配置し、「専攻科目」への履修に結びつけています。また、諸外国（異文化）への理解も深め、グローバル社会の中でもしっかりとしたコミュニケーションが行えるようになるため、「読み・書き・聞き・話す」の語学力を身につけるとともに、社会生活を営む上で必要な他者を思いやる豊かな人間性を身につけ、自分の思いや考えを的確に表現することができるようにします。

②語学教育は、学園の建学の精神にもあるように、語学を身につけた国際人を育てる本学に相応しく18言語を学ぶことができます。なかでも世界共通語である英語に主に力を注いでおり、日本語が母語の学生は全員が入学当初よりプレースメントテストなどによって習熟度別に編成されたクラスで授業を受けます。したがって、英語に抵抗のある学生も段階を踏んで学修することができます。また、授業時間外の学修として語学の正規授業と関連づけたカンバセーションサークルに参加することで、正規授業の予習復習効果を担っています。

③「専攻科目」は、基礎教育から関連性をもって専門分野を体系的に学べるように、必修科目や選択科目などの科目を配置しています。また、科目に難易度を示すナンバリングが結びついているので、学年や学期、自身の成長に合わせた学修ができます。

④本学では、「アドバイザー制度」を設け、学生一人ひとりの学修計画や履修登録に関する確認などを行っています。アドバイザーは、学生自身が専攻する分野での科目履修が適切かつ効果的となるような学修指導をしています。また、教育支援事務による履修・学修相談も随時行われ、教職員が一丸となった学修支援体制を整えています。

⑤学群・学類又はコース等で教育課程の編成や実施方法を可視化するためのカリキュラム・マップ（学修内容の順次性と科目間の関連性を同時に図示化したフローチャートなどであり、教員と学生の双方が、「見える化」されたカリキュラムを共有し、教育全体を俯瞰することにある）を用い、学生がどの科目を学修すれば「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた項目の能力・資質を高めることが可能となるのかを把握できるようにします。

（3）学修成果の評価の在り方

①学修成果は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定しています。

②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

Ⅱ　本学における履修

1. 本学の単位制と授業科目の区分

本学の授業科目は、「必修科目」「選択科目」の２種類に分かれます。

授業科目にはすべて所定の単位が設定され、授業を履修し、試験等に合格することによって、その科目及び単位を修得したことが認められます。

（１）必 修 科 目　学群ごとに定められている必修科目は、すべて履修し、その単位を修得しなければなりません。

（２）選 択 科 目　学群ごとに、いくつかの科目の中から選択して履修し、その単位を修得しなければなりません。

2. 授業期間・授業時間帯

本学の授業科目は、原則として週５日（月曜日～金曜日）の授業を組み、春学期14週、秋学期14週のセメスター制（２学期制）の授業を行っています。各学期末には、定期試験期間を１週間設けます。

＜授業時間帯＞

キャンパス	０時限	１時限	２時限	Ｌ時限	３時限	４時限	５時限	６時限	７時限
町田キャンパス 新宿キャンパス 多摩キャンパス 東京ひなたやまキャンパス	7：00 ～ 8：40	8：50 ～ 10：30	10：40 ～ 12：20	12：20 ～ 13：10	13：10 ～ 14：50	15：00 ～ 16：40	16：50 ～ 18：30	18：40 ～ 20：20	20：30 ～ 22：10
プラネット淵野辺キャンパス（ＰＦＣ）	6：40 ～ 8：20	8：30 ～ 10：10	10：20 ～ 12：00	12：00 ～ 12：50	12：50 ～ 14：30	14：40 ～ 16：20	16：30 ～ 18：10	18：20 ～ 20：00	20：10 ～ 21：50

3. 授業方法と授業時間、単位の計算方法

本学の卒業に必要な単位数は124単位以上です。

授業は、講義、演習、実験、実習及び実技のいずれかの方法またはこれらの併用により行うものとします。

『講義』：教員の解説を中心にして学ぶことを主とした授業。

『演習』：・研究・発表・討議・活動などを行うことを主とした授業。

・物事に習熟するために、繰り返し学ぶことや実際を想定し学ぶことを主とした授業。

『実験』：ある理論や仮説を確認するために、実際に経験することを主とした授業。

『実習』：知識や技術を、実際の現場で、または実物を用いて学ぶことを主とした授業。

『実技』：技術や演技などを実際に行うことを主とした授業。

いずれの方法においても、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とします（学則第38条）。なお、授業方法に応じ、当該授業による教育効果及び授業外に必要な学修（予習・復習等）を考慮して、標準的な授業時間数を次のとおり定めます。

（１）講義、演習…15時間の授業と30時間の授業外での学修（予習・復習等。以下同じ）をもって１単位とするものと、30時間の授業と15時間の授業外での学修をもって１単位とするものがあります。

（２）実験、実習、実技…30時間の授業と15時間の授業外での学修をもって１単位とします。ただし、授業科目によっては、45時間の授業をもって１単位とするものがあります。

（３）上記１及び２の併用により行う場合は、その組み合わせに応じ、規定する基準を考慮して定められた時間の授業と授業外の学修をもって１単位とします。

（４）卒業論文、卒業制作、卒業研究等の授業…学修の成果を評価して、適切な単位を定めます。

※各時限は正味100分で行われますが、２時間として計算します。

【留意事項】
・成績評価における欠席等の扱いは授業担当教員の判断に任せられています。
・この配慮は適用期間の欠席について、欠席回数として加算しないことにより、適用期間の欠席による不合格を回避する配慮となります。
・欠席配慮となった場合でも、適用期間に出席し、課題提出やテスト等を受けたことになるわけではありません。

・欠席回数と成績の関係

4. 欠席の取り扱い

（学則第41条）

欠席回数が授業回数の３分の１を超えた場合（14回授業の場合は５回以上）は、原則として成績は「F（不合格）」となります。~~本学に「公欠制度」はありませんが、自己都合による欠席でなく、次に掲げるような場合は、授業担当教員に相談することができます。ただし、成績評価における欠席等の扱いは授業担当教員の判断に任せられています。~~

※ Drop & Add 期間（履修登録変更期間）に追加で履修登録した授業について、履修登録前の授業は原則として欠席とみなされるため、十分にご注意ください。

（１）大学が登校を禁止する「学校保健安全法で定められている感染症」
（２）本学で取得できる資格に関わる各種実習（履修ガイド「資格等」参照）
（３）公認団体課外活動（公式戦、公式行事）及び左記活動と同等と認められる学外公認団体における全国、又は国際規模の公式戦、公式行事
（４）忌引

~~欠席する場合は、所定の「欠席届（e-Campus掲示）」に必要事項を記入し、シラバス掲載の「教員との連絡方法」を確認のうえ、授業担当教員に連絡してください。~~

5. 休講・補講

授業が休講になる場合は、事前に e-Campus にてお知らせします。授業時間数の不足を補う必要が生じた場合は、他の授業や補講と履修者が重ならないように補講を行います。補講の詳細については、確認次第 e-Campus にてお知らせします。

休講掲示が無いにも関わらず、授業開始時刻より15分以上経過しても担当教員が来ない場合には、各キャンパス事務室教務担当で指示を受けてください。

6. 履修条件

科目によっては先修条件、履修年次が定められているものがあります。それぞれの卒業要件に従って計画的に学修する必要があります。

先修条件

科目によっては先修条件が付いているものがあります。先修条件とは、「ある科目を履修するためには別の科目の単位を修得済みであることが条件となる」ということです。授業科目一覧表を確認し、十分注意してください。

履修年次

科目には履修することのできる年次が定められています。例えば、履修年次が「１」と示されている授業科目は１年次以上であれば履修することができます。「２～４」も同様です。

7. 履修制限

履修希望者があらかじめ定められた数より多い場合には、抽選によって履修者を決定する場合があります。各科目の抽選の有無、および詳細については本学ウェブサイトの『授業時間割関連情報』および「シラバス（e-Campus）」を参照してください。

また、科目によっては、所属する学群等の学生を優先させる場合や、所属する学群等の学生のみに制限する場合があります。他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得て履修できます。×は他学群の学生は履修できません。

8. 授業の統合・閉講

履修登録者数が５名に満たないクラスについては、同一科目の別クラスと統合、または当該授業科目を閉講することがあります。

・欠席届
欠席する場合は、Moodleの『授業・履修の手引き』掲載の「欠席届」に必要事項を記入し、シラバス（要e-Campusログイン）掲載の「教員との連絡方法」を確認のうえ、授業担当教員に連絡してください。

・自己都合によらない欠席時の配慮について
本学に「公欠制度」はありませんが、自己都合による欠席でなく、次に掲げる場合は、所定の手続きをすることで、授業の欠席に関する配慮が適用されます。詳細な手続については、Moodleの『授業・履修の手引き』を確認してください。

9. 履修登録の手順

各年度または学期に履修する科目については、当該年度または学期初めの指定期間内に、以下の手順に従って履修登録してください。

その際、『履修ガイド』、本学ウェブサイトの『授業時間割関連情報』および「シラバス（e-Campus）」を必ず参照してください。

履修説明・ガイダンス

学群ごとに行います。

時 間 割 の 作 成

各学群の履修条件に照らして各自で履修プランを立て、「時間割」を作成します。
その際、次の各項に注意してください。

① e-Campus の学生時間割表記載の授業科目名・授業コード・曜日・時限・教室番号を確認してください。
② 同一時限には1科目しか履修登録できません。
③ ペアとなる時間帯で他の科目と重複しないか、注意してください。
④ 履修登録単位数の上限を超えては登録できません。
※学期ごとに履修登録できる単位数は、入学した最初の学期は20単位を上限とします。この上限は、次学期以降、前学期のＧＰＡによって変動します（後記の**10. 11.** を参照）。
なお、春学期～秋学期継続の授業科目ついては、原則として、単位数の２分の１を当該各学期の履修登録単位数として計算します。
⑤ 既に修得した授業科目については、再履修の登録はできません。ただし、重複履修が認められている一部の授業科目を除きます。

アドバイザーとの履修相談
履 修 登 録 確 認

必ずアドバイザーの履修指導を受け、確認を得てください。
※アドバイザーの確認を得ていない場合は、履修登録が無効となる場合があります。

履　修　登　録

e-Campus を利用して履修登録を行なってください。

※ e-Campus については『ネットワーク利用ガイド』を参照してください。

Drop&Add

開始前日

授業~~開始日~~から約１週間を、Drop&Add 期間（履修登録変更期間）とします。必要に応じ、アドバイザーの確認を得て、履修登録の削除・追加をすることができます。

履修登録最終確認

e-Campus で各自の履修登録の最終確認を必ず行ってください。
※履修登録されていない科目については、出席しても単位は修得できません。
※Drop ＆ Add 期間に追加で履修登録した授業について、履修登録前の授業は原則として欠席とみなされるため、十分にご注意ください。

履 修 登 録 完 了

※「履修放棄」は、所定の期日までに手続きを行った場合に限り認めます。~~ただし、学期の期間内（定期試験期間を含みます。）において病気等正当な事由が確認できればこの限りではありません。~~
※必修科目の単位を修得できなかった場合は、次学期または次年度に再履修の登録をしてください。

・各科目における単位修得の諸条件

10. 単位の修得と成績評価

として単位を与えます。Ｕを不合格として単位を与えません（後記の「ＧＰＡ制度」を参照）。他大学等で修得した単位等を本学の修得単位として認定された場合、評価をＴＣとして本学の修得単位としてみなします。

各科目の単位修得には、次の諸条件を満たす必要があります。

（１）年度または学期初めに履修登録をすること。
おける欠席が3分の1以下で、
て単位を与えません。
（２）登録した科目の授業に~~3分の２以上出席し~~、試験を受けること。試験はレポート提出等を含みます。
（３）授業料その他の学納金を所定の期日中に納入していること。未納者は試験を受けられません。
（４）成績評価が、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ~~・Ｓのいずれかであること。ＦまたはＵの場合は単位を与えません。~~
または、Sの評価となること（詳細は次項参照）。

成績は、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｆの５段階によって評価し、**Ａ～Ｄを合格**として単位を与えます。**Ｆは不合格**とします。ＳまたはＵでの評価が認められている場合は、Ｓを合格、~~Ｕを不合格とします（後記の**11.** を参照）。~~「成績・履修記録通知表」及び「学業成績単位修得証明書」には、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｆ・Ｓ・Ｕ・ＴＣの成績が記載されます。

ただし、学期の期間内（定期試験期間を含みます。）において、診断書の提出等で病気等正当な事由が確認できれば、当該学期の全履修削除または科目別履修削除ができる場合があります。
また全履修削除した場合には、休学とはならず在学となるため、学納金は返還されませんので十分注意してください。詳細な手続きについては、各キャンパス事務室の教務担当にて確認してください。

なお、試験、レポート、平常点等に基づき、各授業の目標達成度を評価します。具体的な評価対象項目は各授業科目のシラバスに記載されます。
・成績評価などの評語と意味

成績評価等の評語と意味

A	Excellent：特に優秀な成績
B	Good：すぐれた成績
C	Fair：一応その科目の要求を満たす成績
D	Minimal Pass：合格と認められる最低の成績
F	Failure：不合格
S	Satisfactory：合格（合否のみで成績を評価する場合）
U	Unsatisfactory：不合格（合否のみで成績を評価する場合）
ＴＣ	Transferred Credit：他大学等で修得した単位等の認定
I	Incomplete：~~履修未完了または成績評価の一時保留（後記の11.を参照）~~

I　Incomplete：履修未完了（後記の11.を参照）
H　Hold：成績評価の一時保留（同上）
W　Withdraw：履修放棄（前記の「履修放棄」を参照）

試験、レポート、平常点等に基づき、各授業の目標達成度を評価します。具体的な評価対象項目は各授業科目のシラバスに記載します。

成績評価に関する質問期間について

成績評価に質問がある場合は、直接担当教員に連絡をしてください。教員が不在等により連絡がつかない場合は、各キャンパス事務室教務担当にて「成績質問書」を受けとり、必要事項を記入の上提出してください。担当教員へは各キャンパス事務室教務担当より連絡します。成績質問の対象科目は直前の学期のみとします。

質問期間：成績開示日～次学期履修登録締切日（Drop&Add 期間を含みません。）

※卒業を希望する学期のみ：成績開示日から５日間。ただし、最終日が土・日・祝日の場合は、次の平日を締切とする。

他大学等で修得した科目の単位認定

本学に入学する以前、または在学中に他大学等で単位を修得した学生には、申請があればその科目を本学の単位として、60単位を上限に認定することがあります。認定は、当該学群の教授会の議を経て行われます（学則第34条、第44条、第45条）。

ただし、「他大学で修得した科目の単位」とは、以下①～④に示すいずれかに該当する科目を指します。その認定可能な単位数の上限である60単位は、それら全ての中から任意に認定されることになります。

したがって、以下①～④に該当する既修得科目等においては、その認定された科目の単位数が合計60単位に達した時点で、それ以上の単位認定がなされることはありません。

詳細は、Ⅳ　他大学等における履修（P. 209）を参照してください。

〈「他大学等」の科目の範囲〉

①「海外留学先（国外）の大学」の科目
②「放送大学」の科目
③上記以外の国内の他大学等（短期大学を含みます）の科目
④その他（学則第34条、第45条）

→ **※①～④のすべてをまとめて「他大学等」の科目と称され、認定はこの範囲すべてを含めて60単位に制限されます。**

11. ＧＰＡ制度

本学では、各科目の成績の平均値（Grade Point Average ＝以下「ＧＰＡ」とする）を参照しながら、アドバイザーが履修指導を行っています。このＧＰＡ制度は、学修を効果的に進めてその質を高めるため、導入されました。ＧＰＡは学生の成績を数値化し、客観的にモニターするためのツールです。ＧＰＡにより、学生は学修効果を自分自身で把握することができるため、個人の能力や意欲に合わせて主体的かつ充実した履修を行い、学修効果をあげることができます。ＧＰＡ制度のもとでは、学生は一度登録した科目は責任を持って確実に履修することが求められます。ＧＰＡは卒業判定にも用いられます。学生は各自のＧＰＡを常に認識し、学修計画をたてる必要があります。

（１）ＧＰＡの算出方法

「A」「B」「C」「D」「F」の５段階の成績評価に、次のとおりグレードポイント（Grade Point）を付します。

~~A＝4.0　B＝3.0　C＝2.0　D＝1.0　F＝0~~　**A=4.00　B=3.00　C=2.00　D=1.00　F=0**

履修した授業科目の単位数にグレードポイントを乗じ、その合計を履修単位数の合計で除して算出したものがＧＰＡです。

【例】　授業科目名	（単位数）	評価	ポイント数
キリスト教入門	（２単位）	B	２×3.00＝　6.00
政治経済学	（４単位）	C	４×2.00＝　8.00
口語表現Ⅰ	（２単位）	A	２×4.00＝　8.00
コンピュータリテラシーⅠ	（２単位）	B	２×3.00＝　6.00
英語コアⅠA	（２単位）	A	２×4.00＝　8.00
英語コアⅠB	（２単位）	D	２×1.00＝　2.00
英語エレクティブⅡ－中級	（１単位）	A	１×4.00＝　4.00
心理学	（４単位）	F	４×　0＝　0
スポーツ（ウィークリー）テニスⅠ	（１単位）	B	１×3.00＝　3.00
合　計	①20単位		②45.00
	ＧＰＡ＝②÷①→		~~45.0÷20＝2.25~~ 45.00÷20＝2.25

※ＧＰＡの算出は、小数点第２位までとし、第３位以下は切り捨てます（四捨五入はしません）。
※成績が「Ｆ」の科目は再履修することができます。再履修してＡ～Ｄの評価を受けた場合、通算ＧＰＡは再履修後の成績評価で算出されます。

（２）ＧＰＡに基づく指導及び卒業要件等

①　履修登録単位数の上限の変動

入学した最初の学期は20単位を上限とします。この上限は、次学期以降、前学期のＧＰＡにより次のとおり変動します。

ア）前学期のＧＰＡが3.0以上　　24単位
イ）前学期のＧＰＡが2.0以上3.0未満　　20単位
ウ）前学期のＧＰＡが2.0**未満**　　16単位

休学や留学等で前学期のＧＰＡがない場合は、ＧＰＡ判定されている学期まで遡って適用されます。

また成績評価が保留となっている授業科目がある場合、「４．成績評価の保留・履修未完了」を確認してください。

②　ＧＰＡによる指導等

ア）前学期のＧＰＡが2.0未満となった学生に対しては、アドバイザーによる注意と指導を行います。
イ）ＧＰＡ2.0未満が２学期連続、または通算で３学期になった学生に対しては、本人及び保証人（保護者等）を呼び出し、アドバイザーによる注意と指導を行います。
ウ）ＧＰＡ2.0未満が３学期連続、または通算で４学期となった学生に対しては、教授会の議を経て書面にて強く注意を喚起します。
エ）入学時から卒業時までの通算ＧＰＡが3.5以上の学生は、卒業時に**成績優秀者**として表彰します。

③　卒業要件

卒業するには、本学において定められた期間の在学、定められた授業科目を含む124単位以上の修得のほか、**入学時からの通算ＧＰＡが1.5以上**であることを要します。
※上記の卒業要件は本学としての最低基準です。詳細は、**各学群の卒業要件を参照**してください。
~~※航空・マネジメント学群は、入学時からの通算ＧＰＡが2.0以上であることを要します。~~

（３）ＧＰＡが適用されない成績評価

①「Ｓ」と「Ｕ」

履修者本人の希望がある場合には、合否のみで成績を評価することができます。これは、自分の専攻分野以外の授業科目について、ＧＰＡの変動を憂慮せずに挑戦できるようにとの趣旨で設けられた評価方法です。この方法で評価を受けるためには、各学期の履修登録期間中（Drop & Add 期間含む）に、~~アドバイザーの承認及び学群長の許可を得なければなりません。~~ **Ｓ／Ｕ評価の申請をe-CampusのWeb申請から手続きを行ってください。**

評価は「Ｓ」または「Ｕ」をもって表し、「Ｓ」を合格、「Ｕ」を不合格とします。「Ｓ」、「Ｕ」ともにＧＰＡの計算には含めません。
※次に該当する科目は適用外です。
ア）所属する学群の専攻科目
イ）マイナー登録している他学群の科目
ウ）基礎教育科目で必修となる科目
エ）教職課程、博物館学芸員課程等、本学で取得できるすべての資格に関わる授業科目

③「W」
履修の放棄を行った場合記録される「W」は、ＧＰＡの計算には含まれません。

また、学期内に授業が完了できないと担当教員が判断した場合は、成績表に「H」と表示され、当該科目はＧＰＡの計算に含めません。担当教員が成績採点可能と判断したタイミングで成績評価が確定され、ＧＰＡの再計算が行われます。

※履修できる単位数は、在学期間を通じて20単位（編入学者は10単位）を上限とします。
※「数の基礎理解」、「キャリアデザインＡ･Ｂ･Ｃ･Ｄ･Ⅰ･Ⅱ」は、申請の有無に関わらず、「Ｓ」または「Ｕ」で成績評価します。履修した場合、上記の上限単位数に含まれます。
※一度成績評価Ｆを受けた科目を、Ｓ／Ｕ評価を申請して再履修しても成績は上書きされません（ＧＰＡは変動しません）。

②　他大学等の授業科目の履修等

他大学等において履修した授業科目について修得した単位や、各種資格等について単位認定する場合の評価は「ＴＣ」とし、ＧＰＡの計算には含まれません。

（４）成績評価の保留・履修未完了

天災地変、近親者の死亡、交通事故、疾病その他の正当な理由で試験やレポートの提出ができなかった場合など、**やむを得ない事情で本人の申し出により担当教員が認めた場合**には、成績表に「Ⅰ」と表示され、当該授業科目はＧＰＡの計算に含めません。次学期所定の期日までに担当教員の指定する方法（追試験・課題等）で必要な補足をすれば成績評価が確定され、ＧＰＡの再計算が行われます。ただし、期日までに必要な補足がなされない場合には、「Ⅰ」は自動的に「Ｆ」となってＧＰＡの再計算が行われます。

または「H」評価

（５）ＧＰＡの再計算

通常、履修登録単位数の上限は前学期のＧＰＡによって決まります（P.11.（２）①参照）。ただし「Ⅰ」評価の確定により、前学期のＧＰＡが再計算された場合、以下の時期によって再計算後のＧＰＡが適用されるか否かが決定されます。

①学期開始～ Drop&Add（履修登録変更）期間内：再計算後のＧＰＡは前学期分に適用されます。
② Drop&Add（履修登録変更）期間終了後：再計算後のＧＰＡは前学期分に適用されません。

12. メジャーとマイナー

所属する学群の専攻科目で構成される専攻プログラム・専攻コース等を登録し、所定の単位を修得することによって、その専攻プログラム・専攻コース等の修了が認定されます。

メジャー：どの学群でもメジャーを修了することが卒業の要件となっています。ただし、所属の学群以外の専攻プログラム・専攻コース等をメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、所属する学群の専攻プログラム・専攻コース等からだけでなく、他学群のものをマイナーとして登録することもできます。

ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

①　マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。

②　他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。

③　他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

メジャーとマイナーを変更（追加・削除）する場合は、以下期間に各キャンパス事務室教務担当で変更手続きを行ってください。

受付期間：オリエンテーション期間初日～定期試験期間最終日まで

13. 卒業

卒業するためには、原則として４年以上在学し、所属する学群において定められた教育課程を履修して、履修ガイドに定める基準を満たしたうえで124単位以上を修得し、かつ入学時からの通算ＧＰＡが1.50以上であることを必要とします（学則第58条、履修規程35条）。卒業した者には、所定の学位が授与されます（学則第59条）。卒業延期を希望する者は、「卒業延期届」を当該学期の所定の期日までに e-Campusで申請する必要があります（履修規程第37条）。
・８年を超えて在学することはできません（学則第26条第２項）。
・留学生については、在留資格の要件から「卒業延期届」の申請はできません。
・延期の申請がない場合には、自動的に卒業審査の対象となり、卒業要件を満たし、卒業の認定を受けた者は、卒業となります。
なお必修となる授業科目、単位数その他の卒業要件は、入学時の規定が卒業まで適用されるので、履修にあたっては十分に注意してください。

早期卒業制度
本学に３年以上在学した者で（学則第26条の２）、所属する学群において定められた教育課程を履修して、履修ガイドに定める基準を満たしたうえで124単位以上を修得し、かつ入学時からの通算ＧＰＡが3.60以上の者には、本人の希望により、卒業を認めることがあります(履修規程第36条)。また、各学群において別に要件を付加することがあります。早期卒業を希望する者は「早期卒業希望届」を当該学期の所定の期日までに e-Campus で申請する必要があります。
ビジネスマネジメント学群においては、上記に加えて TOEIC®700点以上を有し、かつそのスコアを用いて技能審査による単位認定を受けていることを要件とします。
教育探究科学群においては、早期卒業制度は適用されません。

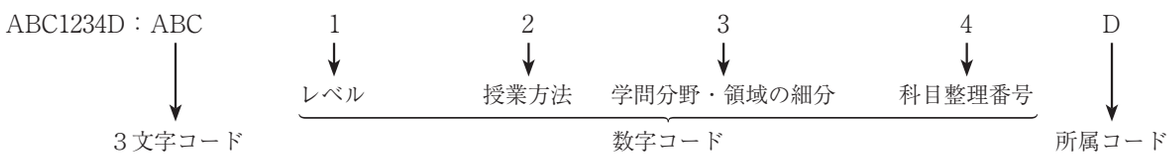
14. 学生証

１．学生証は大学における履修と学生生活にとって重要なものです。紛失・盗難にあった場合は、ただちに警察に届け出るとともに、学生課・各キャンパス事務室にて、遺失物として届けられていないか確認してください。
２．再発行の手続きについてはMoodleを参照してください。
３．学生証は最長４年間有効であり、有効期限は学生証に記載されています。期限を超えて在籍する学生については、有効期限後に再発行しますので、２に基づき、手続きをしてください。
４．試験を受験するときは、学生証を提示しなければなりません。
５．学生証についての詳細は学生生活ガイドをを参照してください。

15. 科目ナンバリングコード

科目ナンバリングコードは、学問分野の中で、その科目がどの様な位置付けとなっているかを示す、学問分野中での住所のような役割を持っています。科目ナンバリングコードの示し方は大学により様々ですが、基本的に３文字か４文字からなる文字コード部と、３桁から５桁からなる数字コード部とで表す方式が一般的です。

桜美林大学では、３文字からなる文字コード（３文字コード)、４桁からなる数字コード（数字コード)、および学内での所属を示す１文字コード（所属コード）で表しています。



３文字コードは、その科目が主としてどのような学問分野に属しているのかを示しています。３文字コードと学問分野との関係を【表１】に示します。本学で開講している科目と関係する学問分野が【表１】に示されている点に注意してください。世の中にある全学問分野が【表１】で示されているわけではありません。

数字コードは、千の位にてその科目の難易度（レベル）を【表２】、百の位にて当該科目で主とする授業方法（講義主体なのか、実験主体なのかなど）を【表３】、十の位にて３文字コードで示す学問分野・領域を細分した場合の位置付けを【表４】（P. 283 参照)、一の位にて３文字コードと数字コードの千の位・百の位・十の位とが同じ科目中での、住所での番地に相当する当該科目の固有番号（科目を整理するための番号）を示しています。

所属コードは、本学での開講を担っている教育組織などを示しています。所属コードと教育組織との関係は次の通りです。

Ｃ：基盤教育、Ｌ：リベラルアーツ学群、Ａ：芸術文化学群、Ｂ：ビジネスマネジメント学群、
Ｈ：健康福祉学群、Ｘ：グローバル・コミュニケーション学群、Ｙ：航空・マネジメント学群、
Ｑ：学群横断資格関連科目

履修にあたっては、特に履修登録時、履修する科目全体のバランス（例えば、３年次であるが、レベルが1000や2000に偏っていないか）などを確認する場合の目安として活用してください。また、留学時や編入時など、他大学にて単位認定を受ける場合にも活用することができます。

【表１】３文字コード：科目が属する学問分野

３文字コード	学問分野名称＜日本語＞	学問分野名称＜英語＞
CHR	キリスト教学	Christian Studies
ACG	アカデミック・キャリアガイダンス	Academic Guidance
HUM	人文科学	Foundations of Humanities
SSC	社会科学	Foundations of Social Sciences
NSC	自然科学	Foundations of Natural Sciences
IDP	総合科学	Foundations of Interdisciplinary Studies
ENG	英語（外国語）	English

（次のページに続く）

３文字コード	学問分野名称＜日本語＞	学問分野名称＜英語＞
JPN	日本語（外国語）	Japanese
CHN	中国語（外国語）	Chinese
ARA	アラビア語（外国語）	Arabic
BUR	ビルマ語（外国語）	Burmese
CAM	カンボジア語（外国語）	Cambodian
FRE	フランス語（外国語）	French
GER	ドイツ語（外国語）	German
IND	インドネシア語（外国語）	Indonesian
ITA	イタリア語（外国語）	Italian
KOR	コリア語（外国語）	Korean
LAT	ラテン語（外国語）	Latin
PRG	ポルトガル語（外国語）	Portuguese
RUS	ロシア語（外国語）	Russian
SPA	スペイン語（外国語）	Spanish
THA	タイ語（外国語）	Thai
VIE	ベトナム語（外国語）	Vietnamese
MON	モンゴル語（外国語）	Mongolian
PHL	哲学	Philosophy
ETH	倫理学	Ethics
REL	宗教学	Religious Studies
ART	芸術学	Arts
THE	演劇学	Theater
DNC	舞踊学	Dance
MUS	音楽（作曲・指揮・音楽学）	Music
VOM	音楽（声楽）	Vocal Music
INM	音楽（器楽）	Instrumental Music
VSA	ビジュアル・アーツ	Visual Arts
FNA	美術	Fine Arts
DES	デザイン	Design
GRD	平面デザイン	Graphic Design
TDD	立体デザイン	Three Dimensional Design
CIN	映画	Cinematic Arts
LIT	文学	Literature
LIN	言語学	Linguistics
JLS	日本語	Japanese Language Studies
ELS	英語	English Language Studies
CLS	中国語	Chinese Language Studies
JPE	日本語教育	Japanese Education
HIS	歴史学	History
ANT	人類学	Anthropology
LAW	法学	Law
POL	政治学	Politics
INT	国際関係論	International Relations
ECO	経済学	Economics
MGM	経営学	Management
CMS	商学	Commercial Science
ACC	会計学	Accounting
SOC	社会学	Sociology
COM	コミュニケーション学	Communication Studies

（次のページに続く）

３文字コード	学問分野名称＜日本語＞	学問分野名称＜英語＞
MJS	メディア（ジャーナリズム）研究	Media and Journalism Studies
SWE	社会福祉学	Social Welfare
PSY	心理学	Psychology
EDU	教育学	Education
ECS	教科教育学（コア教科）	Education for Core Subjects
EOS	教科教育学（その他教科）	Education for Other Subjects
CCR	保育学	Childcare
MTH	数学	Mathematics
PHY	物理学	Physics
ESC	地球科学	Earth Sciences
CHM	化学	Chemistry
BIO	生物学	Biology
MED	医歯薬学	Medical Science
IST	情報学	Information Studies
LIS	図書館学	Library and Information Science
MSO	博物館学	Museology
GEG	地理学	Geography
ENV	環境学	Environmental Science
SSS	社会安全システム	Social Security System
JPS	日本地域研究	Japanese Studies
ANS	アジア地域研究	Asian Studies
AMS	アメリカ地域研究	American Studies
JPF	日本学	Japanese Studies in Foreign Languages
HSS	健康・スポーツ科学	Health & Sports Science
SPE	スポーツ＆エクササイズ（A群）	Sports & Exercise（Group A）
	スポーツ＆エクササイズ（B群）	Sports & Exercise（Group B）
GTL	老年学	Gerontology
TOR	観光学	Tourism
AER	航空学	Aeronautics

【表２】千の位：レベル

科目にはその内容に応じて、レベルが定められています。それぞれ1000、2000、3000、4000で設定されており、1000から4000へと段階的にレベルが高くなります。レベルに沿って学修を進めることにより、段階的かつ系統的な学修ができます。

千の位	レベル
1	1000
2	2000
3	3000
4	4000

【表３】百の位：授業の方法

百の位	授業方法	
0	講義	理論（基礎）
1		理論（応用）
2		理論（方法・実践）
3		各論
4	演習	
5	実験	
6	実習	
7	実技	
8		
9	ゼミ・論文・研究	

【表４】P. 283を参照してください。

Ⅲ　授業科目と履修方法

１．基盤教育

１．基盤教育について

桜美林大学では「本学の学生一人ひとりが自律的な学修者として主体的な学びを可能とする基盤を身に付けるための教育を施す」ことを目的として基盤教育科目を用意しています。つまり、学群制における学生の自主的な学びを可能とするために必要な知識の基礎を教授し、積極的な学びの姿勢を育成するのが基盤教育の役割です。

また、学生と教員とが十分なコミュニケーションを図れるよう少人数制を基本とし「主体的学びに必要な基礎的知識」と「積極的な学びの姿勢」を身につけられるように工夫しています。

桜美林大学ではこのような教育を入学後最初の１年から１年半の間に集中的に受けられるよう科目を配置しています。

２．コア科目**（リベラルアーツ学群、健康福祉学群必修**（注１）**）**

本学における建学の精神を具体化した授業科目である「キリスト教入門」、日本語・英語を用いたコミュニケーション能力を身につける授業科目、基礎的な情報機器の操作スキルを身につける「コンピュータリテラシー」からなり、原則として合計16単位をすべて修得しなければなりません。

なお、ビジネスマネジメント学群、芸術文化学群、グローバル・コミュニケーション学群、航空・マネジメント学群の必修科目および必修単位数は学群ごとに異なります。各学群ページに掲載の卒業要件を参照してください。

科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	履修の可否（※）						先修条件ほか
					LA	健福	BM	芸文	GC	航空	
CHR1000C	キリスト教入門	講義	2	1	●	●	×	×	○	×	
JLS1471C	口語表現Ⅰ	演習	2	1	●	●	○	○	○	○	
JLS1473C	文章表現Ⅰ	演習	2	1	●	●	×	×	○	×	（注２）
IST1401C	コンピュータリテラシーⅠ	演習	2	1	●	●	×	×	○	×	
ENG1401C	英語コアⅠA	演習	2	1	●	●	×	×	×	×	（注２）（注３）
ENG1402C	英語コアⅠB	演習	2	1	●	●	×	×	×	×	（注２）（注３）
ENG1403C	英語コアⅡA	演習	2	1	●	●	×	×	×	×	英語コアⅠA（注２）（注３）
ENG1404C	英語コアⅡB	演習	2	1	●	●	×	×	×	×	英語コアⅠB（注２）（注３）
JPN140＊C	日本語専門基礎AⅠ	演習	2	1	●	●	×	×	×	×	外国人留学生等のみ履修可、重複して4単位を履修
JPN140＊C	日本語専門基礎AⅡ	演習	2	1	●	●	×	×	×	×	外国人留学生等のみ履修可、重複して4単位を履修
JPN140＊C	日本語専門基礎B	演習	1	1	●	●	×	×	×	×	外国人留学生等のみ履修可、重複して2単位を履修

※ LA：リベラルアーツ学群、健福：健康福祉学群、BM：ビジネスマネジメント学群、芸文：芸術文化学群、
GC：グローバル・コミュニケーション学群、航空：航空・マネジメント学群

●：必修科目　○：必修でない科目　×：履修できない科目

「＊」：数字コードが複数存在する科目

＜注意事項＞

（注１）リベラルアーツ学群と健康福祉学群以外の学群生が「○」の付いている科目を履修したい場合は教務担当事務室に申し出てください。

（注２）外国人留学生等（日本語を母語としない者）は、「文章表現Ⅰ」「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語専門基礎AⅠ・AⅡ・B」を各２回、合計10単位を修得しなければなりません。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

（注３）一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

3．基盤教育科目

基盤教育科目は、学群によって必要な科目・単位数が異なります。各学群の卒業要件もあわせて確認してください。

区　分		科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	履修の可否（※）						先修条件ほか
							LA	健福	BM	芸文	GC	航空	
キリスト教理解		CHR1001C	聖書	講義	2	1	◎	○	○	○	○	○	
		CHR1002C	キリスト教と他宗教	講義	2	1	◎	○	○	○	○	○	
		CHR1003C	キリスト教と社会	講義	2	1	◎	○	○	○	○	○	
		CHR1004C	キリスト教と芸術	講義	2	1	◎	○	○	○	○	○	
アカデミック・リテラシー		IST1402C	コンピュータリテラシーⅡ	演習	2	1	◎	○	×	×	○	×	コンピュータリテラシーⅠ
		JLS1472C	口語表現Ⅱ	演習	2	1	◎	○	○	○	○	○	口語表現Ⅰ
		JLS1474C	文章表現Ⅱ	演習	2	1	◎	○	×	×	○	×	文章表現Ⅰ
		JLS2470C	文章構成法	演習	2	2	◎	○	○	○	○	○	
		ACG1401L	リベラルアーツセミナー	演習	2	1	◎	×	×	×	×	×	リベラルアーツ学群生のみ履修可 リベラルアーツ学群生は必修
学問基礎	主題別科目群	###10**L	人間理解	講義	2	1	◎	○	○	○	○	○	リベラルアーツ学群生は必修（注2）
		###10**L	社会理解	講義	2	1	◎	○	○	○	○	○	リベラルアーツ学群生は必修（注2）
		###10**L	自然理解	講義	2	1	◎	○	○	○	○	○	リベラルアーツ学群生は必修（注2）
	実践科目群	###16**L	プロジェクト	実習	2	1	◎	○	○	○	○	○	（注３）
		###160*C	国際理解教育	実習	2	1	◎	○	○	○	○	○	（注３）
		###16**C	地域社会参加	実習	2	1	◎	○	○	○	○	○	（注３）
アカデミックガイダンス		ACG1400C	大学での学びと経験	演習	2	1	○	○	○	○	○	○	（注４）
		ACG1050C	数の基礎理解	講義	2	1	○	○	○	○	○	○	「S」または「U」で成績評価（注4）
		ACG1002C	キャリアデザインA（注1）	講義	2	1	○	○	×	×	×	○	「S」または「U」で成績評価（注4）
		ACG1003C	キャリアデザインB（注1）	講義	2	2	○	○	×	○	×	○	「S」または「U」で成績評価（注4）
		ACG2003C	キャリアデザインC（注1）	講義	2	3	○	○	×	×	×	○	「S」または「U」で成績評価（注4）
		ACG2004C	キャリアデザインD（注1）	講義	2	3	○	○	×	×	×	○	「S」または「U」で成績評価（注4）
フィールドスタディーズ		###167*C	語学研修	実習	2	1	○	○	○	○	○	○	（注４）

※LA：リベラルアーツ学群、健福：健康福祉学群、BM：ビジネスマネジメント学群、芸文：芸術文化学群、
GC：グローバル・コミュニケーション学群、航空：航空・マネジメント学群

◎：選択必修科目　○：自由選択の科目　×：履修できない科目

「###」：３文字コードが複数存在する科目

「*」：数字コードが複数存在する科目

＜注意事項＞

（注１）ビジネスマネジメント学群では、学群共通科目の「キャリアデザインA・B・C・D」、芸術文化学群では、学群指定科目の「キャリアデザインA・C・D」の専用クラスが開講されます。また、グローバル・コミュニケーション学群では学群共通科目区分の授業科目となります。

（注２）学問基礎区分における授業科目は（　）内にサブタイトルが記載され、数種類開講されます。サブタイトルが異なれば複数の科目を履修することが可能です。

（注３）「プロジェクト」「国際理解教育」「地域社会参加」は、それぞれ複数のプログラムが開講されており、プログラムが異なれば、複数のプログラムを履修することが可能です。ただし、同一学期に複数プログラムを履修できない場合があります。

（注４）アカデミックガイダンス区分の科目と「語学研修」はリベラルアーツ学群生におけるLA 基礎科目（16単位必修）の単位には含まれず、自由選択の単位となります。

４．外国語科目

外国語科目は、学群によって必要な科目・単位数が異なります。各学群の卒業要件もあわせて確認してください。

科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	先修条件ほか
ENG14＊＊C	英語エレクティブⅠ - 初級	演習	1	1	英語レベル１と２の者のみ履修可
ENG24＊＊C	英語エレクティブⅡ - 中級	演習	1	1	英語レベル２と３の者のみ履修可
ENG34＊＊C	英語エレクティブⅢ - 上級	演習	1	1	英語レベル３の者のみ履修可
ENG44＊＊C	英語エレクティブⅣ - 特設	演習	1	1	英語レベル3の者のみ担当教員の許可を得て履修可
ENG44＊＊C	英語エレクティブⅤ - 特設	演習	2	1	英語レベル3の者のみ担当教員の許可を得て履修可
ENG4435C	英語パスポート（Test Preparation Ⅰ）	演習	4	1	担当教員の許可を得て履修可（注1）
ENG4436C	英語パスポート（Test Preparation Ⅱ）	演習	4	1	担当教員の許可を得て履修可 先修条件：英語パスポート（Test Preparation Ⅰ）（注1）
JPN140＊C	日本語Ⅰ	演習	6	1	短期留学生等のみ履修可
JPN140＊C	日本語Ⅱ	演習	6	1	短期留学生等のみ履修可
JPN240＊C	日本語Ⅲ	演習	4	1	短期留学生等のみ履修可
JPN240＊C	日本語Ⅳ	演習	4	1	短期留学生等のみ履修可
JPN340＊C	日本語Ⅴ	演習	2	1	短期留学生等のみ履修可
JPN340＊C	日本語Ⅵ	演習	1	1	短期留学生等のみ履修可
JPN(1-3)4**C	日本語演習	演習	1	1	教員により指定されたレベルを履修すること （注1）（注2）
ARA1401C	アラビア語Ⅰ	演習	2	1	
ARA1402C	アラビア語Ⅱ	演習	2	1	
ARA2403C	アラビア語Ⅲ	演習	2	2	
ARA2404C	アラビア語Ⅳ	演習	2	2	
ITA1401C	イタリア語Ⅰ	演習	2	1	
ITA1402C	イタリア語Ⅱ	演習	2	1	
ITA2403C	イタリア語Ⅲ	演習	2	2	
ITA2404C	イタリア語Ⅳ	演習	2	2	
ITA3405C	イタリア語Ⅴ	演習	2	3	
ITA3406C	イタリア語Ⅵ	演習	2	3	
IND1401C	インドネシア語Ⅰ	演習	2	1	
IND1402C	インドネシア語Ⅱ	演習	2	1	
IND2403C	インドネシア語Ⅲ	演習	2	2	
IND2404C	インドネシア語Ⅳ	演習	2	2	
CAM1401C	カンボジア語Ⅰ	演習	2	1	
CAM1402C	カンボジア語Ⅱ	演習	2	1	
CAM2403C	カンボジア語Ⅲ	演習	2	2	
CAM2404C	カンボジア語Ⅳ	演習	2	2	
KOR1401C	コリア語Ⅰ	演習	2	1	
KOR1402C	コリア語Ⅱ	演習	2	1	
KOR2403C	コリア語Ⅲ	演習	2	2	
KOR2404C	コリア語Ⅳ	演習	2	2	
KOR3405C	コリア語Ⅴ	演習	2	3	
KOR3406C	コリア語Ⅵ	演習	2	3	
SPA1401C	スペイン語Ⅰ	演習	2	1	
SPA1402C	スペイン語Ⅱ	演習	2	1	
SPA2403C	スペイン語Ⅲ	演習	2	2	

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

（注１）グローバル・コミュニケーション学群生は履修できません。

（注２）「日本語演習」は、複数開講されており、クラスによってレベルが異なります（1000～3000）。

科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	先修条件ほか
SPA2404C	スペイン語Ⅳ	演習	2	2	
SPA3405C	スペイン語Ⅴ	演習	2	3	
SPA3406C	スペイン語Ⅵ	演習	2	3	
THA1401C	タイ語Ⅰ	演習	2	1	
THA1402C	タイ語Ⅱ	演習	2	1	
THA2403C	タイ語Ⅲ	演習	2	2	
THA2404C	タイ語Ⅳ	演習	2	2	
GER1401C	ドイツ語Ⅰ	演習	2	1	
GER1402C	ドイツ語Ⅱ	演習	2	1	
GER2403C	ドイツ語Ⅲ	演習	2	2	
GER2404C	ドイツ語Ⅳ	演習	2	2	
GER3405C	ドイツ語Ⅴ	演習	2	3	
GER3406C	ドイツ語Ⅵ	演習	2	3	
BUR1401C	ビルマ語Ⅰ	演習	2	1	
BUR1402C	ビルマ語Ⅱ	演習	2	1	
BUR2403C	ビルマ語Ⅲ	演習	2	2	
BUR2404C	ビルマ語Ⅳ	演習	2	2	
FRE1401C	フランス語Ⅰ	演習	2	1	
FRE1402C	フランス語Ⅱ	演習	2	1	
FRE2403C	フランス語Ⅲ	演習	2	2	
FRE2404C	フランス語Ⅳ	演習	2	2	
FRE3405C	フランス語Ⅴ	演習	2	3	
FRE3406C	フランス語Ⅵ	演習	2	3	
VIE1401C	ベトナム語Ⅰ	演習	2	1	
VIE1402C	ベトナム語Ⅱ	演習	2	1	
VIE2403C	ベトナム語Ⅲ	演習	2	2	
VIE2404C	ベトナム語Ⅳ	演習	2	2	
PRG1401C	ポルトガル語Ⅰ	演習	2	1	
PRG1402C	ポルトガル語Ⅱ	演習	2	1	
PRG2403C	ポルトガル語Ⅲ	演習	2	2	
PRG2404C	ポルトガル語Ⅳ	演習	2	2	
MON1401C	モンゴル語Ⅰ	演習	2	1	
MON1402C	モンゴル語Ⅱ	演習	2	1	
MON2403C	モンゴル語Ⅲ	演習	2	2	
MON2404C	モンゴル語Ⅳ	演習	2	2	
LAT1401C	ラテン語Ⅰ	演習	2	1	
LAT1402C	ラテン語Ⅱ	演習	2	1	
LAT2403C	ラテン語Ⅲ	演習	2	2	
LAT2404C	ラテン語Ⅳ	演習	2	2	
RUS1401C	ロシア語Ⅰ	演習	2	1	
RUS1402C	ロシア語Ⅱ	演習	2	1	
RUS2403C	ロシア語Ⅲ	演習	2	2	
RUS2404C	ロシア語Ⅳ	演習	2	2	

（次のページに続く）

科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	先修条件ほか
CHN1401C	中国語Ⅰ	演習	2	1	
CHN1402C	中国語Ⅱ	演習	2	1	
CHN2403C	中国語Ⅲ	演習	2	2	
CHN2404C	中国語Ⅳ	演習	2	2	
CHN3405C	中国語Ⅴ	演習	2	3	
CHN3406C	中国語Ⅵ	演習	2	3	

＜注意事項＞

履修方法

① 母語または母語に準ずる言語は履修できません。

② 外国語科目（英語・日本語を除く）は、科目名の後に、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、（Ⅴ、Ⅵ）と数字がついていて、その数字が大きくなるにつれて、レベルが高くなっていきます。通常は「Ⅰ」の科目から順次履修していきます。「Ⅱ」の科目は「Ⅰ」の科目の単位を履修した後でなければ履修できません。これを先修条件と言います。このように外国語科目は先修条件の科目を修得しないと、次のレベルの科目が履修できないルールになっています。

入学した時点で一定のレベル以上の語学力がある場合、または在学中に留学等で力が飛躍的に伸びた場合には、レベルを飛び越えた履修が必要です。これを飛び級と呼びます。

飛び級のための先修条件免除の手続き方法・期間は、e-Campus の掲示を参照してください。期間外の申請はできません。飛び級をする場合は、以下のことに注意してください。

a．Ⅱ以上の授業科目から修得した場合は、それより低い授業科目を履修することはできません。

［（例）先修条件の免除により、「スペイン語Ⅳ」を修得した学生
　　⇒「スペイン語Ⅰ～Ⅲ」は履修できません。］

b．同時に同一言語の授業科目を、複数履修できません。

〔（例）「中国語Ⅲ」と「中国語Ⅳ」を同一学期に履修することはできません。〕

③ リベラルアーツ学群

日本語以外の同一言語８単位または同一言語４単位を２言語８単位必修。

［（○の例）コリア語Ⅰ②、コリア語Ⅱ②、英語エレクティブⅢ－上級①、英語エレクティブⅣ－特設①、
　　英語エレクティブⅤ－特設②　計８単位
（×の例）コリア語Ⅰ②、コリア語Ⅱ②、コリア語Ⅲ②、英語エレクティブⅤ－特設②　計８単位
※ ○数字は科目の単位数を表します。］

④ 「英語エレクティブⅠ－初級」「英語エレクティブⅡ－中級」「英語エレクティブⅢ－上級」「英語エレクティブⅣ－特設」「英語エレクティブⅤ－特設」は、（　）内にサブタイトルが記載され、数種類開講されます。サブタイトルが異なれば複数の科目を履修することが可能です。他の外国語のように、Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳ→Ⅴの順に履修するのではなく、各自の英語レベルに合った科目のみ履修することができます。各自の英語レベルは、入学前の CASEC（英語レベル判定テスト）のスコアに基づいて決められ、入学時のオリエンテーション時に配布されます。その後、以下のａからｄにより再判定されます（グローバル・コミュニケーション学群生は除く）。

ａ．「英語コアⅡA（注１）」「英語コアⅡB（注１）」の履修後の CASEC のスコア（自動）
ｂ．留学プログラムから帰国後の CASEC または TOEIC®のスコア（自動）
ｃ．実用英語技能検定、TOEFL®、TOEIC®、IELTS™ のスコア（任意、２年次以降毎学期）
ｄ．ELP 英語レベルアップチェック*（任意、２年次以降毎学期）

*英語プログラム（ELP）で、各学期１回ずつ開催する英語レベルアップチェックを受けることで、各自の英語レベルを更新し、より上のクラスを履修することができます。日時や詳細については、e-Campus に掲示されます。

⑤ 「英語パスポートコース（Test Preparation Ⅰ）」および「英語パスポートコース（Test Preparation Ⅱ）」は、英語パスポートコース生向けの科目です。原則としてコース生のみ履修可能ですが、担当教員の許可によりコース生以外の学生の履修が認められる場合があります。詳細はコーナーストーンセンター事務室に問い合わせてください。

（注１）ビジネスマネジメント学群生は「英語ⅡA」「英語ⅡB」

TOEFL® is a registered trademark of Educational Testing Service（ETS）. This publication（or product）is not endorsed or approved by ETS.

２．サービスラーニング科目

１．「学而事人」を学ぶ科目

桜美林大学の建学の精神は「キリスト教精神に基づく国際人の育成」とともに「学而事人（がくじじじん）」という言葉に表現されています。これは「学びて人に仕える」と読み、桜美林大学で学ぶ意義は、将来誰かのためにつくすことにあるという意味です。

桜美林大学のカリキュラムは全てこれを目的に組み立てられていますが、「学而事人」の学びを典型的に表しているのがサービスラーニングという学修方法です。机上の学問に留まらず、教室を出て社会の中で活動をすることと授業での学びを融合させることで、学問の意義を知り、その活用の可能性を探り、そして社会に貢献しようとする精神や態度を身に付けるのに最適の学修方法です。

サービスラーニングの科目を履修することによって、最新の社会の課題や問題に直接触れ、その中で自分に何ができるかを考えることになります。そして、学んでいる学問が課題解決にどう役立つのかを肌で知ることができます。また、社会での活動を通じて、多世代とのコミュニケーション能力、仲間と協働する力、問題発見力、課題解決力、自己管理力、倫理性などが自然に養われていきます。

２．サービスラーニング科目の特徴、注意点

サービスラーニング科目では、通常の授業に加えてクラス外学修の時間を活用して、ボランティア活動などの学外活動が行われます。科目のテーマに沿って、活動内容は福祉、環境、人権、政治、子ども、ジェンダー、平和など、多岐に亘ります。活動時間は２単位科目で20時間程度、４単位科目で30時間程度です。この活動時間が確保できない場合には、サービスラーニング科目は履修できません。履修にあたっては、シラバスを確認して、自分のスケジュールなどと勘案してから履修を考えてください。

サービスラーニングの科目では学外に出て活動するため、傷害保険への加入義務があり、またストレス耐性チェックや健康診断の受診義務などが課されています。

３．基礎教育科目におけるサービスラーニング科目

基礎教育科目（１～２年生向け）のサービスラーニング科目は社会課題を実地で知ること、社会活動やボランティア活動をする上での心構え、マナーなどをきちんと身に付けることが期待されています。

基礎教育科目には、「地域社会参加」と「国際理解教育」の２つの科目があります。前者は国内での活動、後者は海外での活動です。各科目には、学修テーマの異なる複数のプログラムがあります。各年度ごとの開講予定プログラムの詳細は大学ウェブサイトの『授業時間割関連情報』ページに「サービスラーニング科目一覧」が掲載されますので確認してください。多くの科目は町田キャンパスで授業が行われますが、一部授業はICTによりビジネスマネジメント学群の新宿キャンパスからも履修が可能です。

リベラルアーツ学群では卒業要件における選択必修の一部となっており、他学群では自由選択に含まれます。

４．専攻科目におけるサービスラーニング科目

各学群の専攻科目にもサービスラーニングに指定されている科目があります。専攻科目では、自分の専門の知識を活用して、実際に社会の課題の解決に貢献することが期待されます。また、授業などで学んだ知識を実際の現場に適用してみて、知識の有用性や限界を学ぶこともできます。本格的に「学而事人」を自ら主体的に実践してみる場です。リアルな現実の中で課題に挑戦して、卒業後にも生きてくる問題発見能力や課題解決力を身に付ける絶好の機会となります。

各学群のサービスラーニング科目は大学ウェブサイトの『授業時間割関連情報』ページに掲載の「サービスラーニング科目一覧」に示されていますので、シラバスを確認の上、履修を検討してください。

３．リベラルアーツ学群

１．リベラルアーツ学群について

リベラルアーツ学群は、大学の教育課程で身につけておくべき基礎学術としての学問分野を幅広く用意しています。学生は、この学群で複合的かつ専門的に学ぶことを通して、社会で活躍するための総合的な知識だけでなく、主体的な行動力も獲得することができます。リベラルアーツ学群で用意されているプログラムは、「多様性」と「専門性」を同時に追求することをその特徴としており、学生を「自立した学習者：Independent Learner」として位置づけて、自らが学ぶものを自由かつ主体的に選択できるような仕組みになっています。

リベラルアーツ学群には人文科学、社会科学、自然科学、学際・統合科学という、４つの学問分野からなる幅広い領域の科目が用意されています。

リベラルアーツ学群の学生は、まず基礎教育科目の「コア科目」、「外国語科目」、「LA 基礎」を重点的に学びます。特に LA 基礎の「学問基礎」では、上記４分野の学問領域の基礎知識を人間理解、社会理解および自然理解という観点から学ぶとともに、「専攻科目」の履修を通して、各自の「メジャー（主専攻）」を何にするのか、時間をかけて選んでいきます。したがって、入学当初に考えていた自分の専門だけでなく、さまざまな分野を学ぶことを通して、学問のおもしろさや新しい発見に触れながら、自分で本当に学びたい専門を選択・決定することが可能です。学生は、４セメスター目に、自らが選択した専攻プログラムをメジャーとして登録し、その中で専門性を深めていきます。なお、メジャーの選択と登録においては、学生の自由な意志を尊重しますので、人数制限等はありません。

メジャーの選択後は、指定された履修方法にもとづき、本格的に専門的な知識を学んでいきます。少人数クラスによる「専攻演習」（ゼミ）も用意されていますので、是非、履修しましょう。学生には、各専攻プログラムで設定された、授業科目の修得および修得単位数にかかわるメジャー修了要件を満たすことと、学群専攻科目62単位以上の修得が求められます。また、各専攻プログラムには「マイナー（副専攻）」も用意されており、メジャーよりも少ない修得単位数で修了することができます。したがって、複数の専攻プログラムを組み合わせて、１つをメジャーで他をマイナーに、あるいは２つのメジャー（ダブル・メジャー）等の複合的な学修が可能です。これらすべてが、学生の選択に任されていますので、下記のアドバイザー等と相談しながら自分で決めてください。

さらに、リベラルアーツ学群の学びでは、広い国際的な視野を養うための外国語の修得や海外体験が重視されます。学群のために用意された海外語学研修プログラム（GO プログラム）や、他のさまざまな留学プログラムには、少なくとも１回は参加することが勧められています。

最後に、学生の学びをサポートするために用意されているのが、アドバイザー制度です。リベラルアーツ学群では、すべての学生一人ひとりに対して教員であるアドバイザーが付きます。アドバイザーは、必修のリベラルアーツセミナーや履修相談等を通して、この学群で学ぶことの意義や目標、必要な学修計画の立て方を指導します。なお、専攻プログラムの選択や専攻科目の履修上の相談については、各専攻プログラムで決められた相談員の教員もサポートします。

２．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学群は、学際的な幅広い教養を獲得し、問題に多角的なアプローチから対処できる能力を身につけた Independent Learner を育成することを基本理念とし、本学群の課程を修め、定められた期間在学すること、124単位以上を修得すること、通算 GPA が1.5以上であること、33の専攻プログラムのうち最低１つのメジャー修了要件を満たすことなどを卒業要件としています。

この基本理念を実現するため、本学群では以下に記載した項目の能力・資質を高め、それらを総合的に活用できる者に対し、卒業を認定し学位を授与します。また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学群の学びは全て学園の行動指針である「学而事人（学びて人に仕える）」に結びつくようになっています。

（１）専攻する各分野における知識・理解

専攻する分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その専攻の知識体系を他の分野と関連づけて理解することができる。

（2）コミュニケーション能力

本学群で学ぶ知識を踏まえながら、自分の思いや考えを的確に表現することができるようになるとともに、社会生活を営む上で必要な他者を思いやる豊かな人間性を身につけ、諸外国（異文化）への理解を深めることによって、他者の意見や考え方を尊重しながら意見を交わし、しっかりとしたコミュニケーションができる。

（3）数量的スキル

それぞれの専門分野における自然現象や社会現象を、普遍的な尺度や数量的指標などを用いた数理的な手法を適用して分析し、理解し、表現することができる。

（4）情報リテラシー

情報通信技術を用いて多種多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。

（5）論理的思考能力

情報を収集･分析した結果を複眼的、論理的に表現できる力を備えることができる。客観的･批判的･分析的能力、解決思考・コミュニケーション能力を備えることにより、論理的思考能力を高めることができる。

（6）問題発見・解決能力

学修や活動等へ主体的に取り組む際、自身の行動についての問題や課題を常に意識して発見する能力を養うことと、その問題や課題について何をどうすれば解決に導くことができるのかを考え、そのアイディアを実践する力を高めることができる。

（7）自己管理能力と社会的倫理観

本学群での学びを単なる座学に終わらせず、学園の行動指針である「学而事人」を実践するために、社会における自分の役割を自覚し、社会の発展に積極的に関わることができる。また、社会の規範やルールに従い自らを律して行動できる。

（8）生涯学習力

本学群で身につけた様々な能力を活用して、卒業後も生涯を通して自立的に学び、自己を研鑽していくことができる。

3．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、以下の取組みを実施しています。具体的には、教育課程は「基礎教育科目」、「専攻科目」及び「自由選択」の３つの区分に編成し、科目は講義、演習、実験、実習、実技といった授業方法を組み合わせて開講しています。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング(科目ごとの関連性や難易度を示す)」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。なお、このような教育課程の編成、学修方法・学修過程、ならびに学修成果の評価の在り方については、以下のように定めています。

（1）教育課程の編成

①「基礎教育科目」は、本学群生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎知識と技能を身につけるための科目です。カリキュラム内容は「コア科目」「外国語科目」「キリスト教理解」「LA基礎」に分かれます。「コア科目」では、英語コア科目、キリスト教科目、口語表現、文章表現、コンピュータなどを中心に、学園の建学の精神をはじめとする教育目標を具現化するための知識とスキルを修得します。「LA基礎」の「アカデミックリテラシー」の「リベラルアーツセミナー」では、本学群の学びについての理解を深め、Independent Learnerとしての自覚を持つとともに、大学での学びのために必要な知識と学修スキルを修得します。「学問基礎」では、専攻科目の学問領域に関する基礎知識を学ぶとともに、各学問領域の魅力や多角的アプローチの重要性を学びます。

②「専攻科目」は、基礎教育で得た知識・技能を元に専門的な知識をさらに高めるために用意された科目です。本学群では、人文科学、社会科学、自然科学という３つの学問分野からなる幅広い領域を網羅した科目が用意されています。その科目の中から高い専門性を修得するために、以下の多様な33専攻プログラムが提供されています。英語学、英文学、中国言語文化、日本語日本文学、日本語教育、言語学、コミュニケーション学、現代･世界文学、キリスト教学、宗教学、哲学、倫理学、文化人類学、アメリカ地域研究、アジア地域研究、日本地域研究、歴史学、国際関係、国際協力、社会学、心理学、教育学（教職教育）、博物館学、国際経済、ビジネスエコノミクス、公共政策、数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学、環境学、メディア（ジャーナ

リズム）です。学生はこれらの専攻プログラムの中から、２年次に自由にメジャーを選択して各自の専門を高める学びを進めます。さらに専攻プログラムからマイナーも選択することが可能です。このように本学群の「専攻科目」は、幅広い学びを通した多角的視野の育成と判断力の養成を可能にしています。

③「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、基礎教育科目や専攻科目をさらに学修したり、学内外の授業科目の中から選択履修したりすることができるようになっています。他学群の専攻科目や他大学（海外留学、単位互換協定校、放送大学、首都圏西部大学単位互換協定会加盟校など）の科目を修得することで、自身の知識の幅を広げることが可能になります。

（２）学修方法・学修過程

①「基礎教育科目」は、主として１～２年次に履修し、大学での学びのための基礎的な知識とスキルを修得します。特に学問基礎の主題別科目群においては人間理解、社会理解、自然理解の３分野の授業が用意され、リベラルアーツとして学んでおくべき幅広い基礎知識を学修するだけではなく、多角的視野の育成を目標にした多くの授業の履修を通し、幅広さと複眼的視野の育成が計画されています。さらに、「実践科目群」では地域社会参加、国際理解教育などのサービス・ラーニング科目が実施され、フィールドでの授業を併せ持った学修環境が提供されています。これらの導入教育を通じて、幅広い基礎知識を身につけると共に、専攻プログラムを選択することで自らの専門性を高めるための情報と理解力を得ることができます。

②外国語教育は、「基礎教育科目」内に位置づけられ、幅広い知識とスキルを身につける一環として用意されています。これは「語学を身につけた国際人の育成」という学園の建学の精神の実践から、17言語もの外国語を選ぶことができます。中でも、世界共通語となっている英語に力を注いでおり、日本語を母語とする学生は全員が入学当初よりプレースメントテストなどによって、習熟度別に編成されたクラスで段階を踏んで学修することができます。

③「専攻科目」は、リベラルアーツ学群の教育の中枢をなすものであり、人文科学、社会科学、自然科学の三つの学問分野に広がる33の専攻プログラムから構成されています。各専攻プログラムはその分野の専門性を高めるための多くの科目から構成され、必修科目や選択必修科目が指定されています。決められた単位数（32～36）以上を修得すれば、卒業要件の一つであるメジャー認定を受けることができます。学生は自由にメジャーを選択することが可能であり、２年次秋学期に登録します。また、上記の33専攻プログラムにマイナープログラムも用意されています。マイナーは指定された科目を20単位以上修得すれば、認定されます。さらに学生は、それぞれ複数の専攻プログラムをメジャー及びマイナーとして、自由に選ぶことができます。リベラルアーツ教育の特長である幅広い知識と多角的視野を育成するためにも、学生にはメジャーとマイナーの組み合わせ、あるいはダブルメジャーでの学びが推奨されています。

④本学では、「アドバイザー制度」がもうけられ、学生一人ひとりの学修計画や履修登録に関する相談等をアドバイザーが担当しています。アドバイザーは各学年15人前後の学生を卒業まで継続して指導することが原則となっています。アドバイジングの内容は、学生自身の学修状況の確認や科目履修に関する学修指導等のアカデミックな内容が中心となります。また、教育支援事務による履修・学修相談も随時行われ、教職員が互いに連携した学修支援体制を整えています。

⑤本学群で教育課程の編成や実施方法を可視化するためのカリキュラム・マップ（ディプロマ・ポリシーが科目ごとにどのように育成しているのかを表形式にて表したもの）を用い、学生がどの科目を学修すれば「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた項目の能力・資質を高めることが可能となるのかを把握できるようにしています。また、リベラルアーツ学群として学生が身につけたい能力や知識の育成のために、「履修モデル集」を作成して公開しています。この「履修モデル集」では、各専攻プログラムがそれぞれの領域に応じて、目標とする能力や知識を実現するために履修を推奨する科目群が明示される形式となっています。学生は、このモデル集を参考にして履修計画を作成することにより、効率的な学修が可能となります。

（３）学修成果の評価の在り方

①学修成果とは、カリキュラム・マップ等により示された目標に関して履修者はどの程度到達したのかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示されています。また、ルーブリック評価などを取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

4．卒業要件

リベラルアーツ学群の学生が卒業するために必要な単位は次のとおりです。

※○数字は科目の単位数を表します。

<table>
<tr><td colspan="3"></td><td colspan="2">リベラルアーツ学群</td></tr>
<tr><td rowspan="6">基礎教育科目
（注２）
42単位
（最低必要単位）</td><td colspan="2">コア科目
（注１）
16単位必修</td><td colspan="2">キリスト教入門 ②
口語表現Ⅰ ②
文章表現Ⅰ ②
英語コアⅠA② 英語コアⅠB②
英語コアⅡA② 英語コアⅡB②
コンピュータリテラシーⅠ ②</td></tr>
<tr><td colspan="2">外国語科目
（注１）（注２）
8 単位必修</td><td colspan="2">外国語
（※同一言語８単位、または
同一言語４単位を２言語８単位）</td></tr>
<tr><td colspan="2">キリスト教
理　解
2 単位必修</td><td colspan="2">聖書② キリスト教と他宗教②
キリスト教と社会② キリスト教と芸術②
（※上記４科目から２単位必修）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">LA 基礎
16単位必修</td><td rowspan="2">アカデミック・
リテラシー
2 単位必修</td><td colspan="2">リベラルアーツセミナー②
必修</td></tr>
<tr><td colspan="2">コンピュータリテラシーⅡ② 口語表現Ⅱ②
文章表現Ⅱ② 文章構成法②</td></tr>
<tr><td rowspan="2">学問基礎
（注３）
12単位必修</td><td>主題別
科目群
6 単位必修</td><td>人間理解② 社会理解②
自然理解②
（※上記の３つの学問分野から各２単位必修）</td></tr>
<tr><td>実践
科目群</td><td>プロジェクト② 国際理解教育②
地域社会参加②</td></tr>
<tr><td>専攻科目
62単位
（最低必要単位）</td><td colspan="3">以下の２つの要件を満たすこと
１．専攻プログラムを１つ選び、メジャーとして修了すること
合計32～36単位（専攻プログラムにより単位数は異なる）
２．メジャー修了のために修得した単位を含めて、リベラルアーツ学群専攻科目から62単位を修得すること</td></tr>
<tr><td>自由選択</td><td colspan="3">・基礎教育科目、専攻科目で、最低必要単位を超えて修得した単位
・他学群専攻科目
・基盤教育の科目
・他大学等（短期大学・海外留学の科目を含む）認定単位（P. 209）
・各種技能審査による認定単位（P. 210 ～ 212）</td></tr>
<tr><td>卒業要件単位合計
基礎教育科目､専攻科目、
自由選択、あわせて
124単位以上</td><td colspan="3">【その他の要件】
入学時からの通算 GPA が1. 5以上
0</td></tr>
</table>

基礎教育科目：コア科目16単位必修、外国語科目８単位必修、キリスト教理解２単位必修。LA 基礎16単位必修、ただしアカデミック・リテラシーより「リベラルアーツセミナー」２単位必修、学問基礎12単位必修（主題別科目群より「人間理解」、「社会理解」、「自然理解」それぞれ２単位必修を含む）を満たすこと。合計42単位。

専　攻　科　目：以下の２つの要件を満たすこと

(1) 専攻プログラムを１つ選び、メジャーとして修了すること。合計32～36単位（専攻プログラムにより単位数は異なる）

(2) メジャー修了のために修得した単位を含めて、リベラルアーツ学群専攻科目から62単位を修得すること。

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位以上

入学時からの通算ＧＰＡが1.5以上

＜注意事項＞

（注１）一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

外国人留学生等（日本語を母語としない者。以下同じ。）は、「文章表現Ⅰ」、「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語専門基礎ＡⅠ・ＡⅡ・Ｂ」を各２回、合計10単位を修得しなければなりません。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

（注２）ＧＯプログラム参加者は、審査の上、外国語科目８単位の履修が免除され、基礎教育科目単位数が34単位となります。

外国人留学生等は、外国語科目８単位の履修が免除されます。

免除された８単位は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

（注３）学問基礎科目は、それぞれ（　）内のサブタイトルが異なれば複数の科目を履修することが可能です。

５．専攻プログラム案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻プログラムが置かれています。リベラルアーツ学群の専攻科目で構成される専攻プログラムを登録すると、「学業成績単位修得証明書」に登録中のメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。登録したメジャーまたはマイナーの修了要件を満たした上で卒業すると、卒業後の「学業成績単位修得証明書」には修了したメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業の要件の１つとなっています。ただし、リベラルアーツ学群以外の学群の専攻コース等をメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーは、メジャーほどの深い専門性を要求されませんが、各専攻分野で体系的に学修することで、副次的な専攻として認められるプログラムです。他学群の専攻コース等もマイナーとして登録することもできますが、そこで修得した単位は自由選択の単位となります。

また、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

１．マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。

２．他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。

３．他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

メジャー及びマイナーの登録は、４セメスター目に受け付けます。所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までメジャー及びマイナーの変更もできます。メジャー及びマイナーの変更にはアドバイザーの承認が必要です。

専攻プログラムの種類は、次ページのとおりです。

リベラルアーツ学群

専攻プログラム	メジャー	マイナー
英語学・英文学	○	○
中国言語文化	○	○
日本語日本文学	○	○
日本語教育	○	○
言語学	○	○
コミュニケーション学	○	○
現代・世界文学	○	○
キリスト教学	○	○
宗教学	○	○
哲学	○	○
倫理学	○	○
文化人類学	○	○
アメリカ地域研究	○	○
アジア地域研究	○	○
日本地域研究	○	○
歴史学	○	○
国際関係	○	○
国際協力	○	○
社会学	○	○
心理学	○	○
教育学（教職教育）	○	○
博物館学	○	○
国際経済	○	○
ビジネスエコノミクス	○	○
公共政策	○	○
数学	○	○
物理学	○	○
化学	○	○
生物学	○	○
地球科学	○	○
情報科学	○	○
環境学	○	○
メディア（ジャーナリズム）	○	○

英語学・英文学専攻プログラム

１．教育目的

英語は今や、政治、ビジネス、メディアなど、様々な分野における主要な言語として位置づけられ、世界の英語人口は15億人に迫ろうとしています。英語を身につけることは、新たな可能性や出会いを生み出すきっかけとなります。

英語学・英文学専攻プログラムでは、１年次に身につけた４技能（話す・読む・書く・聴く）の力を基盤にして、２年次以降は「英語」を英語学・英語教育の観点から具体的かつ実践的に学び、また「英文学」の作品を読んで人間について考え、作品と分かちがたく結びついている英語圏の文化について学びます。さらに、それらの知識を生かし、表面的なやりとりにとどまらない奥深いコミュニケーションが取れるようになること ―真の「使える英語」を習得すること― を目指します。

本専攻プログラムでは、英語圏社会・文化に関する知識や人間に対する豊かな洞察力を得ることにより、「複眼的な視点から世界を理解し、自ら判断し行動できる国際人」を養成したいと考えています。また、優れた英語教員の養成も目的のひとつにしていますが、そのような国際人としての資質は、英語教員を目指す者にとっても必要不可欠なものです。

２．カリキュラムの特徴

本専攻プログラムでは、ELP（English Language Program）で４技能の基礎を固め、さらに４つのカテゴリーから科目を選択、履修していきます。その４つのカテゴリーは、（１）英語の基礎力を鍛える＜基礎科目＞、（２）英語という言語を研究対象とし、英語教育の方法を実践的に学ぶ＜英語学・英語教育＞、（３）英文学と英語圏文化の相互関係を学ぶ＜英文学・英文化＞、（４）英語や英語圏文化の広い知識に基づいたコミュニケーションを学ぶ＜英語コミュニケーション＞から構成されており、自身のニーズや関心に沿った科目を選択していくことになります。

具体的な科目を一部紹介すると、＜基礎科目＞は、総合的な英語力を養う「英語総合演習」、英語の文法力を高める「英文法」、＜英語学・英語教育＞は、英語の文のしくみを研究する「英語の構造」、英語教育を実践的に学ぶ「第二言語習得法」、＜英文学・英文化＞は、ある一つのテーマを扱った複数の文学作品を読む「テーマで読む英米文学」、イギリスの文化について幅広く学ぶ「イギリスの文化」、＜英語コミュニケーション＞は、英語でのコミュニケーション能力を高める「Oral Communication Skills」、「Written Communication Skills」、「English for Academic Purposes」などから構成されています。

本専攻プログラムの科目だけでなく、他の専攻プログラムの科目も自由に履修し、またはマイナーとして組みあわせることで、個々の興味にあわせた幅広い学修が可能です。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎科目	ELS1401L	英語総合演習Ⅰａ	演習	2	1	×		2単位選択必修（注1）	2単位選択必修（注1）
	ELS1402L	英語総合演習Ⅰｂ	演習	2	1	×			
	ELS2401L	英語総合演習Ⅱａ	演習	2	1	×	英語総合演習Ⅰａ又はⅠｂ（注1）	2単位選択必修	2単位選択必修
	ELS2402L	英語総合演習Ⅱｂ	演習	2	1	×	英語総合演習Ⅰａ又はⅠｂ（注1）		
	ELS1001L	英文法Ⅰ	講義	2	1	△			
	ELS2002L	英文法Ⅱ	講義	2	1	△			
	ELS2050L	英語学入門	講義	4	1	△		必修	
	LIT2070L	英米文学入門	講義	4	1	△		必修	
英語学・英語教育	ELS1350L	英語の音声	講義	4	1	△		4単位選択必修	20単位選択必修
	ELS3350L	英語の意味	講義	4	2	△			
	ELS4350L	英語の構造	講義	4	3	△	英文法Ⅱ		
	ELS3352L	英語の歴史	講義	4	2	△			
	ELS2415L	英語学講読	演習	4	2	△			
	ELS4460L	第二言語習得法	演習	4	3	△			
	LIN3430L	応用言語学	演習	4	2	△			
英文学・英文化	LIT3370L	英米詩	講義	4	2	△		4単位選択必修	
	LIT3371L	英米演劇	講義	4	2	△			
	LIT337＊L	英米小説	講義	4	2	△	重複履修可		
	LIT2370L	英米児童文学	講義	4	2	△			
	LIT317＊L	テーマで読む英米文学	講義	4	2	△	重複履修可		
	ELS2410L	英米文化講読	演習	4	2	△			
	ELS2373L	イギリスの文化	講義	4	2	△			
	AMS2140L	アメリカの文化	講義	4	1	○			
英語コミュニケーション	ELS3471L	翻訳（英→日）	演習	4	3	△	英文法Ⅱ	4単位選択必修	
	ELS4470L	翻訳（日→英）	演習	4	3	△	英文法Ⅱ		
	ELS4480L	通訳	演習	4	3	△	Oral Communication Skills		
	ELS2441L	Oral Communication Skills	演習	4	2	△			
	ELS2420L	Written Communication Skills	演習	4	2	△			
	ELS4400L	English for Academic Purposes	演習	2	3	△	Oral Communication Skills、Written Communication Skills		
「＊」：数字コードが複数存在する科目								上記必修・選択必修科目を含め、計　36単位	計　20単位

（注１）各種英語資格試験のスコアが一定の基準以上である場合、英語総合演習Ⅰの履修免除が認められることがあります。詳細は、各学期のオリエンテーション期間開始時に e-Campus の掲示で確認してください。
メジャー・マイナー修了要件の合計単位数に変更はありません。

中国言語文化専攻プログラム

１．教育目的

中国は、古代から近世までの長期間、世界の中心の一つで、その思想と文学は、日本にも大きな影響をあたえ続けてきました。また、近年は世界第二の経済大国に発展し、新たな文化圏を構築しようとしています。

本専攻プログラムは、このような中国について、文学・思想・芸術などの文化的側面を中心に言語・歴史・社会などの多方面で知識を深め、総合的に分析・研究していくことを目指しています。プログラムの履修を進めていくことで、一見わかりにくく見える中国のありようについて、自分なりの見識を持つことが可能となるでしょう。

また、この専攻では西洋的価値観ではとらえきれない巨大で複雑な世界観にふれることで、中国を複眼的に見る新たな視点を獲得することも目標としています。これらを合わせることで、みなさんが人生をより豊かに送るためのモノの見方と考える力を身につけることができるでしょう。

２．カリキュラムの特徴

このプログラムは、〈語学〉・〈文学・思想・文化〉・〈歴史・社会〉の３つのカテゴリーから構成されています。

〈語学〉カテゴリーは、現代中国語の基礎を固めると同時に、語彙・文法・音声など広く語学的な知識が身につけられるような構成となっています。〈文学・思想・文化〉カテゴリーは、本専攻の核となる部分で、文学・思想・芸術・文化についての多彩な科目が用意されています。〈歴史・社会〉カテゴリーは、共時的視点・通時的視点の双方から幅広く中国を理解するための科目が配置してあります。

履修の組み立てとしては、現代中国語の知識をベースに同時代の中国文化や言語について理解を深めていく方向性と、漢文（中国の古文）の学修を基礎として古典文学・思想・歴史について理解を深めていく方向性の二つが主に想定されています。

前者では、〈語学〉カテゴリーの現代中国語に関わる科目と〈文学・思想・文化〉カテゴリーの近現代文学・文化に関わる科目等を合わせて履修することで、単に中国語の実技的語学力を身につけるのみならず、広く深い中国理解に根ざした国際人になることを目指します。後者は、東アジア世界を規定してきた儒教思想を中心とする諸思想や、東アジアの共通言語であった漢文と共通の文学であった漢詩についての理解を深めることを目指すものです。

特に後者のケースでは現代中国語の知識が必須ではないため、日本文学に関心がある場合、国語科教員を目指す場合、世界各地の文学に関心がある場合などでも並行して学んでいくことが可能です。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
語学	CLS1400L	中国語基礎トレーニングⅠ	演習	2	1	○		6単位選択必修	
	CLS2400L	中国語基礎トレーニングⅡ	演習	2	1	○			
	CLS2401L	中国語応用トレーニングⅠ	演習	2	1	○	（注１）		
	CLS2402L	中国語応用トレーニングⅡ	演習	2	1	○	（注１）		
	CLS3411L	中国語講読	演習	2	2	○	（注２）		
	CLS3423L	中国語作文	演習	2	2	○	（注２）		
	CLS3430L	中国語リスニング	演習	2	2	○	（注２）		
	CLS3410L	時事中国語	演習	2	2	○	（注３）		
	CLS3420L	日中翻訳技法	演習	2	2	○	（注３）		
	CLS3440L	日中通訳技法	演習	2	2	○	（注３）		
	CLS1050L	中国語学概論	講義	2	1	○			
	CLS2350L	中国語音声学	講義	4	1	○			
	CLS2130L	中国語文法研究	講義	4	1	○			
	CLS3350L	日中対照言語研究	講義	4	2	○			
文学・思想・文化	LIT1030L	中国文学概論	講義	4	1	○		20単位選択必修	10単位選択必修
	LIT1430L	中国文言文講読	演習	2	2	○			
	LIT1330L	中国古典文学史	講義	4	1	○			
	LIT2330L	中国近現代文学史	講義	4	1	○			
	LIT3330L	中国古典文学研究	講義	4	2	○			
	LIT3331L	中国近現代文学研究	講義	4	2	○			
	LIT2030L	中国思想史	講義	4	1	○			
	LIT3332L	中国古代思想研究	講義	4	2	○			
	LIT3333L	中国近現代思想研究	講義	4	2	○			
	LIT1000L	中国文化概論	講義	4	1	○			
	LIT3230L	中国芸術研究	講義	4	2	○			
	LIT3130L	中国文化研究	講義	4	2	○			
	CLS2370L	日中比較文化	講義	4	2	○			
歴史・社会	LIT3334L	中国のマスコミ	講義	4	2	○			
	LIT3335L	中国地域研究	講義	4	2	○			
	ANS1000L	アジア研究概論	講義	4	1	○			
	ANS3180L	東アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS2131L	アジアの歴史Ⅰ	講義	4	2	○			
	ANS2132L	アジアの歴史Ⅱ	講義	4	2	○			
	ECO3322L	中国経済論	講義	4	2	○			
								上記選択必修科目を含め、計　36単位	上記選択必修科目を含め、計　20単位

（注１）「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」から２単位修得していることを必要とします。
（注２）「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」から４単位修得していることを必要とします。
（注３）「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」、「中国語講読」、「中国語作文」、「中国語リスニング」から６単位修得していることを必要とします。

日本語日本文学専攻プログラム

１．教育目的

日本語日本文学専攻プログラムは、日本語や日本文学についての知識・教養や専門的な研究方法を身に付けるとともに、日本語を通した理解力・表現力・思考力を磨くことを目的としています。

国際化、情報化、価値観の多様化の進展する今日、しっかりとした自己を確立し、様々な価値観を持つ人々や異文化を背景とする人々と柔軟にコミュニケーションを図りながら活躍できる人材が求められます。我が国の言語や文化に対する造詣を持ち、日本語の優れた使い手であることは、これからの時代を生きる教養ある国際人に必要な条件と言ってよいでしょう。日本語や日本文学を深く学ぶことは、自己理解・自己確立のための大きな力となります。もちろん、それらの素養を活かして、国語の教員となったり、報道や出版の分野などに進んだりすることも考えられるでしょう。

２．カリキュラムの特徴

この専攻プログラムは〈言語〉〈文学〉〈技能〉の３つのカテゴリーから成っています。

〈言語〉は、日本語を中心とした言語に関する知識と研究方法に関するカテゴリーです。これらを学んで日本語を多面的に理解し、言語一般への目も広げることができます。

〈文学〉は、古代から現代に至る日本文学と、日本語・日本文学に大きな影響を与えてきた中国古典文学（漢文）に関するカテゴリーです。日本人の心性や教養の原点とも言える古典や、近現代の人間・社会を映した文学を、深く読み込み、学んでいきます。

〈技能〉は、文字言語・音声言語にわたる日本語の表現力を養うことを中心としたカテゴリーです。書道やコンピュータによる言語分析、漢字検定対応の科目もあります。

教職課程を登録し、上記科目群から指定された科目を履修することにより、中学・高校の「国語」教員免許状を取得することも可能です。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
言語	JLS1000L	日本語学概論	講義	2	1	○		必修	12単位選択必修	必修	6単位選択必修
	JPE2130L	言語習得法	講義	2	1	△					
	JPE2110L	日本語の表現	講義	4	1	○					
	JLS1050L	日本語の文字・表記	講義	2	1	○		4単位選択必修			
	LIN1440L	日本語の語彙・意味	演習	4	1	△					
	LIN2440L	日本語の音声	演習	2	1	△					
	JPE3110L	日本語の文法	講義	4	2	○					
	JPE2120L	言語と文化	講義	4	2	○					
	LIN2430L	談話分析	演習	4	2	○					
	JPE3140L	年少者日本語教育	講義	2	3	○					
	LIN3430L	応用言語学	演習	4	2	△					
	LIN3410L	プラグマティックス	演習	4	3	○					
	JPE4120L	日本語史	講義	2	3	○					
文学	LIT1111L	日本文学史Ａ	講義	4	1	○		4単位選択必修	20単位選択必修	4単位選択必修	10単位選択必修
	LIT1112L	日本文学史Ｂ	講義	4	1	○					
	LIT1430L	中国文言文講読	演習	2	2	○					
	LIT2410L	古代文学講読	演習	2	1	○		4単位選択必修			
	LIT2411L	平安文学講読	演習	2	1	○					
	LIT2412L	中世文学講読	演習	2	1	○					
	LIT2413L	江戸文学講読	演習	2	1	○					
	LIT2414L	近代文学講読	演習	2	1	○					
	LIT1330L	中国古典文学史	講義	4	1	○					
	LIT3110L	平安文学の世界	講義	4	2	○		4単位選択必修			
	LIT3111L	中世文学の世界	講義	4	2	○					
	LIT3112L	江戸文学の世界	講義	4	2	○					
	LIT3113L	近代文学の世界	講義	4	2	○					
	LIT3114L	現代文学の世界	講義	4	2	○					
	LIT3115L	児童文学研究	講義	2	2	○					
	LIT3330L	中国古典文学研究	講義	4	2	○					
技能	JLS1660L	書写	実習	2	1	○			4単位選択必修		4単位選択必修
	JLS1481L	国語・漢字検定Ⅰ	演習	2	1	○					
	JLS1482L	国語・漢字検定Ⅱ	演習	2	1	○					
	COM1004L	ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（きく）	講義	2	1	○					
	COM1003L	ｵｰﾗﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（話す）	講義	2	1	○					
	JLS2421L	言語表現Ａ	演習	2	1	○		2単位選択必修			
	JLS2422L	言語表現Ｂ	演習	2	1	○					
	JLS3470L	創作の技法	演習	2	2	○					
	JLS3471L	編集の技法	演習	2	2	○					
	JLS2461L	書道研究Ⅰ	演習	2	2	○					
	JLS2462L	書道研究Ⅱ	演習	2	2	○					
	COM2120L	対人コミュニケーション	講義	4	2	○	現代コミュニケーション理論				
	JPE3450L	言語データ分析	演習	2	2	○					
								計　36単位		計　20単位	

日本語教育専攻プログラム

１．教育目的

日本語教育専攻プログラムは、日本語を通して多文化共生社会に貢献できる人材の育成を目的としています。

日本から海外へ、海外から日本へと、人の行き来が増えるにつれ、異言語や異文化との接触場面が多くなっています。相互理解のベースは「ことば」です。日本語を学びたい人の数も増え続けています。本専攻プログラムでは、多様化した日本語の学修（学習）目的に対応した手助けができるよう、日本語の仕組み、日本語の教育方法、日本語教育事情、異文化理解などについて学びます。

将来、国の内外で日本語教育や関連する仕事に携わりたいと思っている人、あるいは日本語や日本語教育を研究したいと思っている人は、そのための確かな基盤となる知識と技能を修得することができます。国際的な場で働きたいと考えている人にとっても、自らの言語・文化とともに他の言語・文化を理解するための力を養うことのできるプログラムです。

２．カリキュラムの特徴

本プログラムは以下の４つのカテゴリーから成っています。

〈言語知識〉文字、音声、語彙、文法など、さまざまな側面から、日本語の仕組みを客観的に学びます。さらに、人々はどのように言語を運用しているのか、社会の中でどのような言語現象が起きているのかなど、多角的な視点から言語を観察します。

〈教育・習得〉日本語を、学ぶ立場と教える立場から考察し、日本語教育に携わる者として備えておくべき実践的な知識、技能の獲得を目指します。留学生を対象とした教壇実習も行ないます。

〈スキル〉人間関係の基本であるコミュニケーション能力を養うとともに、書写・漢字・表現・作品鑑賞など種々の側面から日本語の運用力を高めます。コンピュータを用いて言語を分析する手法を学ぶ科目もあります。

〈文化・共生〉多様な文化を学ぶことにより、自文化・他文化に対する意識を高め、相互理解の手だてを身につけます。

本プログラムのカリキュラムは、「日本語教員養成課程」と一部対応しています（P. 243 参照）。「日本語教員養成課程」は、法務省の「日本語教育機関の告示基準」及び文科省の「日本語教育機関の告示基準解釈指針」に基づいて設置された課程で、本学では45単位コース、26単位コースの二種類が用意されています。いずれかの修了要件を満たすことで、各コースの「修了証明書」を取得することが可能です。将来、日本語教師として国内外の日本語教育機関で仕事をすることを目指す場合は、いずれかの修了証明書の取得を視野に入れて履修することをお勧めします。

なお、本専攻プログラムのメジャー・マイナーの修了要件は、「日本語教員養成課程」の45単位コース、26単位コースの修了要件とは異なるため、注意が必要です。「日本語教員養成課程」修了証明書の取得については、資格等一覧の「日本語教員養成課程」を必ず確認してください。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
言語知識	JPE2110L	日本語の表現	講義	4	1	○		8単位選択必修	12単位選択必修	4単位選択必修	8単位選択必修
	JLS1050L	日本語の文字・表記	講義	2	1	○					
	LIN2440L	日本語の音声	演習	2	1	△					
	LIN1440L	日本語の語彙・意味	演習	4	1	△					
	JPE3110L	日本語の文法	講義	4	2	○					
	JPE2120L	言語と文化	講義	4	2	○					
	JPE1100L	ことばの比較	講義	2	1	○					
	CLS3115L	日中対照言語学	講義	2	3	○					
	LIN3410L	プラグマティックス	演習	4	3	○					
	LIN2430L	談話分析	演習	4	2	○					
	JPE4120L	日本語史	講義	2	3	○					
教育・習得	JPE1111L	日本語教育学Ａ	講義	2	1	○		必修	18単位選択必修	必修	12単位選択必修
	JPE1112L	日本語教育学Ｂ	講義	2	1	○		必修		必修	
	JPE2130L	言語習得法	講義	2	1	△					
	JPE2131L	日本語教育文法	講義	2	2	○					
	JPE3240L	日本語教授法	講義	4	2	○		必修		必修	
	JPE3451L	日本語教材開発	演習	2	3	○					
	JPE3140L	年少者日本語教育	講義	2	3	○					
	JPE3452L	マルチメディア日本語教育	演習	2	3	○					
	JPE3440L	日本語教育実習	演習	4	3	△	日本語教授法	必修			
	JPE3241L	日本語の評価法	講義	2	2	○					
	JPE4140L	カリキュラムデザイン	講義	2	3	○					
	JPE364＊L	海外教育実習	実習	2～4	3	△					
スキル	JLS1481L	国語・漢字検定Ⅰ	演習	2	1	○			4単位選択必修		
	JLS1482L	国語・漢字検定Ⅱ	演習	2	1	○					
	JLS1660L	書写	実習	2	1	○					
	JLS2421L	言語表現Ａ	演習	2	1	○					
	JLS2422L	言語表現Ｂ	演習	2	1	○					
	COM2120L	対人コミュニケーション	講義	4	2	○	現代コミュニケーション理論				
	JPE3450L	言語データ分析	演習	2	2	○					
文化・共生	JPE2470L	多言語交流演習	演習	2	1	○			2単位選択必修		
	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△					
	ANS2140L	韓国文化論	講義	4	2	○					
	LIT3114L	現代文学の世界	講義	4	2	○					
								計　36単位		計　20単位	

「＊」：数字コードが複数存在する科目

言語学専攻プログラム

１．教育目的

ことばは様々な側面を持つ多面体です。最初は動物学や論理学など、できるだけ離れた専攻プログラムと言語学を組み合わせ、５セメスター目以降は興味を一つに集中させてください。しかし、最も効き目のある強い薬は一年間海外に出かけ、身をもって「外国人」になることの意味を知ることです。こうした経験を経た後に、ことばは以前とはまったく違った問題として意識されるようになります。地球上にことばは7000近く現存するといわれます。ことばに関わる職業もまた人間が活動するあらゆる分野に広がっています。四年間を通して、最低母国語で書いて思考することの意義と技術の体得を目標にしてください。

２．カリキュラムの特徴

一つのことばは移住によって広がりますが、その広がりは戦争によって分断されるかもしれません。こうした問題に興味がある人には歴史、地理、法律、国際関係についての知識が必要です。一方、せまい局面でもことばの実相をとらえることに興味がある人もいるでしょう。対極する例も挙げておきます。私たちはことばを使うと同時に、身体動作もそれに附随させます。この種の問題には人類学、社会学、プラグマティックス、コミュニケーション理論、心理学などが不可欠な知識を提供してくれるはずです。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）
マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目コード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
入門	LIN1100L	言語学への招待	講義	2	1	○		必修	36単位選択必修	必修	20単位選択必修
	LIN1440L	日本語の語彙・意味	演習	4	1	△					
	JPE2130L	言語習得法	講義	2	1	△					
	JPE2110L	日本語の表現	講義	4	1	○					
	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○					
	COM1000L	現代コミュニケーション理論	講義	4	1	○					
基礎	LIN2430L	談話分析	演習	4	2	○		必修		必修	
	LIN2440L	日本語の音声	演習	2	1	△		4単位選択必修			
	LIN2170L	社会言語学	講義	4	2	○					
	LIN2270L	言語政策論	講義	4	2	○					
	ELS1350L	英語の音声	講義	4	1	△					
	CLS2350L	中国語音声学	講義	4	1	○					
	BIO2021L	動物学Ⅰ	講義	2	2	○					
	BIO2022L	動物学Ⅱ	講義	2	2	○	動物学Ⅰ				
	PHL3330L	論理学	講義	4	2	○					
	HIS3110L	世界史における日本	講義	4	2	○					
	SOC2021L	社会調査法	講義	4	2	○					
	IST2140L	認知の科学	講義	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ				
理論	LIN3410L	プラグマティックス	演習	4	3	○					
	LIN3360L	対照言語学	講義	4	2	○					
	LIN3110L	音韻論	講義	2	2	△					
	LIN3310L	言語学隣接研究	講義	4	2	○					
	LIN3350L	レトリックの歴史	講義	2	2	○					
	LIN3130L	テクスト研究理論	講義	4	2	○					
	COM3140L	言語とジェンダー	講義	4	2	○					
								計　36単位		計　20単位	

コミュニケーション学専攻プログラム

１．教育目的

21世紀を生き抜く現代の若者は、国際化が進み、多様化し複雑化する社会の中で、自分のもっている能力を十分に発揮して、これからの社会に貢献することが強く期待されています。そのためには、円滑な人間関係が築くことのできるコミュニケーション能力が、今まで以上に、ますます求められる時代になってきました。コミュニケーション学専攻プログラムの教育目的は、このような社会の中で、物事を深く理論的に捉えることができる知識を身につけ、その考えを自分の言葉で豊かに表現できる人材、そして日本人だけではなく、文化背景の異なる人でも、人と人とのつながりを大切にしながら、共感力あふれるコミュニケーション能力を身につけたリーダーシップの発揮できる人材の育成をめざしています。そのためには、思考力育成のための知識や理論を学ぶと同時にコミュニケーション能力養成のための実践教育が不可欠です。コミュニケーション・コースでは「表現内容」だけではなく「表現方法」にも重点をおいた教育を行います。

２．カリキュラムの特徴

コミュニケーション学専攻プログラムでは、話すことだけではなく、聴くことの能力も兼ね備えた総合的なコミュニケーション能力のある優れた人材育成のために、多岐にわたる科目が用意されています。コミュニケーションの基礎概念を学ぶ「現代コミュニケーション理論」「オーラルコミュニケーション（話す）（きく）」から、「対人コミュニケーション」「集団コミュニケーション」「組織コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」「国際コミュニケーション」「メディアコミュニケーション」「言語とジェンダー」「コミュニケーション学特論（きくことの科学）」「コミュニケーション調査研究」などの専門科目や、実践教育に重きをおいた「プレゼンテーション演習」「議論とディベート」「ミディエーション」「話し言葉の技法」など、将来自分が就きたい職業も視野に入れて、幅広い科目の中からコミュニケーションを学ぶことができます。

例えば、コミュニケーション教育や企業研修に携わる人には、集団でのリーダーシップのとり方や組織内での円滑なコミュニケーションのとり方を、国際的な場で活躍したい人には、国際的な視野に立って物事を考えると同時に文化背景の異なる人とよりよい人間関係を築くための異文化コミュニケーション能力や交渉力の養成が望まれます。さらに、上記のさまざまなコミュニケーション能力を総合的に支える「話す力」だけではなく、「きく力」を高めることや、日常生活の中の言語を性や差別語という視点から考え、言葉の使い方次第で人間関係に大きな影響を与えてしまうといった現実を学ぶことも大切です。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）
マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
コミュニケーション理論	COM1000L	現代コミュニケーション理論	講義	4	1	○		必修	必修
	COM1130L	集団コミュニケーション	講義	2	1	○		18単位選択必修	8単位選択必修
	COM2130L	組織コミュニケーション	講義	4	2	○	集団コミュニケーション		
	COM2120L	対人コミュニケーション	講義	4	2	○	現代コミュニケーション理論		
	COM2140L	異文化コミュニケーション	講義	4	2	○	現代コミュニケーション理論		
	COM3160L	コミュニケーション学特論（非言語）	講義	4	2	○			
	COM2050L	コミュニケーション学特論（きくことの科学）	講義	4	2	○	オーラルコミュニケーション（きく）		
	COM3140L	言語とジェンダー	講義	4	2	○			
	COM3143L	異文化理解教育	講義	4	3	○	異文化コミュニケーション		
	COM2143L	国際コミュニケーション	講義	4	2	○			
	COM2170L	メディアコミュニケーション	講義	2	2	○			
	COM3210L	コミュニケーション調査研究	講義	4	2	×			
実践・演習	COM1004L	オーラルコミュニケーション（きく）	講義	2	1	○		2単位選択必修	
	COM1003L	オーラルコミュニケーション（話す）	講義	2	1	○			
	COM2150L	話し言葉の技法	講義	2	2	×	オーラルコミュニケーション（話す）		
	IST2470L	プレゼンテーション演習	演習	2	2	○			
	COM3450L	議論とディベート	演習	2	2	○			
	COM3030L	ミディエーション	講義	2	2	○	集団コミュニケーション		
言語・レトリック	LIN2440L	日本語の音声	演習	2	1	△			
	LIN3350L	レトリックの歴史	講義	2	2	○			
	COM3150L	現代レトリック論	講義	4	3	○			
	LIN2430L	談話分析	演習	4	2	○			
	LIN3410L	プラグマティックス	演習	4	3	○			
心理・社会	PSY2141L	社会・集団心理学	講義	2	2	○			
	SOC1000L	社会学概論	講義	4	1	○			
								上記必修・選択必修科目を含め、計　36単位	上記必修・選択必修科目を含め、計　20単位

現代・世界文学専攻プログラム

１．教育目的

19世紀初め、ドイツの文豪ゲーテは、世界各国の国民文学が成立し各国間の通信連絡手段の発達した段階で、世界各国文学を人類共有の精神的財貨として積極的に相互交流する必要を感じて、「世界文学の時代を招致すべく急がねばならぬ」と主張しました。現代は、インターネットなどの普及によって、ゲーテの時代とは比べようもないほど諸国民間のコミュニケーションの機会が増加し、まさに文字通り「世界文学の時代」がやってきたと言えます。

現在世界各地で生じている敵意に満ちた民族間対立、宗派間対立を見るにつけ、異文化理解、異文化交流の必要を感じます。文学こそは各国の人々のありようを理解するもっとも有力な手段です。なぜなら優れた文学は作家の良心の結晶であり、人々の生活のこだまとなって、鏡のようにその国の現実と国民の心情を反映しているからです。日本と諸外国の優れた文学を学ぶことにより、自己のみならず他者をも認識することが条件とされる国際人として、必須の教養を身につけることが本専攻の目的です。

２．カリキュラムの特徴

入門科目として、「人間理解（世界文学に見る人間と文化）」が開講されており、以降は理論科目としての「比較文学」と、日本、イギリス、アメリカ、ロシア、韓国、中国、フランス、ドイツの８ヶ国の文学関係科目が置かれています。これらの科目で知識と方法論を身につけ、各専攻演習・卒業論文へと進むことになります。履修の組み立ては各自の選択にゆだねられていますが、少なくとも３ヶ国以上の文学を比較文学的に考察する視点を持つことが望ましいといえるでしょう。

本専攻の名称が「現代・世界文学」となっているのは、現代に力点が置かれているということであって、世界文学の古典的名作が度外視されているわけでは決してありません。現代に軸足を置きながら、幅広い時代を視野に入れて研究対象を選ぶことが可能です。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）
マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	LIT2410L	古代文学講読	演習	2	1	○		4単位選択必修	20単位選択必修
	LIT2411L	平安文学講読	演習	2	1	○			
	LIT2412L	中世文学講読	演習	2	1	○			
	LIT2413L	江戸文学講読	演習	2	1	○			
	LIT2414L	近代文学講読	演習	2	1	○			
歴史	LIT2070L	英米文学入門	講義	4	1	△			
	LIT2340L	ロシアの社会と文化	講義	4	2	○			
	HIS4350L	日露文化交流史	講義	4	2	○			
	LIT2330L	中国近現代文学史	講義	4	1	○			
理論	ANS2141L	中国文化論	講義	4	2	○			
	LIT3100L	比較文学	講義	4	2	○		必修	必修
	LIT3333L	中国近現代思想研究	講義	4	2	○			
世界文学研究	LIT317＊L	テーマで読む英米文学	講義	4	2	△	重複履修可		
	LIT3340L	ロシア文学研究	講義	4	2	○			
	ANS2140L	韓国文化論	講義	4	2	○			
	LIT2360L	フランス文学	講義	4	2	○			
	LIT2351L	ドイツ文学Ⅰ	講義	2	2	○			
	LIT2352L	ドイツ文学Ⅱ	講義	2	2	○			
	LIT3113L	近代文学の世界	講義	4	2	○			
	LIT3114L	現代文学の世界	講義	4	2	○			
								上記必修・選択必修科目を含め、計　36単位	計　20単位

「＊」：数字コードが複数存在する科目

キリスト教学専攻プログラム

１．教育目的

日本は近代化への道を歩み始めたころからキリスト教文化圏の国々との交流を重んじてきました。それ以来、教育と文化の面でキリスト教は日本に少なからぬ影響を与えてきました。たとえばキリスト教主義の学校は、本学も含めて大学・短大だけで80校あり、小学・中学・高校の数は400校を超えます。世界を見渡すと、世界総人口約73億人のうち三分の一がキリスト教徒です。特に近年は中国とアフリカ各地で急速にキリスト教人口が増えつつあります。

キリスト教学専攻プログラムは、キリスト教研究を手掛かりにして世界を見る目、歴史を見る目を養い、諸文化の価値観・世界観を吟味することのできる知性と感性を養うことがその目的です。キリスト教にかかわる分野はもちろんのこと、人権尊重の感性やグローバルな視野を必要とする分野で働きたいと考えている人に奨めます。

２．カリキュラムの特徴

どのような宗教上の立場の学生でも専攻することができます。

キリスト教は二千年の歴史を歩んできました。その間にいろいろの変化や展開を見ていますが、この専攻プログラムでは、キリスト教に関する基本的知識を学問的な成果に基づいて学びます。そのために聖書について、キリスト教の歴史について、そして現代キリスト教の考え方について、大学にふさわしい学問的な方法によって探究します。専門科目の多くは少人数による授業となるので、ゼミナール（演習）に近い形態となり、密度の高い勉強ができるでしょう。

他方、〈隣接〉区分の科目や、政治や経済、文学、芸術さらには人権、平和、環境等に関する科目を選択的に履修し（他の専攻プログラム科目も可）、そのような分野とキリスト教を関連付けて学び、差別・紛争・貧困・環境破壊等、現代世界が抱えている諸問題の解決のためにキリスト教はどのような貢献ができるかをみずから探求することもできます。

卒業論文の提出は自由選択となりますが、大学で勉強した事をしっかりと自分のものにするためにぜひ論文にまとめることを奨めます。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
基礎	CHR1330L	キリスト教古典入門	講義	2	1	○			10単位選択必修		10単位選択必修
	CHR1020L	キリスト教史	講義	2	1	○					
	CHR2031L	キリスト教神学概論	講義	2	2	○					
	CHR2012L	聖書学概論	講義	2	2	○	聖書				
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○					
	CHR3150L	一神教研究	講義	2	2	○					
展開	CHR3111L	旧約聖書研究	講義	2	~~3~~2	○			16単位選択必修		10単位選択必修
	CHR3112L	新約聖書研究	講義	2	~~3~~2	○					
	CHR3333L	キリスト教の理論	講義	4	~~3~~2	○					
	CHR3140L	現代キリスト教の諸問題	講義	2	3	○					
	CHR1341L	キリスト教とジェンダー	講義	2	2	○					
	CHR2340L	キリスト教と教育	講義	2	1	○					
	REL3340L	宗教と教育	講義	2	2	○					
	CHR3340L	キリスト教文化論	講義	4	2	△					
	REL2350L	西洋文明と思想	講義	4	2	○					
	CHR4400L	専門書講読	演習	4	~~3~~2	×					
隣接	PSY3146L	宗教心理学	講義	2	2	○			10単位選択必修		
	ANT2110L	宗教人類学	講義	4	2	○					
	ANT3110L	イスラーム文化論	講義	4	2	○					
	ANT3112L	仏教文化論	講義	4	2	○					
	REL3130L	宗教学の諸問題	講義	2	3	△					
	ETH2000L	倫理学概論	講義	4	2	○					
	ETH3020L	社会思想史	講義	4	3	○					
	ANS3182L	西アジア研究	講義	4	2	○					
								計　36単位		計　20単位	

宗教学専攻プログラム

１．教育目的

人は皆、自己を根底から支える「偉大なるもの／ Something Great」との関係において「生き、動き、存在し」この世界の中に自己を位置づけようと願っています。ですから人は皆、「何処から来て何処へゆくのか」「なぜ生まれて死ぬのか」「愛とは何か」「救済とは何か」といったテーマに惹かれるのです。そして、これが宗教学の問題意識の始まりです。

どうしてこういう問題意識を持つのかといえば、人は皆、自己の存在のはかなさと同時に自己の魂の永遠性を意識しているからでしょう。「宗教的生のダイナミズム」は、自己の限界性と現実を見据えながらも、なお可能性と理想に向かって邁進する人の姿の中に見ることができます。またそれは、捉えたと思った途端に指の間をすり抜けてゆく「究極的なる実在」に魅了され、追求して止まない真摯な人間の姿の中に見ることができます。

宗教学とは、世界中に見られる「宗教」という営みを人間の生活現象の一局面として捉え、それがどのように生起し、人間生活の中でどのような位置を占め、どのような役割を演じているのかを、事実に即して客観的に整理して、体系的にまとめることです。こうした課題は、自己を理解すると同時に他者を理解することになり、風土・歴史・文化を超えた相互理解の基本形を産み出すことに繋がっていくのです。

宗教学専攻プログラムでは、他者の宗教的経験・信念・洞察から学び、尊び、より良い自己への変革を目指して、他者に対して寛容なる宗教的精神を身につけることを目的とします。従来の「排他的」あるいは「包括的」な宗教理解ではなく、新たな「多元的な」宗教理解を探究するのが宗教学専攻プログラムの教育目標です。

２．カリキュラムの特徴

宗教学は、それぞれの宗教の優劣を論じるものでも、ある特定の宗教の正当性を論じるものでもありません。世界に存在する諸宗教をあるがままに受け止め、比較し、整理することを基本的な作業とします。ですから、世界の諸宗教を学ぶための基本的な理論がこの専攻プログラムには用意されています。しかし、各自が関心を持つ具体的な地域における諸宗教に関する学びについては、当学群の他分野から積極的に見つけて学修することをお勧めします。

また、生と死について、魂の永遠性について、愛について、救済について、等々の答えはすぐには見つけられないかもしれませんが、それでもこうした大きなテーマに真摯に取り組むことは無駄ではありません。問い続け、戸惑い、苦悩する中で「考える力」が身につきます。また、人間を根底から支える「大いなるもの」「聖なるもの」「究極的な実在」との関わりから、物事を客観的に見つめる視点も養われます。

宗教学専攻プログラムでは、「宗教多元主義」の理論を学び、諸宗教の実態を積極的に学び、理解することを特徴としています。それは同時に、自分の生まれ育った国、文化、宗教についてのより深い理解へと結びつき、他宗教に生きる人々への「寛容の精神」を養うことへと発展することでしょう。

３．修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
導入・基礎	GEG1100L	文化地理学	講義	4	1	○			32単位選択必修		20単位選択必修
	ENV2350L	人と自然	講義	2	2	○					
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○		必修		必修	
	CHR1020L	キリスト教史	講義	2	1	○					
	ANT2110L	宗教人類学	講義	4	2	○					
理論	PSY3146L	宗教心理学	講義	2	2	○					
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○					
	LIT2030L	中国思想史	講義	4	1	○					
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○					
	REL2300L	日本の宗教	講義	4	2	○		必修			
	ANS2380L	アジアの思想と宗教	講義	4	2	○					
	REL2350L	西洋文明と思想	講義	4	2	○					
	AMS3130L	アメリカ思想史	講義	4	2	○					
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○					
	ANT3111L	儒教文化論	講義	4	2	○					
	ANS2140L	韓国文化論	講義	4	2	○					
	ANT3112L	仏教文化論	講義	4	2	○					
	CHR3340L	キリスト教文化論	講義	4	2	△					
	ANT3110L	イスラーム文化論	講義	4	2	○					
応用	REL3150L	宗教学研究特論	講義	2	2	○		必修			
	ETH2340L	倫理学研究特論 A	講義	2	2	△					
	PHL3371L	哲学研究特論 A	講義	2	2	○					
	PHL3372L	哲学研究特論 B	講義	2	2	△					
	REL3130L	宗教学の諸問題	講義	2	3	△		必修			
	CHR3150L	一神教研究	講義	2	2	○					
	ETH3150L	倫理学の諸問題 A	講義	4	3	△	倫理学概論				
	PHL2371L	哲学の諸問題 A	講義	4	2	○					
	PHL2372L	哲学の諸問題 B	講義	4	2	○					
								計　32単位		計　20単位	

哲学専攻プログラム

１．教育目的

本専攻プログラムの目的は、哲学の基本的問題・応用的問題の教授学習を通じて、多用で複雑な価値観がぶつかり合う現代社会において、より善い選択をし、より善く生きることができる人間を育成することです。

人間には善く生き、善く行動したい、そうした自分を取り巻く世界について知りたい、という自然な欲求が備わっています。哲学の語源である「ピロソピアー（知を愛し求めること）」とは元来、これらの欲求にもとづいた知の探究の活動を意味していました。現代において諸学問は扱う対象や方法論によって細分化し、哲学もまた派生的に様々な分野に分化しましたが、こうした哲学の本義は揺らぐべきではありません。哲学の扱う対象は、真、善、美、正義、存在、言語などから、科学、歴史、ジェンダー、ポップカルチャーにいたるまで多岐にわたります。そして哲学は、こうした対象をそれぞれ別個・独立したものとして扱うのではなく、個別的対象を含む全体や、対象相互の関係を念頭に置きながら探究を行っていきます。なぜなら、そうすることによってはじめて、哲学的考察は人間にとっての「意味」や「有効性」をもたらすことになるからです。

本専攻では、既存の問題枠組みを謙虚かつ粘り強く学び、そこに自らの興味関心から独自の考察を加えるという訓練を通じて、生涯にわたって善く生きようとする学習者を育てます。

２．カリキュラムの特徴

本専攻は、〈理論〉〈宗教と思想〉〈思想史〉〈専門関連科目〉〈基礎関連科目〉の科目群からなります。

本専攻には基幹となる４つの必修科目があり、全て〈理論〉科目群に属します。まず、哲学的思考力の鍛錬として「論理学」を学びます。そして「哲学概論」では哲学の伝統的な問題や哲学の歴史を学びます。「哲学の諸問題」では比較的新しい応用的な哲学の問題が扱われます。「哲学研究特論」では担当講師が専門とする課題にどのように取り組んでいるかを見て学び、卒業論文等を執筆するための参考モデルにしてもらいます。その他の〈理論〉科目群では近接する専攻である倫理学や宗教学の科目を複数用意してあります。

「宗教と思想」「思想史」では西洋に限らず、日本、中国、イスラム地域も含め、宗教や思想、文化を教養的に学びます。

〈専門関連科目〉では心理学、社会学、歴史学、教育学など、哲学にも応用できる他専攻の重要な知識やメソドロジー（学問の方法論）を学ぶことができます。

〈基礎関連科目〉では哲学の学生が自分のキャリアや社会について理解を深められるような科目を用意してあります。

また本専攻の学生には、「専攻演習」で独自の研究を深め、「卒業論文」でその成果を発表することを強く推奨します。

３．修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎関連科目	MJS2030L	出版の世界	講義	2	1	○			
	MJS1001L	ジャーナリストへの道	講義	2	1	○			
	MJS3210L	新聞社説を読む	講義	2	2	○			
専門関連科目	PSY1002L	心理学	講義	4	1	○			
	PSY1001L	心理学概論	講義	4	1	○			
	SOC1000L	社会学概論	講義	4	1	○			
	HIS1000L	世界史概論	講義	4	1	○			
	POL3110L	国際関係思想	講義	4	2	○			
	EDU2010L	教育思想	講義	2	1	○			
	PSY3146L	宗教心理学	講義	2	2	○			
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○			
思想史	AMS3130L	アメリカ思想史	講義	4	2	○			
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○			
	LIT2030L	中国思想史	講義	4	1	○			
	LIT3332L	中国古代思想研究	講義	4	2	○			
	LIT3333L	中国近現代思想研究	講義	4	2	○			
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○			
宗教と思想	REL2350L	西洋文明と思想	講義	4	2	○			
	CHR3340L	キリスト教文化論	講義	4	2	△			
	ANT3112L	仏教文化論	講義	4	2	○			
	ANT3110L	イスラーム文化論	講義	4	2	○			
理論	PHL3000L	哲学概論	講義	4	2	○		必修	必修
	PHL3330L	論理学	講義	4	2	○		必修	必修
	PHL2371L	哲学の諸問題Ａ	講義	4	2	○		4単位選択必修	4単位選択必修
	PHL2372L	哲学の諸問題Ｂ	講義	4	2	○			
	PHL3371L	哲学研究特論Ａ	講義	2	2	○		2単位選択必修	2単位選択必修
	PHL3372L	哲学研究特論Ｂ	講義	2	2	△			
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○			
	ETH2000L	倫理学概論	講義	4	2	○			
	ETH2340L	倫理学研究特論Ａ	講義	2	2	△			
	ETH2330L	倫理学研究特論Ｂ	講義	2	2	△			
	ETH3150L	倫理学の諸問題Ａ	講義	4	3	△	倫理学概論		
	ETH3130L	倫理学の諸問題Ｂ	講義	4	3	△	倫理学概論		
	REL3130L	宗教学の諸問題	講義	2	3	△			
	REL3150L	宗教学研究特論	講義	2	2	○			
								上記必修・選択必修科目を含め、計　32単位	上記必修・選択必修科目を含め、計　20単位

倫理学専攻プログラム

１．教育目的

倫理学専攻プログラムでは、人類社会の根源にある倫理や道徳の世界から深く学びながら、私たちが人生や社会をより善く生き抜くための実践知を身につけていきます。そのためには、はじめに倫理学の基本となる考え方を学問の導入・基礎とし学修します。また同時に、倫理や道徳の世界を学説史や思想史などの学知に学びながら、バランスのとれた理論知を習得していきます。そして今日の世界が強く求めている現実社会の切実な問題群にとりくむ現代の社会倫理学を学修します。

このように今日の世界や社会にあって私たちが倫理学を学ぶのは、現実の社会問題を的確に分析し正しい解決へと導く力量が鋭く問われているからです。この倫理学専攻は、正義、善、自由、平等、幸福、生命、人権、自然、環境などの人間社会を支える基本的な諸価値をしっかりと理解した成熟社会にふさわしい善き市民の育成をめざしています。卒業後は、社会における有為な人材としての活躍が期待されます。

２．カリキュラムの特徴

倫理学専攻プログラムの第一の特徴は、倫理学だけではなく、隣接する他の３専攻（キリスト教学、宗教学、哲学の各専攻）やその他の諸専攻と密接に補い合いながら学修計画を立てられる点にあります。

倫理学専攻の第二の特徴は、倫理学を基礎にして人権や生命・福祉（生老病死）、平和、開発、環境、歴史、政治、経済、社会、文化、科学・技術、暴力、権力などのテーマ群をも学修できる点にあります。この世界は実践倫理学の領域であり、今日、世界的に注目されています。倫理学専攻では、まず倫理学の主要な諸理論（例えば義務論や功利主義、正義論、世代間倫理学、討議倫理学、社会主義、生の哲学、実存主義、メタ倫理学、徳倫理学、ポストモダニズムなど）や倫理学の諸課題（例えばハンセン病問題、水俣病問題、原発問題、脳死・臓器移植問題、サイボーグ工学や生命科学の問題、現代医療の問題、科学・技術文明の問題など）を視野に入れた「倫理学概論」（必修）を導入・基礎として学修し、次いで「倫理学研究特論Ａ・Ｂ・Ｃ」（選択必修）や「倫理学説史」をはじめ「社会思想史」や「環境倫理学」などの理論（選択必修）を学修し、さらに「倫理学の諸問題Ａ・Ｂ」（選択必修）や「応用倫理学」（選択必修）などの現代倫理学の応用領域を学びます。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
導入・基礎	ETH2000L	倫理学概論	講義	4	2	○		必修		必修	
	PHL3000L	哲学概論	講義	4	2	○			12単位選択必修		6単位選択必修
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○					
理論	PHL3371L	哲学研究特論Ａ	講義	2	2	○					
	PHL3372L	哲学研究特論Ｂ	講義	2	2	△					
	REL3150L	宗教学研究特論	講義	2	2	○					
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○					
	ETH2360L	環境倫理学	講義	2	2	○					
	POL3110L	国際関係思想	講義	4	2	○					
	INT3310L	平和論	講義	4	3	○					
	AMS3130L	アメリカ思想史	講義	4	2	○					
	LIT2030L	中国思想史	講義	4	1	○					
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○					
	ETH2340L	倫理学研究特論Ａ	講義	2	2	△			4単位選択必修		2単位選択必修
	ETH2330L	倫理学研究特論Ｂ	講義	2	2	△					
	ETH2341L	倫理学研究特論Ｃ	講義	2	2	△					
	ETH2010L	倫理学説史	講義	2	2	△					
応用	ETH2160L	応用倫理学	講義	2	2	○			12単位選択必修		4単位選択必修
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○					
	PHL2371L	哲学の諸問題Ａ	講義	4	2	○					
	PHL2372L	哲学の諸問題Ｂ	講義	4	2	○					
	PHL3330L	論理学	講義	4	2	○					
	LAW3230L	国際人権法	講義	4	2	○					
	INT2340L	人間の安全保障	講義	4	2	○					
	IST1181L	情報と倫理	講義	2	1	○					
	ENV1001L	環境と文明	講義	4	1	○					
	REL3130L	宗教学の諸問題	講義	2	3	△					
	ETH3150L	倫理学の諸問題Ａ	講義	4	3	△	倫理学概論		4単位選択必修		4単位選択必修
	ETH3130L	倫理学の諸問題Ｂ	講義	4	3	△	倫理学概論				
								計　36単位		計　20単位	

文化人類学専攻プログラム

１．教育目的

文化人類学専攻プログラムでは、地球上のさまざまな異文化について学ぶことを通して自文化をも相対化して捉える鍛錬をし、より広い視野で人間社会や文化の諸現象への洞察力と理解力を深めることを目標とします。すなわち、異文化理解力をもった人材の育成を目差しますが、こうした人材は、特にグローバル時代とよばれる今日、文化交流、教育分野、開発援助、ジャーナリズム、観光産業など、国際的業務と関わる分野でますます必要とされています。また地球市民の一員として現代社会で生きていくうえでも、重要な知的インフラとなるはずです。

２．カリキュラムの特徴

この専攻プログラムは、学修の流れとしては、まずは、導入的な「文化人類学」を必修科目として履修し、その後、より専門的な理論・方法論の科目を選択必修として履修しながら、アジア、アメリカ、日本など具体的な地域やさまざまな宗教に関わる科目とを交差させ組み合わせ学修していきます。加えて、現地で調査を行いながら調査研究の手法を身につける「文化人類学フィールドワーク」などの実習科目が用意されている点が、カリキュラムの特徴と言えます。そうした学修は演習の授業などでより深められ、最終学年において卒業論文として集大成されることが目標となります。

３．修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）
マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△		必修	必修
	SOC1000L	社会学概論	講義	4	1	○			
	GEG1000L	地理学概論	講義	4	1	○			
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○			
理論・方法論	ANT2120L	同時代の人類学	講義	4	2	○			
	ANT2130L	ジェンダーの人類学	講義	4	2	○			
	ANT2110L	宗教人類学	講義	4	2	○		20単位選択必修	12単位選択必修
	ANT2230L	文化人類学特論（性の人類学）	講義	4	2	○			
	ANT2220L	文化人類学特論（実践の人類学）	講義	4	2	○			
	ANT2240L	文化人類学特論（遊牧文化論）	講義	2	2	×			
	SOC2130L	比較社会学	講義	4	2	○			
	ANT3600L	文化人類学フィールドワーク	実習	2	2	×	文化人類学		
	INT36**L	国際協力フィールドワーク	実習	1～4	2	○	重複履修可		
社会・宗教研究	ANS3180L	東アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS2150L	東アジアの現代社会	講義	4	2	○			
	ANS2180L	東南アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS2181L	東南アジアの現代社会	講義	4	2	○			
	ANS3380L	東北アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS3181L	南アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS3182L	西アジア研究	講義	4	2	○			
	LIT3335L	中国地域研究	講義	4	2	○			
	LIT1000L	中国文化概論	講義	4	1	○			
	ANS2141L	中国文化論	講義	4	2	○			
	ANS2140L	韓国文化論	講義	4	2	○			
	ANS3381L	アジア女性論	講義	4	2	○			
	AMS2140L	アメリカの文化	講義	4	1	○			
	AMS2131L	アメリカ社会史	講義	4	2	○			
	AMS2150L	アメリカ民族論	講義	4	2	○			
	AMS2151L	アメリカの社会	講義	4	2	○			
	AMS3150L	アメリカ女性論	講義	4	2	○			
	LIT2340L	ロシアの社会と文化	講義	4	2	○			
	JPS3140L	日本文化論	講義	4	2	○			
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○			
	REL2300L	日本の宗教	講義	4	2	○			
	ANT3110L	イスラーム文化論	講義	4	2	○			
	CHR3340L	キリスト教文化論	講義	4	2	△			
	ANT3111L	儒教文化論	講義	4	2	○			
	ANT3112L	仏教文化論	講義	4	2	○			
								上記必修・選択必修科目を含め、計　32単位	上記必修・選択必修科目を含め、計　20単位

「＊」：数字コードが複数存在する科目

アメリカ地域研究専攻プログラム

１．教育目的

アメリカ合衆国を主な対象として、多民族多文化社会アメリカの成立とその歴史的展開を跡付け、いまやグローバリゼーションの核として存在している現代アメリカ社会の諸相を分析します。私たちが身近な文化を通して日常的に接しているアメリカと、軍事的・経済的覇権を通して日本にも大きな影響を及ぼしているアメリカという存在を、立体的かつ総合的にとらえることが、アメリカ地域研究の目的です。

アメリカという「地域」についてさまざまな知識を得るだけでなく、ものごとを歴史的に、そしてさまざまな関係性の中でとらえること。自分なりのアメリカ理解を通して、それを世界への認識にひろげ、同時に自らの生まれ育った社会を相対化してとらえること。そのような力をもって、人々とつながり、変化し続ける現実の世界に関与し、学び続けていける人。このプログラムを通して育てていきたいのはそういう人です。

２．カリキュラムの特徴

アメリカ地域研究専攻プログラムのカリキュラムは、専攻の諸領域をカバーする科目の多彩さを特徴としています。アメリカという存在を立体的かつ総合的にとらえるために、特定の学問分野に偏ることなく、幅広い分野からバランスよく科目が配置されています。

この専攻プログラムの科目は〈導入・概論〉〈歴史・民族・文化〉〈社会・政治・経済〉の３つのカテゴリーに分類されます。アメリカを理解するうえで基本となる幅広い教養を身につけるため、メジャー・マイナーとも各カテゴリーごとに選択必修（４単位～８単位）を課していますが、残りの単位数を各自の興味・関心に照らして自由に履修することで、特定の分野を深く学ぶこともできるしくみとなっています。

〈導入・概論〉では「アメリカ研究概論」「アメリカの歴史」「アメリカの文化」の３科目の中から１科目（４単位）が選択必修となっていますが、これらの科目は、この専攻プログラム全体の土台と位置づけられるため、その中から複数を履修することを強く勧めます。

３．修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入・概論	AMS2000L	アメリカ研究概論	講義	4	2	○		4単位選択必修	4単位選択必修
	AMS2130L	アメリカの歴史	講義	4	2	○			
	AMS2140L	アメリカの文化	講義	4	1	○			
	HIS1000L	世界史概論	講義	4	1	○		8単位選択必修	8単位選択必修
	GEG1000L	地理学概論	講義	4	1	○			
	POL1000L	政治学概論	講義	4	1	○			
	ECO1000L	経済学概論	講義	4	1	○			
	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△			
	INT2111L	民族研究	講義	4	2	○			
	SOC2130L	比較社会学	講義	4	2	○			
歴史・民族・文化	AMS2131L	アメリカ社会史	講義	4	2	○		8単位選択必修	4単位選択必修
	AMS3130L	アメリカ思想史	講義	4	2	○			
	AMS2150L	アメリカ民族論	講義	4	2	○			
	AMS3150L	アメリカ女性論	講義	4	2	○			
	HIS3150L	日米交流史	講義	4	2	○			
	LIT3175L	英語圏の映画と文化	講義	4	3	△			
社会・政治・経済	AMS2151L	アメリカの社会	講義	4	2	○		8単位選択必修	4単位選択必修
	AMS3110L	アメリカの政治	講義	4	2	○			
	AMS3111L	アメリカの外交	講義	4	2	○			
	AMS3120L	アメリカの経済	講義	4	2	○			
	ECO3320L	アメリカ経済論	講義	4	2	○			
	MJS2201L	アメリカのジャーナリズム	講義	2	2	○			
	INT3130L	日米関係論	講義	4	2	○			
	AMS3380L	アメリカ研究特論	講義	2	2	○			
								上記選択必修科目を含め、計　32単位	上記選択必修科目を含め、計　20単位

アジア地域研究専攻プログラム

１．教育目的

社会科学の研究方法に基づいて、アジアの社会事象を自分自身で構造化して理解することを目指します。アジア地域研究の専攻プログラムでは、多様なアジアの社会事象を、歴史学、政治学、経済学、社会学、文化人類学等の様々な観点から多面的に捉える能力を養います。偏見や一面的なものの見方でなく、複眼的な思考ができる学生の育成を重視し、最終的にはアジア諸国と積極的に国際交流ができる人材に育てることを目標とします。アジアの人々の価値観や歴史観、宗教に対する姿勢を学ぶ中で、日本人のものの考え方が実はかなり特殊なものであることを理解することが大切です。

２．カリキュラムの特徴

１年生は、「リベラルアーツセミナー」を通じて、学問の基礎となる読解・文章表現・プレゼンテーションの仕方の基礎を学び、同時に将来の専攻地域を見据えて、英語や地域言語を学びます。２年生からは、各自の問題関心に応じて、〈入門基礎〉科目（「世界史概論」「政治学概論」「宗教学概論」「文化人類学」「アジア研究概論」）をまず学びます。その後、〈アジアの歴史と文化〉科目群と、〈世界の中のアジア〉科目群の各科目を選択履修します。〈アジアの歴史と文化〉は歴史科目（「アジアの歴史Ⅰ、Ⅱ」「日韓交流史」等）、宗教を含むアジア文化研究科目（「儒教文化論」「イスラーム文化論」等）から成ります。〈世界の中のアジア〉は、地域科目（「東北アジア研究」「東南アジア研究」「南アジア研究」「西アジア研究」等）や、広域アジア科目（「オセアニアの政治と経済」等）のほか、横断的な科目（「発展途上国論」「アジアの政治」等）から成ります。学びの系統は、［アジア歴史研究］、［東北アジア研究］、［東南アジア研究］、［広域アジア研究］、［アジア文化研究］の５つです。科目の選択にあたっては、自分の学びの系統を意識しながら、なおかつバランスのとれた履修を心がけてください。なお、［広域アジア研究］は、南アジアやオセアニア等の他、東アジア共同体などもテーマとすることができます。

３．修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）
マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
入門基礎	HIS1000L	世界史概論	講義	4	1	○		4単位選択必修	20単位選択必修
	POL1000L	政治学概論	講義	4	1	○			
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○			
	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△			
	ANS1000L	アジア研究概論	講義	4	1	○			
アジアの歴史と文化	ANS2131L	アジアの歴史Ⅰ	講義	4	2	○		8単位選択必修	
	ANS2132L	アジアの歴史Ⅱ	講義	4	2	○			
	HIS3250L	ユーラシア文化交流史	講義	4	2	○			
	HIS3220L	日韓交流史	講義	4	2	○			
	ANS2380L	アジアの思想と宗教	講義	4	2	○			
	ANT3111L	儒教文化論	講義	4	2	○			
	ANT3112L	仏教文化論	講義	4	2	○			
	ANS2140L	韓国文化論	講義	4	2	○			
	ANT3110L	イスラーム文化論	講義	4	2	○			
	ANS2141L	中国文化論	講義	4	2	○			
世界の中のアジア	ANS2381L	発展途上国論	講義	4	2	○		8単位選択必修	
	ANS3110L	アジアの政治	講義	4	2	○			
	ANS2120L	アジアの経済	講義	4	2	○			
	ANS3380L	東北アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS3180L	東アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS2150L	東アジアの現代社会	講義	4	2	○			
	ANS2180L	東南アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS2181L	東南アジアの現代社会	講義	4	2	○			
	ANS3181L	南アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS3182L	西アジア研究	講義	4	2	○			
	ANS2310L	オセアニアの政治と経済	講義	4	2	○			
	ANS3381L	アジア女性論	講義	4	2	○			
	ANS338＊L	アジア研究特論	講義	4	2	○	重複履修可		
								上記選択必修科目を含め、計　32単位	計　20単位

「＊」：数字コードが複数存在する科目

日本地域研究専攻プログラム

１．教育目的

日本地域研究専攻プログラムは、日本をよく知ることを目指すものです。桜美林大学の教育目的である「国際人の育成」のためには、生きた外国語を学ぶことも必要です。また、急速に変化する世界の諸地域の政治や経済、文化についての知見も必要でしょう。しかし、日本のあり方、歴史や文化、政治や経済、社会の動向などを、国際的な視野からきちんと把握できる成熟した人間となることも、同時に重要ではないでしょうか。その「学び」の中で、各自の関心に応じて個別の問題を探求することも可能です。

このようにして日本のあり方を広い視野から知り、日本の抱えている問題点を考察することは、批判的思考能力を身につけることでもあります。こうした「学び」を重ねることは、日本社会においてであれ日本以外の社会においてであれ、各自の将来設計に関係を持つし、自分の将来を主体的に切りひらいていく際の力になるでしょう。

２．カリキュラムの特徴

日本地域研究専攻プログラムのカリキュラムは、多様な分野にわたるもので、大きく分けて〈歴史〉〈文化〉〈政治経済〉のカテゴリーの科目を用意しています。この３つのカテゴリーのいずれか１つを中心にする学部や学科は数多くありますが、桜美林大学リベラルアーツ学群の「日本地域研究」は、それらを組み合わせているのです。

ですから、学生各自の関心に応じて、日本を中心とする国際交流を勉強するとか、日本の政治を勉強するとか、日本文化を中心に勉強するとかが可能で、そういう勉強を組み合わせて「日本地域研究」の専攻ということになります。比較的に概説的な科目を用意するとともに、上記３つのカテゴリーに沿った個別的なテーマに関する勉強ができるよう配慮しています。幅広い一般的な教養を得ることとともに、あるテーマに関しては、各人の問題意識に即した専門的知識を持つことが大事だと考えられるからです。

３．修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
歴史	HIS1001L	日本史概論	講義	4	2	○		4単位選択必修	20単位選択必修
	JPS2131L	日本の歴史Ⅰ	講義	4	2	○			
	JPS2132L	日本の歴史Ⅱ	講義	4	2	○			
	HIS3110L	世界史における日本	講義	4	2	○			
	JPS3130L	日本古代中世史	講義	2	2	○			
	JPS2130L	戦後日本史	講義	2	2	○			
	HIS3150L	日米交流史	講義	4	2	○			
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○			
	EDU2311L	日本教育史	講義	2	2	○			
文化	JPS2000L	日本研究概論	講義	4	2	○		8単位選択必修	
	JPS3140L	日本文化論	講義	4	2	○			
	GEG1010L	地誌学概論	講義	2	1	○			
	REL2300L	日本の宗教	講義	4	2	○			
	JPS1140L	日本の民俗	講義	2	1	○			
	LIT3113L	近代文学の世界	講義	4	2	○			
	LIT3114L	現代文学の世界	講義	4	2	○			
	HIS3220L	日韓交流史	講義	4	2	○			
	HIS4350L	日露文化交流史	講義	4	2	○			
	CLS2370L	日中比較文化	講義	4	2	○			
	ANS2133L	日中交流史	講義	2	2	○			
	ANS2182L	日中交流論	講義	2	2	○			
政治経済	INT3130L	日米関係論	講義	4	2	○			
	POL2120L	日本の政治	講義	4	2	○			
	POL2150L	現代日本の政治	講義	4	2	○			
	INT3321L	近代日本の外交	講義	4	2	○			
	LAW1020L	日本国憲法	講義	2	1	○			
	ECO2320L	日本経済論	講義	4	2	○			
	ECO2380L	日本経済史	講義	4	2	○			
	JPS2380L	日本研究特論（日米文化社会比較）	講義	4	2	○			
	MJS2200L	日本のジャーナリズム	講義	2	2	○			
								上記選択必修科目を含め、計　32単位	計　20単位

歴史学専攻プログラム

１．教育目的

「歴史とは過去について学ぶこと」ですが、「過去について学んでいる私たち自身は、現在を生きている」とも付け加えておきましょう。歴史を学ぶことは、実は、「現在」を考えることでもあるのです。私たちの周りで起きていることの原因や意味を、過去にさかのぼって探り、現在の私たちが「当たり前」と思っていることが、過去においてもそうだったのかを知ろうとする姿勢。歴史学専攻プログラムでは、その名前の通り、歴史について考える場を提供するとともに、過去や現在の社会状況に対する、そのような好奇心を育みたいと思っています。過去の人々が残した歴史史料に向かうと、自分の思い込みや価値観が崩されることもあれば、逆に、同じ史料を自分の視点から解釈することも出来ます。そのような史料との対話のなかから、一つの歴史イメージが作られ、それをめぐる議論が生じる。その議論こそが、現在の自分を見つめ直すという、歴史学の重要な作業なのです。

２．カリキュラムの特徴

歴史学専攻プログラムの科目は、〈導入と理論〉、〈歴史学の方法〉、〈グローバル社会と歴史〉という３つのカテゴリーに分類されており、基本的には、学年が進むとともに、これらのカテゴリーから科目を履修できるようになっています。まず、１年次は、他の専攻プログラムと同様に、「リベラルアーツセミナー」、語学、情報などの授業を受講するとともに、数多く用意されている専攻入門や学問基礎の講義を受けます。２年次からは、〈歴史学の方法〉の科目が履修できるようになり、各地域の歴史について学びます。それと同時に、〈グローバル社会と歴史〉から、より具体的なトピック（文化、思想など）に焦点を当てた科目や、複数の地域にまたがった歴史を学ぶ多彩な科目を履修します。さらに、専門的な歴史のトピックを追究したい人は、３年次からの演習を履修した後に、４年次には卒業論文として、自分の研究をまとめることができます。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）
マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入と理論	HIS1000L	世界史概論	講義	4	1	○		4単位選択必修	4単位選択必修
	HIS1001L	日本史概論	講義	4	2	○			
	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△		4単位選択必修	
	AMS2000L	アメリカ研究概論	講義	4	2	○			
	ANS1000L	アジア研究概論	講義	4	1	○			
	JPS2000L	日本研究概論	講義	4	2	○			
歴史学の方法	JPS2131L	日本の歴史Ⅰ	講義	4	2	○		8単位選択必修	4単位選択必修
	JPS2132L	日本の歴史Ⅱ	講義	4	2	○			
	AMS2130L	アメリカの歴史	講義	4	2	○			
	ANS2131L	アジアの歴史Ⅰ	講義	4	2	○			
	ANS2132L	アジアの歴史Ⅱ	講義	4	2	○			
	INT2121L	国際関係史Ⅰ	講義	4	2	○			
	INT2122L	国際関係史Ⅱ	講義	4	2	○			
グローバル社会と歴史	POL1000L	政治学概論	講義	4	1	○		20単位選択必修	12単位選択必修
	LIT2030L	中国思想史	講義	4	1	○			
	LIT1000L	中国文化概論	講義	4	1	○			
	AMS3130L	アメリカ思想史	講義	4	2	○			
	AMS2131L	アメリカ社会史	講義	4	2	○			
	AMS2140L	アメリカの文化	講義	4	1	○			
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○			
	HIS3220L	日韓交流史	講義	4	2	○			
	HIS3250L	ユーラシア文化交流史	講義	4	2	○			
	HIS3110L	世界史における日本	講義	4	2	○			
	INT2111L	民族研究	講義	4	2	○			
	HIS3150L	日米交流史	講義	4	2	○			
	HIS4350L	日露文化交流史	講義	4	2	○			
	INT3321L	近代日本の外交	講義	4	2	○			
	INT3320L	冷戦後の国際関係	講義	4	2	○			
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○			
								計　36単位	計　20単位

国際関係専攻プログラム

１．教育目的

本学建学の精神である「教養豊かな識見の高い国際的人材の育成」のために国際関係プログラムでは、何よりもまず世界を知ることを学びます。国際関係とは一体何でしょう。国と国との関係でしょうか。いえそれだけではありません。人と人との国境を越えた交流も国際関係の重要な要素です。国際関係での国や人の動きは複雑です。平和な時もあれば戦争になる時もあります。何故でしょうか。貿易や投資といった経済に原因があるのでしょうか。それとも民族や宗教などに原因があるのでしょうか。こうした疑問に自らが答えるために、国際政治、国際法を中心に、多分野にまたがる知識を身につけながら国際関係に関わるさまざまなトピックを通じて学びます。その知識をもとに、貧困や飢餓、戦争のない、自由、平等で平和な世界を構築するために私たちに何ができるのか、その手掛かりを一人ひとりがつかみ、平和に向けて実践できるよう皆と一緒に学んでいきます。

２．カリキュラムの特徴

国際関係を理解する上で基礎となる〈国際関係基礎〉、国際関係を学ぶ上で核となる〈理論〉、その理論を手がかりに、具体的な問題関心に沿って学ぶ〈テーマ別〉というカテゴリーから成り立っています。国際関係論においては政治学的理解が重要なので、〈国際関係基礎〉科目には「国際関係論」の他、「国際政治論」「政治学概論」が配置されています。〈理論〉の科目としては、国際関係の歴史、国際関係の基礎をなす国家や民族についての理論、戦争と平和についての理論・思想、国際法や国際機構、政治学関連の科目を学びます。さらに〈テーマ別〉としては、アメリカ、アジア、日本、ヨーロッパ各地域について具体的に学ぶとともに、国際関係論とつながりの深い国際協力の科目も配置しています。

国際関係論は、経済学を含む社会・人文科学の多様な学問分野とつながりのある学問ですから、関連が比較的深い国際協力、アメリカ・アジア・日本地域研究、あるいは社会学、文化人類学、歴史学、国際経済、倫理学といった専攻とのダブルメジャー、メジャー・マイナーの組み合わせを推奨しています。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）
マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
国際関係基礎	INT1001L	国際政治論	講義	4	1	○		4単位選択必修	
	POL1000L	政治学概論	講義	4	1	○			
	INT1002L	国際関係論	講義	4	1	○			
理論	INT2121L	国際関係史Ⅰ	講義	4	2	○		4単位選択必修	20単位選択必修
	INT2122L	国際関係史Ⅱ	講義	4	2	○			
	POL2170L	国家論	講義	4	2	○			
	INT2110L	紛争論	講義	4	2	○			
	INT2111L	民族研究	講義	4	2	○			
	LAW2130L	国際法	講義	4	2	○			
	INT3310L	平和論	講義	4	3	○			
	POL3110L	国際関係思想	講義	4	2	○			
	LAW3330L	難民・移民の人権	講義	4	2	○			
	INT3110L	国際機構論	講義	4	2	○			
	LAW3230L	国際人権法	講義	4	2	○			
	LAW3231L	国際協力法	講義	4	2	○			
	POL3130L	比較政治学	講義	4	2	○			
	POL3180L	政治過程論	講義	4	2	○			
テーマ別	INT1000L	国際協力入門（NGO論）	講義	4	1	○			
	INT2132L	国際交流論	講義	4	2	○			
	INT2340L	人間の安全保障	講義	4	2	○			
	ANS2381L	発展途上国論	講義	4	2	○			
	POL2120L	日本の政治	講義	4	2	○			
	POL2150L	現代日本の政治	講義	4	2	○			
	AMS3111L	アメリカの外交	講義	4	2	○			
	ANS3381L	アジア女性論	講義	4	2	○			
	ANS3110L	アジアの政治	講義	4	2	○			
	INT3320L	冷戦後の国際関係	講義	4	2	○			
	INT3330L	ヨーロッパの政治	講義	4	2	○			
	INT3321L	近代日本の外交	講義	4	2	○			
	INT4340L	国際協力特論（グローバル・ガヴァナンス）	講義	4	3	○			
								上記選択必修科目を含め、計　36単位	計　20単位

国際協力専攻プログラム

１．教育目的

人類が直面する地球規模の課題（平和、貧困、難民、子ども、女性、マイノリティなどの人権、環境など）の解決には、国や文化背景の異なる多くの人々の相互理解と国境を越えた協力が必要です。国際協力専攻プログラムでは、これらの地球規模の現状やその原因を学び、同時に、問題解決にあたっている国際機関、政府機関、NGO などの支援活動や法政策、そして、課題を理解します。また、現状や活動を講義で理解するだけでは不十分であり、行動と実践を伴ってはじめて国際協力が動き出すため、実践的な学びや行動力も重視します。国際協力専攻の目的は、こうした理論と実践の学修によって、国際協力を職業とすることを目指す人の育成はもとより、学生が地球規模の課題についての幅広い知識と深い共感、そして行動力をもった市民となり、卒業後には、社会人として自立しながら地球規模の課題にも関心と関与を保ち続ける、そんな「地球市民の育成」を目指します。

２．カリキュラムの特徴

１年次では、第３世界の貧困問題を中心に国際協力を概説する科目、移民や多文化・国際交流などの問題を概説する科目を学修します。語学は国際協力に必須の英語とさらにもう１言語の習得を期待します。２年次以降は、国際法、国際協力法、国際人権法、国際機構論、現代倫理学などの国際協力の基礎的な学問、また、開発経済学、国際政治や平和論などの政治学分野の学問を学びます。さらに、難民・移民、子ども、ジェンダー、環境、平和構築、人間の安全保障など国際協力分野での個別の課題についての講義が用意されています。そして、実習を重視する立場から、国際協力フィールドワーク、JICA・JF・NGO 等の国際協力・国際交流機関でのインターンシップ、NGO や NPO で働くための実務実習、NGO/NPO 起業のための社会起業実習も用意されています。夏休みや春休み中にアジア・アフリカ等開発途上国での体験学修も行います。更に、３、４年次では、自分が関心を持つ国際協力・国際交流のテーマを絞り深く研究するために専攻演習と卒業論文の作成を奨励し、そのためのゼミの履修を強く勧めます。その他、学修方法として、各自の興味にそって、教育、環境、経済などの他の専攻とのダブルメジャーや、また、実践の場としての学生の自主活動への参加も奨励します。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）
マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	INT1000L	国際協力入門（NGO論）	講義	4	1	○		4単位選択必修	4単位選択必修
	ANS2381L	発展途上国論	講義	4	2	○			
	LAW1000L	法律学概論（国際法を含む）	講義	4	1	○			
基礎	ETH2000L	倫理学概論	講義	4	2	○		4単位選択必修	
	SOC1000L	社会学概論	講義	4	1	○			
	INT1002L	国際関係論	講義	4	1	○			
	INT1001L	国際政治論	講義	4	1	○			
トピックス	INT2132L	国際交流論	講義	4	2	○		8単位選択必修	12単位選択必修
	LAW3330L	難民・移民の人権	講義	4	2	○			
	INT2340L	人間の安全保障	講義	4	2	○			
	ANS3381L	アジア女性論	講義	4	2	○			
	INT3341L	持続可能な開発	講義	4	2	○			
	INT3342L	子どもと開発	講義	4	2	○			
	INT3343L	ジェンダーと開発	講義	4	2	○			
	INT3344L	平和構築論	講義	4	2	○			
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○			
理論	INT2112L	国際協力論	講義	4	2	○		8単位選択必修	
	ECO3132L	経済開発論	講義	4	2	○			
	LAW2130L	国際法	講義	4	2	○			
	LAW3231L	国際協力法	講義	4	2	○			
	LAW3230L	国際人権法	講義	4	2	○			
	INT3110L	国際機構論	講義	4	2	○			
	POL3130L	比較政治学	講義	4	2	○			
	INT3310L	平和論	講義	4	3	○			
	INT4340L	国際協力特論（グローバル・ガヴァナンス）	講義	4	3	○			
実習	INT2600L	国際学インターンA	実習	2	2	△		4単位選択必修	4単位選択必修
	INT2601L	国際学インターンB	実習	2	2	△			
	INT36**L	国際協力フィールドワーク	実習	1～4	2	○	重複履修可		
	INT260*L	NGO/NPO 実務実習A	実習	1～4	2	△			
	INT360*L	NGO/NPO 実務実習B	実習	1～4	2	△			
								上記選択必修科目を含め、計　36単位	計　20単位

「*」：数字コードが複数存在する科目

社会学専攻プログラム

１．教育目的

社会学は経済学、政治学などと並ぶ社会科学の１つであり、社会と文化を研究対象とする学問です。私たちにとって、自分の社会･文化は、とても身近な「あたりまえ」のものとなっています。そのため、日常生活の中では、社会･文化に関する「常識」的なものの見方・考え方にとらわれることも少なくありません。社会学は、そうした「あたりまえ」の「常識」から一歩距離をとり、「常識」の背後に隠された世の中のしくみを解明しようとする学問なのです。

社会学専攻プログラムでは、社会と文化についての学びを通して、国際社会や地域社会において、自分の文化とは異なる多様な文化を理解し、互いの違いを認め合いながら共生していくことのできる、幅広い視野を備えた人材を育成します。

２．カリキュラムの特徴

社会学専攻プログラムは、以下の①～③のカテゴリーから成るカリキュラムです。

①〈導入〉カテゴリーとして、「社会学概論」が置かれています。「社会学概論」は１年生の段階から履修できますので、１年生のうちに履修しておくとよいでしょう。

②〈理論・方法〉カテゴリーには、「社会学史」「比較社会学」といった理論系科目と同時に、「社会調査法」「社会統計学」といった調査系科目が配置されています。社会学において、理論と調査はどちらも欠かすことのできない重要なものであり、ぜひ両者をバランスよく身につけていただければと思います。

③〈トピックス〉カテゴリーには、「文化社会学」「家族社会学」「現代社会研究」「地域社会学」などをはじめとして、社会と文化に関するさまざまな応用科目が用意されており、基本から応用へとスムーズに展開していくことができるような科目構成になっています。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
導入	SOC1000L	社会学概論	講義	4	1	○		必修	36単位選択必修	必修	20単位選択必修
理論・方法	SOC2110L	社会学史	講義	4	2	○		必修		4単位選択必修	
	SOC2021L	社会調査法	講義	4	2	○		必修			
	SOC2130L	比較社会学	講義	4	2	○					
	SOC3020L	社会統計学	講義	2	2	△					
	ENV3230L	社会環境調査法	講義	2	2	○					
トピックス	SOC2140L	家族社会学	講義	4	2	○					
	SOC2131L	文化社会学	講義	4	2	○					
	SOC3150L	地域社会学	講義	4	2	○					
	SOC3130L	現代社会研究	講義	4	2	○					
	SOC3250L	社会学特講	講義	2	3	○					
	AMS2140L	アメリカの文化	講義	4	1	○					
	INT1000L	国際協力入門（NGO論）	講義	4	1	○					
	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△					
	POL2170L	国家論	講義	4	2	○					
	AMS3150L	アメリカ女性論	講義	4	2	○					
	PSY2141L	社会・集団心理学	講義	2	2	○					
	INT2111L	民族研究	講義	4	2	○					
	ANS3381L	アジア女性論	講義	4	2	○					
	INT3341L	持続可能な開発	講義	4	2	○					
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○					
	SOC3350L	環境社会学	講義	4	2	△					
	ECO3150L	社会政策	講義	4	2	○					
								計　36単位		計　20単位	

心理学専攻プログラム

１．教育目的

心理学専攻プログラムでは、心理学関連科目を幅広く、体系的に学ぶことができます。社会における価値観の多様化やＩＴ化に代表されるような情報量の拡大は、人間理解をますます困難にしているだけでなく、新しいタイプのコミュニケーションの問題も生じさせています。また、いじめや不登校に代表される教育現場での心の問題、人間関係における心の問題、非行や犯罪・社会問題の背後にある心の問題、ストレス社会という言葉に代表されるように心身の健康の背後にある心の問題など、現代社会の病とも言うべき諸問題は身近なところに数多くみられます。こうした状況の中で、私たちはいかに心身の健康を維持・増進していくのか、社会が心理学に期待する事柄は実に無数にあるといえるでしょう。心理学専攻プログラムでの学びを通して、これらの諸問題への関心を深めるとともに、問題解決へ立ち向かえる人を育てたいと思います。

２．カリキュラムの特徴

まずは「人間理解（心を学ぶ)」（基礎教育科目）や、「心理学」（専攻科目）などの講義で心理学とはどのような学問であるかを学びます。次に、「心理学統計法Ⅰ」や「心理学研究法」などの履修を通して心理学研究の方法について学びます。〈展開科目〉群では幅広い分野の科目を学修することができますが、心の問題や心の病について学ぶ臨床心理学関連の科目に注目してください。これらの分野には特に力が入れられています。最後に〈実習・演習〉科目ですが、ここではより実践的な学修に取り組みます。さらに専門的な学修のために、専攻演習や卒業研究へ進む人も多いでしょう。本カリキュラムでは、公認心理師、認定心理士、健康心理士の資格取得に対応しています（P. 250～254参照)。より深く学びたい人は、大学院に公認心理師、臨床心理士の受験資格が取得できる臨床心理学専攻と、公認心理師、専門健康心理士の資格が取得できる健康心理学専攻のコースを設置していますので、進学を目指すという進路もあります。特に公認心理師の資格取得を目指す方は、学士課程から必要な科目が決まっているので注意してください。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）
マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
基礎・方法論	PSY1002L	心理学	講義	4	1	○		必修			
	PSY2210L	心理学研究法	講義	2	2	○			4単位選択必修		6単位選択必修
	PSY1211L	心理学統計法Ⅰ	講義	2	1	○					
	PSY2212L	心理学統計法Ⅱ	講義	2	2	○	心理学統計法Ⅰ				
展開科目	PSY2121L	生涯発達心理学	講義	2	1	○			24単位選択必修		12単位選択必修
	PSY2131L	学習・言語心理学	講義	2	2	○					
	PSY3131L	知覚・認知心理学	講義	2	2	○					
	PSY2133L	神経・生理心理学	講義	2	2	○					
	PSY2151L	感情・人格心理学	講義	2	2	○					
	PSY2141L	社会・集団心理学	講義	2	2	○					
	PSY3141L	家族心理学	講義	2	2	○					
	PSY2156H	障害者（児）心理学	講義	2	2	○					
	PSY3146L	宗教心理学	講義	2	2	○					
	PSY1003H	公認心理師の職責	講義	2	1	○	心理学				
	PSY2154L	臨床心理学概論	講義	2	2	○					
	PSY2157H	心理的アセスメント	講義	2	2	○	心理学				
	PSY2155L	心理学的支援法	講義	2	2	○					
	PSY1060H	健康心理学概論	講義	2	1	○					
	PSY2171L	健康・医療心理学	講義	2	2	○					
	PSY2172H	福祉心理学	講義	2	2	○					
	PSY2170L	教育・学校心理学	講義	2	2	○					
	PSY2173H	司法・犯罪心理学	講義	2	2	○					
	PSY3170L	産業・組織心理学	講義	2	3	○					
	MED1000L	医学一般	講義	4	1	○					
	PSY2158L	精神医学	講義	2	1	○					
	PSY3300H	関係行政論	講義	2	3	○	公認心理師の職責				
実習・演習	PSY3511L	心理学実験	実験	2	2	△	心理学研究法、心理学統計法Ⅰ リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可		4単位選択必修		2単位選択必修
	PSY3610L	心理学実験実習	実習	2	3	△	心理学実験 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可				
	PSY3411L	心理学統計法演習	演習	2	3	△	心理学研究法、心理学統計法Ⅱ リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可				
	PSY3640L	社会心理学調査実習	実習	2	2	△	心理学統計法Ⅰ リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可				
	PSY3450H	心理演習Ⅰ	演習	2	3	△	公認心理師の職責、臨床心理学概論、心理学的支援法、心理的アセスメント リベラルアーツ学群生／健康福祉学群精神保健福祉専修生のみ履修可				
	PSY3451H	心理演習Ⅱ	演習	2	3	△	心理演習Ⅰ リベラルアーツ学群生／健康福祉学群精神保健福祉専修生のみ履修可				
	PSY3650H	心理実習	実習	4	4	△	心理演習Ⅱ、健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学、関係行政論リベラルアーツ学群生／健康福祉学群精神保健福祉専修生のみ履修可				
								計　36単位		計　20単位	

教育学（教職教育）専攻プログラム

１．教育目的

本専攻では、人間の成長と発達を教育という普遍的でかつ歴史的な現象からとらえます。教育という働きが人間と社会にどのように関し、作用しているかを研究します。教育の本質、教育思想、教育の歴史、諸外国の教育構造の比較などを通して教育を学びます。このような学修と研究をすることで、将来、人間社会の発展に貢献する資質を身につけ、教育関連の職業のみならずよりよい社会の形成をリードしていくことを目指しています。また、この専攻プログラムでは教職課程の科目とも一部相乗りしています。教員免許の取得をして教職を強く希望する学生は、教職課程に登録して、取得しようとする免許（教科）の必修科目はもとより法令上及び本学が指定する必要な単位を修得することになります。

２．カリキュラムの特徴

教職課程のカリキュラムとも一部連動します。「教職実践演習（中・高）」、教育実習に関する科目や各教科の指導法を除いた専門科目を最低36単位履修します。

本専攻プログラムでは、〈基礎・入門〉科目の「教育学概論」「教育思想」など４科目から６単位以上を選択必修としています。そして「教育哲学」「西洋教育史」「日本教育史」「比較教育学」などの〈理論〉科目、「家庭と教育」「宗教と教育」「現代アジアの教育と文化」などの〈トピックス〉科目から30単位以上を選択していきます。

なお、教職課程を登録して教職を目指す学生は、教職課程（P. 214〜）を参照してください。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎・入門	EDU1000L	教育学概論	講義	2	1	○		6単位選択必修	選択必修
	EDU2010L	教育思想	講義	2	1	○			選択必修
	EDU1030Q	教職入門	講義	2	1	○			
	LAW1020L	日本国憲法	講義	2	1	○			
理論	EDU2011L	教育哲学	講義	2	2	○			選択必修
	EDU2310L	西洋教育史	講義	2	2	○			選択必修
	EDU2311L	日本教育史	講義	2	2	○			選択必修
	EDU3310L	比較教育学	講義	2	2	○			選択必修
	EDU2300L	教育原理（教職課程）	講義	2	1	○			選択必修
	PSY2220L	教育心理学（教職課程）	講義	2	2	○	教職課程登録者のみ履修可		
	EDU2390L	教育制度論	講義	2	2	○			
	EDU2340L	教育課程論	講義	2	2	○			
	EDU3340L	道徳教育論	講義	2	2	○			
	EDU3342L	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	講義	2	2	○			
	EDU3320L	教育方法論	講義	2	2	○			
	EDU3321L	生徒指導論（生徒理解と教育相談）	講義	2	2	○			
	EDU3322L	進路指導論	講義	2	2	○			
	PSY2131L	学習・言語心理学	講義	2	2	○			
	PSY2120L	生涯発達心理学	講義	2	1	○			選択必修
	PSY3140L	家族心理学	講義	2	2	○			選択必修
	EDU2360L	生涯学習概論	講義	2	1	○			選択必修
トピックス	CHR2340L	キリスト教と教育	講義	2	1	○			選択必修
	EDU2080L	家庭と教育	講義	2	1	○			選択必修
	REL3340L	宗教と教育	講義	2	2	○			選択必修
	EDU3311L	現代アジアの教育と文化	講義	2	2	○			選択必修
	LIS3200L	読書と豊かな人間性	講義	2	3	○			
	LIS3270L	情報メディアの活用	講義	2	3	○			
								上記選択必修科目を含め、計　36単位	計　20単位

マイナー：選択必修の中から20単位

博物館学専攻プログラム

１．教育目的

博物館は、人類が生んだ最高の文化装置の一つと言われ、社会の近代化と国民文化や教育の振興のために、重要な貢献をしてきました。

本専攻プログラムは、博物館学芸員資格の取得のみにこだわらず、純粋に博物館研究を志す学生を対象としたものです。日本で博物館は社会教育のための機関と法律で定められていることから、社会教育学的観点を重視しつつ、歴史的・文化的・社会的・心理的・経済的観点など、さまざまな視点から、現代社会における博物館の機能や市民生活における博物館の役割を学び、追求することを目的とします。

「もの」をベースとした人類の知の集結場所としての博物館の研究を通して、社会とともに変化する博物館の地位や役割を知るとともに、博物館的ものの見方や考え方を身に付け、個性ある文化性豊かな暮らしを送る生活者、社会人を養成することを目標とします。

本専攻プログラムは、博物館を学問的に追求することを目的として設定された、全国でもユニークなコースです。資料、教育、経営から展示技術、保存科学、情報、メディア、コミュニケーションにいたるまで広い科学分野をカバーする博物館学の学びは、幅広い学問領域を学ぶ場であるリベラルアーツならでの特性を活かしたものとなっています。もちろん、実務的な「博物館学芸員資格」を取得する上でも有利な科目設定となっています。

２．カリキュラムの特徴

本学では、全学学生を対象として、東京国立博物館キャンパスメンバーズ及び、国立科学博物館パートナーシップに加入し、これら博物館常設展示の無料利用を実現しました。このような恵まれた博物館利用環境を活用して、１年次では「博物館概論」などの講義を設定し、まず博物館や学芸員とは何かを学びます。

２年次以降には、博物館の基本である資料（資料論）や、展示（展示論）、経営（経営論）などに関する専門的事項を学ぶ仕組みとなっています。また、博物館の専門的・技術的領域として「博物館資料保存論」「日本考古学」「日本民俗学」をはじめ、博物館学特論科目として、国内ではまだ開設講座の少ない文化遺産論、文化政策論などを学ぶほか、メディア関連の科目も履修します。

３．修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	MSO1000L	博物館概論	講義	2	1	○		必修	必修
導入	EDU2360L	生涯学習概論	講義	2	1	○			
理論	MSO2140L	博物館教育論	講義	2	1	○			
理論	MSO2150L	博物館経営論	講義	2	2	○	博物館概論		
理論	MSO2151L	博物館情報・メディア論	講義	2	2	○	博物館概論		
理論	MSO2110L	博物館資料論	講義	2	2	○	博物館概論		
理論	EDU2300L	教育原理（教職課程）	講義	2	1	○			
理論	PSY2120L	生涯発達心理学	講義	2	1	○		18単位選択必修	14単位選択必修
理論	EDU2311L	日本教育史	講義	2	2	○			
理論	EDU3320L	教育方法論	講義	2	2	○			
理論	MSO3120L	博物館資料保存論	講義	2	2	○	博物館概論		
理論	MSO3140L	博物館展示論	講義	2	2	○	博物館概論		
理論	MSO3300L	博物館学特論（文化遺産論）	講義	2	3	○			
理論	MSO3301L	博物館学特論（文化政策論）	講義	2	3	○			
演習	MSO3660L	博物館実習	実習	3	3	○	博物館概論、生涯学習概論、博物館経営論、博物館情報・メディア論、博物館資料論、博物館教育論、博物館資料保存論、博物館展示論		
トピックス	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△			
トピックス	GEG1100L	文化地理学	講義	4	1	○			
トピックス	JPS2131L	日本の歴史Ⅰ	講義	4	2	○			
トピックス	JPS2132L	日本の歴史Ⅱ	講義	4	2	○			
トピックス	BIO2011L	植物学Ⅰ	講義	2	2	○			
トピックス	BIO2021L	動物学Ⅰ	講義	2	2	○			
トピックス	ESC2011L	地質学Ⅰ	講義	2	2	○			
トピックス	JPS3140L	日本文化論	講義	4	2	○		12単位選択必修	4単位選択必修
トピックス	ESC3051L	地球物理学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注１）（注２）		
トピックス	ESC3081L	気象学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注１）（注２）		
トピックス	ESC3091L	天文学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注２）		
トピックス	BIO3041L	生態学Ⅰ	講義	2	2	○			
トピックス	JPS3334L	日本考古学	講義	2	3	○			
トピックス	JPS3354L	日本民俗学	講義	2	3	○			
トピックス	ECO3342L	地方財政論	講義	4	2	○			
トピックス	ECO3151L	公共経済学	講義	4	2	○			
トピックス	EDU3220L	学校図書館メディアの構成	講義	2	3	○			
トピックス	LIS3270L	情報メディアの活用	講義	2	3	○			
								計　32単位	計　20単位

（注１）物理学概論との同時履修を認める場合があります。
（注２）高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

国際経済専攻プログラム

１．教育目的

グローバル化した今日の国際経済においては、諸外国の経済や社会の動きは、互いに深い依存関係にあります。我々の日常生活や各国の景気や政策も、こうした国際経済の動きによって、さまざまなところで大きな影響を受けています。

国際経済専攻プログラムでは、こうした国際経済の動きに関して、国際間の産業の立地や貿易、国際資本移動、国際労働移動、国際通貨変動といった諸要因が動くメカニズムを理解するとともに、アジア、アメリカ、ヨーロッパその他各国、地域の経済に関する幅広い知識、教養を身につけることを目的としています。こうした学修を通じて、一般の製造、サービス業に加え、貿易や金融といった国際間の経済取引に関わるさまざまな仕事や、国・地方・国際公務員、あるいは近年、企業活動のグローバル化が進む中で重要性が増している、企業の国際展開に有用な人材を育成することを目指しています。

２．カリキュラムの特徴

履修のステップとしては、まず「基礎ミクロ経済学」、「基礎マクロ経済学」といった〈基礎〉科目から履修し、経済が動く基本的仕組みを理解した上で、次の段階に進むことをお勧めします。そのうち〈理論・歴史〉科目はビジネスエコノミクス専攻プログラム、公共政策専攻プログラムと共通です。

一方、本専攻プログラムの〈応用・その他〉科目は、「国際経済論」「国際貿易論」「国際金融論」「経済開発論」「国際投資論」「多国籍企業論」といった国際経済の一般的理論に関わる科目と、「アメリカ経済論」「中国経済論」「ヨーロッパ経済論」「アジアの経済」といった、世界の各国や地域の実情に関する科目とに分かれます。

〈理論・歴史〉科目と〈応用・その他〉科目の履修順序につきましては、必ずしも前者が先でなくとも、学生の皆さんの関心に応じて、同時並行で履修して頂いても結構です。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	ECO1010L	基礎ミクロ経済学	講義	2	1	○		4単位選択必修	4単位選択必修
	ECO1011L	基礎マクロ経済学	講義	2	1	○			
	ECO1012L	政治経済学	講義	4	1	○			
理論・歴史	ECO1080L	経済史	講義	4	1	○		16単位選択必修	4単位選択必修
	ECO1001L	経済数学入門Ⅰ	講義	2	1	○			
	ECO1002L	経済数学入門Ⅱ	講義	2	1	○			
	ECO2010L	経済学史	講義	4	2	○			
	ECO2011L	マクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO2012L	ミクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO2300L	経済統計論	講義	4	2	○			
	ECO2380L	日本経済史	講義	4	2	○			
	ECO2320L	日本経済論	講義	4	2	○			
	ECO2140L	金融論	講義	4	2	○			
	LAW2350L	労働法	講義	4	2	○			
	LAW3051L	経済法Ⅰ	講義	2	2	○			
	LAW3052L	経済法Ⅱ	講義	2	2	○			
	ECO3110L	計量経済学	講義	2	2	○			
	ECO3111L	経済変動論	講義	4	2	○			
	ECO2112L	現代資本主義論	講義	4	2	○			
	ECO3113L	ゲーム理論	講義	2	2	○			
	ECO2350L	社会経済学	講義	4	2	○			
	ECO2301L	経済学特殊講義	講義	2	2	○			
応用・その他	ECO3130L	国際経済論	講義	4	2	○		16単位選択必修	12単位選択必修
	ECO3131L	国際金融論	講義	4	2	○			
	ECO3132L	経済開発論	講義	4	2	○			
	ECO3330L	多国籍企業論	講義	4	2	○			
	ECO3320L	アメリカ経済論	講義	4	2	○			
	ECO3321L	ヨーロッパ経済論	講義	4	2	○			
	ECO3322L	中国経済論	講義	4	2	○			
	ECO3323L	ロシア東欧経済論	講義	4	2	○			
	ECO3133L	国際マクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO3331L	国際投資論	講義	4	2	○			
	ECO3332L	国際貿易論	講義	4	2	○			
	ANS2120L	アジアの経済	講義	4	2	○			
								計　36単位	計　20単位

ビジネスエコノミクス専攻プログラム

１．教育目的

企業活動のグローバル化やインターネットを活用した新たなビジネスモデルの出現など、企業や産業をめぐる環境は複雑になり、企業組織や産業組織は従来とは異なる対応が求められています。

ビジネスエコノミクス専攻プログラムは、このように変化しつつある企業活動を経済学の観点から深く学ぶことを目的としています。個別産業を対象とする科目群や産業調査や経営分析などの科目を通じて、企業や産業についてその現状や問題点を学ぶことができます。

こうした「学び」を通じて、製造業、金融・保険業、卸売・小売業、情報通信業、サービス業など幅広い産業や企業で活躍するための基礎的な知識や能力を習得することができます。

２．カリキュラムの特徴

本専攻プログラムは、基礎科目から専門科目を無理なく積み上げていけるように、各科目群が有機的に配置されています。１年次から２年次春学期にかけて学ぶ基盤となる科目には、カテゴリー〈基礎〉に配置されている「基礎ミクロ経済学」「基礎マクロ経済学」「政治経済学」がありますので、これらを履修することを勧めます。その後経済学を本格的に学びたい人は、１年次秋学期から２年次にかけて、カテゴリー〈理論・歴史〉に配置されている経済３専攻プログラムの共通科目群を履修して下さい。２年次の秋学期頃から、カテゴリー〈応用・その他〉に配置されている「企業経済論」「産業組織論」「産業構造論」「企業金融論」「産業調査論」や「企業分析論」など、ビジネスエコノミクスに関する基礎的な科目の履修を始め、３年次で本格的に個別産業科目群などの専門科目を履修していきます。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	ECO1010L	基礎ミクロ経済学	講義	2	1	○		4単位選択必修	4単位選択必修
	ECO1011L	基礎マクロ経済学	講義	2	1	○			
	ECO1012L	政治経済学	講義	4	1	○			
理論・歴史	ECO1080L	経済史	講義	4	1	○		16単位選択必修	4単位選択必修
	ECO1001L	経済数学入門Ⅰ	講義	2	1	○			
	ECO1002L	経済数学入門Ⅱ	講義	2	1	○			
	ECO2010L	経済学史	講義	4	2	○			
	ECO2011L	マクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO2012L	ミクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO2300L	経済統計論	講義	4	2	○			
	ECO2380L	日本経済史	講義	4	2	○			
	ECO2320L	日本経済論	講義	4	2	○			
	ECO2140L	金融論	講義	4	2	○			
	LAW2350L	労働法	講義	4	2	○			
	LAW3051L	経済法Ⅰ	講義	2	2	○			
	LAW3052L	経済法Ⅱ	講義	2	2	○			
	ECO3110L	計量経済学	講義	2	2	○			
	ECO3111L	経済変動論	講義	4	2	○			
	ECO2112L	現代資本主義論	講義	4	2	○			
	ECO3113L	ゲーム理論	講義	2	2	○			
	ECO2350L	社会経済学	講義	4	2	○			
	ECO2301L	経済学特殊講義	講義	2	2	○			
応用・その他	ECO3170L	企業経済論	講義	4	2	○		16単位選択必修	12単位選択必修
	ECO3370L	中小企業論	講義	4	2	○			
	ECO3371L	情報経済論	講義	4	2	○			
	ECO3372L	サービス経済論	講義	4	2	○			
	ECO3171L	産業組織論	講義	4	2	○			
	ECO3373L	工業経済論	講義	4	2	○			
	ECO3374L	農業経済論	講義	4	2	○			
	ECO3375L	流通経済論	講義	4	2	○			
	MGM3310L	企業分析論	講義	4	2	○			
	ECO3376L	産業調査論	講義	4	2	○			
	ECO3340L	企業金融論	講義	4	2	○			
	ECO3172L	産業構造論	講義	4	2	○			
	ECO3360L	労働経済論	講義	4	2	○			
								計　36単位	計　20単位

公共政策専攻プログラム

１．教育目的

私たちは、市場経済と政府活動が混合した経済システムの中で、消費者・生産者・労働者・住民・学生・主婦などの立場に立ちながら、生活しています。公共政策専攻プログラムは、市場経済と政府活動を貫く、市民・地域・保全・共生・発展などの「公共」という観点から、様々な公共政策の性格と問題点を分析していきます。

とくに本専攻プログラムは、環境汚染、格差社会、年金不安、雇用不安、資源・エネルギー問題などの重要な問題に取り組みます。これらの様々な諸問題を克服しようとする「公共政策」はどのようなものがあり、どのような効果があるのかを学修していきます。この学修を通して、仕事、生活、市民、国民、人間という様々な観点から、自らが人生で直面する問題を理解して解決策を提示しながら、人生をたくましく生き抜いていく学生を育成することが、公共政策専攻プログラムの目的です。

２．カリキュラムの特徴

＜基礎＞、＜理論・歴史＞の分野で、経済学を学修する上で必要な理論とツール（数学、統計）を学びます。そして、＜応用・その他＞の分野で、「公共経済学」、「経済政策」から全体的な視野を獲得し、環境に関する「環境経済論」、「資源・エネルギー論」、労働に関する「労働経済論」、「社会政策」、財政に関する「財政学」、「地方財政論」、社会保障に関する「社会保障論」、生活に関する「生活経済論」などを学修して、多様な公共政策の性格と問題点を学修していきます。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	ECO1010L	基礎ミクロ経済学	講義	2	1	○		4単位選択必修	4単位選択必修
	ECO1011L	基礎マクロ経済学	講義	2	1	○			
	ECO1012L	政治経済学	講義	4	1	○			
理論・歴史	ECO1080L	経済史	講義	4	1	○		16単位選択必修	4単位選択必修
	ECO1001L	経済数学入門Ⅰ	講義	2	1	○			
	ECO1002L	経済数学入門Ⅱ	講義	2	1	○			
	ECO2010L	経済学史	講義	4	2	○			
	ECO2011L	マクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO2012L	ミクロ経済学	講義	4	2	○			
	ECO2300L	経済統計論	講義	4	2	○			
	ECO2380L	日本経済史	講義	4	2	○			
	ECO2320L	日本経済論	講義	4	2	○			
	ECO2140L	金融論	講義	4	2	○			
	LAW2350L	労働法	講義	4	2	○			
	LAW3051L	経済法Ⅰ	講義	2	2	○			
	LAW3052L	経済法Ⅱ	講義	2	2	○			
	ECO3110L	計量経済学	講義	2	2	○			
	ECO3111L	経済変動論	講義	4	2	○			
	ECO2112L	現代資本主義論	講義	4	2	○			
	ECO3113L	ゲーム理論	講義	2	2	○			
	ECO2350L	社会経済学	講義	4	2	○			
	ECO2301L	経済学特殊講義	講義	2	2	○			
応用・その他	ECO3341L	金融政策	講義	4	2	○		16単位選択必修	12単位選択必修
	ECO3140L	財政学	講義	4	2	○			
	ECO3150L	社会政策	講義	4	2	○			
	ECO3350L	生活経済論	講義	2	2	○			
	ECO3190L	環境経済論	講義	4	2	○			
	POL3360L	行政学	講義	4	2	○			
	ECO3351L	経済政策	講義	4	2	○			
	ECO3352L	社会保障論	講義	2	2	○			
	ECO3360L	労働経済論	講義	4	2	○			
	ECO3342L	地方財政論	講義	4	2	○			
	ECO3353L	厚生経済学	講義	2	2	○			
	ECO3151L	公共経済学	講義	4	2	○			
	ECO3390L	資源・エネルギー論	講義	4	2	○			
								計　36単位	計　20単位

数学専攻プログラム

１．教育目的

現代科学の基盤とも言える数学は代数的な分野、幾何的な分野、解析的な分野等、様々な分野に分かれているように見えながらも、渾然一体となって統一的な数学を形作っています。本専攻では、文明社会に貢献するために数学を体系的に学ぶことと、リベラルアーツの観点からも意義のある数学の力を培うことを目的とします。ややもすれば断片的知識の詰め込みであった入学前までの数学の知識を整理・統合し、現代も発展し続ける数学の一層高い知識と思考能力を身につけ、多様な自然・社会現象及び数学的現象を観察し、数学的な手法で分析し、解明することが出来るようになるための手助けをすることを数学専攻は目標としています。学修の過程で数学のいろいろな定理を理解できたときの喜びを味わうことは、人生にとって何事にも代え難い経験となることでしょう。情報通信・金融・保険・出版・教育といった各種の職場では、社会の高度化に伴って高い数学的素養を持って様々な出来事・対象を数理的に、かつ、独創的に分析できる人材がますます求められており、これらの職場で活躍できる人材の育成を目指します。

２．カリキュラムの特徴

数学専攻では〈導入〉（1000レベル）・〈基礎〉（2000レベル）で数理的思考の基礎を培います。〈専門〉（3000・4000レベル）では、数学の学修基盤を培うと同時に、数学の最新の話題なども扱う予定です。そして、リベラルアーツの観点から数学の知識に幅を持たせるための〈応用・総合〉には、他の専攻プログラムの中からも多くの選択必修科目が用意されています。このように本専攻では、数学に関する幅広い教養を培うことができるカリキュラムになっています。

本専攻では、コンピュータを利用した講義や実験も用意されており、体験を通して数理的思考を養うことも配慮されています。

さらには、数学を基礎から体系的に学び、大学院における専門的な数学の学びへと発展させることも可能なカリキュラムになっています。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
導入	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○		必修	4単位選択必修（注1）		2単位選択必修（注1）
	PHY1000L	物理学概論	講義	2	1	○					
	CHM1000L	化学概論	講義	2	1	○					
	BIO1000L	生物学概論	講義	2	1	○					
	ESC1000L	地学概論	講義	2	1	○					
基礎	MTH2010L	線形代数学	講義	4	2	○	数学概論（注2）又は線形代数学入門と微分積分学入門	必修		必修	
	MTH2030L	微分積分学	講義	4	2	○	数学概論（注2）又は線形代数学入門と微分積分学入門	必修		必修	
	MTH2400L	数学演習	演習	2	2	○	数学概論（注2）又は線形代数学入門と微分積分学入門	必修		必修	
専門	MTH3030L	解析学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学		14単位選択必修		8単位選択必修
	MTH3070L	確率論と統計学	講義	4	3	○	微分積分学				
	MTH4060L	離散数学	講義	4	3	○	線形代数学				
	MTH3010L	代数学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学				
	MTH4040L	幾何学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学				
	MTH3280L	コンピュータとデータ解析	講義	2	3	○	確率論と統計学				
応用・総合	PHY2011L	力学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注2）（注3）		4単位選択必修		
	PHY2012L	力学Ⅱ	講義	2	2	○	力学Ⅰ				
	PHY2031L	電磁気学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注2）（注3）				
	PHY2032L	電磁気学Ⅱ	講義	2	2	○	電磁気学Ⅰ				
	PHY2040L	熱力学	講義	2	2	○	物理学概論（注2）（注3）				
	PHY3040L	統計力学	講義	2	3	○	微分積分学、力学Ⅰ、熱力学				
	PHY3061L	量子力学Ⅰ	講義	2	3	○	力学Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅰ				
	PHY3062L	量子力学Ⅱ	講義	2	3	○	線形代数学、微分積分学 量子力学Ⅰ				
	PHY4301L	物理学特論Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注2）				
	PHY4302L	物理学特論Ⅱ	講義	2	3	○	物理学概論（注2）				
	PHY2501L	物理学実験Ⅰ	実験	2	2	×					
	PHY3502L	物理学実験Ⅱ	実験	2	3	×	物理学実験Ⅰ				
	CHM3130L	化学熱力学・反応速度	講義	2	2	○	化学概論（注2）（注4）				
	CHM3135L	量子化学	講義	2	2	○	化学概論（注2）（注4）				
	ESC3051L	地球物理学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注2）（注3）				
	ESC3052L	地球物理学Ⅱ	講義	2	3	○	地球物理学Ⅰ				
	IST2130L	情報システム論	講義	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ				
	IST2450L	応用表計算	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ				
	IST2411L	プログラミングⅠ	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ				
	IST3412L	プログラミングⅡ	演習	2	2	○	プログラミングⅠ				
	IST3120L	ソフトウェア概論	講義	4	3	○	情報システム論				
								上記必修・選択必修科目を含め、計　36単位		計　20単位	

（注１）高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された単位数は他のカテゴリーの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。（免除の申請は６セメスター終了以前に行ってください。）
（注２）高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。
（注３）物理学概論との同時履修を認める場合があります。
（注４）化学概論との同時履修を認める場合があります。

物理学専攻プログラム

１．教育目的

物理学は、自然科学の一分野であり、自然界に見られる現象において人間の恣意的な解釈に依らない普遍的な法則があると考える学問です。自然界の現象とその性質について、物質とその間に働く相互作用によって理解することの力学的理解、及び物質をより基本的な要素に還元して理解することの原子論的理解を目的とします。

物理学専攻プログラムでは、物理学を中心として、身の回りの「不思議」の発見から始め、問題と仮説を設定し、モデル化を行い、検証する科学的な営みを体験的に学びます。また、物理学の基礎ばかりではなく、リベラルアーツ学群の教育目標を踏まえて人格の幅を広げかつ広い視野から諸事象を俯瞰できる能力が養えるように考慮しています。

本専攻プログラムでは、自然科学及び科学技術に対する広い視野とともに論理的に思考する能力及びコミュニケーション能力を養い、科学技術の急速な発展に対処しうる人材の育成を目指します。また、大学院課程への緩やかな一貫性を考慮しています。卒業後に、大学院進学、教員、サイエンス・コミュニケータ、情報通信などの様々な分野で活躍できる人材の育成を目指します。

２．カリキュラムの特徴

物理学は積み上げの学問でもあります。物理学の知識・能力・技能を修得するため、〈導入〉、〈基礎〉、〈実験〉、〈応用・総合〉が設定されています。〈導入〉（1000レベル）では、高等学校で物理を履修していない学生にも対応した概論科目により、物理学に閉じることなく自然科学一般に通用する基礎学力を養成します。〈基礎〉（2000・3000レベル）では、物理学で使用する数学を含めて物理学を修得する上で重要な科目についての学修をします。〈実験〉（2000・3000レベル）では、実験を通して講義内容の理解をさらに深めます。〈応用・総合〉では、物理学の基礎を利用した学問分野について学修し、物理学の知識・能力・技能を深めます。

本専攻プログラムのメジャー修了要件では、一般企業を志望する学生はもちろんのこと、大学院進学、理科の教員免許取得を目指す学生にも対応するカリキュラムとなっています。また、マイナー修了要件でも、最低限の物理学の知識は身につけることができることから、文系を含めた他の専攻をメジャーとする学生が、科学・技術・社会の視点から社会の様々な問題を考察する上でとても有効な学びとなるはずです。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
導入	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○		必修	6単位選択必修（注1）		4単位選択必修（注1）
	PHY1000L	物理学概論	講義	2	1	○		必修		必修	
	CHM1000L	化学概論	講義	2	1	○					
	BIO1000L	生物学概論	講義	2	1	○					
	ESC1000L	地学概論	講義	2	1	○					
基礎	MTH2010L	線形代数学	講義	4	2	○	数学概論（注2）又は線形代数学入門と微分積分学入門	必修	20単位選択必修		16単位選択必修
	MTH2030L	微分積分学	講義	4	2	○	数学概論（注2）又は線形代数学入門と微分積分学入門	必修			
	PHY2011L	力学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注2）（注3）	必修		必修	
	PHY2012L	力学Ⅱ	講義	2	2	○	力学Ⅰ	必修		必修	
	PHY2031L	電磁気学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注2）（注3）	必修		必修	
	PHY2032L	電磁気学Ⅱ	講義	2	2	○	電磁気学Ⅰ	必修		必修	
	PHY2040L	熱力学	講義	2	2	○	物理学概論（注2）（注3）				
	PHY3040L	統計力学	講義	2	3	○	微分積分学、力学Ⅰ、熱力学				
	PHY3061L	量子力学Ⅰ	講義	2	3	○	力学Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅰ				
	PHY3062L	量子力学Ⅱ	講義	2	3	○	線形代数学、微分積分学量子力学Ⅰ				
実験	PHY2501L	物理学実験Ⅰ	実験	2	2	×		必修	6単位選択必修	必修	
	PHY3502L	物理学実験Ⅱ	実験	2	3	×	物理学実験Ⅰ	必修			
	CHM2501L	化学実験Ⅰ	実験	2	2	×	化学概論（注2）				
	CHM3502L	化学実験Ⅱ	実験	2	3	×	化学実験Ⅰ				
	BIO2501L	生物学実験Ⅰ	実験	2	2	×					
	BIO3502L	生物学実験Ⅱ	実験	2	3	×	生物学実験Ⅰ				
	ESC2501L	地学実験Ⅰ	実験	2	2	△					
	ESC3502L	地学実験Ⅱ	実験	2	3	△	地学実験Ⅰ				
応用・総合	MTH3030L	解析学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学		4単位選択必修		
	PHY4301L	物理学特論Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注2）	2単位選択必修			
	PHY4302L	物理学特論Ⅱ	講義	2	3	○	物理学概論（注2）				
	CHM3130L	化学熱力学・反応速度	講義	2	2	○	化学概論（注2）（注4）				
	CHM3135L	量子化学	講義	2	2	○	化学概論（注2）（注4）				
	ESC3051L	地球物理学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注2）（注3）				
	ESC3052L	地球物理学Ⅱ	講義	2	3	○	地球物理学Ⅰ				
	ESC3081L	気象学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注2）（注3）				
	ESC3082L	気象学Ⅱ	講義	2	2	○	気象学Ⅰ				
	ESC3091L	天文学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注2）				
	ESC3092L	天文学Ⅱ	講義	2	3	○	天文学Ⅰ				
								計　36単位		計　20単位	

（注1）高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された単位数は他のカテゴリーの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。（免除の申請は6セメスター終了以前に行ってください。）
（注2）高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。
（注3）物理学概論との同時履修を認める場合があります。
（注4）化学概論との同時履修を認める場合があります。

化学専攻プログラム

１．教育目的

私たちが生きている世界は、様々な物質によって構成されています。物質が組み合わさることによって人体のような高度な機能を持った組織を実現しているだけでなく、物質はたえず変化しており、これらの変化も私たちが生活する空間を特徴づける役割を果たしています。私たちが私たち自身のしくみや私たちの住む世界を理解することが、これまでの人類の進歩に貢献してきましたし、これからも貢献していくことは間違いありません。

化学専攻プログラムでは、身の回りに存在する様々な物質を原子、分子とそれらの集合体として捉え、化学構造や化学反応のしくみを理解することを通じて、科学的な見方や考え方を身につけることを目的としています。自然科学の基礎を体系的に学ぶことで、身の回りや地球上の自然に対する理解を深め、新しい自然観を培うことを目指します。

本専攻プログラムではリベラルアーツの精神に沿って、化学を中心に学びつつも、それだけに閉じることなく、自然科学の幅広い分野にふれることで、これらの知識を社会に活かせる人材を養成することを目的としています。化学の基本的な知識と、それを活かす能力・技能を修得することができるプログラムになっています。また、高等学校で化学を履修してこなかった学生を受け入れるために、導入科目にも力を入れています。さらなる高度な知識を求める学生に対しては、大学院課程への継続性を配慮した教育も行っています。卒業後の具体的な進路としては、化学系の企業を中心として、大学院進学、教員、サイエンス・コミュニケータなどの様々な分野が考えられます。

２．カリキュラムの特徴

化学は積み上げの学問であると同時に、複数分野が並列する学問でもあります。本専攻プログラムでは、化学の基本的な知識･能力･技能を修得するため、〈導入〉、〈基礎〉、〈実験〉、〈応用･総合〉が設定されています。〈導入〉（1000レベル）では、高等学校で理科をあまり履修してこなかった学生にも対応した概論科目により、化学に閉じることなく自然科学一般をカバーする基礎学力を養成します。〈基礎〉（2000･ 3000レベル）では、化学の代表的分野である「無機化学」、「有機化学」、「物理化学」、「分析化学」、「生化学」を学ぶほか、理科の他分野の科目の履修も奨励されます。〈実験〉（2000･ 3000レベル）では、実験をとおして講義の内容をさらに理解するとともに、実験の技術を身につけることを目標とします。〈応用・総合〉では、化学の基礎を利用した応用分野・関連分野について学ぶことで、より広い化学の知識を身につけることができます。

本専攻プログラムのメジャー修了要件では、大学院進学希望者へのカリキュラム上の配慮を重視しており、理科の教員免許取得を目指す学生にも対応するカリキュラムとなっています。またマイナー修了要件でも、最低限の化学の知識は身につけることができることから、文系を含めた他の専攻をメジャーとする学生が知識の幅を広げる場としても有効です。本専攻プログラムで開講される科目は他の理科専攻プログラムの修了要件と関連するものも多く、これらの科目を履修しつつ、ダブルメジャーやマイナーとして化学を専攻することも推奨されます。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
導入	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○			4単位選択必修（注1）		4単位選択必修（注1）
	PHY1000L	物理学概論	講義	2	1	○					
	CHM1000L	化学概論	講義	2	1	○		必修(注1)		必修(注1)	
	BIO1000L	生物学概論	講義	2	1	○					
	ESC1000L	地学概論	講義	2	1	○					
基礎	CHM2011L	無機化学Ⅰ	講義	2	2	○	化学概論（注２）（注３）	必修	16単位選択必修	必修	12単位選択必修
	CHM2012L	無機化学Ⅱ	講義	2	2	○	無機化学Ⅰ				
	CHM2021L	基礎有機化学	講義	2	2	○	化学概論（注２）（注３）	必修		必修	
	CHM2022L	有機合成化学	講義	2	2	○	基礎有機化学				
	CHM3140L	基礎分析化学	講義	2	2	○	化学概論（注２）（注３）	必修		必修	
	CHM3145L	機器分析化学	講義	2	2	○	基礎分析化学				
	CHM3130L	化学熱力学・反応速度	講義	2	2	○	化学概論（注２）（注３）	必修		必修	
	CHM3135L	量子化学	講義	2	2	○	化学概論（注２）（注３）	必修		必修	
	BIO3050L	生化学	講義	2	3	○					
	CHM3150L	生体物質化学	講義	2	2	○	化学概論（注２）（注３）				
	MTH2030L	微分積分学	講義	4	2	○	数学概論（注２）又は線形代数学入門と微分積分学入門		20単位選択必修		16単位選択必修
	MTH2010L	線形代数学	講義	4	2	○	数学概論（注２）又は線形代数学入門と微分積分学入門				
	MTH1030L	微分積分学入門	講義	2	1	○	微分積分学の既修得者は履修不可				
	MTH1010L	線形代数学入門	講義	2	1	○	線形代数学の既修得者は履修不可				
	PHY2011L	力学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注２）（注４）				
	PHY2031L	電磁気学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注２）（注４）				
実験	PHY2501L	物理学実験Ⅰ	実験	2	2	×			6単位選択必修		
	PHY3502L	物理学実験Ⅱ	実験	2	3	×	物理学実験Ⅰ				
	CHM2501L	化学実験Ⅰ	実験	2	2	×	化学概論（注２）	必修		必修	
	CHM3502L	化学実験Ⅱ	実験	2	3	×	化学実験Ⅰ	必修			
	BIO2501L	生物学実験Ⅰ	実験	2	2	×					
	BIO3502L	生物学実験Ⅱ	実験	2	3	×	生物学実験Ⅰ				
	ESC2501L	地学実験Ⅰ	実験	2	2	△					
	ESC3502L	地学実験Ⅱ	実験	2	3	△	地学実験Ⅰ				
応用・総合	CHM4300L	化学特論	講義	2	3	○	化学概論（注２）	必修	6単位選択必修		
	CHM3160L	エネルギー化学	講義	2	3	○					
	CHM2270L	化学と人間社会	講義	2	2	○					
	CHM2260L	環境化学	講義	2	2	○					
	ECO3390L	資源・エネルギー論	講義	4	2	○					
	ENV2360L	環境リスク論	講義	2	2	○					
	ENV3330L	食品安全論	講義	2	3	○					
	PHY2040L	熱力学	講義	2	2	○	物理学概論（注２）（注４）				
	PHY3040L	統計力学	講義	2	3	○	微分積分学、力学Ⅰ、熱力学				
	PHY3061L	量子力学Ⅰ	講義	2	3	○	力学Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅰ				
	BIO3031L	生理学Ⅰ	講義	2	3	○					
	ESC2011L	地質学Ⅰ	講義	2	2	○					
	ESC3081L	気象学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注２）（注４）				
								計　36単位		計　20単位	

（注１）高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された場合は導入カテゴリーの選択必修は２単位となります。減少した２単位分は他のカテゴリーの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。（免除の申請は６セメスター終了以前に行ってください。）
（注２）高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。
（注３）化学概論との同時履修を認める場合があります。
（注４）物理学概論との同時履修を認める場合があります。

生物学専攻プログラム

１．教育目的

生物学は分子・細胞から個体・集団・生態系にいたるまで、さまざまなレベルの生命現象を研究対象としています。また、医学、農学、環境学などに応用されて、医療、環境、食糧、エネルギーなどの諸問題の解決にも役立っている学問分野です。

生物学専攻プログラムでは生物学の専門分野について広く基本知識や技術を身につけるとともに科学的な見方や考え方を培うことを目標としています。とくに、マクロな生物学に強い、たとえば身近な生物の生態や多様性に目を向けるような人材を育てたいと考えています。

生物学を学ぶことをとおして、私たち人間も生物の一種であり、自然界を構成する一員であるという視点を持つことができます。このような視点を持つことは生命科学の技術の進歩が著しく、多くの環境問題が生じている現代に生きる私たちにとって極めて重要です。人格の幅を広げかつ広い視野から諸事情を俯瞰できる能力を養うというリベラルアーツ学群の教育目標とも合致します。卒業後は大学院進学、教員、公務員、生物や環境関連企業、サイエンス・コミュニケータなどの様々な分野で活躍できる人材の育成を目指します。

２．カリキュラムの特徴

生物学専攻プログラムでは、生物学の知識・技能を修得するため、〈導入〉、〈基礎〉、〈実験〉、〈応用・総合〉の４つのカテゴリーが設定されています。〈導入〉では、高等学校で生物などの理科を履修していない学生にも対応した概論科目により、理学一般に通用する基礎学力を身につけます。〈基礎〉では、生物学の中心となる分野を10科目の中に集約し学ぶように設定してあり、また生物学を履修する上で重要な他分野の科目を学びます。〈実験〉では「生物学実験Ⅰ」で基本的な内容を「生物学実験Ⅱ」で応用的な内容を扱います。他分野の実験もいくつか履修し、理科の広い技能も身につけるようにします。〈応用・総合〉では生物学をより深め、環境科学、情報科学などの応用分野も学べます。

本専攻プログラムは、生物学ばかりでなく、関連分野を広く学べるように考慮されていますので、卒業後の大学院進学、教員、自然科学や環境科学分野の職業で役に立つ知識・技能が身につくように設計されています。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	BIO1000L	生物学概論	講義	2	1	○		4単位選択必修（注1）	2単位選択必修（注1）
	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○			
	PHY1000L	物理学概論	講義	2	1	○			
	CHM1000L	化学概論	講義	2	1	○			
	ESC1000L	地学概論	講義	2	1	○			
基礎	BIO2011L	植物学Ⅰ	講義	2	2	○		必修	必修
	BIO2012L	植物学Ⅱ	講義	2	2	○	植物学Ⅰ	必修	
	BIO2021L	動物学Ⅰ	講義	2	2	○		必修	必修
	BIO2022L	動物学Ⅱ	講義	2	2	○	動物学Ⅰ	必修	
	BIO3041L	生態学Ⅰ	講義	2	2	○		12単位選択必修	10単位選択必修
	BIO3042L	生態学Ⅱ	講義	2	2	○	生態学Ⅰ		
	BIO3031L	生理学Ⅰ	講義	2	3	○			
	BIO3032L	生理学Ⅱ	講義	2	3	○	生理学Ⅰ		
	BIO3050L	生化学	講義	2	3	○			
	BIO3060L	遺伝と進化	講義	2	3	○			
	MTH2010L	線形代数学	講義	4	2	○	数学概論（注2）又は線形代数学入門と微分積分学入門		8単位選択必修
	MTH2030L	微分積分学	講義	4	2	○	数学概論（注2）又は線形代数学入門と微分積分学入門		
	MTH1030L	微分積分学入門	講義	2	1	○	微分積分学の既修得者は履修不可		
	MTH1010L	線形代数学入門	講義	2	1	○	線形代数学の既修得者は履修不可		
	PHY2011L	力学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注2）（注3）		
	PHY2012L	力学Ⅱ	講義	2	2	○	力学Ⅰ		
	CHM2011L	無機化学Ⅰ	講義	2	2	○	化学概論（注2）（注4）		
	CHM2012L	無機化学Ⅱ	講義	2	2	○	無機化学Ⅰ		
	CHM2021L	基礎有機化学	講義	2	2	○	化学概論（注2）（注4）		
	CHM2022L	有機合成化学	講義	2	2	○	基礎有機化学		
	ESC2011L	地質学Ⅰ	講義	2	2	○			
	ESC2012L	地質学Ⅱ	講義	2	2	○	地質学Ⅰ		
実験	BIO2501L	生物学実験Ⅰ	実験	2	2	×		必修	必修
	BIO3502L	生物学実験Ⅱ	実験	2	3	×	生物学実験Ⅰ	必修	
	PHY2501L	物理学実験Ⅰ	実験	2	2	×			
	PHY3502L	物理学実験Ⅱ	実験	2	3	×	物理学実験Ⅰ	6単位選択必修	
	CHM2501L	化学実験Ⅰ	実験	2	2	×	化学概論（注2）		
	CHM3502L	化学実験Ⅱ	実験	2	3	×	化学実験Ⅰ		
	ESC2501L	地学実験Ⅰ	実験	2	2	△			
	ESC3502L	地学実験Ⅱ	実験	2	3	△	地学実験Ⅰ		
応用・総合	BIO430＊L	生物学特論	講義	2	3	○	重複履修可	4単位必修	
	CHM3150L	生体物質化学	講義	2	2	○	化学概論（注2）（注4）		
	CHM2270L	化学と人間社会	講義	2	2	○			
	CHM2260L	環境化学	講義	2	2	○			
	ENV2311L	エネルギーと環境	講義	2	2	○		6単位選択必修	
	ENV2350L	人と自然	講義	2	2	○			
	ENV2351L	環境生物学	講義	2	2	○			
	ENV3250L	自然環境調査法	講義	2	3	○			
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○			
	IST2461L	データベースⅠ	演習	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
	IST2450L	応用表計算	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
								計　36単位	計　20単位

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（注1）高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された単位数は他のカテゴリーの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。（免除の申請は6セメスター終了以前に行ってください。）
（注2）高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。
（注3）物理学概論との同時履修を認める場合があります。
（注4）化学概論との同時履修を認める場合があります。

地球科学専攻プログラム

１．教育目的

地球科学専攻プログラムで学べる分野には、地質学、地震学、気象学、天文学などがあります。これらの分野での学びを通して、自然科学の基礎を体系的に学ぶことを目的とします。また、地球の理解を通して自然に対する理解を深め、21世紀の自然観を培い、科学的な見方や考え方を培うことも目的とします。

自然と共生する持続可能な社会の構築には、科学・技術が重要な役割を果たし、様々な業種において地球科学的素養が要求されます。そこで、リベラルアーツ学群の教育目標を踏まえ、人格の幅を広げ、かつ広い視野から科学的に物事を見て考える能力を培い、論理的な判断力と行動力とを有する人材を育成します。本専攻プログラムでは、このような人材がこれからの社会を担うにふさわしい人と考えるからです。

２．カリキュラムの特徴

〈導入〉（1000レベル）、〈基礎〉（2000・3000レベル）、〈実験〉（2000・3000レベル）、〈応用・総合〉（2000・3000・4000レベル）が設定されています。〈導入〉では、大学入学までに高等学校での科目「理科総合Ｂ」や「地学Ⅰ」、「地学Ⅱ」、「地学基礎」、「地学」など、教科「理科」での地学領域を履修していない学生にも対応した「地学概論」から学びを始めます。〈基礎〉および〈応用・総合〉では、地球を理解するために重要な科目の学修を行います。〈実験〉では、地球科学分野における研究手法を体験するだけでなく、実験を通して講義の内容をさらに理解することを目標とします。

本専攻プログラムでは，講義科目でも実験やコンピュータを利用した演習など、具体物や体験を通して学修が進められます。また、博物館を利用した学修や、城ヶ島や長瀞などをフィールドとした学修も行われます。

卒業後、理科の教員、防災等に携わる公務員やNGO職員など、様々な分野で活躍できる人材の育成を目指すカリキュラムとなっています。また、大学院進学や博物館学芸員、サイエンス・コミュニケータ、天気キャスターなどを目指す学生にとっても、役に立つ知識・技能が身につく学修プログラムが組めるように設計されています。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
導入	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○			6単位選択必修（注1）		6単位選択必修（注1）
	PHY1000L	物理学概論	講義	2	1	○					
	CHM1000L	化学概論	講義	2	1	○					
	BIO1000L	生物学概論	講義	2	1	○					
	ESC1000L	地学概論	講義	2	1	○		必修		必修	
基礎	MTH2010L	線形代数学	講義	4	2	○	数学概論（注２）又は線形代数学入門と微分積分学入門		18単位選択必修		8単位選択必修
	MTH2030L	微分積分学	講義	4	2	○	数学概論（注２）又は線形代数学入門と微分積分学入門				
	MTH2400L	数学演習	演習	2	2	○	数学概論（注２）又は線形代数学入門と微分積分学入門				
	MTH1030L	微分積分学入門	講義	2	1	○	微分積分学の既修得者は履修不可				
	MTH1010L	線形代数学入門	講義	2	1	○	線形代数学の既修得者は履修不可				
	PHY2031L	電磁気学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注２）（注３）				
	PHY2032L	電磁気学Ⅱ	講義	2	2	○	電磁気学Ⅰ				
	PHY2011L	力学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注２）（注３）	Ⅰのつく科目から8単位選択必修		Ⅰのつく科目から6単位選択必修	
	PHY2012L	力学Ⅱ	講義	2	2	○	力学Ⅰ				
	ESC3051L	地球物理学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注２）（注３）				
	ESC3052L	地球物理学Ⅱ	講義	2	3	○	地球物理学Ⅰ				
	ESC3081L	気象学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（注２）（注３）				
	ESC3082L	気象学Ⅱ	講義	2	2	○	気象学Ⅰ				
	ESC3091L	天文学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（注２）				
	ESC3092L	天文学Ⅱ	講義	2	3	○	天文学Ⅰ				
	ESC2011L	地質学Ⅰ	講義	2	2	○					
	ESC2012L	地質学Ⅱ	講義	2	2	○	地質学Ⅰ				
実験	PHY2501L	物理学実験Ⅰ	実験	2	2	×			6単位選択必修		
	PHY3502L	物理学実験Ⅱ	実験	2	3	×	物理学実験Ⅰ				
	CHM2501L	化学実験Ⅰ	実験	2	2	×	化学概論（注２）				
	CHM3502L	化学実験Ⅱ	実験	2	3	×	化学実験Ⅰ				
	BIO2501L	生物学実験Ⅰ	実験	2	2	×					
	BIO3502L	生物学実験Ⅱ	実験	2	3	×	生物学実験Ⅰ				
	ESC2501L	地学実験Ⅰ	実験	2	2	△		必修		必修	
	ESC3502L	地学実験Ⅱ	実験	2	3	△	地学実験Ⅰ	必修			
応用・総合	MTH3070L	確率論と統計学	講義	4	3	○	微分積分学		6単位選択必修		4単位選択必修
	PHY2040L	熱力学	講義	2	2	○	物理学概論（注２）（注３）				
	PHY3040L	統計力学	講義	2	3	○	微分積分学、力学Ⅰ、熱力学				
	CHM3130L	化学熱力学・反応速度	講義	2	2	○	化学概論（注２）（注４）				
	CHM3135L	量子化学	講義	2	2	○	化学概論（注２）（注４）				
	CHM3140L	基礎分析化学	講義	2	2	○	化学概論（注２）（注４）				
	CHM3145L	機器分析化学	講義	2	2	○	基礎分析化学				
	BIO3041L	生態学Ⅰ	講義	2	2	○					
	BIO3042L	生態学Ⅱ	講義	2	2	○	生態学Ⅰ				
	ESC4330L	古生物学	講義	2	3	○					
	ESC430＊L	地球科学特論	講義	2	3	○	重複履修可				
	MTH3280L	コンピュータとデータ解析	講義	2	3	○	確率論と統計学				
	ESC4370L	海洋学	講義	2	3	○					
	ESC421＊L	地球科学演習	講義	2	3	○	重複履修可				
	ENV2151L	地球規模環境論Ⅰ	講義	2	2	○					
	ENV2152L	地球規模環境論Ⅱ	講義	2	2	○	地球規模環境論Ⅰ				
								計　36単位		計　20単位	

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（注１）高等学校における数学・理科の修得状況などによって必修・選択必修を免除される場合があります。免除された単位数は他のカテゴリーの中より科目を修得することで修了要件単位数を満たしてください。ただし、理科の教職課程登録者は免除になりません。（免除の申請は６セメスター終了以前に行ってください。）
（注２）高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。
（注３）物理学概論との同時履修を認める場合があります。
（注４）化学概論との同時履修を認める場合があります。

情報科学専攻プログラム

１．教育目的

ますます高度化する情報化の大きな波の中で、社会で活躍するためにはコンピュータの操作技法のみならず情報処理に関する知識の習得が不可欠になっています。本専攻プログラムは、「情報科学に関する広い知識と高度な専門性を修得し、情報化時代の社会で活躍できる人物の育成」を目的としています。

この専攻プログラムは、コンピュータ全般にかかわる様々な演習科目や講義科目で構成されています。演習科目では、コンピュータの基礎操作技術をマスターした後、マルチメディアやデータベースの扱い方、プログラミング技術等のコンピュータ操作技法を身につけます。これと同時に、情報の社会に与える影響、コンピュータの構造と仕組み、ネットワークの動作原理やデータベースの概念・操作法等、情報科学に関する知識の習得も講義科目を通して行います。

本プログラムで専門性を身につけた学生は、社会の様々な分野で活躍することが期待されます。特に情報関連企業の専門職（SE）や総合職（営業）、あるいは一般企業における情報システム部門の専門職等で活躍することができます。

２．カリキュラムの特徴

本専攻プログラムを構成する科目は、〈基礎〉、〈演習〉、〈応用〉の３つのカテゴリーで提供されています。さらに科目レベルが設定されていて、導入部分から高度な専門的分野に至るまで体系的に学ぶことができるように構成されています。

１年次では基盤科目の「コンピュータリテラシーⅠ／Ⅱ」を学びながら、「情報と社会」などの基礎科目を学びます。同時に自然科学分野についても関連する知識を習得します。２年次からは本格的に専攻科目が始まります。講義科目では「情報システム論」、「情報分析論」、「情報デザイン論」など、演習科目として「プログラミングⅠ／Ⅱ」、「マルチメディア表現Ⅰ」などを学びます。３年次からは「データベースⅡ」、「情報ネットワーク演習」、「ソフトウェア概論」など高度な専門を学びます。

科目にコンピュータの演習が多く取り入れられていることが情報科学専攻プログラムの特徴です。EXCEL の高度な利用方法、Photoshop や Illustrator の操作、Java でのプログラミングなど多様な演習を行うことができます。

３．修了要件

メジャー：合計36単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー		マイナー	
基礎	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○			36単位選択必修		20単位選択必修
	MTH1030L	微分積分学入門	講義	2	1	○	微分積分学の既修得者は履修不可				
	MTH1010L	線形代数学入門	講義	2	1	○	線形代数学の既修得者は履修不可				
	IST1180L	情報と社会	講義	2	1	○		必修			
	IST1181L	情報と倫理	講義	2	1	○					
	IST2130L	情報システム論	講義	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ	必修		必修	
	IST2461L	データベースⅠ	演習	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ				
	IST2140L	認知の科学	講義	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ				
	IST3130L	情報ネットワーク	講義	2	3	○	情報システム論	必修			
演習	IST2450L	応用表計算	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ				
	IST2411L	プログラミングⅠ	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ	必修			
	IST3412L	プログラミングⅡ	演習	2	2	○	プログラミングⅠ				
	IST2470L	プレゼンテーション演習	演習	2	2	○					
	IST2471L	マルチメディア表現Ⅰ	演習	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ				
	IST2472L	Webページプログラミング	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ				
	IST3462L	データベースⅡ	演習	4	3	○	データベースⅠ				
	IST3472L	マルチメディア表現Ⅱ	演習	4	3	○	マルチメディア表現Ⅰ				
	IST3131L	情報ネットワーク演習	講義	2	3	○	情報ネットワーク				
応用	IST3250L	情報分析論	講義	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ				
	IST2240L	情報デザイン論	講義	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ				
	IST3380L	情報と職業	講義	2	3	○	情報システム論				
	IST3220L	システム設計論	講義	4	3	○	情報システム論				
	IST3120L	ソフトウェア概論	講義	4	3	○	情報システム論				
	IST3140L	ヒューマンコンピュータインターフェイス	講義	4	3	○	コンピュータリテラシーⅡ				
	IST4280L	情報セキュリティ論	講義	2	3	○	コンピュータリテラシーⅡ				
	IST4240L	知識表現とプログラミング	講義	2	3	○	情報システム論、プログラミングⅠ				
								計　36単位		計　20単位	

環境学専攻プログラム

１．教育目的

地球温暖化や生物多様性の劣化といった人類の生存基盤を脅かす環境問題には、すべての人が取り組むことが求められます。環境学は、環境問題を考え、解決を目指す実際的な学問です。

環境学専攻プログラムは、環境や環境問題について基本的な知識を持ち、環境の保全に配慮できる技能や思考力、判断力を見につけ、持続可能な社会の構築を目指して主体的に行動できる人材の育成を目的としています。

環境学は、「総合の学」と位置づけられ、あらゆる学問分野と関連します。例えば、地球温暖化についてみると、その原因の理解には自然科学や歴史が必要であり、対策をめぐる途上国と先進国の立場の違いは国際関係や国際協力であり、炭素税は経済的手法であり、普及啓発はコミュニケーションです。その意味で、環境学は最もリベラルアーツ学群にふさわしい学問といえるでしょう。

また、環境問題は、あらゆる業種につながっています。例えば、食料品や衣料品は地球温暖化により価格が変動しますし、銀行や証券会社では環境に積極的に取り組む会社に優先的に投資しようという動きもあります。

さらに、環境学を学ぶことは、実際の問題について、原因と結果のつながりを見いだす、さまざまな対策手法を企画立案する、対立する意見を調整するといった能力を磨くことにつながります。このような力は、社会に出たときに、どんな立場であっても必要とされるものです。

近年発展の著しい環境関連ビジネスや、環境コンサルタント、公務員はもちろんのこと、さまざまな業種において環境学の学びは役に立つことでしょう。

２．カリキュラムの特徴

この専攻では人文科学、社会科学、自然科学の科目を揃え、幅広い分野を学ぶことができます。全体で30を超える科目から、社会系科目、自然系科目、人文科学を目的に合わせ選択することにより、環境問題へアプローチができます。カリキュラムは科目を学修内容の難易度のレベル別カテゴリーに分け、学修の目的に合わせ選択し易い構成にしてあります。なお、環境学の特徴として、各科目は縦に積み上げていくよりも、横に広がりを持っています。

また、環境問題を学ぶ上で重要な点は、「机上の学問だけではだめ」ということです。一部の講義科目や専攻演習では、フィールド調査や、環境問題の現場訪問など、実践的な経験の機会を提供しています。

科目の選択は自由ですが、環境学は総合的な学問ですから、ぜひ文系・理系の枠にとらわれず、幅広くさまざまな科目を履修しましょう。あえて例示するなら、将来の就職先として企業や官公庁を志望する方は、「環境法学」「文系のための環境科学」「環境マネジメント論」「環境と地域」「環境リスク論」などを、環境コンサルタントなど環境調査を志望する方は、「社会環境調査法」「自然環境調査法」「感覚公害論」「環境社会学」「環境化学」「生態学」などを学ぶとよいでしょう。

３．修了要件

メジャー：合計32単位以上

マイナー：合計20単位以上

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
基礎	ENV1001L	環境と文明	講義	4	1	○		4単位選択必修	20単位選択必修
	ENV2050L	文系のための環境科学	講義	2	2	○			
	ENV2040L	環境とまちづくり	講義	2	2	○			
	ENV2041L	環境と地域	講義	2	2	○			
	ENV2310L	環境とキリスト教	講義	2	2	○			
	SOC2020L	社会統計基礎	講義	2	2	○			
専門	ENV2311L	エネルギーと環境	講義	2	2	○		14単位選択必修	
	ENV2350L	人と自然	講義	2	2	○			
	ENV2351L	環境生物学	講義	2	2	○			
	CHM2270L	化学と人間社会	講義	2	2	○			
	CHM2260L	環境化学	講義	2	2	○			
	ENV2151L	地球規模環境論Ⅰ	講義	2	2	○			
	ENV2152L	地球規模環境論Ⅱ	講義	2	2	○	地球規模環境論Ⅰ		
	ENV2352L	感覚公害論	講義	2	2	○			
	ENV2360L	環境リスク論	講義	2	2	○			
	ENV2030L	人間環境学	講義	4	2	○			
	ETH2360L	環境倫理学	講義	2	2	○			
	ENV2010L	環境思想概論	講義	2	2	○			
	ENV2331L	江戸から学ぶ環境	講義	2	2	○			
	ENV2300L	エコロジー・デザイン特殊講義	講義	2	2	○			
	ENV2330L	環境ビジネス論	講義	2	2	○			
	ENV2340L	国際環境交渉論	講義	2	2	○			
	SOC3020L	社会統計学	講義	2	2	△			
	ENV3400L	野外安全管理	演習	1	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可		
	MED3400L	救急救命演習	演習	1	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可		
	ENV2400L	ECO-TOP インターンシップ事前研修	演習	1	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可		
	ENV2401L	ECO-TOP インターンシップ事後研修	演習	1	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可		
	ENV2601L	ECO-TOP インターンシップⅠ	実習	2	2	○	ECO-TOP 登録者のみ履修可		
	ENV2602L	ECO-TOP インターンシップⅡ	実習	2	2	○	ECO-TOP インターンシップ事前研修 ECO-TOP インターンシップⅠ ECO-TOP 登録者のみ履修可		
発展	BIO3041L	生態学Ⅰ	講義	2	2	○		14単位選択必修	
	BIO3042L	生態学Ⅱ	講義	2	2	○	生態学Ⅰ		
	CHM3150L	生体物質化学	講義	2	2	○	化学概論（注）		
	ECO3190L	環境経済論	講義	4	2	○			
	LAW3180L	環境法学	講義	4	3	○			
	ENV3141L	都市環境政策Ⅰ	講義	2	3	○			
	ENV3142L	都市環境政策Ⅱ	講義	2	3	○			
	ENV3120L	環境教育論	講義	2	2	○			
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○			
	SOC3350L	環境社会学	講義	4	2	△			
	ENV3143L	環境マネジメント論	講義	2	2	○			
	ENV3380L	資源循環論	講義	4	3	○			
	ENV3230L	社会環境調査法	講義	2	2	○			
	ENV3250L	自然環境調査法	講義	2	3	○			
	ENV3330L	食品安全論	講義	2	3	○			
	ENV3331L	環境 NPO・NGO	講義	2	3	○			
	ENV3332L	社会環境と知的財産	講義	2	3	○			
	ECO3390L	資源・エネルギー論	講義	4	2	○			
	ESC4370L	海洋学	講義	2	3	○			
	ESC421＊L	地球科学演習	講義	2	3	○	重複履修可		
	ENV4900L	環境科学総合演習	実験・実習	2	4	△	秋学期に履修登録すること		
								計　32単位	計　20単位

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（注）化学概論との同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。

メディア（ジャーナリズム）専攻プログラム

１．教育目的

起きてから寝るまで、私たちは１日中、新聞、テレビ、パソコン、スマートフォンなどたくさんのメディアに囲まれて暮らしています。ときにはベッドに入ってまでツイッターやフェイスブックでつぶやいているのではないでしょうか。現代人にとって、メディアはまるで空気のような存在です。

しかし、そのメディアを通じて大量に流れてくる「ニュース」や「情報」に私たちは恐ろしいほど無頓着ではありませんか。3.11東日本大震災や福島原発事故の、その後の状況は改善しているのか、いないのか。憲法改正は、アベノミクスは、日米、日中、日韓の関係は…。混沌とした時代に私たちは何を頼りに、私たちの生き方や社会のあり方を考えていけばいいのでしょう。

私たちの暮らしや将来に大きな影響を与える政治や経済、社会の動きを伝えてくれるのは新聞、テレビなどのマスメディア（ジャーナリズム）です。そのマスメディアはインターネットなどデジタルメディアの勢いに押されて、最近はすっかり元気がありません。マスメディアは、もはや羅針盤の役割を果たさなくなってしまったのでしょうか。

このプログラムは、メディア（ジャーナリズム）の歴史や仕組み、社会的役割や影響について知るとともに、これから私たちがどうメディアと向き合っていけばいいのかを考えていくことを基本としています。

また様々な講義や演習などを通して、将来、色々なメディア業界をめざす人材の育成にも注力します。一方、ニュースを「読み解き、考え、そして伝える」ことのできる能力は、メディア業界ばかりでなく、企業や行政の宣伝・広報活動、ボランティア活動や市民運動の担い手にとっても必須の資質であり、極めて今日的な能力とも言えます。そうした意味で、これからの時代に適合できる人材を、幅広く育成するカリキュラムと位置づけることもできます。

２．カリキュラムの特徴

〈導入〉科目として「メディア　―きのう 今日 明日―」「ジャーナリストへの道」（各２単位）から始まり、その後に、「テレビ・放送の世界」をはじめ、新聞、出版、広告など各ジャンル別に、それぞれの歴史や現状の動向など、概括的にとらえる「世界シリーズ」が用意されます。ひと通りの基礎的な知識が身につくと、次はより専門的な〈検証〉科目へと進みます。〈検証〉科目は、「新聞社説を読む」「広告コピーを読む」「若者とメディア」などメディアの伝え方を検証する講座や、最新のメディアの動きについて考える「現代メディア研究」など幅広い科目群から選択できます。さらに上級クラスの〈演習〉科目では、「メディアと人権」「女性とメディア」などテーマを掘り下げて考察する講座や、マスコミ志望学生のための「マスコミ特訓講座（新聞）（出版）（映像）（インターネット）」「雑誌をつくる（デジタル編集実践講座）」など実践的な科目が用意されているのもこのプログラムの特徴です。

３．修了要件

メジャー：合計32単位（最低必要単位）

マイナー：合計20単位（最低必要単位）

カテゴリー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか	メジャー	マイナー
導入	MJS1000L	メディア －きのう 今日 明日－	講義	2	1	○		必修	必修
	MJS1001L	ジャーナリストへの道	講義	2	1	○		必修	必修
	MJS2020L	テレビ・放送の世界	講義	2	1	○		4単位選択必修	2単位選択必修
	MJS2010L	新聞の世界	講義	2	1	○			
	MJS2030L	出版の世界	講義	2	1	○			
	MJS2050L	広告の世界	講義	2	1	○			
	COM1000L	現代コミュニケーション理論	講義	4	1	○			
	IST1180L	情報と社会	講義	2	1	○			
	LAW1020L	日本国憲法	講義	2	1	○			
	IST2471L	マルチメディア表現Ⅰ	演習	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ		
検証	MJS3210L	新聞社説を読む	講義	2	2	○		4単位選択必修	2単位選択必修
	MJS3211L	地方紙を読む	講義	2	2	○			
	MJS3280L	英字紙を読む	講義	2	2	○			
	MJS2250L	広告コピーを読む	講義	2	2	○			
	MJS2230L	出版ジャーナリズム	講義	2	2	○			
	MJS2460L	スポーツジャーナリズム	演習	2	2	○			
	MJS2200L	日本のジャーナリズム	講義	2	2	○			
	MJS2201L	アメリカのジャーナリズム	講義	2	2	○			
	MJS2270L	若者とメディア	講義	2	2	○			
	COM1130L	集団コミュニケーション	講義	2	1	○			
	POL2150L	現代日本の政治	講義	4	2	○			
	SOC2021L	社会調査法	講義	4	2	○			
	SOC3130L	現代社会研究	講義	4	2	○			
	LIT3334L	中国のマスコミ	講義	4	2	○			
	MJS347＊L	現代メディア研究	演習	2	2	×	重複履修可		
	SOC3350L	環境社会学	講義	4	2	△			
演習	MJS3470L	メディアと人権	演習	4	2	×		8単位選択必修	
	MJS3471L	環境とメディア	演習	4	2	×			
	MJS3472L	女性とメディア	演習	4	2	×			
	MJS3473L	子供とメディア	演習	4	2	×			
	MJS3460L	スポーツにんげん学	演習	4	2	×			
	MJS3490L	雑誌をつくる（デジタル編集実践講座）	演習	4	2	×			
	MJS349＊L	マスコミ特訓講座	演習	2	3	×	重複履修可		
								上記必修・選択必修科目を含め、計　32単位	上記必修・選択必修科目を含め、計　20単位

「＊」：数字コードが複数存在する科目

６．専攻科目と諸注意

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
人文科学系科目群	ELS1401L	英語総合演習Ⅰａ	演習	2	1	×	
	ELS1402L	英語総合演習Ⅰｂ	演習	2	1	×	
	ELS2401L	英語総合演習Ⅱａ	演習	2	1	×	英語総合演習Ⅰａ又はⅠｂ（各種英語資格試験のスコアが一定の基準以上である場合、英語総合演習Ⅰの履修免除が認められることがあります。詳細は、各学期のオリエンテーション期間開始時にe-Campusの掲示で確認してください。）
	ELS2402L	英語総合演習Ⅱｂ	演習	2	1	×	英語総合演習Ⅰａ又はⅠｂ（各種英語資格試験のスコアが一定の基準以上である場合、英語総合演習Ⅰの履修免除が認められることがあります。詳細は、各学期のオリエンテーション期間開始時にe-Campusの掲示で確認してください。）
	ELS1001L	英文法Ⅰ	講義	2	1	△	
	ELS2002L	英文法Ⅱ	講義	2	1	△	
	ELS2050L	英語学入門	講義	4	1	△	
	LIT2070L	英米文学入門	講義	4	1	△	
	ELS1350L	英語の音声	講義	4	1	△	
	ELS3350L	英語の意味	講義	4	2	△	
	ELS4350L	英語の構造	講義	4	3	△	英文法Ⅱ
	ELS3352L	英語の歴史	講義	4	2	△	
	ELS2415L	英語学講読	演習	4	2	△	
	ELS4460L	第二言語習得法	演習	4	3	△	
	LIN3430L	応用言語学	演習	4	2	△	
	LIT3370L	英米詩	講義	4	2	△	
	LIT3371L	英米演劇	講義	4	2	△	
	LIT337*L	英米小説	講義	4	2	△	重複履修可
	LIT2370L	英米児童文学	講義	4	2	△	
	LIT317*L	テーマで読む英米文学	講義	4	2	△	重複履修可
	ELS2410L	英米文化講読	演習	4	2	△	
	ELS2373L	イギリスの文化	講義	4	2	△	
	ELS3471L	翻訳（英→日）	演習	4	3	△	英文法Ⅱ
	ELS4470L	翻訳（日→英）	演習	4	3	△	英文法Ⅱ
	ELS4480L	通訳	演習	4	3	△	Oral Communication Skills
	ELS2441L	Oral Communication Skills	演習	4	2	△	
	ELS2420L	Written Communication Skills	演習	4	2	△	
	ELS4400L	English for Academic Purposes	演習	2	3	△	Oral Communication Skills、Written Communication Skills
	CLS1400L	中国語基礎トレーニングⅠ	演習	2	1	○	
	CLS2402L	中国語基礎トレーニングⅡ	演習	2	1	○	
	CLS2401L	中国語応用トレーニングⅠ	演習	2	1	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」から２単位
	CLS2402L	中国語応用トレーニングⅡ	演習	2	1	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」から２単位
	CLS3411L	中国語講読	演習	2	2	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」から４単位
	CLS3423L	中国語作文	演習	2	2	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」から４単位
	CLS3430L	中国語リスニング	演習	2	2	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」から４単位

「＊」：数字コードが複数存在する科目

専攻プログラム欄に○がある場合、科目がその専攻プログラムのメジャーまたはマイナーの修了要件として指定されていることを表します。

専攻プログラム／授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
英語総合演習Ⅰa	○																															
英語総合演習Ⅰb	○																															
英語総合演習Ⅱa	○																															
英語総合演習Ⅱb	○																															
英文法Ⅰ	○																															
英文法Ⅱ	○																															
英語学入門	○																															
英米文学入門	○						○																									
英語の音声	○				○																											
英語の意味	○																															
英語の構造	○																															
英語の歴史	○																															
英語学講読	○																															
第二言語習得法	○																															
応用言語学	○		○																													
英米詩	○																															
英米演劇	○																															
英米小説	○																															
英米児童文学	○																															
テーマで読む英米文学	○						○																									
英米文化講読	○																															
イギリスの文化	○																															
翻訳（英→日）	○																															
翻訳（日→英）	○																															
通訳	○																															
Oral Communication Skills	○																															
Written Communication Skills	○																															
English for Academic Purposes	○																															
中国語基礎トレーニングⅠ		○																														
中国語基礎トレーニングⅡ		○																														
中国語応用トレーニングⅠ		○																														
中国語応用トレーニングⅡ		○																														
中国語講読		○																														
中国語作文		○																														
中国語リスニング		○																														

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
人文科学系科目群	CLS3410L	時事中国語	演習	2	2	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」、「中国語講読」、「中国語作文」、「中国語リスニング」から6単位修得していることを必要とします。
	CLS3420L	日中翻訳技法	演習	2	2	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」、「中国語講読」、「中国語作文」、「中国語リスニング」から6単位修得していることを必要とします。
	CLS3440L	日中通訳技法	演習	2	2	○	「中国語Ⅰ」、「中国語Ⅱ」、「中国語Ⅲ」、「中国語Ⅳ」、「中国語Ⅴ」、「中国語Ⅵ」、「中国語基礎トレーニングⅠ」、「中国語基礎トレーニングⅡ」、「中国語応用トレーニングⅠ」、「中国語応用トレーニングⅡ」、「中国語講読」、「中国語作文」、「中国語リスニング」から6単位修得していることを必要とします。
	CLS1050L	中国語学概論	講義	2	1	○	
	CLS2350L	中国語音声学	講義	4	1	○	
	CLS2130L	中国語文法研究	講義	4	1	○	
	CLS3350L	日中対照言語研究	講義	4	2	○	
	LIT1030L	中国文学概論	講義	4	1	○	
	LIT1430L	中国文言文講読	演習	2	2	○	
	LIT1330L	中国古典文学史	講義	4	1	○	
	LIT2330L	中国近現代文学史	講義	4	1	○	
	LIT3330L	中国古典文学研究	講義	4	2	○	
	LIT3331L	中国近現代文学研究	講義	4	2	○	
	LIT2030L	中国思想史	講義	4	1	○	
	LIT3332L	中国古代思想研究	講義	4	2	○	
	LIT3333L	中国近現代思想研究	講義	4	2	○	
	LIT1000L	中国文化概論	講義	4	1	○	
	LIT3230L	中国芸術研究	講義	4	2	○	
	LIT3130L	中国文化研究	講義	4	2	○	
	CLS2370L	日中比較文化	講義	4	2	○	
	LIT3334L	中国のマスコミ	講義	4	2	○	
	LIT3335L	中国地域研究	講義	4	2	○	
	JLS1000L	日本語学概論	講義	2	1	○	
	JLS1050L	日本語の文字・表記	講義	2	1	○	
	LIT1111L	日本文学史A	講義	4	1	○	
	LIT1112L	日本文学史B	講義	4	1	○	
	LIT2410L	古代文学講読	演習	2	1	○	
	LIT2411L	平安文学講読	演習	2	1	○	
	LIT2412L	中世文学講読	演習	2	1	○	
	LIT2413L	江戸文学講読	演習	2	1	○	
	LIT2414L	近代文学講読	演習	2	1	○	
	LIT3110L	平安文学の世界	講義	4	2	○	
	LIT3111L	中世文学の世界	講義	4	2	○	
	LIT3112L	江戸文学の世界	講義	4	2	○	
	LIT3113L	近代文学の世界	講義	4	2	○	
	LIT3114L	現代文学の世界	講義	4	2	○	

専攻プログラム ＼ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
時事中国語		○																														
日中翻訳技法		○																														
日中通訳技法		○																														
中国語学概論		○																														
中国語音声学		○			○																											
中国語文法研究		○																														
日中対照言語研究		○																														
中国文学概論		○																														
中国文言文講読		○	○																													
中国古典文学史		○	○																													
中国近現代文学史		○					○																									
中国古典文学研究		○	○																													
中国近現代文学研究		○																														
中国思想史		○							○	○	○					○																
中国古代思想研究		○								○																						
中国近現代思想研究		○					○			○																						
中国文化概論		○										○				○																
中国芸術研究		○																														
中国文化研究		○																														
日中比較文化		○													○																	
中国のマスコミ		○																														○
中国地域研究		○										○																				
日本語学概論			○																													
日本語の文字・表記			○	○																												
日本文学史Ａ			○																													
日本文学史Ｂ			○																													
古代文学講読			○				○																									
平安文学講読			○				○																									
中世文学講読			○				○																									
江戸文学講読			○				○																									
近代文学講読			○				○																									
平安文学の世界			○																													
中世文学の世界			○																													
江戸文学の世界			○																													
近代文学の世界			○				○								○																	
現代文学の世界			○	○			○								○																	

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
人文科学系科目群	LIT3115L	児童文学研究	講義	2	2	○	
	JLS1660L	書写	実習	2	1	○	
	JLS1481L	国語・漢字検定Ⅰ	演習	2	1	○	
	JLS1482L	国語・漢字検定Ⅱ	演習	2	1	○	
	JLS2421L	言語表現 A	演習	2	1	○	
	JLS2422L	言語表現 B	演習	2	1	○	
	JLS2461L	書道研究Ⅰ	演習	2	2	○	
	JLS2462L	書道研究Ⅱ	演習	2	2	○	
	JLS3470L	創作の技法	演習	2	2	○	
	JLS3471L	編集の技法	演習	2	2	○	
	JPE2110L	日本語の表現	講義	4	1	○	
	JPE3110L	日本語の文法	講義	4	2	○	
	JPE2120L	言語と文化	講義	4	2	○	
	JPE1100L	ことばの比較	講義	2	1	○	
	CLS3115L	日中対照言語学	講義	2	3	○	
	JPE4120L	日本語史	講義	2	3	○	
	JPE1111L	日本語教育学 A	講義	2	1	○	
	JPE1112L	日本語教育学 B	講義	2	1	○	
	JPE2130L	言語習得法	講義	2	1	△	
	JPE2131L	日本語教育文法	講義	2	2	○	
	JPE3240L	日本語教授法	講義	4	2	○	
	JPE3451L	日本語教材開発	演習	2	3	○	
	JPE3140L	年少者日本語教育	講義	2	3	○	
	JPE3452L	マルチメディア日本語教育	演習	2	3	○	
	JPE3440L	日本語教育実習	演習	4	3	△	日本語教授法
	JPE3241L	日本語の評価法	講義	2	2	○	
	JPE4140L	カリキュラムデザイン	講義	2	3	○	
	JPE364*L	海外教育実習	実習	2～4	2	△	
	JPE3450L	言語データ分析	演習	2	2	○	
	JPE2470L	多言語交流演習	演習	2	1	○	
	LIN3410L	プラグマティックス	演習	4	3	○	
	LIN1100L	言語学への招待	講義	2	1	○	
	LIN2430L	談話分析	演習	4	2	○	
	LIN3360L	対照言語学	講義	4	2	○	
	LIN2440L	日本語の音声	演習	2	1	△	
	LIN1440L	日本語の語彙・意味	演習	4	1	△	
	LIN3110L	音韻論	講義	2	2	△	
	LIN2170L	社会言語学	講義	4	2	○	
	LIN3310L	言語学隣接研究	講義	4	2	○	
	LIN2270L	言語政策論	講義	4	2	○	

「＊」：数字コードが複数存在する科目

専攻プログラム ＼ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
児童文学研究			○																													
書写			○	○																												
国語・漢字検定Ⅰ			○	○																												
国語・漢字検定Ⅱ			○	○																												
言語表現 A			○	○																												
言語表現 B			○	○																												
書道研究Ⅰ			○																													
書道研究Ⅱ			○																													
創作の技法			○																													
編集の技法			○																													
日本語の表現			○	○	○																											
日本語の文法			○	○																												
言語と文化			○	○																												
ことばの比較				○																												
日中対照言語学				○																												
日本語史			○	○																												
日本語教育学 A				○																												
日本語教育学 B				○																												
言語習得法			○	○	○																											
日本語教育文法				○																												
日本語教授法				○																												
日本語教材開発				○																												
年少者日本語教育			○	○																												
マルチメディア日本語教育				○																												
日本語教育実習				○																												
日本語の評価法				○																												
カリキュラムデザイン				○																												
海外教育実習				○																												
言語データ分析			○	○																												
多言語交流演習				○																												
プラグマティックス			○	○	○	○																										
言語学への招待					○																											
談話分析			○	○	○	○																										
対照言語学					○																											
日本語の音声			○	○	○	○																										
日本語の語彙・意味			○	○	○																											
音韻論					○																											
社会言語学					○																											
言語学隣接研究					○																											
言語政策論					○																											

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
人文科学系科目群	LIN3350L	レトリックの歴史	講義	2	2	○	
	LIN3130L	テクスト研究理論	講義	4	2	○	
	COM1000L	現代コミュニケーション理論	講義	4	1	○	
	COM1130L	集団コミュニケーション	講義	2	1	○	
	COM2130L	組織コミュニケーション	講義	4	2	○	集団コミュニケーション
	COM2120L	対人コミュニケーション	講義	4	2	○	現代コミュニケーション理論
	COM2140L	異文化コミュニケーション	講義	4	2	○	現代コミュニケーション理論
	COM3160L	コミュニケーション学特論(非言語)	講義	4	2	○	
	COM2050L	コミュニケーション学特論(きくことの科学)	講義	4	2	○	オーラルコミュニケーション（きく）
	COM3140L	言語とジェンダー	講義	4	2	○	
	COM3143L	異文化理解教育	講義	4	3	○	異文化コミュニケーション
	COM2143L	国際コミュニケーション	講義	4	2	○	
	COM2170L	メディアコミュニケーション	講義	2	2	○	
	COM3210L	コミュニケーション調査研究	講義	4	2	×	
	COM1004L	オーラルコミュニケーション(きく)	講義	2	1	○	
	COM1003L	オーラルコミュニケーション(話す)	講義	2	1	○	
	COM2150L	話し言葉の技法	講義	2	2	×	オーラルコミュニケーション（話す）
	COM3450L	議論とディベート	演習	2	2	○	
	COM3030L	ミディエーション	講義	2	2	○	集団コミュニケーション
	COM3150L	現代レトリック論	講義	4	3	○	
	LIT2340L	ロシアの社会と文化	講義	4	2	○	
	LIT3100L	比較文学	講義	4	2	○	
	LIT3340L	ロシア文学研究	講義	4	2	○	
	LIT2360L	フランス文学	講義	4	2	○	
	LIT2351L	ドイツ文学Ⅰ	講義	2	2	○	
	LIT2352L	ドイツ文学Ⅱ	講義	2	2	○	
	CHR1330L	キリスト教古典入門	講義	2	1	○	
	CHR1020L	キリスト教史	講義	2	1	○	
	CHR2031L	キリスト教神学概論	講義	2	2	○	
	CHR2012L	聖書学概論	講義	2	2	○	聖書
	CHR3150L	一神教研究	講義	2	2	○	
	CHR3111L	旧約聖書研究	講義	2	~~3~~ 2	○	
	CHR3112L	新約聖書研究	講義	2	~~3~~ 2	○	
	CHR3333L	キリスト教の理論	講義	4	~~3~~ 2	○	
	CHR3140L	現代キリスト教の諸問題	講義	2	3	○	
	CHR1341L	キリスト教とジェンダー	講義	2	2	○	
	CHR4400L	専門書講読	演習	4	~~3~~ 2	×	
	REL1000L	宗教学概論	講義	4	2	○	
	REL2300L	日本の宗教	講義	4	2	○	
	REL3150L	宗教学研究特論	講義	2	2	○	
	REL3130L	宗教学の諸問題	講義	2	3	△	

専攻プログラム ＼ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
レトリックの歴史					○	○																										
テクスト研究理論					○																											
現代コミュニケーション理論					○	○																										○
集団コミュニケーション						○																										○
組織コミュニケーション						○																										
対人コミュニケーション			○	○		○																										
異文化コミュニケーション						○																										
コミュニケーション学特論（非言語）						○																										
コミュニケーション学特論（きくことの科学）						○																										
言語とジェンダー					○	○																										
異文化理解教育						○																										
国際コミュニケーション						○																										
メディアコミュニケーション						○																										
コミュニケーション調査研究						○																										
オーラルコミュニケーション（きく）			○			○																										
オーラルコミュニケーション（話す）			○			○																										
話し言葉の技法						○																										
議論とディベート						○																										
ミディエーション						○																										
現代レトリック論						○																										
ロシアの社会と文化							○					○																				
比較文学							○																									
ロシア文学研究							○																									
フランス文学							○																									
ドイツ文学Ⅰ							○																									
ドイツ文学Ⅱ							○																									
キリスト教古典入門								○																								
キリスト教史								○	○																							
キリスト教神学概論								○																								
聖書学概論								○																								
一神教研究								○	○																							
旧約聖書研究								○																								
新約聖書研究								○																								
キリスト教の理論								○																								
現代キリスト教の諸問題								○																								
キリスト教とジェンダー								○																								
専門書講読								○																								
宗教学概論								○	○	○	○	○		○																		
日本の宗教									○			○			○																	
宗教学研究特論									○	○	○																					
宗教学の諸問題								○	○	○	○																					

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
人文科学系科目群	REL2350L	西洋文明と思想	講義	4	2	○	
	CHR3340L	キリスト教文化論	講義	4	2	△	
	PHL3000L	哲学概論	講義	4	2	○	
	PHL3330L	論理学	講義	4	2	○	
	PHL2371L	哲学の諸問題 A	講義	4	2	○	
	PHL2372L	哲学の諸問題 B	講義	4	2	○	
	PHL3371L	哲学研究特論 A	講義	2	2	○	
	PHL3372L	哲学研究特論 B	講義	2	2	△	
	ETH2000L	倫理学概論	講義	4	2	○	
	ETH3320L	社会思想史	講義	4	3	○	
	ETH2360L	環境倫理学	講義	2	2	○	
	ETH2020L	日本思想史	講義	4	2	○	
	ETH2340L	倫理学研究特論 A	講義	2	2	△	
	ETH2330L	倫理学研究特論 B	講義	2	2	△	
	ETH2341L	倫理学研究特論 C	講義	2	2	△	
	ETH2010L	倫理学説史	講義	2	2	△	
	ETH2160L	応用倫理学	講義	2	2	○	
	ETH3370L	環境・生命・人権の哲学	講義	2	3	○	
	ETH3150L	倫理学の諸問題 A	講義	4	3	△	倫理学概論
	ETH3130L	倫理学の諸問題 B	講義	4	3	△	倫理学概論
	PSY1002L	心理学	講義	4	1	○	
	PSY2210L	心理学研究法	講義	2	2	○	
	PSY1211L	心理学統計法Ⅰ	講義	2	1	○	
	PSY2212L	心理学統計法Ⅱ	講義	2	2	○	心理学統計法Ⅰ
	PSY2121L	生涯発達心理学	講義	2	1	○	
	PSY2131L	学習・言語心理学	講義	2	2	○	
	PSY3131L	知覚・認知心理学	講義	2	2	○	
	PSY2133L	神経・生理心理学	講義	2	2	○	
	PSY2151L	感情・人格心理学	講義	2	2	○	
	PSY2141L	社会・集団心理学	講義	2	2	○	
	PSY3141L	家族心理学	講義	2	2	○	
	PSY2156H	障害者（児）心理学	講義	2	2	○	
	PSY3146L	宗教心理学	講義	2	2	○	
	PSY1003H	公認心理師の職責	講義	2	1	○	心理学
	PSY2154L	臨床心理学概論	講義	2	2	○	
	PSY2157H	心理的アセスメント	講義	2	2	○	心理学
	PSY2155L	心理学的支援法	講義	2	2	○	
	PSY1060H	健康心理学概論	講義	2	1	○	
	PSY2171L	健康・医療心理学	講義	2	2	○	
	PSY2172H	福祉心理学	講義	2	2	○	
	PSY2170L	教育・学校心理学	講義	2	2	○	
	PSY2173H	司法・犯罪心理学	講義	2	2	○	
	PSY3170L	産業・組織心理学	講義	2	3	○	
	MED1000L	医学一般	講義	4	1	○	
	PSY2158L	精神医学	講義	2	1	○	
	PSY3300H	関係行政論	講義	2	3	○	公認心理師の職責
	PSY3511L	心理学実験	実験	2	2	△	心理学研究法、心理学統計法Ⅰ リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	PSY3610L	心理学実験実習	実習	2	3	△	心理学実験 リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	PSY3411L	心理学統計法演習	演習	2	3	△	心理学研究法、心理学統計法Ⅱ リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	PSY3640L	社会心理学調査実習	実習	2	2	△	心理学統計法Ⅰ リベラルアーツ学群生／健康福祉学群生のみ履修可
	PSY3450H	心理演習Ⅰ	演習	2	3	△	公認心理師の職責、臨床心理学概論、心理学的支援法、心理的アセスメント リベラルアーツ学群生／健康福祉学群精神保健福祉専修生のみ履修可
	PSY3451H	心理演習Ⅱ	演習	2	3	△	心理演習Ⅰ リベラルアーツ学群生／健康福祉学群精神保健福祉専修生のみ履修可
	PSY3650H	心理実習	実習	4	4	△	心理演習Ⅱ、健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学、関係行政論　リベラルアーツ学群生／健康福祉学群精神保健福祉専修生のみ履修可
	GEG1100L	文化地理学	講義	4	1	○	
	JPS3334L	日本考古学	講義	2	3	○	
	JPS3354L	日本民俗学	講義	2	3	○	
	PSY1001L	心理学概論	講義	4	1	○	

専攻プログラム ＼ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
西洋文明と思想								○	○	○																						
キリスト教文化論								○	○	○		○																				
哲学概論										○	○																					
論理学					○					○	○																					
哲学の諸問題 A									○	○	○																					
哲学の諸問題 B									○	○	○																					
哲学研究特論 A									○	○	○																					
哲学研究特論 B									○	○	○																					
倫理学概論								○		○	○							○														
社会思想史								○	○	○	○					○			○													
環境倫理学											○																				○	
日本思想史									○	○	○	○			○	○																
倫理学研究特論 A									○	○	○																					
倫理学研究特論 B										○	○																					
倫理学研究特論 C											○																					
倫理学説史											○																					
応用倫理学											○																					
環境・生命・人権の哲学									○	○	○							○											○		○	
倫理学の諸問題 A									○	○	○																					
倫理学の諸問題 B										○	○																					
心理学										○									○													
心理学研究法																			○													
心理学統計法Ⅰ																			○													
心理学統計法Ⅱ																			○													
生涯発達心理学																			○	○	○											
学習・言語心理学																			○	○												
知覚・認知心理学																			○													
神経・生理心理学																			○													
感情・人格心理学																			○													
社会・集団心理学						○													○													
家族心理学																			○	○												
障害者（児）心理学																			○													
宗教心理学								○	○	○									○													
公認心理師の職責																			○													
臨床心理学概論																			○													
心理的アセスメント																			○													
心理学的支援法																			○													
健康心理学概論																			○													
健康・医療心理学																			○													
福祉心理学																			○													
教育・学校心理学																			○													
司法・犯罪心理学																			○													
産業・組織心理学																			○													
医学一般																			○													
精神医学																			○													
関係行政論																			○													
心理学実験																			○													
心理学実験実習																			○													
心理学統計法演習																			○													
社会心理学調査実習																			○													
心理演習Ⅰ																			○													
心理演習Ⅱ																			○													
心理実習																			○													
文化地理学									○													○										
日本考古学																						○										
日本民俗学																						○										
心理学概論										○																						

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
社会科学系科目群	ANT1000L	文化人類学	講義	4	1	△	
	ANT2120L	同時代の人類学	講義	4	2	○	
	ANT2130L	ジェンダーの人類学	講義	4	2	○	
	ANT2110L	宗教人類学	講義	4	2	○	
	ANT2230L	文化人類学特論（性の人類学）	講義	4	2	○	
	ANT2220L	文化人類学特論（実践の人類学）	講義	4	2	○	
	ANT2240L	文化人類学特論（遊牧文化論）	講義	2	2	×	
	ANT3600L	文化人類学フィールドワーク	実習	2	2	×	文化人類学
	ANT3110L	イスラーム文化論	講義	4	2	○	
	ANT3111L	儒教文化論	講義	4	2	○	
	ANT3112L	仏教文化論	講義	4	2	○	
	AMS2000L	アメリカ研究概論	講義	4	2	○	
	AMS2130L	アメリカの歴史	講義	4	2	○	
	AMS2140L	アメリカの文化	講義	4	1	○	
	AMS2131L	アメリカ社会史	講義	4	2	○	
	AMS3130L	アメリカ思想史	講義	4	2	○	
	AMS2150L	アメリカ民族論	講義	4	2	○	
	AMS3150L	アメリカ女性論	講義	4	2	○	
	LIT3175L	英語圏の映画と文化	講義	4	3	△	
	AMS2151L	アメリカの社会	講義	4	2	○	
	AMS3110L	アメリカの政治	講義	4	2	○	
	AMS3111L	アメリカの外交	講義	4	2	○	
	AMS3120L	アメリカの経済	講義	4	2	○	
	INT3130L	日米関係論	講義	4	2	○	
	AMS3380L	アメリカ研究特論	講義	2	2	○	
	ANS1000L	アジア研究概論	講義	4	1	○	
	ANS2131L	アジアの歴史Ⅰ	講義	4	2	○	
	ANS2132L	アジアの歴史Ⅱ	講義	4	2	○	
	HIS3250L	ユーラシア文化交流史	講義	4	2	○	
	HIS3220L	日韓交流史	講義	4	2	○	
	ANS2380L	アジアの思想と宗教	講義	4	2	○	
	ANS2140L	韓国文化論	講義	4	2	○	
	ANS2141L	中国文化論	講義	4	2	○	
	ANS2381L	発展途上国論	講義	4	2	○	
	ANS3110L	アジアの政治	講義	4	2	○	
	ANS2120L	アジアの経済	講義	4	2	○	
	ANS3380L	東北アジア研究	講義	4	2	○	
	ANS3180L	東アジア研究	講義	4	2	○	
	ANS2150L	東アジアの現代社会	講義	4	2	○	
	ANS2180L	東南アジア研究	講義	4	2	○	
	ANS2181L	東南アジアの現代社会	講義	4	2	○	

専攻プログラム ／ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
文化人類学				○								○	○	○		○			○			○											
同時代の人類学												○																				
ジェンダーの人類学												○																				
宗教人類学								○	○			○																				
文化人類学特論（性の人類学）												○																				
文化人類学特論（実践の人類学）												○																				
文化人類学特論（遊牧文化論）												○																				
文化人類学フィールドワーク												○																				
イスラーム文化論								○	○	○		○		○																		
儒教文化論									○			○		○																		
仏教文化論								○	○	○		○		○																		
アメリカ研究概論													○			○																
アメリカの歴史													○			○																
アメリカの文化	○											○	○			○			○													
アメリカ社会史												○	○			○																
アメリカ思想史									○	○	○		○			○																
アメリカ民族論												○	○																			
アメリカ女性論												○	○						○													
英語圏の映画と文化													○																			
アメリカの社会												○	○																			
アメリカの政治													○																			
アメリカの外交													○				○															
アメリカの経済													○																			
日米関係論													○		○																	
アメリカ研究特論													○																			
アジア研究概論		○												○		○																
アジアの歴史Ⅰ		○												○		○																
アジアの歴史Ⅱ		○												○		○																
ユーラシア文化交流史														○		○																
日韓交流史														○	○	○																
アジアの思想と宗教									○					○																		
韓国文化論				○			○		○			○		○																		
中国文化論							○					○		○																		
発展途上国論														○			○	○														
アジアの政治														○			○															
アジアの経済														○								○										
東北アジア研究												○		○																		
東アジア研究		○										○		○																		
東アジアの現代社会												○		○																		
東南アジア研究												○		○																		
東南アジアの現代社会												○		○																		

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
社会科学系科目群	ANS3181L	南アジア研究	講義	4	2	○	
	ANS3182L	西アジア研究	講義	4	2	○	
	ANS2310L	オセアニアの政治と経済	講義	4	2	○	
	ANS3381L	アジア女性論	講義	4	2	○	
	ANS338*L	アジア研究特論	講義	4	2	○	重複履修可
	JPS2131L	日本の歴史Ⅰ	講義	4	2	○	
	JPS2132L	日本の歴史Ⅱ	講義	4	2	○	
	HIS3110L	世界史における日本	講義	4	2	○	
	JPS3130L	日本古代中世史	講義	2	2	○	
	JPS2130L	戦後日本史	講義	2	2	○	
	HIS3150L	日米交流史	講義	4	2	○	
	JPS2000L	日本研究概論	講義	4	2	○	
	JPS3140L	日本文化論	講義	4	2	○	
	GEG1010L	地誌学概論	講義	2	1	○	
	JPS1140L	日本の民俗	講義	2	1	○	
	HIS4350L	日露文化交流史	講義	4	2	○	
	ANS2133L	日中交流史	講義	2	2	○	
	ANS2182L	日中交流論	講義	2	2	○	
	JPS2380L	日本研究特論(日米文化社会比較)	講義	4	2	○	
	HIS1000L	世界史概論	講義	4	1	○	
	INT1001L	国際政治論	講義	4	1	○	
	POL1000L	政治学概論	講義	4	1	○	
	INT1002L	国際関係論	講義	4	1	○	
	INT2121L	国際関係史Ⅰ	講義	4	2	○	
	INT2122L	国際関係史Ⅱ	講義	4	2	○	
	POL2170L	国家論	講義	4	2	○	
	INT2110L	紛争論	講義	4	2	○	
	INT2111L	民族研究	講義	4	2	○	
	POL3110L	国際関係思想	講義	4	2	○	
	INT3110L	国際機構論	講義	4	2	○	
	LAW3230L	国際人権法	講義	4	2	○	
	POL3130L	比較政治学	講義	4	2	○	
	POL3180L	政治過程論	講義	4	2	○	
	POL2120L	日本の政治	講義	4	2	○	
	POL2150L	現代日本の政治	講義	4	2	○	
	INT3320L	冷戦後の国際関係	講義	4	2	○	
	INT3330L	ヨーロッパの政治	講義	4	2	○	
	INT3321L	近代日本の外交	講義	4	2	○	
	INT1000L	国際協力入門（NGO 論）	講義	4	1	○	
	INT2132L	国際交流論	講義	4	2	○	
	LAW3330L	難民・移民の人権	講義	4	2	○	

「*」：数字コードが複数存在する科目

専攻プログラム ＼ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
南アジア研究												○		○																		
西アジア研究								○				○		○																		
オセアニアの政治と経済														○																		
アジア女性論												○		○			○	○	○													
アジア研究特論														○																		
日本の歴史Ⅰ															○	○						○										
日本の歴史Ⅱ															○	○						○										
世界史における日本					○										○	○																
日本古代中世史															○																	
戦後日本史															○																	
日米交流史													○		○	○																
日本研究概論															○	○																
日本文化論												○			○							○										
地誌学概論															○																	
日本の民俗															○																	
日露文化交流史							○								○	○																
日中交流史															○																	
日中交流論															○																	
日本研究特論（日米文化社会比較）															○																	
世界史概論										○			○	○		○																
国際政治論																	○	○														
政治学概論													○	○		○	○															
国際関係論																	○	○														
国際関係史Ⅰ																○	○															
国際関係史Ⅱ																○	○															
国家論																	○		○													
紛争論																	○															
民族研究													○			○	○		○													
国際関係思想										○	○						○															
国際機構論																	○	○														
国際人権法											○						○	○														
比較政治学																	○	○														
政治過程論																	○															
日本の政治															○		○															
現代日本の政治															○		○															○
冷戦後の国際関係																○	○															
ヨーロッパの政治																	○															
近代日本の外交															○	○	○															
国際協力入門（NGO論）																	○	○	○													
国際交流論																	○	○														
難民・移民の人権																	○	○														

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
社会科学系科目群	INT2340L	人間の安全保障	講義	4	2	○	
	INT3341L	持続可能な開発	講義	4	2	○	
	INT3342L	子どもと開発	講義	4	2	○	
	INT3343L	ジェンダーと開発	講義	4	2	○	
	INT3344L	平和構築論	講義	4	2	○	
	INT2112L	国際協力論	講義	4	2	○	
	LAW2130L	国際法	講義	4	2	○	
	LAW3231L	国際協力法	講義	4	2	○	
	INT3310L	平和論	講義	4	3	○	
	INT4340L	国際協力特論（グローバル・ガヴァナンス）	講義	4	3	○	
	INT2600L	国際学インターン A	実習	2	2	△	
	INT2601L	国際学インターン B	実習	2	2	△	
	INT36**L	国際協力フィールドワーク	実習	1～4	2	○	重複履修可
	INT260*L	NGO/NPO　実務実習 A	実習	1～4	2	△	
	INT360*L	NGO/NPO　実務実習 B	実習	1～4	2	△	
	SOC1000L	社会学概論	講義	4	1	○	
	SOC2110L	社会学史	講義	4	2	○	
	SOC2021L	社会調査法	講義	4	2	○	
	SOC2130L	比較社会学	講義	4	2	○	
	SOC3020L	社会統計学	講義	2	2	△	
	SOC2140L	家族社会学	講義	4	2	○	
	SOC2131L	文化社会学	講義	4	2	○	
	SOC3150L	地域社会学	講義	4	2	○	
	SOC3130L	現代社会研究	講義	4	2	○	
	SOC3250L	社会学特講	講義	2	3	○	
	EDU1000L	教育学概論	講義	2	1	○	
	EDU2010L	教育思想	講義	2	1	○	
	EDU1030Q	教職入門	講義	2	1	○	
	LAW1020L	日本国憲法	講義	2	1	○	
	EDU2011L	教育哲学	講義	2	2	○	
	EDU2310L	西洋教育史	講義	2	2	○	
	EDU2311L	日本教育史	講義	2	2	○	
	EDU3310L	比較教育学	講義	2	2	○	
	EDU2300L	教育原理（教職課程）	講義	2	1	○	
	PSY2220L	教育心理学（教職課程）	講義	2	2	○	教職課程登録者のみ履修可
	EDU2390L	教育制度論	講義	2	2	○	
	EDU2340L	教育課程論	講義	2	2	○	
	EDU3340L	道徳教育論	講義	2	2	○	
	EDU3342L	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	講義	2	2	○	
	EDU3320L	教育方法論	講義	2	2	○	
	EDU3321L	生徒指導論(生徒理解と教育相談)	講義	2	2	○	

「＊」：数字コードが複数存在する科目

専攻プログラム ／ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
人間の安全保障											○						○	○														
持続可能な開発																		○	○													
子どもと開発																		○														
ジェンダーと開発																		○														
平和構築論																		○														
国際協力論																		○														
国際法																	○	○														
国際協力法																	○	○														
平和論											○						○	○														
国際協力特論（グローバル・ガヴァナンス）																	○	○														
国際学インターン A																		○														
国際学インターン B																		○														
国際協力フィールドワーク												○						○														
NGO/NPO　実務実習 A																		○														
NGO/NPO　実務実習 B																		○														
社会学概論						○				○		○						○	○													
社会学史																			○													
社会調査法					○														○													○
比較社会学												○	○						○													
社会統計学																			○												○	
家族社会学																			○													
文化社会学																			○													
地域社会学																			○													
現代社会研究																			○													○
社会学特講																			○													
教育学概論																					○											
教育思想										○											○											
教職入門																					○											
日本国憲法															○						○											○
教育哲学																					○											
西洋教育史																					○											
日本教育史															○						○	○										
比較教育学																					○											
教育原理（教職課程）																					○	○										
教育心理学（教職課程）																					○											
教育制度論																					○											
教育課程論																					○											
道徳教育論																					○											
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法																					○											
教育方法論																					○	○										
生徒指導論（生徒理解と教育相談）																					○											

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
社会科学系科目群	EDU3322L	進路指導論	講義	2	2	○	
	CHR2340L	キリスト教と教育	講義	2	1	○	
	EDU2080L	家庭と教育	講義	2	1	○	
	REL3340L	宗教と教育	講義	2	2	○	
	EDU3311L	現代アジアの教育と文化	講義	2	2	○	
	LIS3200L	読書と豊かな人間性	講義	2	3	○	
	LIS3270L	情報メディアの活用	講義	2	3	○	
	EDU3220L	学校図書館メディアの構成	講義	2	3	○	
	MSO1000L	博物館概論	講義	2	1	○	
	EDU2360L	生涯学習概論	講義	2	1	○	
	MSO2140L	博物館教育論	講義	2	1	○	
	MSO2150L	博物館経営論	講義	2	2	○	博物館概論
	MSO2151L	博物館情報・メディア論	講義	2	2	○	博物館概論
	MSO2110L	博物館資料論	講義	2	2	○	博物館概論
	MSO3120L	博物館資料保存論	講義	2	2	○	博物館概論
	MSO3140L	博物館展示論	講義	2	2	○	博物館概論
	MSO3300L	博物館学特論（文化遺産論）	講義	2	3	○	
	MSO3301L	博物館学特論（文化政策論）	講義	2	3	○	
	MSO3660L	博物館実習	実習	3	3	○	博物館概論、生涯学習概論、博物館経営論、博物館情報・メディア論、博物館資料論、博物館教育論、博物館資料保存論、博物館展示論
	ECO1010L	基礎ミクロ経済学	講義	2	1	○	
	ECO1011L	基礎マクロ経済学	講義	2	1	○	
	ECO1012L	政治経済学	講義	4	1	○	
	ECO1080L	経済史	講義	4	1	○	
	ECO1001L	経済数学入門Ⅰ	講義	2	1	○	
	ECO1002L	経済数学入門Ⅱ	講義	2	1	○	
	ECO2010L	経済学史	講義	4	2	○	
	ECO2011L	マクロ経済学	講義	4	2	○	
	ECO2012L	ミクロ経済学	講義	4	2	○	
	ECO2300L	経済統計論	講義	4	2	○	
	ECO2380L	日本経済史	講義	4	2	○	
	ECO2320L	日本経済論	講義	4	2	○	
	ECO2140L	金融論	講義	4	2	○	
	LAW2350L	労働法	講義	4	2	○	
	LAW3051L	経済法Ⅰ	講義	2	2	○	
	LAW3052L	経済法Ⅱ	講義	2	2	○	
	ECO3110L	計量経済学	講義	2	2	○	
	ECO3111L	経済変動論	講義	4	2	○	
	ECO2112L	現代資本主義論	講義	4	2	○	
	ECO3113L	ゲーム理論	講義	2	2	○	
	ECO2350L	社会経済学	講義	4	2	○	
	ECO2301L	経済学特殊講義	講義	2	2	○	
	ECO3130L	国際経済論	講義	4	2	○	
	ECO3131L	国際金融論	講義	4	2	○	
	ECO3132L	経済開発論	講義	4	2	○	
	ECO3330L	多国籍企業論	講義	4	2	○	
	ECO3320L	アメリカ経済論	講義	4	2	○	
	ECO3321L	ヨーロッパ経済論	講義	4	2	○	
	ECO3322L	中国経済論	講義	4	2	○	
	ECO3323L	ロシア東欧経済論	講義	4	2	○	
	ECO3133L	国際マクロ経済学	講義	4	2	○	
	ECO3331L	国際投資論	講義	4	2	○	
	ECO3332L	国際貿易論	講義	4	2	○	

専攻プログラム／授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
進路指導論																					○												
キリスト教と教育								○													○												
家庭と教育																					○												
宗教と教育								○													○												
現代アジアの教育と文化																					○												
読書と豊かな人間性																					○												
情報メディアの活用																					○	○											
学校図書館メディアの構成																						○											
博物館概論																						○											
生涯学習概論																					○	○											
博物館教育論																						○											
博物館経営論																						○											
博物館情報・メディア論																						○											
博物館資料論																						○											
博物館資料保存論																						○											
博物館展示論																						○											
博物館学特論（文化遺産論）																						○											
博物館学特論（文化政策論）																						○											
博物館実習																						○											
基礎ミクロ経済学																							○	○	○								
基礎マクロ経済学																							○	○	○								
政治経済学																							○	○	○								
経済史																							○	○	○								
経済数学入門Ⅰ																							○	○	○								
経済数学入門Ⅱ																							○	○	○								
経済学史																							○	○	○								
マクロ経済学																							○	○	○								
ミクロ経済学																							○	○	○								
経済統計論																							○	○	○								
日本経済史															○								○	○	○								
日本経済論															○								○	○	○								
金融論																							○	○	○								
労働法																							○	○	○								
経済法Ⅰ																							○	○	○								
経済法Ⅱ																							○	○	○								
計量経済学																							○	○	○								
経済変動論																							○	○	○								
現代資本主義論																							○	○	○								
ゲーム理論																							○	○	○								
社会経済学																							○	○	○								
経済学特殊講義																							○	○	○								
国際経済論																							○										
国際金融論																							○										
経済開発論																		○					○										
多国籍企業論																							○										
アメリカ経済論													○										○										
ヨーロッパ経済論																							○										
中国経済論		○																					○										
ロシア東欧経済論																							○										
国際マクロ経済学																							○										
国際投資論																							○										
国際貿易論																							○										

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
社会科学系科目群	ECO3170L	企業経済論	講義	4	2	○	
	ECO3370L	中小企業論	講義	4	2	○	
	ECO3371L	情報経済論	講義	4	2	○	
	ECO3372L	サービス経済論	講義	4	2	○	
	ECO3171L	産業組織論	講義	4	2	○	
	ECO3373L	工業経済論	講義	4	2	○	
	ECO3374L	農業経済論	講義	4	2	○	
	ECO3375L	流通経済論	講義	4	2	○	
	MGM3310L	企業分析論	講義	4	2	○	
	ECO3376L	産業調査論	講義	4	2	○	
	ECO3340L	企業金融論	講義	4	2	○	
	ECO3172L	産業構造論	講義	4	2	○	
	ECO3341L	金融政策	講義	4	2	○	
	ECO3140L	財政学	講義	4	2	○	
	ECO3150L	社会政策	講義	4	2	○	
	ECO3350L	生活経済論	講義	2	2	○	
	ECO3190L	環境経済論	講義	4	2	○	
	POL3360L	行政学	講義	4	2	○	
	ECO3351L	経済政策	講義	4	2	○	
	ECO3352L	社会保障論	講義	2	2	○	
	ECO3360L	労働経済論	講義	4	2	○	
	ECO3342L	地方財政論	講義	4	2	○	
	ECO3353L	厚生経済学	講義	2	2	○	
	ECO3151L	公共経済学	講義	4	2	○	
	ECO3390L	資源・エネルギー論	講義	4	2	○	
	ECO1000L	経済学概論	講義	4	1	○	
	GEG1000L	地理学概論	講義	4	1	○	
	HIS1001L	日本史概論	講義	4	2	○	
	LAW1000L	法律学概論（国際法を含む）	講義	4	1	○	
	ESC1040L	自然地理学概論	講義	4	1	○	

専攻プログラム ＼ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学(教職教育)	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア(ジャーナリズム)
企業経済論																								○									
中小企業論																								○									
情報経済論																								○									
サービス経済論																								○									
産業組織論																								○									
工業経済論																								○									
農業経済論																								○									
流通経済論																								○									
企業分析論																								○									
産業調査論																								○									
企業金融論																								○									
産業構造論																								○									
金融政策																									○								
財政学																									○								
社会政策																			○						○								
生活経済論																									○								
環境経済論																									○							○	
行政学																									○								
経済政策																									○								
社会保障論																									○								
労働経済論																								○	○								
地方財政論																						○			○								
厚生経済学																									○								
公共経済学																						○			○								
資源・エネルギー論																									○			○				○	
経済学概論													○																				
地理学概論												○	○																				
日本史概論															○	○																	
法律学概論(国際法を含む)																		○															
自然地理学概論																																	

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
自然科学系科目群	MTH1100L	数学概論	講義	2	1	○	
	MTH2010L	線形代数学	講義	4	2	○	数学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）又は線形代数学入門と微分積分学入門
	MTH2030L	微分積分学	講義	4	2	○	数学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）又は線形代数学入門と微分積分学入門
	MTH2400L	数学演習	演習	2	2	○	数学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）又は線形代数学入門と微分積分学入門
	MTH3030L	解析学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学
	MTH3070L	確率論と統計学	講義	4	3	○	微分積分学
	MTH4060L	離散数学	講義	4	3	○	線形代数学
	MTH3010L	代数学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学
	MTH4040L	幾何学	講義	4	3	○	線形代数学、微分積分学
	MTH3280L	コンピュータとデータ解析	講義	2	3	○	確率論と統計学
	MTH1030L	微分積分学入門	講義	2	1	○	微分積分学の既修得者は履修不可
	MTH1010L	線形代数学入門	講義	2	1	○	線形代数学の既修得者は履修不可
	PHY1000L	物理学概論	講義	2	1	○	
	PHY2011L	力学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	PHY2012L	力学Ⅱ	講義	2	2	○	力学Ⅰ
	PHY2031L	電磁気学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	PHY2032L	電磁気学Ⅱ	講義	2	2	○	電磁気学Ⅰ
	PHY2040L	熱力学	講義	2	2	○	物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	PHY3040L	統計力学	講義	2	3	○	微分積分学、力学Ⅰ、熱力学
	PHY3061L	量子力学Ⅰ	講義	2	3	○	力学Ⅰ、力学Ⅱ、電磁気学Ⅰ
	PHY3062L	量子力学Ⅱ	講義	2	3	○	線形代数学、微分積分学，量子力学Ⅰ
	PHY2501L	物理学実験Ⅰ	実験	2	2	×	
	PHY3502L	物理学実験Ⅱ	実験	2	3	×	物理学実験Ⅰ
	PHY4301L	物理学特論Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	PHY4302L	物理学特論Ⅱ	講義	2	3	○	物理学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM1000L	化学概論	講義	2	1	○	
	CHM2011L	無機化学Ⅰ	講義	2	2	○	化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM2012L	無機化学Ⅱ	講義	2	2	○	無機化学Ⅰ
	CHM2021L	基礎有機化学	講義	2	2	○	化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM2022L	有機合成化学	講義	2	2	○	基礎有機化学
	CHM3140L	基礎分析化学	講義	2	2	○	化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM3145L	機器分析化学	講義	2	2	○	基礎分析化学
	CHM3130L	化学熱力学・反応速度	講義	2	2	○	化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM3135L	量子化学	講義	2	2	○	化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM3150L	生体物質化学	講義	2	2	○	化学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM2501L	化学実験Ⅰ	実験	2	2	×	化学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）

専攻プログラム ＼ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
数学概論					○																				○	○	○	○	○	○		
線形代数学																									○	○	○	○	○			
微分積分学																									○	○	○	○	○			
数学演習																									○				○			
解析学																									○	○						
確率論と統計学																									○				○			
離散数学																									○							
代数学																									○							
幾何学																									○							
コンピュータとデータ解析																									○				○			
微分積分学入門																											○	○	○	○		
線形代数学入門																											○	○	○	○		
物理学概論																									○	○	○	○	○			
力学Ⅰ																									○	○	○	○	○			
力学Ⅱ																									○	○		○	○			
電磁気学Ⅰ																									○	○	○		○			
電磁気学Ⅱ																									○	○			○			
熱力学																									○	○	○		○			
統計力学																									○	○	○		○			
量子力学Ⅰ																									○	○	○					
量子力学Ⅱ																									○	○						
物理学実験Ⅰ																									○	○	○	○	○			
物理学実験Ⅱ																									○	○	○	○	○			
物理学特論Ⅰ																									○	○						
物理学特論Ⅱ																									○	○						
化学概論																									○	○	○	○	○			
無機化学Ⅰ																											○	○				
無機化学Ⅱ																											○	○				
基礎有機化学																											○	○				
有機合成化学																											○	○				
基礎分析化学																											○		○			
機器分析化学																											○		○			
化学熱力学・反応速度																									○	○	○		○			
量子化学																									○	○	○		○			
生体物質化学																											○	○			○	
化学実験Ⅰ																										○	○	○	○			

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
自然科学系科目群	CHM3502L	化学実験Ⅱ	実験	2	3	×	化学実験Ⅰ
	CHM4300L	化学特論	講義	2	3	○	化学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	CHM3160L	エネルギー化学	講義	2	3	○	
	BIO1000L	生物学概論	講義	2	1	○	
	BIO2011L	植物学Ⅰ	講義	2	2	○	
	BIO2012L	植物学Ⅱ	講義	2	2	○	植物学Ⅰ
	BIO2021L	動物学Ⅰ	講義	2	2	○	
	BIO2022L	動物学Ⅱ	講義	2	2	○	動物学Ⅰ
	BIO3041L	生態学Ⅰ	講義	2	2	○	
	BIO3042L	生態学Ⅱ	講義	2	2	○	生態学Ⅰ
	BIO3031L	生理学Ⅰ	講義	2	3	○	
	BIO3032L	生理学Ⅱ	講義	2	3	○	生理学Ⅰ
	BIO3050L	生化学	講義	2	3	○	
	BIO3060L	遺伝と進化	講義	2	3	○	
	BIO2501L	生物学実験Ⅰ	実験	2	2	×	
	BIO3502L	生物学実験Ⅱ	実験	2	3	×	生物学実験Ⅰ
	BIO437*L	生物学特論	講義	2	3	○	重複履修可
	ESC1000L	地学概論	講義	2	1	○	
	ESC3051L	地球物理学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	ESC3052L	地球物理学Ⅱ	講義	2	3	○	地球物理学Ⅰ
	ESC3081L	気象学Ⅰ	講義	2	2	○	物理学概論（同時履修を認める場合があります。また、高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	ESC3082L	気象学Ⅱ	講義	2	2	○	気象学Ⅰ
	ESC3091L	天文学Ⅰ	講義	2	3	○	物理学概論（高等学校における数学・理科の修得状況などによっては先修条件を免除される場合があります。）
	ESC3092L	天文学Ⅱ	講義	2	3	○	天文学Ⅰ
	ESC2011L	地質学Ⅰ	講義	2	2	○	
	ESC2012L	地質学Ⅱ	講義	2	2	○	地質学Ⅰ
	ESC2501L	地学実験Ⅰ	実験	2	2	△	
	ESC3502L	地学実験Ⅱ	実験	2	3	△	地学実験Ⅰ
	ESC4330L	古生物学	講義	2	3	○	
	ESC430*L	地球科学特論	講義	2	3	○	重複履修可
	ESC4370L	海洋学	講義	2	3	○	
	ESC421*L	地球科学演習	講義	2	3	○	重複履修可
	NSC1500L	自然科学実験	実験	2	1	×	
学際・統合科学系科目群	CHM2270L	化学と人間社会	講義	2	2	○	
	CHM2260L	環境化学	講義	2	2	○	
	IST1180L	情報と社会	講義	2	1	○	
	IST1181L	情報と倫理	講義	2	1	○	
	IST2130L	情報システム論	講義	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST2461L	データベースⅠ	演習	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST2140L	認知の科学	講義	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ

「*」：数字コードが複数存在する科目

専攻プログラム ＼ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
化学実験Ⅱ																										○	○	○	○			
化学特論																											○					
エネルギー化学																											○					
生物学概論																									○	○	○	○	○			
植物学Ⅰ																					○							○				
植物学Ⅱ																												○				
動物学Ⅰ					○																○							○				
動物学Ⅱ					○																							○				
生態学Ⅰ																					○							○	○		○	
生態学Ⅱ																												○	○		○	
生理学Ⅰ																											○	○				
生理学Ⅱ																												○				
生化学																											○	○				
遺伝と進化																												○				
生物学実験Ⅰ																										○	○	○	○			
生物学実験Ⅱ																										○	○	○	○			
生物学特論																												○				
地学概論																									○	○	○	○	○			
地球物理学Ⅰ																					○				○	○			○			
地球物理学Ⅱ																									○	○			○			
気象学Ⅰ																					○					○	○		○			
気象学Ⅱ																										○			○			
天文学Ⅰ																					○					○			○			
天文学Ⅱ																										○			○			
地質学Ⅰ																					○						○	○	○			
地質学Ⅱ																												○	○			
地学実験Ⅰ																										○	○	○	○			
地学実験Ⅱ																										○	○	○	○			
古生物学																													○			
地球科学特論																													○			
海洋学																													○		○	
地球科学演習																													○		○	
自然科学実験																																
化学と人間社会																											○	○			○	
環境化学																											○	○			○	
情報と社会																														○		○
情報と倫理											○																			○		
情報システム論																									○					○		
データベースⅠ																												○		○		
認知の科学					○																									○		

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
学際・統合科学系科目群	IST3130L	情報ネットワーク	講義	2	3	○	情報システム論
	IST2450L	応用表計算	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST2411L	プログラミングⅠ	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST3412L	プログラミングⅡ	演習	2	2	○	プログラミングⅠ
	IST2470L	プレゼンテーション演習	演習	2	2	○	
	IST2471L	マルチメディア表現Ⅰ	演習	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST2472L	Webページプログラミング	演習	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST3462L	データベースⅡ	演習	4	3	○	データベースⅠ
	IST3472L	マルチメディア表現Ⅱ	演習	4	3	○	マルチメディア表現Ⅰ
	IST3131L	情報ネットワーク演習	講義	2	3	○	情報ネットワーク
	IST3250L	情報分析論	講義	4	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST2240L	情報デザイン論	講義	2	2	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST3380L	情報と職業	講義	2	3	○	情報システム論
	IST3220L	システム設計論	講義	4	3	○	情報システム論
	IST3120L	ソフトウェア概論	講義	4	3	○	情報システム論
	IST3140L	ヒューマンコンピュータインターフェイス	講義	4	3	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST4280L	情報セキュリティ論	講義	2	3	○	コンピュータリテラシーⅡ
	IST4240L	知識表現とプログラミング	講義	2	3	○	情報システム論、プログラミングⅠ
	ENV1001L	環境と文明	講義	4	1	○	
	ENV2050L	文系のための環境科学	講義	2	2	○	
	ENV2040L	環境とまちづくり	講義	2	2	○	
	ENV2041L	環境と地域	講義	2	2	○	
	ENV2310L	環境とキリスト教	講義	2	2	○	
	SOC2020L	社会統計基礎	講義	2	2	○	
	ENV2311L	エネルギーと環境	講義	2	2	○	
	ENV2350L	人と自然	講義	2	2	○	
	ENV2351L	環境生物学	講義	2	2	○	
	ENV2151L	地球規模環境論Ⅰ	講義	2	2	○	
	ENV2152L	地球規模環境論Ⅱ	講義	2	2	○	地球規模環境論Ⅰ
	ENV2352L	感覚公害論	講義	2	2	○	
	ENV2360L	環境リスク論	講義	2	2	○	
	ENV2030L	人間環境学	講義	4	2	○	
	ENV2010L	環境思想概論	講義	2	2	○	
	ENV2331L	江戸から学ぶ環境	講義	2	2	○	
	ENV2300L	エコロジー・デザイン特殊講義	講義	2	2	○	
	ENV2330L	環境ビジネス論	講義	2	2	○	
	ENV2340L	国際環境交渉論	講義	2	2	○	
	ENV3400L	野外安全管理	演習	1	2	○	ECO−TOP　登録者のみ履修可
	MED3400L	救急救命演習	演習	1	2	○	ECO−TOP　登録者のみ履修可
	ENV2400L	ECO-TOPインターンシップ事前研修	演習	1	2	○	ECO−TOP　登録者のみ履修可
	ENV2401L	ECO-TOPインターンシップ事後研修	演習	1	2	○	ECO−TOP　登録者のみ履修可

専攻プログラム ＼ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
情報ネットワーク																														○		
応用表計算																									○			○		○		
プログラミングⅠ																									○					○		
プログラミングⅡ																									○					○		
プレゼンテーション演習						○																								○		
マルチメディア表現Ⅰ																														○		○
Webページプログラミング																														○		
データベースⅡ																														○		
マルチメディア表現Ⅱ																														○		
情報ネットワーク演習																														○		
情報分析論																														○		
情報デザイン論																														○		
情報と職業																														○		
システム設計論																														○		
ソフトウェア概論																									○					○		
ヒューマンコンピュータインターフェイス																														○		
情報セキュリティ論																														○		
知識表現とプログラミング																														○		
環境と文明											○																				○	
文系のための環境科学																															○	
環境とまちづくり																															○	
環境と地域																															○	
環境とキリスト教																															○	
社会統計基礎																															○	
エネルギーと環境																												○			○	
人と自然									○																			○			○	
環境生物学																												○			○	
地球規模環境論Ⅰ																													○		○	
地球規模環境論Ⅱ																													○		○	
感覚公害論																															○	
環境リスク論																											○				○	
人間環境学																															○	
環境思想概論																															○	
江戸から学ぶ環境																															○	
エコロジー・デザイン特殊講義																															○	
環境ビジネス論																															○	
国際環境交渉論																															○	
野外安全管理																															○	
救急救命演習																															○	
ECO-TOPインターンシップ事前研修																															○	
ECO-TOPインターンシップ事後研修																															○	

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
学際・統合科学系科目群	ENV2601L	ECO−TOP インターンシップⅠ	実習	2	2	○	ECO−TOP　登録者のみ履修可
	ENV2602L	ECO−TOP インターンシップⅡ	実習	2	2	○	ECO−TOP インターンシップ事前研修、 ECO−TOP インターンシップⅠ ECO−TOP　登録者のみ履修可
	LAW3180L	環境法学	講義	4	3	○	
	ENV3141L	都市環境政策Ⅰ	講義	2	3	○	
	ENV3142L	都市環境政策Ⅱ	講義	2	3	○	
	ENV3120L	環境教育論	講義	2	2	○	
	SOC3350L	環境社会学	講義	4	2	△	
	ENV3143L	環境マネジメント論	講義	2	2	○	
	ENV3380L	資源循環論	講義	4	3	○	
	ENV3230L	社会環境調査法	講義	2	2	○	
	ENV3250L	自然環境調査法	講義	2	3	○	
	ENV3330L	食品安全論	講義	2	3	○	
	ENV3331L	環境 NPO・NGO	講義	2	3	○	
	ENV3332L	社会環境と知的財産	講義	2	3	○	
	ENV4900L	環境科学総合演習	実験･実習	2	4	△	秋学期に履修登録すること
	MJS1000L	メディア　−きのう 今日 明日−	講義	2	1	○	
	MJS1001L	ジャーナリストへの道	講義	2	1	○	
	MJS2020L	テレビ・放送の世界	講義	2	1	○	
	MJS2010L	新聞の世界	講義	2	1	○	
	MJS2030L	出版の世界	講義	2	1	○	
	MJS2050L	広告の世界	講義	2	1	○	
	MJS3210L	新聞社説を読む	講義	2	2	○	
	MJS3211L	地方紙を読む	講義	2	2	○	
	MJS3280L	英字紙を読む	講義	2	2	○	
	MJS2250L	広告コピーを読む	講義	2	2	○	
	MJS2230L	出版ジャーナリズム	講義	2	2	○	
	MJS2460L	スポーツジャーナリズム	演習	2	2	○	
	MJS2200L	日本のジャーナリズム	講義	2	2	○	
	MJS2201L	アメリカのジャーナリズム	講義	2	2	○	
	MJS2270L	若者とメディア	講義	2	2	○	
	MJS347*L	現代メディア研究	演習	2	2	×	重複履修可
	MJS3470L	メディアと人権	演習	4	2	×	
	MJS3471L	環境とメディア	演習	4	2	×	
	MJS3472L	女性とメディア	演習	4	2	×	
	MJS3473L	子供とメディア	演習	4	2	×	
	MJS3460L	スポーツにんげん学	演習	4	2	×	
	MJS3490L	雑誌をつくる（デジタル編集実践講座）	演習	4	2	×	
	MJS349*L	マスコミ特訓講座	演習	2	3	×	重複履修可

「＊」：数字コードが複数存在する科目

専攻プログラム ＼ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
ECO-TOP インターンシップⅠ																															○	
ECO-TOP インターンシップⅡ																															○	
環境法学																															○	
都市環境政策Ⅰ																															○	
都市環境政策Ⅱ																															○	
環境教育論																															○	
環境社会学																			○												○	○
環境マネジメント論																															○	
資源循環論																															○	
社会環境調査法																			○												○	
自然環境調査法																												○			○	
食品安全論																											○				○	
環境 NPO・NGO																															○	
社会環境と知的財産																															○	
環境科学総合演習																															○	
メディア －きのう 今日 明日－																																○
ジャーナリストへの道										○																						○
テレビ・放送の世界																																○
新聞の世界																																○
出版の世界										○																						○
広告の世界																																○
新聞社説を読む										○																						○
地方紙を読む																																○
英字紙を読む																																○
広告コピーを読む																																○
出版ジャーナリズム																																○
スポーツジャーナリズム																																○
日本のジャーナリズム															○																	○
アメリカのジャーナリズム													○																			○
若者とメディア																																○
現代メディア研究																																○
メディアと人権																																○
環境とメディア																																○
女性とメディア																																○
子供とメディア																																○
スポーツにんげん学																																○
雑誌をつくる（デジタル編集実践講座）																																○
マスコミ特訓講座																																○

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
学群共通	ACG2301L	学外研修事前学習	講義	2	2	○	
	ACG2302L	学外研修事後学習	講義	2	2	○	
	ACG2601L	インターンシップⅠ	実習	2	2	○	
	ACG2602L	インターンシップⅡ	実習	2	2	○	
	ACG2603L	インターンシップⅢ	実習	2	2	○	
	ACG2604L	インターンシップⅣ	実習	2	2	○	
	###39**L	専攻演習Ⅰ	演習	2	3	△	
	###39**L	専攻演習Ⅱ	演習	2	3	△	専攻演習Ⅰ
	###49**L	卒業研究	実験・実習	4	3	△	専攻演習Ⅱ
	###49**L	卒業論文	実験・実習	4	3	△	専攻演習Ⅱ

「###」：３文字コードが複数存在する科目

「＊」：数字コードが複数存在する科目

諸注意

①専攻演習と卒業論文・卒業研究

（イ）「専攻演習」は４セメスター目に事前登録を行います。希望者が集中した場合は、選抜が行われることがあります。

（ロ）「卒業論文」または「卒業研究」の指導は原則として「専攻演習」担当教員が引き続き指導することになります。「卒業論文」または「卒業研究」を履修したい場合、「専攻演習Ⅰ」及び「専攻演習Ⅱ」を修得してください。

専攻プログラム ＼ 授業科目	英語学・英文学	中国言語文化	日本語日本文学	日本語教育	言語学	コミュニケーション学	現代世界文学	キリスト教学	宗教学	哲学	倫理学	文化人類学	アメリカ地域研究	アジア地域研究	日本地域研究	歴史学	国際関係	国際協力	社会学	心理学	教育学（教職教育）	博物館学	国際経済	ビジネスエコノミクス	公共政策	数学	物理学	化学	生物学	地球科学	情報科学	環境学	メディア（ジャーナリズム）
学外研修事前学習																																
学外研修事後学習																																
インターンシップⅠ																																
インターンシップⅡ																																
インターンシップⅢ																																
インターンシップⅣ																																
専攻演習Ⅰ																																
専攻演習Ⅱ																																
卒業研究																																
卒業論文																																

４．芸術文化学群

１．芸術文化学群について

芸術文化学群はキリスト教精神に基づき、教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを基本理念とし、芸術分野における専門知識と技能を身につけ、グローバルな視野をもって芸術文化の振興に貢献する人材を育成することを目的としています。

本学群は、より専門性を高めた芸術教育をおこなうため、2005年に文学部・総合文化学科から独立した学群へと発展しました。「演劇・ダンス」「音楽」「ビジュアル・アーツ」の３つの専修を置き、芸術を総合的に学ぶ環境を整えています。

本学群の授業科目は理論系の講義科目と実技・実習系の科目がバランスよく配置されています。特に実技・実習系の科目では第一線でプロとして活躍する教員による指導を受け、プロフェッショナルの世界を体験し、実践的な知識と技術を身につけることが可能です。一方、演劇・ダンス、音楽、ビジュアル・アーツ、各分野の学びをより深く追求するためには、他分野の知識や技術が必要になることもあります。本学群では講義科目を中心に他のコースの科目を履修することも可能であり、幅広く芸術分野を学ぶことができます。

理論と実践の融合、他分野を取り組んだ総合的な学修により、芸術作品・パフォーマンスを生み出すアーティストを養成するだけでなく、芸術文化の普及と支援に貢献する人材を育成します。

２．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学群は、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを基本理念とし、芸術分野における専門知識と技能を身につけ、グローバルな視野をもって芸術文化の振興に貢献することを目的としています。そのため、本学群では目的実現のため編成されたカリキュラムのもと、定められた在学期間に通算ＧＰＡ1.5以上、124単位以上を修得し、以下の知識、技能、能力を身につけた者に対し、卒業を認定し学士の学位を授与します。また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学群の学びは全て学園の行動指針である「学而事人（学びて人に仕える）」に結びつくようになっています。

（１）専攻する各分野における知識・理解

芸術分野における幅広い知識と教養を修得し、専攻する分野において専門家として必要な知識・技能を修得し、幅広い視野と豊かな感性を以って積極的に活動することができる。

（２）コミュニケーション能力

国内外の芸術文化への理解を深め、語学力やプレゼンテーション能力を高め、グローバル社会の中で自分の思いや考えを的確に表現し、他者と協調・協働することができる。

（３）問題発見・解決能力

芸術の理論と実践を結合し、複雑多様化する社会の諸問題を発見する分析力、洞察力を養い、それらの問題や課題に対して、芸術活動を通じ専門的な能力を活用して適切な対応を模索し実行することができる。

（４）チームワーク、リーダーシップ

芸術を学ぶことで獲得した「表現力」「構築力」「創作力」を活かし、時には他の領域・分野と協働し、リーダーシップを発揮して社会に対してより良い方向性を示し、目標実現に向けて牽引することができる。

（５）市民としての社会的責任

芸術活動を通じて社会における芸術文化の発展に寄与する使命感を持ち、社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、新たな芸術的価値を創造することで社会の発展のために積極的に関与できる。

（６）生涯学習力

授業及び課外活動における芸術の探究や様々な学修体験を通して、豊かな人間性と学修に対する継続的な強い意欲を身につけ、卒業後も目標に向かってあきらめることなく、自律・自立して学修を継続することができる。

３．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を「学群指定科目」、「専攻科目」及び「自由選択」という３つの区分に分けて編成しています。授業は、講義、演習、実習、実技のいずれかの方法、又はこれらの併用により行います。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。

このような教育課程の編成と、学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方を以下のように定めています。

（1）教育課程の編成

①「学群指定科目」は、本学群生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎的な知識と技能を身につけるための科目であり、「キリスト教理解」「コンピュータリテラシー」「論理とコミュニケーション」「外国語」の４つの分野から編成されます。

②「専攻科目」は、学群指定科目で得た知識・技能を踏まえ、専門分野について理解を深めるために設置する科目で、「学群共通科目」と「専攻共通科目・専修科目」から編成しています。学群共通科目は教養科目および３コースに共通する芸術科目から構成されます。「学群共通科目」を学ぶことで、学生は教養を身につけ、自コース以外の分野にも視野を広げることができます。「専修科目」はコース別に設置した科目で、専門的基礎理論や表現方法などを学びます。このように本学群のカリキュラムは基礎教育から専門教育へ、さらに「専攻共通科目」である「専攻演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」へと関連性をもって能力・資質を引き上げられるように体系化しています。

③「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することができます。他専修、他学群、他大学等の科目を修得することで、自らの専門性をさらに深める、あるいは自身の知識の幅を広げることが可能になります。このように本学群のカリキュラムは総合大学ならではの視野の広いプロフェッショナルを育成する構成となっています。

（2）学修方法・学修過程

①多様な入学者に対する初年次教育として「学群指定科目」を設置しています。「学群指定科目」は全員対象の科目であり、専攻科目の授業内容を理解する上で必要な基礎知識を養成します。「キリスト教理解」分野によって建学の精神、及びキリスト教に関する理解を深めます。また、「論理とコミュニケーション」「コンピュータリテラシー」「外国語」の各分野を履修することで大学での学修に必要なスキルを修得します。さらに「学群共通科目」では「文化と芸術」「人間と社会」「生命と自然」の各分野を通じて幅広い教養を身に付けます。このように本学群における学修が円滑かつ充実する目的で学群指定科目と学群共通科目を設置しており、必修となっています。

②国際人を育てることが桜美林学園の建学の精神であり、「学群指定科目」の英語コアを必修としています。学生は入学時のプレースメントテストによって習熟度別クラスに分かれ、各自のレベルに合わせて段階を踏んで英語を学修することができます。また、約４か月間の留学（GO プログラム）制度が設けられ、さらに語学能力を高めることもできます。その他の外国語科目については、本ガイド「Ⅲ. 授業科目と履修方法」の「４. 外国語科目（P. 18～）」と、本学ホームページ「学生生活」→「授業時間割関連情報」→「学群ごとの注意事項」→「芸術文化学群」を併せて確認してください。

③本学群のような芸術分野では、創造的で主体的に学ぶことが求められるため、「専攻科目」では講義、演習、実習、実技といった多様な方式の授業を開講しており、学生が自由に履修計画を立てることができます。科目の難易度をナンバリングで示し、先修条件を設けるなど基礎から応用へと、学生自身の成長に合わせ体系的、段階的に学べるよう設定しています。また、サービス・ラーニング科目（授業＋学外フィールド作業）、アウトリーチ、課外活動など能動的に取り組む地域社会参加プログラムも積極的に行っています。

④本学では「アドバイザー制度」を設け、学生一人ひとりの学修計画や履修登録に関する確認などを行っています。アドバイザーは、学生自身が専攻する分野での科目履修が適切かつ効果的となるような学修指導を行っています。また、教育支援事務による履修・学修相談も随時行われ、教職員が一丸となった学修支援体制を整えています。

⑤学群で開講する各科目の目的、到達目標、習得する知識・技能の関連性を図示したカリキュラム・マップにより、教員と学生が可視化されたカリキュラムを共有することができます。これにより教育全体を俯瞰することができ、学生がどの科目を学修すれば「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた項目の能力・資質を高めることが可能となるのかを把握できるようにします。

⑥卒業後の進路指導として２年次および３年次に「キャリアデザイン」を設置し、学生の意識を高めるよう配慮しています。また、３年次からは本学群専門のキャリア・アドバイザーが付き、学生の相談を受けアドバイスを行います。また、インターンシップを科目として設置しており、学外での研修が卒業後の進路を考える上で役立つだけでなく、社会での実体験が大学での学修成果向上にも役立っています。

（３）学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示される各科目が目標とする学修の到達度が、学生自身にとってどの程度であるかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバス（授業計画）において具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼンテーション、協同作業など）の特徴を示した評価基準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

演劇・ダンス専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

（１）演劇

本専修では現代演劇を中心に、「演劇」の基礎から応用までを学びます。実技・実習と理論の両面からの総合的な学びを通して、プロフェッショナルな道に進もうとする者はもちろんのこと、社会人としても演劇の教養を自身の生活と地域社会に活かせる人材を育成します。そのため日本古典演劇（能楽、人形浄瑠璃、歌舞伎）から中国の伝統的な演劇である京劇まで幅広い科目を揃え、また年に数回、プロの演出家の指導により、地域市民をはじめとする一般観客の鑑賞に堪える本格的な舞台作品を創作し公演します。

①教育課程の編成

ア）１年次には、本学群の学生に共通の基礎的な知識と技能を身につけるための学群指定科目（16単位）、学群共通科目（20単位）に加えて、主に演劇を中心に学びたい学生のための「演劇入門」と総合芸術と呼ばれる舞台芸術に欠かせないスタッフワークを理解する「舞台芸術基礎Ａ」の必修科目を中心に学びます。また選択必修として演技を初歩から学ぶ「舞台芸術基礎Ｂ」を用意しています。演劇を構成する様々な要素を幅広く学ぶことからスタートし、２年次以降は各自の興味や適性、進路設計に基づく学修を行います。

イ）学生の目標は、俳優、声優、舞台技術のスペシャリスト、演出家、劇作家、プロデューサー、演劇指導者、演劇研究者など多岐に及びますので、１年次からコース分けをせず、各自の適性と目標の発見を促します。

ウ）演劇に関する学びの成果を生かし、演劇の手法を応用して地域社会に還元するワークショップ等のファシリテーター（活動支援者）やインストラクターの育成を行います。

エ）実践教育の実際に関しては、プロの演出家が指導する OPAL（桜美林大学パフォーミングアーツ・レッスンズ）が毎年、複数回上演されます。

②学修方法・学修課程

ア）実習活動 OPAL は、設備の整った実習室・ホールを軸にして、俳優の技術、および照明、音響、舞台監督、舞台美術、制作等の技術、その両者を有機的に連動させたプロフェッショナルの教育であり、実演者および制作やテクニカルのスタッフとして実際に舞台を創り上げる過程を体験し、厳しい一般観客の鑑賞眼に堪える高水準の作品づくりを目指します。

イ）常に地域の文化芸術に貢献する観点からアウトリーチ活動やワークショップを実践的に学ぶ場を用意しており、福祉施設や学校等で行う様々なプログラムに参加する機会を設けています。

ウ）本学の有する優れた劇場施設の運営の一端を学生自身が担うことで、「表現の場」の運営や安全管理について実践的に学び、その自覚を促しています。また、「舞台芸術祭」の企画制作など、学生自らが創作活動を行う機会を多数設け、互いを磨き合い、仲間作りをしながら才能を伸ばします。これらの実践教育は、俳優や声優、プロデューサーや演出家、技術スタッフ等を目指す学生だけでなく、人間関係を学ぶ生きたコミュニケーション教育として全ての学生に有効です。

エ）古典から前衛まで、エンターテインメントから実験作まで、さらに国際的な作品も含めて、優れた演劇作品を選び、希望学生に観る機会を提供します。鑑賞後にはレポートの提出を課し、鑑賞、作品の印象を定着させます。

オ）演劇芸術を学ぶためにはダンス、音楽、ビジュアル・アーツ等、近接する芸術領域や哲学、社会学、心理学など人間と社会に対する理解が必須であり、授業科目の中から自由に選択履修することを推奨しています。

カ）グローバルな視野を持つ国際人育成を目的とする観点から、毎年、語学研修や、海外の演劇公演を鑑賞する短期研修を実施しています。また京劇の授業は中国に招聘され北京や上海など国際的な舞台で上演しています。

③学修成果の評価の在り方

ア）学修成果の可視化は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた諸項目と、学修方法・学修過程（カリキュ

ラム・マップ等）により示されています。

イ）学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバス（授業計画）で具体的に示されています。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベル、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼンテーション、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

（2）ダンス（舞踊）

本専修では、コンテンポラリーダンス、クラシックバレエ、コンテンポラリーバレエ、ジャズダンス、日本舞踊、コミュニティダンスなどの基礎から応用、舞踊史などを学びます。理論と実践の両面から総合的に学び、それを社会に還元できる人材を育成します。

その一環として年に数回、プロの振付家の指導により、地域市民をはじめとする一般観客の鑑賞に堪える本格的な舞台作品を創作し公演します。

①教育課程の編成

ア）１年次には、本学群の学生に共通の基礎的な知識と技能を身につけるための学群指定科目（16単位）、学群共通科目（20単位）に加えて、主にダンスを中心に学びたい学生のための「舞踊入門」と総合芸術と呼ばれる舞台芸術に欠かせないスタッフワークを理解する「舞台芸術基礎Ａ」の必修科目を中心に学びます。さらに、ダンスを踊る前提となる、健康的な身体づくりのための理論と実技を学ぶ選択必修科目「ボディワークＡ」も用意しており、ダンス（舞踊）という総合芸術を構成する様々な要素を、幅広く学ぶことからスタートして、２年次以降は各自の興味や適性、進路設計に基づく学修を行います。

イ）学生の目標は、ダンサー、振付家、ダンス（舞踊）指導者、ダンス（舞踊）研究者など多岐に及びますので、１年次からのコース分けをせず各自の適性と目標の発見を促します。

ウ）ダンス（舞踊）に関する学びの成果を生かし、地域社会においてダンスの手法を応用するワークショップ等の活動を通してファシリテーター（活動支援者）、インストラクターの育成を行います。

エ）実践教育に関しては、プロの振付家が指導にあたり、OPAL（桜美林大学パフォーミングアーツ・レッスンズ）が毎年、上演されます。

②学修方法・学修課程

ア）実習活動 OPAL は、プロフェッショナルの教育であり、設備の整ったレッスン室・ホールを基にして、実際に舞台を創り上げる過程を体験し、厳しい一般観客の鑑賞眼に堪える高水準の作品づくりを目指します。

イ）常に地域の文化芸術に貢献する観点からアウトリーチ活動やワークショップを実践的に学ぶ場を用意しており、福祉施設や学校等で行う様々なプログラムに参加する機会を設けています。

ウ）本学の有する優れた劇場施設の運営の一端を学生自身が担うことで、「表現の場」の運営や安全管理について実践的に学び、その自覚を促しています。また、「舞台芸術祭」の企画制作など、学生自らが創作活動をする機会を多数設け、互いを磨き合い、仲間作りをしながら才能を伸ばします。これらの実践教育は、コミュニティダンスやアートマネジメントの実践を目指す学生にも有効です。

エ）古典から前衛まで、エンターテインメントから実験作まで、さらに国際的な作品も含めて、優れたダンス公演を選び、希望学生に観る機会を提供します。鑑賞後にはレポートの提出を課し、鑑賞、作品の印象を定着させます。

オ）ダンス（舞踊）芸術を学ぶためには演劇、音楽、ビジュアル・アーツ等、近接する芸術領域や哲学、社会学、心理学など人間と社会に対する理解が必須であり、授業科目の中から自由に選択履修することを推奨しています。

カ）グローバルな視野を持つ国際人育成を目的とする観点から、毎年、語学研修や、海外のダンス教育を体験する短期研修を実施します。

③学修成果の評価の在り方

ア）学修成果の可視化は、「卒業認定・学位授与の方針」に定められた諸項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示されています。

イ）学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバス（授業計画）に具体的に示されています。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベル、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼンテーション、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

音楽専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

音楽専修では器楽、声楽、ミュージカル、古楽、ジャズ、作曲、コンピュータ音楽、音楽理論などの各分野を、確たる芸術観と理念のもとに基礎から教育します。音楽的知識全般と各専門領域の技能の習得のみならず、社会においてそれらを応用する力を養うことを重要視しています。目標とする人物像は、社会人としての教養を併せ持つ音楽人です。

①教育課程の編成

ア）基礎的な知識と技能を身につけるため、学群指定科目（16単位）、学群共通科目（20単位）、音楽入門を必修とします。入学者がこれまで受けてきた音楽教育は多様であるため、学生個々の目的、レベルに応じて、ソルフェージュなどの基礎から応用までを学ぶことができます。また、西洋音楽史、東洋音楽史、現代音楽史、音楽学などの履修により、基礎知識を身につけることができます。

イ）実技科目はピアノ、パイプオルガン、管弦打楽器、和楽器、声楽、ミュージカル、作曲など多岐にわたり、その多くは、１年次から複数回履修可能で、４年間を通じて段階的なレベルアップを目指します。

ウ）２年次以降の専修科目は、１年次に引き続きピアノ、パイプオルガン、管弦打楽器、声楽、オペラ、ミュージカル、作曲など実技の学びを深めるほか、チェンバロを用いて古楽の分野にも足を踏み入れることができます。

エ）１～２年次の学修を踏まえ、３年次には「専攻演習Ⅰ・Ⅱ」において専門技能・知識の理解を深め、そして４年次には「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」に取り組み、学びの集大成として卒業論文作成、または演奏会、発表会の企画と実施を行います。

②学修方法・学修課程

ア）１～２年次の実技レッスンは各学期２科目まで履修することができ、そのほかに副科実技も設けられています。また、海外から招聘した演奏家による公開レッスンも実施しており、各自に適した履修プログラムを選択することができます。

イ）演奏系の専攻演習はサービス・ラーニング科目になっており、地域との結びつきの中で実践的演習を行うことで、日々の学修の成果を確認することができます。

ウ）インターンシップを通じて、音楽を支える仕事を体験することで、社会の中での仕事の役割を理解し、卒業後の進路を考える上で役に立ちます。

エ）グローバルな人材を育成するため、海外研修を毎年実施し、海外の芸術文化に触れ視野を広げます。

オ）専門性を深める学修の他に、学内外の授業科目の中から自由に選択し、多様な関心や目的を達成するために履修することができます。

カ）音楽専修が推薦する世界的な演奏家によるコンサートの中から、希望学生に鑑賞の機会を提供します。鑑賞後にはレポートの提出を課します。

③学修成果の評価の在り方

ア）学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた諸項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示されています。

イ）学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバス（授業計画）において具体的に示されています。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベル、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼンテーション、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

ビジュアル・アーツ専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

近年、アートの世界は従来のような美術、工芸、デザイン、メディアアート、映像といったカテゴリーではくくれない、多様でハイブリッドな作品が生み出されています。また今日活躍するアーティストやデザイナーも一つのジャンルに収まらない人が増えています。ビジュアル・アーツ専修では、視覚芸術について幅広い視野と独自の視点を持ち、新たなビジュアル・アーツの世界を切り開く人材を育てることが目標です。

①教育課程の編成

ア）本学群の学生に共通の基礎的な知識と技能を身につけるための学群指定科目（16単位）、学群共通科目（20単位）、ビジュアル・アーツ入門を必修とします。さらに２年次以降の専門科目を学ぶ上で必要な基礎知識を身につけることができるように、選択科目としてビジュアル・アーツ各分野の基礎的な科目を開講しています。

イ）２年次以降の専修科目は、美術・工芸、テキスタイル、デザイン、メディアアート、映像など各分野の講義、

演習、実習科目から編成されおり、各自が自由に選択することができます。

ウ）１～２年次の学修を踏まえ、３年次には少人数指導による「専攻演習Ⅰ・Ⅱ」において専門知識の理解を深め、そして４年次には「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」に取り組み、学びの集大成とします。

②学修方法・学修過程

ア）美術、工芸、デザイン、テキスタイル、メディアアート、映像などのコース別に学ぶのではなく、１年次には視覚芸術全体を把握し、各分野の基礎力を徹底的に育成します。一人一人が学修の成果を網目状に結びつけネットワーク化させることで専門性を深化させ、各自が個性的で独創的な芸術世界を構築します。

イ）専修科目を基礎から応用へと体系的に学修するために、先修条件や履修順序を指定する場合があります。また多くの実技、実習、演習科目は複数回履修することが可能であり、段階的にレベルが向上します。

ウ）授業やゼミで制作される作品は、学内外の展示スペースで発表し、多くの人の目に触れられることを目指します。また卒業研究作品選抜展を学外のギャラリーで開催し発表します。

エ）学外の美術・デザインの展示会やアートフェスティバルなどの芸術鑑賞プログラムを実施し、希望学生に鑑賞の機会を提供します。鑑賞後にはレポートを課します。

オ）専門性を深める学修の他に、多様な関心や目的を達成するために、他専修あるいは学内外の授業科目の中から自由に選択履修することができます。

カ）企業等でのインターンシップに参加し、実践的に学ぶと同時に卒業後の進路を考える機会を得ます。

キ）グローバルな視野を持つ国際人育成を目的として、毎年、海外の芸術大学での短期研修を実施しています。

③学修成果の評価の在り方

ア）学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた諸項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示されています。

イ）学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバス（授業計画）において具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベル、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼンテーション、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

４．卒業要件

※○数字は科目の単位数を表します。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">芸　術　文　化　学　群</th></tr>
<tr><th>演劇・ダンス専修</th><th>音楽専修</th><th>ビジュアル・アーツ専修</th></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">学群指定科目

16単位
（最低必要単位）
（注１）</td><td colspan="3">キリスト教入門②
コンピュータリテラシーⅠ②
日本語コミュニケーションⅠ②
英語コアⅠA②
英語コアⅠB②
英語コアⅡA②
英語コアⅡB②
上記７科目14単位必修</td></tr>
<tr><td colspan="3">日本語コミュニケーションⅡ② または数と論理②
上記２科目のうち、１科目２単位選択必修</td></tr>
<tr><td rowspan="5">専攻科目

70単位
（最低必要単位）</td><td rowspan="2">学群共通科目
20単位必修</td><td colspan="3">文化と芸術②
人間と社会②
生命と自然②
健康科学②
３分野より各２科目４単位　計12単位必修（注２）
上記14単位必修</td></tr>
<tr><td colspan="3">上記以外の学群共通より、６単位選択必修</td></tr>
<tr><td rowspan="3">専攻共通科目
・
専修科目
50単位必修</td><td>舞台芸術基礎A④
必修</td><td rowspan="2">音楽入門②
必修</td><td rowspan="2">ビジュアル・アーツ入門②
必修</td></tr>
<tr><td>演劇入門②　または
舞踊入門②
上記２科目のうち、
１科目２単位選択必修

舞台芸術基礎B④ または
ボディワークA④
上記２科目のうち、
１科目４単位選択必修</td></tr>
<tr><td>専攻共通科目、
演劇・ダンス科目群より、
選択40単位</td><td>専攻共通科目、
音楽科目群より
選択48単位</td><td>専攻共通科目、
ビジュアル・アーツ
科目群より
選択48単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">自由選択</td><td colspan="3">・学群指定科目、専攻科目の最低必要単位を超えて修得した単位
・自学群他専修の専修科目
・他学群の科目
・他大学等（短期大学、海外留学の科目を含む）認定単位（P. 209）
・各種技能審査による認定単位（P. 210～212）</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業要件単位合計

学群指定科目、専攻科目、
自由選択、あわせて

124単位以上</td><td colspan="3">【その他の要件】

１．入学時からの通算ＧＰＡが1.5以上

２．各自所属のコースをメジャーとして必ず修了すること</td></tr>
</table>

（注１）一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。

外国人留学生等（日本語を母語としない者）は、「日本語コミュニケーションⅠ」「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語専門基礎AⅠ・AⅡ・B」を各２回、合計10単位を修得しなければなりません。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。

外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

（注２）学群共通科目における「文化と芸術」、「人間と社会」、「生命と自然」の授業科目は、（　）内にサブタイトルが記載され、各２科目開講されます。P. 134「６．学群指定科目・専攻科目と諸注意」学群共通科目参照。

サブタイトルが異なる２つの科目の単位を卒業までに修得することが必須となります。

５．専攻コース案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻コースが置かれています。芸術文化学群の専攻科目で構成される専攻コースを登録すると、「学業成績単位修得証明書」に、登録中のメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。登録したメジャーまたはマイナーの修了要件を満たした上で卒業すると「学業成績単位修得証明書」に修了したメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業の要件となっています。ただし、芸術文化学群以外の専攻プログラム・専攻コース等をメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、芸術文化学群の専攻コースからだけでなく、他学群のものをマイナーとして登録することもできます。

ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

１．マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。

２．他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。

３．他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

メジャーについては、入学時に専修に基づき、登録されています。

マイナーの登録は、５セメスター目より受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までマイナーの変更もできます。

専攻コースの種類は、以下のとおりです。

芸術文化学群

専攻コース	メジャー	マイナー
演劇・ダンス	○	○
音楽	○	○
ビジュアル・アーツ	○	○
カルチャー管理		○※

※カルチャー管理コースのみ他学群登録可

演劇・ダンスコース

１．教育目的

演劇・ダンス専修では、演劇とダンスを中心とした「舞台芸術」の学びから得た知識と技術、体験と発想を通して地域文化の中核を担える人材を育成することを目標とします。それを前提に、俳優やダンサー、劇作家、演出家、振付家、技術スタッフ、プロデューサー、制作者、ファシリテーター等のプロフェッショナルや、舞台芸術の教養を自身の生活に活かせる感性豊かな社会人になるための教育を行います。「舞台芸術」の究極の目的は、一言で言えば「同時代を、同時代人と共に生きている実感」を得ることです。時代がかつてないほど大きく変わり、生きている実感が得にくくなりつつあると言われる中、本専修では舞台芸術を通じて時代と人間の本質を探る目をしっかりと養い、生きることの実感に迫ります。

２．カリキュラムの特徴

「舞台芸術」を実技と理論の両面から学ぶためのカリキュラムが充実しています。学びの方向性は「演劇」と「ダンス」の二つに分かれますが、両方を追いかける学修も可能です。共に一年次では、舞台芸術を構成する諸要素について広く学び、学年が進むに従って、自身の興味や適性、進路計画に沿ったカリキュラムを組み立てます。そのために、演劇史等の講義科目はもちろん、演技やダンス、脚本、演出、振付、技術スタッフ（照明、音響、舞台等）、プロデュース、ファシリテート等、学生の期待に応える多彩な科目が用意されています。演劇は現代演劇、ダンスはコンテンポラリーダンスが中心ですが、日本古典演劇や日本舞踊、クラシックバレエ、コンテンポラリーバレエ、ジャズダンスにも力を入れ、また日本で唯一、中国の伝統演劇である京劇の実践教育も行っています。年に数本ある「OPAL（桜美林大学パフォーミングアーツ・レッスンズ）は、プロの演出家や振付家から指導を受けて一般観客の鑑賞に堪えうる質の高い公演を目指します。国際的な視野を身につけるため、短期間の海外研修、海外演劇学校への留学も推奨しています。課外学習として、学生による演劇やダンスの活動が盛んであるのも大きな特徴です。

メジャー：卒業要件（P. 130）にある演劇・ダンス専修の専攻科目合計70単位以上（必修含む）を修得してください。
マイナー：「演劇入門」または「舞踊入門」を含む、演劇・ダンスマイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

音楽コース

１．教育目的

音楽コースは、音楽諸分野の技術を磨き知識を身につけるだけでなく、その学びを通して芸術の真髄に触れ、時代を超えた世界観を持つ人間性を構築することを目標としています。

演奏実技の各分野（声楽、ピアノ、管弦打楽器、パイプオルガン、ミュージカル）、音楽学分野（歴史、理論）、作曲分野（理論、実技）、古楽分野（バロック音楽の理論、チェンバロ）、キリスト教音楽（オラトリオ、ハンドベル、ゴスペル）、ジャズ・ポピュラー分野が設けられており、学生は各自の専攻分野に力を注ぎつつ、他分野の科目をも履修することができます。このようにして、学生はそれぞれの関心、能力、将来構想に合わせ、独自のカリキュラムを組み立てて行きます。どのようなカリキュラムが本人に合っているかは、アドバイザーが相談に乗ります。

また教員を目指す学生には教職課程が設けられており、定められた教職必修科目を履修し、単位を修得する必要があります。

２．カリキュラムの特徴

１年次には「音楽入門」「ソルフェージュ」の授業や、さまざまな分野の講義科目・演習科目を履修することで、基礎的な音楽の知識を習得します。実技科目も１年次より複数履修することができます。２年次以降は、それぞれの分野の知識をさらに深めるため、履修年次に従って各学生が授業を選択します。様々な分野を横断的に学ぶことで、高度な専門性と創造力が身につきます。

実技科目の声楽、ミュージカル発声法、ピアノ、器楽実技は主科と副科のいずれかを選択します。全て個人レッスンです。

「器楽実技Ⅰ - Ⅷ」では、弦楽器（ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ギター）、管楽器（フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォン、トランペット、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム、テューバ）、打楽器より選択できます。「器楽実技（副科）Ⅰ - Ⅷ」は、初心者対象にヴァイオリン、打楽器、ギター、邦楽器（尺八、箏、三味線・地歌）より選択できます。

メジャー：卒業要件（P. 130）にある音楽専修の専攻科目合計70単位以上（必修含む）を修得してください。
マイナー：「音楽入門」を含む音楽マイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

ビジュアル・アーツコース

１．教育目的

ビジュアル・アーツコースは、加速化する情報化社会の中で、多様化しボーダーレス化している現代の美術、工芸、テキスタイル、デザイン、メディアアート、映像などの視覚芸術について幅広い視野と独自の視点を持ち、新たなビジュアル・アーツの世界を切り開く人材を育てることが目標です。

その人材とは、作品を生み出すアーティストやデザイナー、アート・プロデューサー、キューレイター（学芸員）、中高の美術科の教員のような専門職に就く人たちだけではなく、アート以外の分野でも、在学中に培ったクリエイティブな能力を発揮し、社会に貢献する人も多く含まれています。

２．カリキュラムの特徴

１年次には、講義科目の「ビジュアル・アーツ入門」と演習科目の「ビジュアル・アーツ基礎」によって、視覚芸術の世界を横断的に学びます。同時に、美術、デザイン、映像、各分野の基礎的な知識と技術を徹底して習得します。

２年次以降のカリキュラムは、美術、工芸、テキスタイル、デザイン、メディアアート、映像など各分野の講義、演習、実習科目から編成されていますが、コース分けをするのではなく、各自が学修の成果をつなぎ、組み合わせることで、学びを深化させ自己の芸術世界を構築します。

３年次「専攻演習」や４年次「卒業研究」ではそれまでの探求の成果を発表しますが、それだけでなく学生の自主的

な個展やグループ展、あるいは授業で制作した作品を積極的にコンテストに応募するなどして外部の評価を受けます。

在学中に展示会等でなるべく多くの作品に触れること、またインターンシップで実社会を体験するなど、学外での学修も重視しています。

毎年、海外の芸術大学での短期研修を実施しており、将来、国際的に活躍するアーティストの育成を目指します。

メジャー：卒業要件（P. 130）にあるビジュアル・アーツ専修の専攻科目合計70単位以上（必修含む）を修得してください。

マイナー：「ビジュアル・アーツ入門」を含むビジュアル・アーツマイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

カルチャー管理コース　※マイナーのみ

マイナー：「社会文化・メセナ論」「知的財産権通論」「アートマネジメント論（P)」「アートマネジメント論（V)」「メディア論」を含め、カルチャー管理マイナー指定科目の中から24単位以上修得してください。

６．学群指定科目・専攻科目と諸注意

科目区分	マイナー指定科目（◎印はマイナー必修科目） 演劇・ダンス	音楽	ビジュアル・アーツ	カルチャー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
学群指定科目					CHR1000A	キリスト教入門	講義	2	1	×	○	必修
					CHR2342A	礼拝学Ａ	講義	2	1	○	○	
					CHR2343A	礼拝学Ｂ	講義	2	1	○	○	
					JLS1470A	日本語コミュニケーションⅠ	演習	2	1	×	○	必修
					JLS2471A	日本語コミュニケーションⅡ	演習	2	2	×	○	選択必修
					NSC2000A	数と論理	講義	2	2	×	○	選択必修
					IST1410A	コンピュータリテラシーⅠ	演習	2	1	×	○	必修
					IST1411A	コンピュータリテラシーⅡ	演習	2	2	×	○	
					ENG1400A	英語コアＩＡ	演習	2	1	×	○	必修
					ENG1401A	英語コアＩＢ	演習	2	1	×	○	必修
					ENG1402A	英語コアⅡＡ	演習	2	1	×	○	必修
					ENG1403A	英語コアⅡＢ	演習	2	1	×	○	必修
					ENG2450A	English through the arts (Drama)	演習	2	2	○	○	
					ENG2451A	English through the arts (Dance)	演習	2	2	○	○	
					ENG2452A	English through the arts (Music)	演習	2	2	○	○	
					ENG2453A	English through the arts (Visual Arts)	演習	2	2	○	○	
					ACG2000A	キャリアデザインＡ	講義	2	2	×	○	
					ACG2001A	キャリアデザインＣ	講義	2	3	×	○	
					ACG2002A	キャリアデザインＤ	講義	2	3	×	○	
学群共通科目					ART200*A	文化と芸術	講義	2	1	×	○	開講２科目　計４単位必修
					SSC200*A	人間と社会	講義	2	1	×	○	開講２科目　計４単位必修
					NSC200*A	生命と自然	講義	2	1	×	○	開講２科目　計４単位必修
			○	○	ART2002A	芸術と人間	講義	2	2	○	○	
			○	○	ART3003A	芸術と社会	講義	2	2	○	○	
				○	ART3004A	日本文化論	講義	2	2	○	○	
				○	ART3005A	西洋文化論	講義	2	2	○	○	
				○	ART3015A	東洋文化論	講義	2	2	○	○	
		○	○	◎	SOC2000A	社会文化・メセナ論	講義	2	2	△	○	
		○	○	◎	LAW3301A	知的財産権通論	講義	2	3	○	○	
			○	◎	ART3300A	アートマネージメント論(P)	講義	2	3	○	○	
				◎	ART3301A	アートマネージメント論(V)	講義	2	3	○	○	
					ART2421A	セルフプロデュース演習	演習	2	2	△	○	
					HSS2050A	解剖学	講義	2	2	○	○	
	○			○	LIT1010A	日本の文字文化	講義	2	1	○	○	
					THE2408A	詩と朗読	演習	1	2	△	○	
					THE3401A	詩と創作	演習・実技	1	2	△	○	
			○	◎	MJS2000A	メディア論	講義	2	2	○	○	
					ART16**A	芸術文化研修	実習	1～4	1	△	○	重複して８単位まで履修可
					ACG16**A	インターンシップ	実習	1～4	1	×	○	重複して８単位まで履修可、年間４単位上限
					HSS2000A	健康科学	講義	2	1	×	○	必修
					HSS200*A	スポーツ	実技	1	1	○	○	重複して６単位まで履修可
専攻共通科目	○	○	○		###39**A	専攻演習Ⅰ	演習	2	3	×	○	
	○	○	○		###39**A	専攻演習Ⅱ	演習	2	3	×	○	
	○	○	○		###49**A	卒業研究Ⅰ	演習	3	4	×	○	
	○	○	○		###49**A	卒業研究Ⅱ	演習	3	4	×	○	

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分	マイナー指定科目（◎印はマイナー必修科目） 演劇・ダンス	音楽	ビジュアル・アーツ	カルチャー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
演劇・ダンス科目群	◎				THE1004A	演劇入門	講義	2	1	×	○	選択必修
	◎				DNC1000A	舞踊入門	講義	2	1	×	○	選択必修
	○				THE1403A	演劇の世界	講義	2	1	○	○	
				○	THE2001A	演劇文化史	講義	2	2	○	○	
				○	THE2002A	演劇文化比較論	講義	2	2	○	○	
	○			○	THE2000A	海外演劇特殊研究A	講義	2	2	○	○	
	○			○	THE2101A	海外演劇特殊研究B	講義	2	2	○	○	
	○			○	THE1003A	日本演劇史	講義	2	1	○	○	
	○			○	THE1004A	西洋演劇史	講義	2	2	○	○	
	○			○	THE1008A	東洋演劇史	講義	2	2	○	○	
	○			○	THE1006A	古典演劇作品研究A	講義	2	1	○	○	
	○			○	THE1007A	古典演劇作品研究B	講義	2	1	○	○	
					THE1730A	日本古典劇演習（狂言）	講義・実技	2	1	△	△	
	○			○	THE2030A	日本古典劇研究	講義	2	2	○	○	
	○			○	THE1010A	日本近代劇研究	講義	2	1	○	○	
	○			○	THE2011A	日本現代劇研究	講義	2	2	○	○	
	○			○	THE1001A	宗教劇研究	講義	2	1	○	○	
	○			○	THE1002A	演劇論	講義	2	1	○	○	
	○			○	THE2112A	戯曲基礎	講義	2	2	×	○	
	○				THE2413A	戯曲演習	演習	2	2	×	○	戯曲基礎
	○			○	THE2021A	演出論	講義	2	2	○	○	
					THE3121A	演出研究	講義	2	3	×	×	演出論
	○			○	DNC1001A	西洋舞踊史A	講義	2	1	○	○	
	○			○	DNC1002A	西洋舞踊史B	講義	2	1	○	○	
	○			○	DNC2000A	舞踊文化比較論	講義	2	2	△	○	
				○	DNC2060A	日本舞踊史A	講義	2	2	○	○	
				○	DNC2061A	日本舞踊史B	講義	2	2	○	○	
				○	DNC2002A	舞踊作品研究A	講義	2	2	△	○	
				○	DNC2003A	舞踊作品研究B	講義	2	2	△	○	
					DNC2406A	身体原理入門	演習	2	2	×	×	ダンス基礎Ⅰ、またはボディワークA
	○				THE240*A	舞台芸術研究A	演習	2	1	△	△	重複して8単位まで履修可
	○				THE240*A	舞台芸術研究B	演習	2	1	×	○	重複して8単位まで履修可
	○			○	THE1014A	分析批評入門	講義	2	2	○	○	
	○				THE1408A	舞台芸術基礎A	演習	4	1	×	△	演劇・ダンス専修のみ必修
	○				THE1409A	舞台芸術基礎B	演習	4	1	×	△	選択必修
	○				DNC1400A	ボディワークA	講義・実技	4	1	×	△	選択必修
	○				DNC1401A	ボディワークB	講義・実技	4	1	×	△	
	○				THE2431A	上演実技Ⅰ	演習	4	2	×	△	身体訓練基礎
	○				THE2432A	上演実技Ⅱ	演習	4	2	×	△	
	○				THE3433A	上演実技Ⅲ	演習	4	3	×	△	
	○				THE3434A	上演実技Ⅳ	演習	4	3	×	△	
	○				THE1437A	身体訓練基礎	演習	4	1	×	△	舞台芸術基礎A、および舞台芸術基礎B または ボディワークA
	○				THE2438A	身体訓練演習	演習	4	2	×	△	身体訓練基礎
	○			○	THE2091A	制作基礎ⅠA	講義	2	2	△	○	
	○			○	THE2092A	制作基礎ⅠB	講義	2	2	△	○	

「###」：３文字コードが複数存在する科目

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分	マイナー指定科目（◎印はマイナー必修科目）				科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
	演劇・ダンス	音楽	ビジュアル・アーツ	カルチャー								
演劇・ダンス科目群	○			○	THE2192A	制作基礎ⅡA	講義	2	2	△	○	制作基礎ⅠA、または制作基礎ⅠB
	○			○	THE2193A	制作基礎ⅡB	講義	2	2	△	○	制作基礎ⅠA、または制作基礎ⅠB
					THE3492A	制作実地演習	演習	2	3	×	△	
	○				THE2473A	技術スタッフ基礎	演習	4	2	×	△	技術スタッフ入門
	○				DNC2407A	前衛の世界	演習	4	2	×	△	
	○				THE1474A	技術スタッフ入門	演習	4	1	×	△	舞台芸術基礎A
	○				THE2475A	照明・音響演習	演習	4	2	×	△	技術スタッフ基礎
	○				THE2476A	舞台美術と舞台運営	演習	4	2	×	△	技術スタッフ基礎
	○				THE3471A	技術スタッフ応用Ⅰ	演習	2	3	×	△	
	○				THE3472A	技術スタッフ応用Ⅱ	演習	2	3	×	△	
					THE2621A	オーディオ・ドラマ	演習	2	3	△	○	
					CIN2732A	映像身体表現演習	演習	2	3	△	○	
	○				DNC1704A	ダンス基礎Ⅰ	実技	2	1	×	△	
					DNC1702A	ダンス基礎Ⅱ	実技	1	1	×	△	
	○				DNC1711A	クラシックバレエ入門	実技	1	1	×	△	
	○				DNC1712A	クラシックバレエⅠ	実技	2	1	×	△	クラシックバレエ入門
	○				DNC2710A	クラシックバレエⅡ	実技	2	2	×	△	
	○				DNC2714A	クラシックバレエⅢ	実技	2	2	×	△	
	○				DNC3715A	クラシックバレエⅣ	実技	2	3	×	△	
					DNC1720A	コンテンポラリーバレエⅠ	実技	2	2	×	△	
					DNC2720A	コンテンポラリーバレエⅡ	実技	2	2	×	△	
					DNC2770A	コンテンポラリーバレエⅢ	実技	2	3	×	△	
	○				DNC1730A	コンテンポラリーダンス入門	実技	1	1	×	△	
	○				DNC1734A	コンテンポラリーダンスⅠ	実技	2	1	×	△	コンテンポラリーダンス入門
	○				DNC2730A	コンテンポラリーダンスⅡ	実技	2	2	×	△	
	~~◎~~				DNC2731A	コンテンポラリーダンスⅢ	実技	2	2	×	×	
	~~◎~~				DNC3730A	コンテンポラリーダンスⅣ	実技	2	3	×	×	
	○				DNC2770A	ジャズダンスA	実技	1	2	×	△	
	○				DNC2771A	ジャズダンスB	実技	1	2	×	△	
	○				DNC1751A	日本舞踊Ⅰ	実技	2	1	△	○	
	○				DNC1752A	日本舞踊Ⅱ	実技	2	1	△	○	
	○				DNC2751A	日本舞踊Ⅲ	実技	2	2	△	○	
	○				DNC2063A	日本舞踊演習	演習	1	2	○	○	
					DNC2360A	舞踊教育法Ⅰ	講義	2	2	×	×	
					DNC2361A	舞踊教育法Ⅱ	講義	2	2	×	×	
					DNC3360A	舞踊教育法Ⅲ	講義	2	3	×	×	
					DNC3361A	舞踊教育法Ⅳ	講義	2	3	×	×	
	○			○	DNC2062A	コミュニティダンス論	講義	2	2	○	○	
					DNC2461A	コミュニティダンス演習Ⅰ	演習	2	2	△	○	コミュニティダンス論
					DNC2462A	コミュニティダンス演習Ⅱ	演習	2	3	△	○	
	○				THE174*A	東洋演劇演習A	実技	2	1	△	○	重複して８単位まで履修可
	○				THE2444A	東洋演劇演習B	演習	2	2	×	△	
	○				THE2451A	発声朗読法Ⅰ	演習	4	2	×	△	
	○				THE3452A	発声朗読法Ⅱ	演習	4	3	×	△	
	○				THE2480A	舞台監督の仕事	演習	2	2	×	△	
	○			○	THE2101A	演劇芸術応用論Ⅰ	講義	2	2	○	○	

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分	マイナー指定科目（◎印はマイナー必修科目） 演劇・ダンス	音楽	ビジュアル・アーツ	カルチャー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
演劇・ダンス科目群	○			○	THE2102A	演劇芸術応用論Ⅱ	講義	2	2	○	○	
					THE3402A	演劇芸術応用演習Ⅰ	演習	2	3	△	○	
					THE3402A	演劇芸術応用演習Ⅱ	演習	2	3	△	○	
					THE2300A	演劇教育法Ⅰ	講義	2	2	×	×	
					THE2301A	演劇教育法Ⅱ	講義	2	2	×	×	
					THE3300A	演劇教育法Ⅲ	講義	2	3	×	×	
					THE3301A	演劇教育法Ⅳ	講義	2	3	×	×	
					ART240*A	演劇・ダンス特別授業A	講義・演習	1～4	2	△	△	重複履修可
					ART260*A	演劇・ダンス特別授業B	実技・実習	1～2	2	×	△	重複履修可
音楽科目群		◎			MUS1000A	音楽入門	講義	2	1	×	△	音楽専修のみ必修
					MUS1701A	ソルフェージュⅠ	実技	1	1	×	△	
					MUS1702A	ソルフェージュⅡ	実技	1	1	×	△	
		○		○	MUS1030A	東洋音楽史	講義	2	1	○	○	
		○		○	MUS1035A	西洋音楽史A	講義	2	1	○	○	
		○		○	MUS1036A	西洋音楽史B	講義	2	1	○	○	
		○		○	MUS3032A	民族音楽研究	講義	2	3	○	○	
		○			MUS1032A	現代音楽史	講義	2	1	○	○	
		○		○	MUS1060A	音楽学A	講義	2	1	○	○	
		○		○	MUS1061A	音楽学B	講義	2	1	○	○	
		○		○	INM1000A	器楽概論	講義	2	1	○	○	
					MUS1410A	和声学Ⅰ	演習	2	1	×	×	
					MUS1411A	和声学Ⅱ	演習	2	1	×	×	
					MUS2414A	和声学Ⅲ	演習	2	2	×	×	
					MUS2415A	和声学Ⅳ	演習	2	2	×	×	
					MUS3410A	対位法Ⅰ	演習	2	3	×	×	
					MUS3411A	対位法Ⅱ	演習	2	3	×	×	
					MUS2430A	楽曲分析	演習	2	2	×	×	和声学Ⅰ
					MUS3010A	現代の作曲技法	講義	2	3	×	×	
					MUS3011A	ピッチクラス集合論	講義	2	3	×	×	
				○	MUS1037A	ヨーロッパの大衆音楽A	講義	2	1	○	○	
				○	MUS1038A	ヨーロッパの大衆音楽B	講義	2	1	○	○	
		○			INM2001A	管弦楽概論	講義	2	2	○	○	
				○	VOM1000A	オペラ論	講義	2	1	○	○	
				○	VOM1001A	ミュージカル論	講義	2	1	○	○	
					VOM2470A	ミュージカル演習Ⅰ	演習	4	2	○	○	ミュージカル歌唱法、またはミュージカル発声法（副科を含む）を2単位以上修得済みであること
					VOM2471A	ミュージカル演習Ⅱ	演習	4	3	○	○	
					VOM3470A	ミュージカル演習Ⅲ	演習	4	3	○	○	
		○			MUS1440A	楽曲身体表現演習	演習	2	1	○	○	
					VOM177*A	ミュージカル歌唱法	実技	2	1	○	○	重複して８単位まで履修可

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分	マイナー指定科目（◎印はマイナー必修科目）				科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
	演劇・ダンス	音楽	ビジュアル・アーツ	カルチャー								
音楽科目群					VOM1774A	ミュージカル発声法Ⅰ	実技	2	1	×	×	各学期総時間450分の個人レッスン
					VOM1775A	ミュージカル発声法Ⅱ	実技	2	1	×	×	
					VOM2771A	ミュージカル発声法Ⅲ	実技	2	2	×	×	
					VOM2772A	ミュージカル発声法Ⅳ	実技	2	2	×	×	
					VOM3771A	ミュージカル発声法Ⅴ	実技	2	3	×	×	
					VOM3772A	ミュージカル発声法Ⅵ	実技	2	3	×	×	
					VOM4771A	ミュージカル発声法Ⅶ	実技	2	4	×	×	
					VOM4772A	ミュージカル発声法Ⅷ	実技	2	4	×	×	
					VOM1781A	ミュージカル発声法（副科）Ⅰ	実技	1	1	×	△	各学期総時間225分の個人レッスン
					VOM1782A	ミュージカル発声法（副科）Ⅱ	実技	1	1	×	△	
					VOM2781A	ミュージカル発声法（副科）Ⅲ	実技	1	2	×	△	
					VOM2782A	ミュージカル発声法（副科）Ⅳ	実技	1	2	×	△	
					VOM3781A	ミュージカル発声法（副科）Ⅴ	実技	1	3	×	△	
					VOM3782A	ミュージカル発声法（副科）Ⅵ	実技	1	3	×	△	
					VOM4781A	ミュージカル発声法（副科）Ⅶ	実技	1	4	×	△	
					VOM4782A	ミュージカル発声法（副科）Ⅷ	実技	1	4	×	△	
					VOM2410A	舞台音楽演習	演習	2	2	×	×	
					INM1711A	器楽実技Ⅰ	実技	2	1	×	×	各学期総時間660分の個人レッスン
					INM1712A	器楽実技Ⅱ	実技	2	1	×	×	
					INM2713A	器楽実技Ⅲ	実技	2	2	×	×	
					INM2714A	器楽実技Ⅳ	実技	2	2	×	×	
					INM3711A	器楽実技Ⅴ	実技	2	3	×	×	
					INM3712A	器楽実技Ⅵ	実技	2	3	×	×	
					INM4711A	器楽実技Ⅶ	実技	2	4	×	×	
					INM4712A	器楽実技Ⅷ	実技	2	4	×	×	
					INM1723A	器楽実技（副科）Ⅰ	実技	1	1	×	×	各学期総時間220分の個人レッスン
					INM1724A	器楽実技（副科）Ⅱ	実技	1	1	×	×	
					INM2721A	器楽実技（副科）Ⅲ	実技	1	2	×	×	
					INM2722A	器楽実技（副科）Ⅳ	実技	1	2	×	×	
					INM3721A	器楽実技（副科）Ⅴ	実技	1	3	×	×	
					INM3722A	器楽実技（副科）Ⅵ	実技	1	3	×	×	
					INM4721A	器楽実技（副科）Ⅶ	実技	1	4	×	×	
					INM4722A	器楽実技（副科）Ⅷ	実技	1	4	×	×	
					INM1731A	ピアノⅠ	実技	2	1	×	×	各学期総時間675分の個人レッスン
					INM1732A	ピアノⅡ	実技	2	1	×	×	
					INM2733A	ピアノⅢ	実技	2	2	×	×	
					INM2734A	ピアノⅣ	実技	2	2	×	×	
					INM3731A	ピアノⅤ	実技	2	3	×	×	
					INM3732A	ピアノⅥ	実技	2	3	×	×	
					INM4731A	ピアノⅦ	実技	2	4	×	×	
					INM4732A	ピアノⅧ	実技	2	4	×	×	

（次のページに続く）

科目区分	マイナー指定科目（◎印はマイナー必修科目） 演劇・ダンス	音楽	ビジュアル・アーツ	カルチャー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
音楽科目群		○			INM1743A	ピアノ（副科）Ⅰ	実技	1	1	×	△	各学期総時間225分の個人レッスン
		○			INM1744A	ピアノ（副科）Ⅱ	実技	1	1	×	△	
		○			INM2741A	ピアノ（副科）Ⅲ	実技	1	2	×	△	
		○			INM2742A	ピアノ（副科）Ⅳ	実技	1	2	×	△	
		○			INM3741A	ピアノ（副科）Ⅴ	実技	1	3	×	△	
		○			INM3742A	ピアノ（副科）Ⅵ	実技	1	3	×	△	
		○			INM4741A	ピアノ（副科）Ⅶ	実技	1	4	×	△	
		○			INM4742A	ピアノ（副科）Ⅷ	実技	1	4	×	△	
					VOM1711A	声楽Ⅰ	実技	2	1	×	×	Ⅰ～Ⅳ／各学期総時間450分の個人レッスン Ⅴ～Ⅷ／各学期総時間675分の個人レッスン
					VOM1712A	声楽Ⅱ	実技	2	1	×	×	
					VOM2713A	声楽Ⅲ	実技	2	2	×	×	
					VOM2714A	声楽Ⅳ	実技	2	2	×	×	
					VOM3711A	声楽Ⅴ	実技	2	3	×	×	
					VOM3712A	声楽Ⅵ	実技	2	3	×	×	
					VOM4711A	声楽Ⅶ	実技	2	4	×	×	
					VOM4712A	声楽Ⅷ	実技	2	4	×	×	
		○			VOM1723A	声楽（副科）Ⅰ	実技	1	1	×	△	各学期総時間225分の個人レッスン
		○			VOM1724A	声楽（副科）Ⅱ	実技	1	1	×	△	
		○			VOM2721A	声楽（副科）Ⅲ	実技	1	2	×	△	
		○			VOM2722A	声楽（副科）Ⅳ	実技	1	2	×	△	
		○			VOM3721A	声楽（副科）Ⅴ	実技	1	3	×	△	
		○			VOM3722A	声楽（副科）Ⅵ	実技	1	3	×	△	
		○			VOM4721A	声楽（副科）Ⅶ	実技	1	4	×	△	
		○			VOM4722A	声楽（副科）Ⅷ	実技	1	4	×	△	
					INM2751A	管楽合奏Ⅰ	実技	1	1	×	×	
					INM2752A	管楽合奏Ⅱ	実技	1	1	×	×	
					INM3753A	管楽合奏Ⅲ	実技	1	2	×	×	
					INM3754A	管楽合奏Ⅳ	実技	1	2	×	×	
					INM4755A	管楽合奏Ⅴ	実技	1	3	×	×	
					INM4756A	管楽合奏Ⅵ	実技	1	3	×	×	
					INM4757A	管楽合奏Ⅶ	実技	1	4	×	×	
					INM4758A	管楽合奏Ⅷ	実技	1	4	×	×	
					INM2761A	弦楽合奏Ⅰ	実技	1	1	×	×	
					INM2762A	弦楽合奏Ⅱ	実技	1	1	×	×	
					INM3763A	弦楽合奏Ⅲ	実技	1	2	×	×	
					INM3764A	弦楽合奏Ⅳ	実技	1	2	×	×	
					INM4765A	弦楽合奏Ⅴ	実技	1	3	×	×	
					INM4766A	弦楽合奏Ⅵ	実技	1	3	×	×	
					INM4767A	弦楽合奏Ⅶ	実技	1	4	×	×	
					INM4768A	弦楽合奏Ⅷ	実技	1	4	×	×	
					INM2771A	管弦楽合奏Ⅰ	実技	2	1	×	△	
					INM2772A	管弦楽合奏Ⅱ	実技	2	1	×	△	
					INM3773A	管弦楽合奏Ⅲ	実技	2	2	×	△	
					INM3774A	管弦楽合奏Ⅳ	実技	2	2	×	△	
					INM4775A	管弦楽合奏Ⅴ	実技	2	3	×	△	
					INM4776A	管弦楽合奏Ⅵ	実技	2	3	×	△	

（次のページに続く）

科目区分	マイナー指定科目（◎印はマイナー必修科目） 演劇・ダンス	音楽	ビジュアル・アーツ	カルチャー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
音楽科目群					INM4777A	管弦楽合奏Ⅶ	実技	2	4	×	△	
					INM4778A	管弦楽合奏Ⅷ	実技	2	4	×	△	
					INM2410A	伴奏法Ⅰ	演習	2	2	×	×	ピアノまたはピアノ（副科）を4単位以上修得済みであること
					INM2419A	伴奏法Ⅱ	演習	2	2	×	×	
					MUS2300A	ジャズ・ポピュラー理論Ⅰ	講義	2	2	×	×	
					MUS2301A	ジャズ・ポピュラー理論Ⅱ	講義	2	2	×	×	
					INM2781A	ジャズポピュラーアンサンブルⅠ	実技	1	2	×	△	
					INM2782A	ジャズポピュラーアンサンブルⅡ	実技	1	2	×	△	
					INM3781A	ジャズポピュラーアンサンブルⅢ	実技	1	3	×	△	
					INM3782A	ジャズポピュラーアンサンブルⅣ	実技	1	3	×	△	
					INM4781A	ジャズポピュラーアンサンブルⅤ	実技	1	4	×	△	
					INM4782A	ジャズポピュラーアンサンブルⅥ	実技	1	4	×	△	
		○			MUS1300A	バロック音楽の世界	講義	2	1	○	○	
					INM2411A	バロック鍵盤音楽演習	演習	2	2	×	×	~~バロック音楽の世界~~
					INM2412A	バロック音楽演奏法（鍵盤）	演習	1	2	×	×	バロック鍵盤音楽演習
					INM3411A	バロック音楽アンサンブルⅠ	演習	2	3	×	×	~~バロック音楽の世界~~
					INM3412A	バロック音楽アンサンブルⅡ	演習	2	3	×	×	
					INM4411A	バロック音楽アンサンブルⅢ	演習	2	4	×	×	
					INM4412A	バロック音楽アンサンブルⅣ	演習	2	4	×	×	
					INM2811A	チェンバロ実技Ⅰ	実技	1	2	×	×	各学期総時間450分の個人レッスン ピアノまたはピアノ（副科）を２単位以上修得済みであること
					INM2812A	チェンバロ実技Ⅱ	実技	1	2	×	×	
					INM3811A	チェンバロ実技Ⅲ	実技	1	3	×	×	
					INM3812A	チェンバロ実技Ⅳ	実技	1	3	×	×	
					INM4811A	チェンバロ実技Ⅴ	実技	1	4	×	×	
					INM4812A	チェンバロ実技Ⅵ	実技	1	4	×	×	
		○			VOM173*A	合唱Ａ	実技	1	1	×	○	重複して8単位まで履修可
		○			VOM274*A	合唱Ｂ	実技	1	2	×	○	重複して6単位まで履修可
					MUS2420A	指揮法	演習	2	2	×	×	
					MUS1711A	作曲Ⅰ	実技	2	1	×	×	各学期総時間450分の個人レッスン
					MUS1712A	作曲Ⅱ	実技	2	1	×	×	
					MUS2711A	作曲Ⅲ	実技	2	2	×	×	
					MUS2712A	作曲Ⅳ	実技	2	2	×	×	
					MUS3711A	作曲Ⅴ	実技	2	3	×	×	
					MUS3712A	作曲Ⅵ	実技	2	3	×	×	
		○			MUS1412A	コンピュータ音楽	演習	2	1	△	△	
					MUS1413A	音楽音響プログラミング	演習	2	2	△	△	
					MUS1414A	マルチメディア・プログラミング	演習	2	1	△	△	
					MUS3412A	映画ＴＶ音楽制作入門Ⅰ	演習	2	3	×	△	
					MUS3413A	映画ＴＶ音楽制作入門Ⅱ	演習	2	3	×	△	
					MUS3401A	音響ＰＡ演習Ⅰ	演習	2	3	×	△	
					MUS3402A	音響ＰＡ演習Ⅱ	演習	2	3	×	△	
				○	CHR2344A	賛美歌学Ａ	講義	2	1	○	○	
				○	CHR2345A	賛美歌学Ｂ	講義	2	1	○	○	
				○	MUS2030A	宗教音楽史Ａ	講義	2	2	○	○	
				○	MUS2031A	宗教音楽史Ｂ	講義	2	2	○	○	
					INM178*A	ハンドベル	実技	1	1	×	△	重複して８単位まで履修可

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分	マイナー指定科目（◎印はマイナー必修科目） 演劇・ダンス	音楽	ビジュアル・アーツ	カルチャー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
音楽科目群					INM279*A	パイプオルガン	実技	1	1	×	×	重複して８単位まで履修可
					VOM175*A	ゴスペル	実技	1	1	×	△	重複して８単位まで履修可
					VOM176*A	オラトリオ	実技	1	1	×	○	重複して８単位まで履修可
		○		○	MUS2050A	音楽療法Ａ	講義	2	2	○	○	
		○		○	MUS2051A	音楽療法Ｂ	講義	2	2	○	○	
					MUS240*A	音楽特別授業Ａ	講義・演習	1～4	2	△	△	重複履修可
					MUS260*A	音楽特別授業Ｂ	実技・実習	1～2	2	△	△	重複履修可
ビジュアル・アーツ科目群			◎		VSA1000A	ビジュアル・アーツ入門	講義	2	1	×	○	ビジュアル・アーツ専修のみ必修
			○	○	FNA1001A	西洋美術史Ａ	講義	2	1	○	○	
			○	○	FNA1002A	西洋美術史Ｂ	講義	2	1	○	○	
			○	○	FNA1005A	日本美術史Ａ	講義	2	1	○	○	
			○	○	FNA1006A	日本美術史Ｂ	講義	2	1	○	○	
			○	○	FNA1007A	東洋美術史Ａ	講義	2	1	○	○	
			○	○	FNA1008A	東洋美術史Ｂ	講義	2	1	○	○	
			○	○	DES1000A	服飾文化史	講義	2	1	○	○	
			○	○	FNA3105A	現代美術論Ａ	講義	2	3	○	○	
			○	○	FNA3106A	現代美術論Ｂ	講義	2	3	○	○	
			○	○	DES3180A	ランドスケープ文化論	講義	2	3	○	○	
			○	○	DES2100A	ファッション文化論	講義	2	2	○	○	
			○	○	FNA1106A	工芸概論	講義	2	1	△	△	
			○	○	DES3102A	デザイン論Ａ	講義	2	~~3~~2	○	○	
			○	○	DES3103A	デザイン論Ｂ	講義	2	~~3~~2	○	○	
				○	DES2101A	デザイン史	講義	2	2	○	○	
				○	FNA2102A	色彩学	講義	2	2	○	○	
			○	○	VSA2000A	映像デザイン論Ａ	講義	2	2	○	○	
			○	○	VSA2001A	映像デザイン論Ｂ	講義	2	2	○	○	
			○	○	DES2160A	テキスタイル・マテリアル論	講義	2	2	○	○	
					VSA1410A	ビジュアル・アーツ基礎	演習	2	1	×	×	
					DES1702A	造形実技入門Ａ（平面デザイン基礎）	実技	2	1	×	×	
					FNA1700A	造形実技入門Ｂ（素描Ａ）	実技	2	1	×	×	
					FNA1701A	造形実技入門Ｂ（素描Ｂ）	実技	2	1	×	×	
					DES1710A	造形実技入門Ｃ（デジタル編集基礎Ａ）	実技	2	1	×	×	
					DES1711A	造形実技入門Ｃ（デジタル編集基礎Ｂ）	実技	2	1	×	×	
					FNA1725A	美術演習Ａ（油彩Ａ）	実技	2	1	×	×	
					FNA1726A	美術演習Ａ（油彩Ｂ）	実技	2	1	×	×	
			○		FNA1735A	美術演習Ａ（コンテンポラリーＡ）	実技	2	1	×	△	
			○		FNA1736A	美術演習Ａ（コンテンポラリーＢ）	実技	2	1	×	△	
					FNA1770A	美術演習Ａ（版画ⅠＡ）	実技	2	1	×	×	
					FNA1771A	美術演習Ａ（版画ⅠＢ）	実技	2	1	×	×	
					FNA2770A	美術演習Ａ（版画ⅡＡ）	実技	2	2	×	×	版画ⅠＡ、~~および~~または版画ⅠＢ
					FNA2771A	美術演習Ａ（版画ⅡＢ）	実技	2	2	×	×	版画ⅠＡ、~~および~~または版画ⅠＢ
					FNA1745A	美術演習Ｂ（日本画ⅠＡ）	実技	2	1	×	×	
					FNA1746A	美術演習Ｂ（日本画ⅠＢ）	実技	2	1	×	×	
					FNA2740A	美術演習Ｂ（日本画ⅡＡ）	実技	2	2	×	×	日本画ⅠＡ、~~および~~または日本画ⅠＢ
					FNA2741A	美術演習Ｂ（日本画ⅡＢ）	実技	2	2	×	×	日本画ⅠＡ、~~および~~または日本画ⅠＢ
			○		FNA2755A	美術演習Ｃ（陶芸Ａ）	実技	2	2	×	△	

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分	マイナー指定科目（◎印はマイナー必修科目） 演劇・ダンス	音楽	ビジュアル・アーツ	カルチャー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
ビジュアル・アーツ科目群			○		FNA2756A	美術演習C（陶芸B）	実技	2	2	×	△	
					FNA1760A	美術演習D（彫塑ⅠA）	実技	2	2	×	×	
					FNA1761A	美術演習D（彫塑ⅠB）	実技	2	2	×	×	
					FNA2765A	美術演習D（彫塑ⅡA）	実技	2	2	×	×	または ~~および~~彫塑ⅠA、~~および~~彫塑ⅠB
					FNA2766A	美術演習D（彫塑ⅡB）	実技	2	2	×	×	彫塑ⅠA、~~および~~彫塑ⅠB または
					DES1701A	色彩構成演習（A）	実技	1	1	×	×	
					DES1709A	色彩構成演習（B）	実技	1	1	×	×	
			○		DES2755A	フォトアートⅠ	実技	2	2	×	△	
			○		DES2756A	フォトアートⅡ	実技	2	2	×	△	
					DES2430A	デザイン演習A（ドローイングA）	演習	4	2	×	×	
					DES2433A	デザイン演習A（ドローイングB）	演習	4	2	×	×	
					DES2440A	デザイン演習B（イラストレーション）	演習	4	2	×	×	
					DES2410A	デザイン演習C（グラフィックデザインⅠA）	演習	4	2	×	×	
					DES2417A	デザイン演習C（グラフィックデザインⅠB）	演習	4	2	×	×	
					DES3410A	デザイン演習C（グラフィックデザインⅡA）	演習	4	2	×	×	グラフィックデザインⅠA、~~および~~または グラフィックデザインⅠB
					DES3411A	デザイン演習C（グラフィックデザインⅡB）	演習	4	2	×	×	グラフィックデザインⅠA、~~および~~または グラフィックデザインⅠB
					DES2418A	デザイン演習C（グラフィック広告表現A）	演習	4	2	×	×	
					DES2419A	デザイン演習C（グラフィック広告表現B）	演習	4	2	×	×	
					DES2716A	デザイン演習D（エディトリアルデザインA）	演習	4	2	×	×	
					DES2717A	デザイン演習D（エディトリアルデザインB）	演習	4	2	×	×	
					DES2420A	デザイン演習E（グラフィック演出技法A）	演習	4	2	×	×	
					DES2429A	デザイン演習E（グラフィック演出技法B）	演習	4	2	×	×	
					DES2495A	デザイン演習G（メディアアートA）	演習	4	2	×	×	
					DES2496A	デザイン演習G（メディアアートB）	演習	4	2	×	×	
					DES2710A	デザイン演習G（モーショングラフィックスA）	演習	4	2	×	×	
					DES2711A	デザイン演習G（モーショングラフィックスB）	演習	4	2	×	×	
					TDD2422A	デザイン演習I（プロダクトデザインⅠA）	演習	4	2	×	×	
					TDD2423A	デザイン演習I（プロダクトデザインⅠB）	演習	4	2	×	×	
					TDD2424A	デザイン演習I（プロダクトデザインⅠC）	演習	4	2	×	×	
					TDD2425A	デザイン演習I（プロダクトデザインⅠD）	演習	4	2	×	×	
					TDD3420A	デザイン演習I（プロダクトデザインⅡA）	演習	4	2	×	×	プロダクトデザインⅠA、プロダクトデザインⅠB、プロダクトデザインⅠC、またはプロダクトデザインⅠD
					TDD3421A	デザイン演習I（プロダクトデザインⅡB）	演習	4	2	×	×	プロダクトデザインⅠA、プロダクトデザインⅠB、プロダクトデザインⅠC、またはプロダクトデザインⅠD
					DES2480A	デザイン演習J（ランドスケープデザインA）	演習	4	2	×	×	
					DES2484A	デザイン演習J（ランドスケープデザインB）	演習	4	2	×	×	
					DES2760A	テキスタイル演習A（染織A）	実技	2	2	×	×	
					DES2769A	テキスタイル演習A（染織B）	実技	2	2	×	×	
					DES2770A	テキスタイル演習B（染色A）	実技	2	2	×	×	
					DES2779A	テキスタイル演習B（染色B）	実技	2	2	×	×	
					DES2460A	テキスタイル演習C（パターンデザインA）	実技	2	2	×	×	
					DES2461A	テキスタイル演習C（パターンデザインB）	実技	2	2	×	×	
			○		DES2462A	テキスタイル演習D（服飾表現A）	実技	2	2	×	△	
					DES2463A	テキスタイル演習D（服飾表現B）	実技	2	2	×	△	
					TDD2440A	セット&コスチュームデザインA	演習	2	2	×	△	
					TDD2441A	セット&コスチュームデザインB	演習	2	2	×	△	
					DES2497A	コンピュータ造形A（CG基礎）	演習	4	2	×	×	
					DES2498A	コンピュータ造形B（3DCG&造形）	演習	4	2	×	×	

（次のページに続く）

科目区分	マイナー指定科目（◎印はマイナー必修科目） 演劇・ダンス	音楽	ビジュアル・アーツ	カルチャー	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
ビジュアル・アーツ科目群					DES3490A	コンピュータ造形C（3DCG＆動画A）	演習	4	2	×	×	
					DES3491A	コンピュータ造形C（3DCG＆動画B）	演習	4	2	×	×	
					CIN1050A	映像撮影技術論	講義	2	1	×	×	
			○	○	CIN2015A	映画・映像史A	講義	2	2	○	○	
			○	○	CIN2016A	映画・映像史B	講義	2	2	○	○	
					VSA2002A	映像音楽	講義	2	2	○	○	
					VSA2003A	映像美術	講義	2	2	○	○	
					CIN3032A	映画演出研究	講義	2	3	○	○	
			○	○	CIN2019A	映像論A	講義	2	2	○	○	
			○	○	CIN2010A	映像論B	講義	2	2	○	○	
			○	○	CIN3110A	映画社会学演習	演習	2	3	×	○	
			○	○	CIN1010A	アニメーション論	講義	2	1	○	○	
			○	○	CIN2011A	ドキュメンタリー論A	講義	2	2	○	○	
			○	○	CIN3110A	ドキュメンタリー論B	講義	2	3	○	○	
					CIN2070A	映画音響デザイン論	講義	2	2	×	×	
					VSA2410A	デザイン・プロジェクト	演習	2	2	×	×	重複して８単位まで履修可
					CIN2690A	ドキュメンタリー制作	実習	2	3	×	×	ドキュメンタリー論A、~~映像技術実習Ⅰ~~ 映像技術実習Ⅰ
					VSA1610A	映像制作入門	実習	2	1	×	×	
					VSA2420A	アニメーションドローイング	実技	2	2	×	×	
					CIN2692A	映像制作A（アニメーションA）	実習	2	2	×	×	アニメーション論
					CIN2693A	映像制作A（アニメーションB）	実習	2	2	×	×	アニメーション論
					CIN2694A	映像制作B	実習	2	2	×	×	映像技術実習Ⅰ
					CIN3692A	映像制作C（A）	実習	2	3	×	×	映像技術実習Ⅰ、映像編集演習Ⅰ
					CIN3693A	映像制作C（B）	実習	2	3	×	×	映像技術実習Ⅰ、映像編集演習Ⅰ
					VSA3610A	映像制作D	実習	2	2	×	×	デザイン演習G
					VSA3611A	映像制作E	実習	2	3	×	×	映像技術実習Ⅰ、映像編集演習Ⅰ
					VSA3612A	映像制作F	実習	2	2	×	×	
					CIN2442A	脚本演習A	演習	2	2	×	×	
					CIN2443A	脚本演習B	演習	2	2	×	×	
					CIN2653A	映像技術実習Ⅰ	実習	2	2	×	×	映像撮影技術論
					CIN2654A	映像技術実習Ⅱ	実習	2	2	×	×	
					CIN3654A	映像技術実習Ⅲ	実習	2	3	×	×	
					CIN2473A	映像編集演習Ⅰ	演習	4	2	×	×	
					CIN2474A	映像編集演習Ⅱ	演習	4	2	×	×	
					CIN3475A	映像音響演習Ⅰ	演習	4	3	×	×	~~映像音響デザイン論~~ 映画音響デザイン論
					CIN3476A	映像音響演習Ⅱ	演習	4	3	×	×	
					VSA240*A	ビジュアル・アーツ特別授業A	講義・演習	1～4	2	△	△	重複履修可
					VSA260*A	ビジュアル・アーツ特別授業B	実技・実習	1～2	2	△	△	重複履修可

「*」：数字コードが複数存在する科目

諸注意

①専攻演習と卒業研究

ア）３年次から「専攻演習Ⅰ」を履修することができます。４セメスター目（２年次秋学期）に事前申請を行いますが、希望者が集中した場合は選抜が行われることがあります。その際はそれまでに履修した科目の内容・成績が考慮されます。

イ）４年次に「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を履修することができます。指導は原則として「専攻演習Ⅰ」及び「専攻演習Ⅱ」担当教員が引き続き行います。４年次に「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を履修したい場合、「専攻演習Ⅰ」及び「専攻演習Ⅱ」を修得してください。「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の複数回履修はできません。

②音楽専修実技科目について

音楽専修では、「声楽」、「ミュージカル発声法」、「ピアノ」、「器楽実技」において、主科と副科のいずれかを選択することができます。

主科は１・２年次に２種類まで、３年次以降は１種類のみ選択することができます。

③授業方法について

各専修の「特別授業Ａ／Ｂ」については、各シラバスにおいて授業方法を確認してください。

④先修条件について

科目名の末尾に「Ⅰ～Ⅷ」等の数字が付いている科目は、Ⅰ～Ⅷの順番で履修してください。

５．ビジネスマネジメント学群

１．ビジネスマネジメント学群について

ビジネスマネジメント学群では、「国際社会で必要なビジネス感覚を養い、広範な知識から発想し、意思決定の行える、新しい経営マインドを備えた人材の育成」を目標として、「職業に直接結びつく」教育を行います。学群にはビジネスマネジメント学類（２プログラム８科目群構成）とアビエーションマネジメント学類（２コース構成）の２つの学類がありますが、共通学修・研究テーマは「マネジメント」です。マネジメントとは、簡単に言うと、ビジネスの現場で生ずるさまざまな問題を上手に解決することです。皆さんがどちらの学類で学んでも、「マネジメント」能力が身につくように、きめ細かなカリキュラムを用意しています。

２．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学群は、「国際性」に優れ、「奉仕の精神」と「おもてなしの心」、「コミュニケーション能力」と「情報リテラシー」を兼ね備え、ビジネス実務において優れた「マネジメント能力」を有し、社会の問題を他人事として放置しない“高度なビジネスパーソン”を育成します。

そのため、本学群では、本学の「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえた上で、定められた課程において以下の能力・資質を修得し、建学の精神である「学而事人（学びて人に仕える）」にしたがって、体得した知識を総合的に活用できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与します。

（１）コミュニケーション能力と多文化・異文化に関する知識の理解：国際感覚

急速にグローバル化するビジネス社会において強く求められるところの、円滑なコミュニケーションをとることができる「語学力」、とりわけビジネスの国際共通語である英語力と、これを活用するために不可欠な国際性、共感力を兼ね備えること。

（２）倫理観・奉仕の精神とおもてなしの心

ビジネスパーソンとしての「奉仕の精神」に、我が国の文化として注目される「おもてなしの心」を織り交ぜ、社会の問題を他人事として放置しない、より高度な職業感覚を備えること。

（３）コミュニケーション能力と情報リテラシー

ビジネスにおいて必要なコミュニケーション能力を備えるとともに、ビジネス組織におけるリーダーシップとフォロワーシップを理解し実行することができる。また、加速し続ける社会の情報化に対応する「情報リテラシー」、先見力を備えること。

（４）理論と実践のバランスのとれたマネジメント能力

ビジネス実務において、現場に即したビジネス理論の知識と、実践的なマネジメント能力の両方をバランスよく備えること。

３．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を「基礎教育科目」、「専攻科目」及び他学群や他大学、各種技能審査等を単位認定する「自由選択」という区分に分けて編成し、科目は講義、演習、実験、実習、実技といった授業方法を組み合わせた授業を開講しています。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。本学群では、様々な業種・職種で活躍できる“高度なビジネスパーソン”を育成するため、以下の基本方針をもとに、高度な学力と専門的能力の修得に向けた科目を効果的に配置しています。

（１）教育課程の編成

①国際性豊かな人材の養成に向けて、本学群独自の４ヵ月間の留学やテーマ別の短期の海外ビジネス研修により、海外に出て学ぶ機会を設けるとともに、キャンパスライフを通して国際感覚を身につけることができる学修環境を整えています。同時に、自分の将来設計に合わせた語学力、とりわけビジネスの国際共通語である英語力の修得に向けた多様な学修機会を提供します。

②奉仕の精神に、おもてなしの心を織り交ぜた、高度な職業感覚を修得するため、多数の講義科目によって理論のベースを構築し、そのうえで、豊富に取り揃えている実習・演習、専攻演習によって実践を通して学んでいきます。

③授業科目は、教員の一方的な講義に留まらず、課題レポート作成、学生の発言やプレゼンテーション、グループ

ワークなどのアクティブ・ラーニング、反転授業の要素を積極的に取り入れています。「専攻演習」は、学生主体の様々な活動のなかで、リーダーシップとフォロワーシップを理解し実践する機会となり、コミュニケーション能力を醸成します。同時に、学びのなかで、各種の情報機器を駆使しながら、情報の収集・分析・活用・発信などの情報リテラシーを修得することができます。

④ビジネスの現場に即した理論と、実践的なマネジメント能力の両方をバランスよく学べるようカリキュラムを構成しています。特に、学生の多様な将来設計にあわせて、それぞれ独自の科目履修ができるよう体系化しています。

（２）学修方法・学修過程

①１年次には、「ガイダンス科目」を通じて社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）や専門分野の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を身につけます。

②外国語科目を通じてビジネスの現場で必要とされる実践的な語学力を身につけ、英語については、学類・コースで定められたTOEIC® 目標スコア達成を目指します。

③ビジネスマネジメント学類・アビエーションマネジメント学類共通の学修・研究テーマとして、ビジネスの現場で生ずる様々な問題を解決するための「マネジメント」能力を身につけていきます。

（３）学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

ビジネスマネジメント学類

１．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学類は、以下の基本要件を満たす学生に対し、「学士（経営政策学）」を授与します。

（１）倫理観

“高度なビジネスパーソン”としての常識とマナー、倫理観とモラルを備えていること。

（２）論理的思考力・自己管理能力

ビジネス実務の基本とマネジメント能力を備え、論理的な思考と意思決定ができ、自らのキャリアについて明確なビジョンを持つとともに、絶えず学修して専門性を高める努力することができること。

（３）チームワーク

自分とは異なる様々な背景を持つ人々との相互理解に努めることが可能で、相手の気持ちを思いやる豊かな人間性をもち、組織のなかで協力しながら最後まで仕事を進めることができること。

（４）問題解決能力

ビジネス現場において日々生ずる様々な問題を感知し、失敗をおそれず解決のための行動を起こすことができ、たとえ困難が生じたとしても、あきらめず最後までやり抜くことができること。

（５）コミュニケーション能力と情報リテラシー

国際的ビジネスで使いこなすことのできる語学力と、様々な情報を有効活用できる能力を備えること。

本学類のカリキュラムに基づく卒業要件は以下の通りです。

①「基礎教育科目」44単位を修得していること。

②「専攻科目」の「学類内専門基礎科目」10単位、「実習・演習科目」２単位、「論文・レポート科目」２単位を修得していること。

③「専門応用科目」のビジネスプログラムもしくはマネジメントプログラムから１つを選択し、選択したプログラムに属する科目群から選択28単位、もう一方のプログラムに属する科目群から選択14単位を修得していること。

④「基礎教育科目」及び「専攻科目」については、必要な単位及びこれに学生が自由に選択した単位を加え合計124単位以上を修得し、かつ通算GPAが1.5以上であること。

２．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

様々な業種・職種で活躍できる“高度なビジネスパーソン”を育成するため、本学類では、以下のようにカリキュラムを構成しています。

（１）教育課程の編成

①「基礎教育科目」は下記の通り構成しています。

ア）「学群指定科目」：本学の建学の精神や大学における学修の基礎を学びます。

イ）「外国語科目」：ビジネスの現場で必要な実践的な語学力（英語）の修得を目指す科目です。英語については「TOEIC」600点を卒業時の達成目標とします。

ウ）「ガイダンス科目」：学類の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を養成します。

②「専攻科目」は下記の通り構成しています。

ア）「学群共通科目」：ビジネスマネジメント学類とアビエーションマネジメント学類に共通する科目（「専攻演習」、「特別講義」など）です。

イ）「実習・演習科目」：ビジネス現場の実務能力の修得を目指す科目です。

ウ）「専門基礎科目」：専門的技能の修得に向けた経営の基礎学力向上を目指す科目です。

エ）「専門応用科目」：ビジネスパーソンに必要な特定範囲の専門的学力・能力をバランスよく修得できるよう、科目全体をまず知識・技能、業種・業界（ビジネス）そして職種・機能（マネジメント）の視点から、ビジネスプログラムとマネジメントプログラムに大別し、それぞれをさらに各４種類に分けた、合計８種類の科目群を設定しています。

オ）論文・レポート科目：学修成果の集大成として、研究視点で論文をまとめる、あるいはビジネス視点でレポートをまとめる能力の修得を目指す科目です。

（２）学修方法・学修過程

①本学類の「専門応用科目」は、「ビジネスプログラム」と「マネジメントプログラム」の２つのプログラムで構成されています。「ビジネスプログラム」は、特定の業種・業界に焦点をあてて「専門応用科目」を学ぶため、将来、特定の業種・業界で働いているイメージを強く持っている学生に適しています。これに対して「マネジメントプログラム」は、経営における特定の機能や職種に焦点をあてて「専門応用科目」を学ぶため、将来、企業の特定の部署で働いているイメージを持っている学生や、まだ自分の将来の職業像を確立していない学生に適しています。

②学生の多様な将来目標に応えるために、科目履修の仕方を多数の「学修ストーリー」にまとめて提示しています。

（３）学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

②学修成果がどのように評価されるのかは、シラバスにおいて具体的に評価方法を科目ごとに記載しています。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化することと厳格に評価するようにします。

３．卒業要件

※○数字は科目の単位数を表します。

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>ビジネスマネジメント学類</th></tr>
<tr><td rowspan="3">基礎教育科目

44単位
（最低必要単位）</td><td>学群指定科目
14単位必修</td><td>キリスト教と建学の精神②
日本語表現Ⅰ②
情報リテラシーⅠ②
ビジネスマナー②
異文化理解②
日本語表現Ⅱ②
情報リテラシーⅡ②</td></tr>
<tr><td>外国語科目
（注１、注２）
16単位必修</td><td>英語Ⅰ A ②
英語Ⅱ A ②
英語Ⅲ A ②
英語Ⅳ A ②
英語Ⅰ B ②
英語Ⅱ B ②
英語Ⅲ B ②
英語Ⅳ B ②</td></tr>
<tr><td>ガイダンス
科　　目
14単位必修</td><td>アカデミックリテラシーⅠ②
現代経営入門②
現代法入門②
キャリアデザイン A ②
アカデミックリテラシーⅡ②
現代会計入門②
統計入門②</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専攻科目

56単位
（最低必要単位）</td><td>専門基礎科目
10単位必修</td><td>ビジネスマネジメント学類に属する専門基礎科目から選択10単位</td></tr>
<tr><td>専門応用科目
42単位必修</td><td>「ビジネスプログラム」もしくは「マネジメントプログラム」から一つ選択し、選択したプログラムに属する科目群から選択28単位、もう一方のプログラムに属する科目群から選択14単位、合計42単位</td></tr>
<tr><td>実習・演習科目
2単位必修</td><td>インターンシップ②～⑥
国内ビジネス研修②～⑥
ビジネス演習②～⑥
海外ビジネス研修②～⑥
フィールドトリップ①～④</td></tr>
<tr><td>論文・レポート科目
2単位必修</td><td>ビジネスレポート②
卒業論文②
研究レポート②</td></tr>
<tr><td colspan="2">自由選択</td><td>・学群共通科目
・基礎教育科目、専攻科目で最低必要単位数を超えて修得した単位
・自学類にない他学類専攻科目
・他学群専攻科目
・基盤教育の科目
・他大学等（短期大学・海外留学の科目を含む）認定単位（P. 209）
・各種技能審査による認定単位（P. 210～212）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">卒業要件単位合計

基礎教育科目、専攻科目、
自由選択、あわせて

124単位以上</td><td colspan="2">【その他の要件】
１．入学時からの通算ＧＰＡが1.5以上
２．プログラムを１つ選び、メジャーとして必ず修了すること</td></tr>
<tr><td colspan="2">【早期卒業の要件】
１．本学に３年以上在学し、卒業に必要な124単位以上を修得し、かつ入学時からの通算ＧＰＡが3.6以上
２．TOEIC®700点以上を有し、かつそのスコアを用いて技能審査による単位認定を受けていること（注３）</td></tr>
</table>

（注１）一定以上の能力を有すると認められた者、もしくはその他要件を満たした者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。（卒業要件単位数124単位以上から免除科目分の単位は差し引かれません）
　外国人留学生等（日本語を母語としない者。以下同じ。）は、「英語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ・ⅢＡ・ⅢＢ・ⅣＡ・ⅣＢ」に替えて「日本語専門基礎ＡⅠ・ＡⅡ・B」を各２回、合計10単位を修得しなければなりません。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。
（注２）外国人留学生等は、外国人留学生履修規定のとおり修得してください。
（注３）技能審査による単位認定の申請方法については P. 210を参照してください。

４．プログラム案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための科目群が置かれています。ビジネスマネジメント学類の専攻科目で構成されるプログラムを登録すると、「学業成績単位修得証明書」にメジャーを登録中であることが記載されます。修了要件を満たすと、卒業後の「学業成績単位修得証明書」にメジャーを修了したことが記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業要件となっています。ただし、ビジネスマネジメント学類以外の専攻プログラム・専攻コースをメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、他学群のものをマイナーとして登録することができます。

ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

１．マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。

２．他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。

３．他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

メジャーはビジネスマネジメント学類の２つのプログラムより選択してください。メジャーの登録は、２セメスター目に受け付けます。詳細については別途掲示します。

マイナーの登録は、他学群のものに限り５セメスター目に受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までメジャー及びマイナーの変更もできます。

プログラムの種類は、以下のとおりです。

ビジネスマネジメント学類

プログラム名称	メジャー	マイナー
ビジネスプログラム	○	○※
マネジメントプログラム	○	○※

※ビジネスマネジメント学群生以外の他学群生のみマイナー登録可

メジャーおよびマイナーの修了要件

メジャー：プログラムを一つ選択し、選択したプログラムに属する科目群から選択28単位、もう一方のプログラムに属する科目群から選択14単位、合計42単位

マイナー：プログラムを一つ選択し、選択したプログラムに属する科目群から選択20単位

（1）ビジネスプログラム

１．教育目的

ビジネスプログラムでは、グローバル化が加速するビジネスにおいて強みとなる、現場で不可欠な専門知識とスキルを磨くことを目的としています。１つの科目群を重点的に学修しながらも、ビジネスプログラムの他の科目群を履修することで、複数の職業分野について学ぶ事が可能です。

現代の職業人に要求されるものは、専門性をもちながらも、多機能、多面的な職務をこなせる能力であるため、それに対応する幅広い領域の学修を可能としています。ビジネスプログラムでの多様な学びを通して、ビジネスの現場に即した専門的な知識・スキルを有する人を育てていきます。

２．カリキュラムの特徴

ビジネスプログラムは、国際・金融ビジネス、流通・マーケティングビジネス、ＩＣＴビジネス、観光・ホスピタリティ・エンターテインメントビジネスの４つの科目群から構成されています。

このプログラムでは、ビジネスプログラムの４つの科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランス良く習得するため、マネジメントプログラムに置かれた専門応用科目も履修しなければなりません。身につける知識・技能を業種（ビジネス）と機能（マネジメント）の視点から捉えることで、「企業活動」と「マネジメント」双方から深い理解を得ることが可能です。

ビジネスプログラムを構成する４つの科目群

国際・金融ビジネス科目群

企業の海外部門、総合商社、貿易会社、外資系企業、金融機関などへの就職を目指す学生向けの科目群です。近年、国際的な資金や資材の調達、製造拠点・販売拠点の海外移転など、企業経営は最適を求め国境を越え、ますますグローバル化が加速しています。この科目群では、企業を取り巻くグローバルな経営環境の変化を分析し、重要度を増しつつある中国をはじめとする新興国でのビジネスを中心に、企業のグローバル経営全般について体系的に学習します。また、経済体制、文化や言語の違う異文化環境でのビジネス、グローバルなモノや資金の流れなどの視点を加え、理論と実践の両面においてバランスの取れた知識の形成を目指します。

流通・マーケティングビジネス科目群

商品は生産者が作り、この商品の小分け機能をもつ商社・卸業者が活躍し、小売業が色々な知恵を絞って消費者に提供されていきます。最近ではユニクロやZARA・GAPに代表されるようにSPA（製販一体型）方式が進み、安くてファッショナブルな商品が流通しています。一方、モノが市場に溢れ、消費者の消費志向が多様化すると、より消費者にマーケティング＝「売れる仕組みづくり」などと言われるような販売促進・立地条件の開拓・商品の研究が求められます。紙媒体（新聞・雑誌）や電波媒体（テレビ・ラジオ）による露出如何によってまるで売上が変わってきます。最近ではネットによる取引が大幅に増えており、ますますこの分野の研究から目が離せません。

ＩＣＴビジネス科目群

産業社会が持続可能な成長をめざす時代へと変化しつつある中、ＩＣＴ（情報通信技術）は、あらゆるビジネス、あらゆる企業活動において、もはや不可欠なマネジメントツールとなっています。ＩＣＴビジネス科目群では、ＩＣＴに関する基礎的な知識の習得からスタートし、ＩＣＴを用いていかに優れたビジネスモデルを構築するか、ＩＣＴでいかに企業経営を進化させるかについて学び、新しいビジネスを創出できる人材を育成することをめざします。ＩＣＴをビジネスマネジメントの場で役立てるため、あるいはＩＣＴが生み出す新しいビジネスチャンスをしっかりとつかむために必要な知識・ノウハウを着実に学んでいきます。

観光・ホスピタリティ・エンターテイメントビジネス科目群

物質的な豊かさより心の豊かさが強く求められるようになり、癒し、楽しさ、感動、幸福感を与える観光・ホスピタリティ・エンターテイメントビジネスの経済的・文化的影響力は年々向上し、21世紀の成長産業といわれています。

本科目群は、卒業後、旅行、ホテル、ブライダル、外食、テーマパーク、映画、音楽、ゲーム、スポーツ、航空、鉄道、バス、クルーズなどの分野に進みたい人、接客サービスに携わりたい人を対象にしています。

旅行、ホテル・ブライダル、レジャーの３部門を柱に、それぞれのビジネスに求められる専門知識や管理技法、企画プロデュース力を、講義やインターンシップ、海外ビジネス研修などを通じて実践的に身につけます。

（2）マネジメントプログラム

1．教育目的

マネジメントプログラムでは、あらゆる企業活動・ビジネスシーンで必要な能力を養うことを目的としています。本プログラムでの実践的な学びを通して、専門的経営関連知識を獲得しながらも、行動的で、柔軟な思考を持つ問題発見型組織人を育成していきます。理論と実践をバランス良く学修しながら、組織を経営していくために基盤となる知識・技能を身につけていきます。

2．カリキュラムの特徴

マネジメントプログラムは、経営戦略・管理、会計・財務、経済・法律、情報・環境の４つの科目群から構成されています。

このプログラムでは、マネジメントプログラムの４つの科目群に置かれた専門応用科目を重点的に学びますが、ビジネスとマネジメント双方の知識・技能をバランス良く習得するため、ビジネスプログラムに置かれた専門応用科目も履修しなければなりません。

身につける知識・技能を機能（マネジメント）と業種（ビジネス）との視点から捉えることで、「マネジメント」と「企業活動」双方から深い理解を得ることが可能です。

マネジメントプログラムを構成する4つの科目群

経営戦略・管理科目群

企業経営に関する幅広い分野に関心をもち、将来のビジネスリーダーを目指す学生向けの科目群です。近年の激変する経営環境のもと、企業は持続的発展を目標に、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報等）を有効に活用し、戦略を構築していく必要があります。この科目群では、経営学を中心に企業の運営や管理に関する様々な分野を取り上げ、企業の経営管理や組織のあり方、経営戦略などについて専門的に学びます。学修にあたっては、理論だけでなく、ケーススタディなどの手法も取り入れ、企業活動の実践的側面についても理解を深めていきます。

会計・財務科目群

「経営数値」は、会社のみならず学校、病院などの公益法人を含むあらゆる企業の経営活動に関わっています。「経営数値」を表すものとして財務諸表がよく知られているところです。ビジネスを行うにあたって「経営数値」を理解していなければ、精度の高い経営分析や正しい意思決定を行うことはできません。「経営数値」に関係する分野には「会計・財務・簿記・税務」など広範囲の内容が含まれており、会計・財務科目群ではそれらの内容や企業活動との関係を明らかにしていきます。本科目群を通じて「経営数値」を理解し、評価しながら的確な意思決定を行うことができるビジネスパーソンの育成を目指しています。

経済・法律科目群

経済・法律科目群は、文字通り経済と法律を学ぶ科目群です。経済学や法律学は、とかく普段のビジネス現場にあまり関係がないように思われがちです。しかし、これらはビジネスをするために重要な基礎知識で、例えば、企業が経営方針を決めたり投資する際に欠かせない景気予測などには経済学の知識が必要です。また法律学は、社会・生活のルールを学ぶことで、取引相手とのトラブルの生じない契約の結び方や紛争の解決方法、また株式会社の仕組みや売買代金の回収方法などを知ることができます。特に企業の管理部門で活躍したい諸君に、欠かせない知識を学んでもらいたい科目群だといえます。

情報・環境科目群

情報・環境科目群では、現代の経営において不可欠な概念となっている「情報」と「環境」について専門的に取り扱っています。「情報」と「環境」とは、突き詰めて考えれば、「状態」と「論理」であり、人間あるいは全ての動物の活動を包含する概念です。観察して判断して実行することは、人間であればだれもが必要とする能力であって、組織の経営においても同様に必要な能力です。ある状況をどのように捉えるのか、その結果それをどのように処理するのか。このようなことについて、学び・考えることができるような専門科目がそろっている科目群です。

５．ガイダンス・専攻科目と諸注意

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修※1	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
学群指定科目	CHR1000B	キリスト教と建学の精神	講義	2	1	×		
	JLS1470B	日本語表現Ⅰ	演習	2	1	×		
	JLS1471B	日本語表現Ⅱ	演習	2	1	×		日本語表現Ⅰ
	IST1400B	情報リテラシーⅠ	演習	2	1	×		
	IST1401B	情報リテラシーⅡ	演習	2	1	×		情報リテラシーⅠ
	HUM1001B	異文化理解	講義	2	2	×		
	MGM1290B	ビジネスマナー	講義・演習	2	2	×		
ガイダンス科目	ACG1400B	アカデミックリテラシーⅠ	演習	2	1	×		
	ACG1401B	アカデミックリテラシーⅡ	演習	2	1	×		アカデミックリテラシーⅠ
	ACG1000B	キャリアデザインA	講義	2	1	×		
	MGM1000B	現代経営入門	講義	2	1	○		
	ACC1000B	現代会計入門	講義	2	1	○		
	LAW1000B	現代法入門	講義	2	1	○		
	MTH1070B	統計入門	講義	2	1	×		
外国語科目	ENG1400B	英語ⅠA	演習	2	1	×		
	ENG1401B	英語ⅠB	演習	2	1	×		
	ENG1402B	英語ⅡA	演習	2	1	×		英語ⅠA
	ENG1403B	英語ⅡB	演習	2	1	×		英語ⅠB
	ENG2400B	英語ⅢA	演習	2	2	×		英語ⅡA
	ENG2401B	英語ⅢB	演習	2	2	×		英語ⅡB
	ENG3400B	英語ⅣA	演習	2	2	×		英語ⅢA
	ENG3401B	英語ⅣB	演習	2	2	×		英語ⅢB
	ENG4480B	英語パスポート（Test Preparation Ⅰ）	演習	4	1	×		担当教員の許可を得て履修可
	ENG4481B	英語パスポート（Test PreparationⅡ）	演習	4	1	×		担当教員の許可を得て履修可 英語パスポート（Test Preparation Ⅰ）
	JPN140*B	日本語専門基礎AⅠ	演習	2	1	×		外国人留学生のみ履修可、重複して4単位を履修
	JPN140*B	日本語専門基礎AⅡ	演習	2	1	×		外国人留学生のみ履修可、重複して4単位を履修
	JPN140*B	日本語専門基礎B	演習	1	1	×		外国人留学生のみ履修可、重複して2単位を履修
専門基礎科目	ECO1000B	経済学入門	講義	2	1	○		
	MGM1090B	日本の経営者	講義	2	1	○		
	ACC1001B	ビジネス数字の読み方	講義	2	1	○		
	ECO1042B	金融入門	講義	2	1	○		
	TOR1000B	現代ホスピタリティ	講義	2	1	○		
	MGM1004B	企業経営と情報	講義	2	1	○		
	ECO2000B	日本経済入門	講義	2	2	○		
	MGM2050B	経営戦略入門	講義	2	2	○		
	CMS2010B	マーケティング入門	講義	2	2	○		
	CMS2020B	消費者心理入門	講義	2	2	○		
	MGM2001B	ビジネス統計	講義	2	2	○		
	LAW2050B	ビジネス法務	講義	2	2	○		
	ACC2020B	管理会計入門	講義	2	2	○		
	MGM2020B	組織と心理	講義	2	2	○		
	MGM2021B	ビジネス倫理	講義	2	2	○		
	REL1030B	宗教とグローバル社会	講義	2	2	○		

「*」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分		科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修※1	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
実習・演習科目		###36**B	インターンシップ	実習	2〜6	2	△		
		###36**B	国内ビジネス研修	実習	2〜6	2	△		
		###3***B	海外ビジネス研修	実習・演習	2〜6	2	△		
		########B	ビジネス演習	演習	2〜6	2	△		
		###6***B	フィールドトリップ	実習	1〜4	2	△		
論文・レポート科目		MGM2400B	ビジネスレポート	演習	2	3	○		
		MGM3400B	研究レポート	演習	2	3	○		
		###49**B	卒業論文	演習	2	4	○		早期卒業希望者は教員の承認を得て3年で履修可
学群共通科目		ACG1001B	キャリアデザインB	講義	2	2	×		
		ACG2000B	キャリアデザインC	講義	2	3	×		
		ACG2001B	キャリアデザインD	講義	2	3	×		
		ENG2462B	ビジネスコミュニケーション英語A	演習	2	1	○		
		ENG2465B	ビジネスコミュニケーション英語B	演習	2	2	○		
		ENG3461B	ビジネスコミュニケーション英語C	演習	2	2	○		
		ENG3464B	ビジネスコミュニケーション英語D	演習	2	2	○		
		CHN2474B	ビジネスコミュニケーション中国語A	演習	2	1	○		
		CHN2475B	ビジネスコミュニケーション中国語B	演習	2	2	○		
		CHN3476B	ビジネスコミュニケーション中国語C	演習	2	2	○		
		CHN3477B	ビジネスコミュニケーション中国語D	演習	2	2	○		
		MGM1300B	ビジネスコミュニケーション日本語A	講義	2	1	○		
		MGM2301B	ビジネスコミュニケーション日本語B	講義	2	2	○		
		MGM2096B	ビジネストピックス	講義	2	1	○		
		###20**B	特別講義Ⅰ	講義	2	2	○		
		###20**B	特別講義Ⅱ	講義	2	2	○		
		###20**B	特別講義Ⅲ	講義	2	2	○		
		###20**B	特別講義Ⅳ	講義	2	2	○		
		####0**B	特別講義Ⅴ	講義	2	2	○		
		###29**B	専攻演習Ⅰ	演習	2	2	○		
		###39**B	専攻演習Ⅱ	演習	2	3	○		
		###39**B	専攻演習Ⅲ	演習	2	3	○		
		###39**B	専攻演習Ⅳ	演習	2	4	○		
ビジネスプログラム	国際・金融ビジネス科目群	MGM2060B	異文化経営論	講義	2	2	○	○	
		MGM2061B	グローバル経営入門	講義	2	2	○	○	
		ECO2041B	外国為替入門	講義	2	2	○	○	
		ECO2140L	金融論	講義	2	2	○	○	
		ECO2045B	証券論	講義	2	2	○	○	
		CMS2050B	貿易論	講義	2	2	○	○	
		CMS2051B	貿易実務	講義	2	2	○	○	
		MGM3062B	アジア企業経営論	講義	2	2	○	○	
		MGM3063B	中国企業経営論	講義	2	2	○	○	
		MGM3067B	グローバル企業戦略論	講義	2	2	○	○	
		MGM3068B	グローバル企業経営論	講義	2	2	○	○	
		MGM3013B	日本企業経営論（英語）	講義	2	2	○	○	
		ECO3042B	金融リスク管理	講義	2	2	○	○	
		CMS3030B	国際ロジスティクス	講義	2	2	○	○	
		CMS3050B	総合商社論	講義	2	2	○	○	
		MGM2042B	保険と経営	講義	2	2	○	○	

「###」：３文字コードが複数存在する科目

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

注意「卒業論文」は、卒業を希望するセメスターに登録してください。

科目区分		科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修※1	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
ビジネスプログラム	流通・マーケティングビジネス科目群	CMS1034B	物流ビジネス	講義	2	1	○	○	
		CMS1035B	流通ビジネス	講義	2	1	○	○	
		CMS1013B	ブランドビジネス	講義	2	1	○	○	
		CMS1014B	広告ビジネス	講義	2	1	○	○	
		CMS2052B	ファッションビジネス	講義	2	1	○	○	
		MGM2010B	ベンチャー起業論	講義	2	1	○	○	
		CMS1090B	まちづくりビジネス	講義	2	1	○	○	
		CMS2030B	流通システム論	講義	2	2	○	○	
		CMS2060B	ブランド論	講義	2	2	○	○	
		CMS2061B	広告論	講義	2	2	○	○	
		CMS2062B	マーケティング理論	講義	2	2	○	○	
		CMS3012B	マーケティング戦略論	講義	2	2	○	○	
		CMS3010B	国際マーケティング	講義	2	2	○	○	
		CMS2063B	サービスマーケティング	講義	2	2	○	○	
		CMS3013B	ＩＣＴマーケティング	講義	2	2	○	○	
		CMS2064B	マーケティング分析	講義	2	2	○	○	
		CMS2015B	商品企画の実際	講義	2	2	○	○	
		CMS3014B	小売経営論	講義	2	2	○	○	
		MGM3041B	サービスマネジメント	講義	2	2	○	○	
		CMS3011B	環境マーケティング	講義	2	2	○	○	
		CMS3410B	市場調査フィールドワーク	演習	2	2	○	○	
		CMS3022B	消費者心理・行動論	講義	2	2	○	○	
	ＩＣＴビジネス科目群	IST1020B	情報通信技術と社会	講義	2	1	○	○	
		IST2097B	コンピュータビジネス概論	講義	2	1	○	○	
		IST2095B	デジタルコンテンツビジネス	講義	2	1	○	○	
		IST2092B	モバイルビジネス	講義	2	1	○	○	
		IST2486B	パソコン利用の意思決定	演習	2	1	○	○	
		IST2484B	経営調査演習Ⅰ	演習	2	2	×	○	
		IST2485B	経営調査演習Ⅱ	演習	2	2	×	○	
		IST2040B	ネットワーク管理	講義	2	2	○	○	
		IST2490B	ビジネス表計算演習	演習	2	2	○	○	
		IST2450B	ビジネスプログラミング	演習	2	2	○	○	
		IST2094B	電子商取引論	講義	2	2	○	○	
		IST2470B	ビジネスウェブデザイン	演習	2	2	○	○	
		IST3090B	ＩＣＴベンチャービジネス	講義	2	2	○	○	
		IST3460B	経営データベース管理	演習	2	2	○	○	
		IST3096B	金融ＩＴビジネス（Fin Tech）	講義	2	2	○	○	
	観光・ホスピタリティ・エンターテイメントビジネス科目群	TOR1001B	レジャー論	講義	2	1	○	○	
		TOR1002B	観光学概論	講義	2	1	○	○	
		TOR1003B	観光地理	講義	2	1	○	○	
		TOR3010B	観光交通論	講義	2	1	○	○	
		TOR2011B	旅行業経営論	講義	2	2	○	○	
		TOR3014B	ニューツーリズム論	講義	2	2	○	○	
		TOR3012B	旅行マーケティング	講義	2	2	○	○	
		TOR2110B	インバウンドビジネス論	講義	2	2	○	○	
		TOR2022B	ホテルビジネスⅠ（営業）	講義	2	2	○	○	
		TOR3023B	ホテルビジネスⅡ（管理）	講義	2	2	○	○	

（次のページに続く）

科目区分		科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修※1	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
ビジネスプログラム	観光・ホスピタリティ・エンターテイメントビジネス科目群	TOR3024B	ホテルマネジメント	講義	2	2	○	○	
		TOR2020B	ブライダルビジネス	講義	2	2	○	○	
		TOR3025B	イベント・コンベンション（MICE）	講義	2	2	○	○	
		TOR3022B	フードサービス産業論	講義	2	2	○	○	
		TOR2030B	テーマパーク論	講義	2	2	○	○	
		TOR3030B	ホスピタリティ空間デザイン	講義	2	2	○	○	
		TOR3031B	観光リゾート開発論	講義	2	2	○	○	
		TOR3004B	観光地域振興論	講義	2	2	○	○	
		TOR3110B	ディスティネーション・マーケティング	講義	2	2	○	○	
		TOR3005B	観光リスクマネジメント論	講義	2	2	○	○	
		TOR2031B	レジャー産業論	講義	2	2	○	○	
		TOR2032B	カルチャー・エンターテイメント産業論	講義	2	2	○	○	
		TOR2034B	スポーツ産業論	講義	2	2	○	○	
		MGM2013B	ホスピタリティ経営論	講義	2	2	○	○	
		LAW2000B	ホスピタリティと法律	講義	2	2	○	○	
		MGM2004B	観光とＩＣＴ	講義	2	2	○	○	
マネジメントプログラム	経営戦略・管理科目群	MGM2040B	リスクマネジメント入門	講義	2	2	○	○	
		MGM2047B	経営史	講義	2	2	○	○	
		MGM2016B	現代企業論	講義	2	2	○	○	
		MGM3015B	ベンチャー経営論	講義	2	2	○	○	
		MGM2049B	経営管理論	講義	2	2	○	○	
		MGM3122B	経営組織論	講義	2	2	○	○	
		MGM3050B	経営戦略論	講義	2	2	○	○	
		MGM3160B	国際経営論	講義	2	2	○	○	
		MGM2071B	人事資源管理論	講義	2	2	○	○	
		MGM3170B	人材育成論	講義	2	2	○	○	
		MGM3084B	生産管理論	講義	2	2	○	○	
		MGM3285B	品質経営論	講義	2	2	○	○	
		MGM2026B	リーダーシップ論	講義	2	2	○	○	
		MGM3095B	公共経営論	講義	2	2	○	○	
		MGM3145B	コーポレートガバナンス論	講義	2	2	○	○	
		MGM3150B	キャラクター経営論	講義	2	2	○	○	
	会計・財務科目群	ACC1240B	簿記Ⅰ	講義	2	1	○	○	
		ACC2240B	簿記Ⅱ	講義	2	1	○	○	
		ACC2241B	簿記Ⅲ	講義	2	2	○	○	
		ACC3240B	簿記Ⅳ	講義	2	2	○	○	
		ACC3241B	簿記Ⅴ	講義	2	2	○	○	
		ACC2030B	現代社会と監査	講義	2	2	○	○	
		ACC2031B	内部統制とリスクマネジメント	講義	2	2	○	○	
		ACC2018B	財務会計基礎	講義	2	2	○	○	
		ACC2115B	財務会計応用	講義	2	2	○	○	財務会計基礎
		LAW2020B	税法概説	講義	2	2	○	○	
		ACC2019B	財務管理基礎	講義	2	2	○	○	
		ACC2117B	財務管理応用	講義	2	2	○	○	
		ECO3040B	グローバル・コーポレートファイナンスⅠ	講義	2	2	○	○	
		ECO3041B	グローバル・コーポレートファイナンスⅡ	講義	2	2	○	○	

（次のページに続く）

科目区分		科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修※1	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
マネジメントプログラム	会計・財務科目群	ACC3020B	意思決定のための管理会計	講義	2	2	○	○	
		ACC3021B	業績管理会計	講義	2	2	○	○	
		ACC2080B	社会環境会計	講義	2	2	○	○	
		ACC3052B	国際会計基礎	講義	2	3	○	○	
		ACC3153B	国際会計応用	講義	2	3	○	○	国際会計基礎
		ACC3064B	税務会計基礎	講義	2	2	○	○	
		ACC3163B	税務会計応用	講義	2	2	○	○	税務会計基礎
	経済・法律科目群	ECO2012L	ミクロ経済学	講義	2	2	○	○	
		ECO2011L	マクロ経済学	講義	2	2	○	○	
		ECO2030B	国際経済入門	講義	2	2	○	○	
		ECO3090B	環境と経済	講義	2	2	○	○	
		LAW2040B	民法Ⅰ（財産・取引）	講義	2	2	○	○	
		LAW2041B	民法Ⅱ（契約・不法行為・家族）	講義	2	2	○	○	
		LAW3050B	企業法Ⅰ（会社法）	講義	2	2	○	○	
		LAW3051B	企業法Ⅱ（商法・金融商品取引法）	講義	2	2	○	○	
		LAW3040B	国際取引法	講義	2	2	○	○	
		LAW3001B	不動産ビジネスと法律	講義	2	2	○	○	民法Ⅰ
		LAW2042B	民事紛争解決手続	講義	2	2	○	○	
		LAW2043B	登記と手続	講義	2	2	○	○	
		LAW3053B	自由な競争の法律（経済法Ⅰ）	講義	2	2	○	○	
		LAW3054B	公正な競争の法律（経済法Ⅱ）	講義	2	2	○	○	
		LAW3080B	ブランドと名称の法律(知的財産権法Ⅰ)	講義	2	2	○	○	
		LAW3081B	著作権ビジネスと法律(知的財産権法Ⅱ)	講義	2	2	○	○	
		LAW2044B	消費者法	講義	2	2	○	○	
		LAW3002B	情報ネットワークと法律	講義	2	2	○	○	
	情報・環境科目群	IST1080B	経営情報リテラシー	講義	2	1	○	○	
		IST2081B	情報サービス産業論	講義	2	1	○	○	
		IST2014B	情報科学基礎論Ⅰ（戦略・管理）	講義	2	1	○	○	
		IST2015B	情報科学基礎論Ⅱ（テクノロジー）	講義	2	1	○	○	
		MGM3000B	経営と環境	講義	2	1	○	○	
		IST2093B	エコビジネス	講義	2	1	○	○	
		IST2085B	経営情報システム論	講義	2	2	○	○	
		IST2083B	情報戦略論	講義	2	2	○	○	
		IST2020B	情報メディア論	講義	2	2	○	○	
		MGM2030B	イノベーション経営	講義	2	2	○	○	
		MGM2089B	知的財産戦略論	講義	2	2	○	○	
		IST3040B	情報セキュリティ	講義	2	2	○	○	
		MGM2031B	プロジェクト・マネジメント	講義	2	2	○	○	
		MGM3031B	企業の数量的意思決定	講義	2	2	○	○	
		ENV3041B	企業とエネルギー	講義	2	2	○	○	

※1：新宿キャンパスでは、「○」や「△」の場合であっても年度や学期によって履修条件が付加されたり、履修不可となる場合があります。
詳細は別途掲示等でお知らせしますのでご確認ください。

アビエーションマネジメント学類

１．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学類は、以下の基本要件を満たす学生に対し、「学士（アビエーションマネジメント）」を授与します。

（１）倫理観

“高度なビジネスパーソン”としての常識とモラル、倫理観、マナーを備えること。

（２）専攻する各分野における知識・理解と論理的思考力

ビジネス実務の基本とマネジメント能力を備え、論理的な思考と意思決定ができ、自らのキャリアについて明確なビジョンを持つとともに、特に、エアラインビジネスに関わる専門的な知識・技倆を身につけ、航空分野での有用な人財となりうる能力を有すること。

（３）チームワーク

自分とは異なる様々な背景を持つ人々との相互理解に努めることが可能で、相手の気持ちを思いやる豊かな人間性をもち、組織のなかで協力しながら最後まで仕事を進めることができること。

（４）問題解決能力

ビジネス現場において日々生ずる様々な問題を感知し、失敗をおそれず解決のための行動を起こすことができ、たとえ困難が生じたとしても、あきらめず最後までやり抜くことができること。

（５）コミュニケーション能力と多文化・異文化に関する知識の理解

エアラインビジネスで求められる語学力を有すること。そのコミュニケーション能力を駆使して異文化を理解し、より広い視野に立ち、国際的ビジネスセンスを持って行動できるよう努力を続け得ること。

本学類のカリキュラムに基づく卒業要件は以下の通りです。

①「基礎教育科目」44単位を修得していること。

②「専攻科目」の「実習・演習科目」2単位、「論文・レポート科目」２単位を修得していること。

③「学類内専門基礎科目」及び所属するコースの「専門応用科目」から各自が選択した26単位、及び「学群共通科目」、「学類共通科目」、最低必要単位数を超えて修得した「学類内専門基礎科目」「学類内各コース専門応用科目」の中から各自が選択した26単位、計52単位を修得していること。

④「基礎教育科目」及び「専攻科目」については、必要な単位及びこれに各自が自由に選択した自由選択の単位を加え、計124単位以上を修得し、かつ通算 GPA が1.5以上であること。

２．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

様々な業種・職種、わけてもエアラインビジネスの分野で活躍できる“高度なビジネスパーソン”を育成するため、本学類では、以下のようにカリキュラムを構成しています。

（１）教育課程の編成

①「基礎教育科目」は下記の通り構成しています。

ア）「学群指定科目」：本学の建学の精神や大学における学修の基礎を学びます。

イ）「ガイダンス科目」：学類の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を養成します。

ウ）「外国語科目」：ビジネスの現場で必要な実践的な語学力の習得を目指す科目です。
「TOEIC®」600点を卒業時の達成目標とします。

②「専攻科目」は下記の通り構成されています。

ア）「専門基礎科目」：専門的技能の修得に向けた航空分野の基礎知識の獲得を目指す科目です。

イ）「専門応用科目」：コースごとの専門的知識・技倆の修得を目指す科目です。

ウ）「実習・演習科目」：ビジネス現場の実務能力の修得を目指す科目です。

エ）「学群及び学類共通科目」：学群内、学類内に共通する科目です。

オ）「論文・レポート科目」：学修成果の集大成として、研究視点で論文をまとめる、あるいはビジネス視点でレポートをまとめる能力の修得を目指す科目です。

（２）学修方法・学修過程

①本学類には、「エアライン・ビジネスコース」「エアライン・ホスピタリティコース」の２つの専攻コースを置いています。「エアライン・ビジネスコース」では、航空関連企業のマネジメント分野で必要とされる理論や知識を修得します。

「エアライン・ホスピタリティコース」では、空港・機内でのサービスを担うグランドスタッフや客室乗務員の分野に必要な理論やスキルを修得します。２年次秋学期にビジネスマネジメント学群 GO（グローバルアウトリーチ）プログラムの一環として予定される約４か月の留学が組みこまれています。

②学生の多様な将来目標に応えるために、科目履修の仕方を「学修ストーリー」にまとめて提示しています。

（３）学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

②学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価など（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンス（プレゼン、協同作業など）の特徴を示した評価規準からなる表）を取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

3．卒業要件　　※○数字は科目の単位数を表します。

		アビエーションマネジメント学類	
基礎教育科目 **44単位** （最低必要単位）	学群指定科目 **14単位必修**	キリスト教と建学の精神② 日本語表現Ⅰ② 情報リテラシーⅠ② ビジネスマナー②	異文化理解② 日本語表現Ⅱ② 情報リテラシーⅡ②
	外国語科目 （注１、注２） **16単位必修**	英語Ⅰ A ② 英語Ⅱ A ② 英語Ⅲ A ② 英語Ⅳ A ②	英語Ⅰ B ② 英語Ⅱ B ② 英語Ⅲ B ② 英語Ⅳ B ②
	ガイダンス 科　　目 **14単位必修**	アカデミックリテラシーⅠ② 現代経営入門② 現代法入門② キャリアデザインA②	アカデミックリテラシーⅡ② 現代会計入門② 統計入門②
専攻科目 **56単位** （最低必要単位）	専門基礎科目／専門応用科目／学群共通科目／学類共通科目 **52単位必修**	必要単位数52単位の内、アビエーションマネジメント学類に属する専門基礎科目と各自が所属するコースの専門応用科目より合計で選択26単位以上修得すること。	
	実習・演習科目 **２単位必修**	インターンシップ②～⑥ 海外ビジネス研修②～⑥ フィールドトリップ①～④	国内ビジネス研修②～⑥ ビジネス演習②～⑥ 航空輸送産業実習②～④
	論文・レポート科目 **２単位必修**	ビジネスレポート② 卒業論文②	研究レポート②
自由選択		・基礎教育科目、専攻科目で最低必要単位数を超えて修得した単位 ・自学類にない他学類専攻科目 ・他学群専攻科目 ・基盤教育の科目 ・他大学等（短期大学・海外留学の科目を含む）認定単位（P. 209） ・各種技能審査による認定単位（P. 210～212）	
卒業要件単位合計 基礎教育科目、専攻科目、自由選択、あわせて **124単位以上**		【その他の要件】 １．入学時からの通算ＧＰＡが1. 5以上 ２．専攻コースを１つ選び、メジャーとして必ず修了すること	
		【早期卒業の要件】 １．本学に３年以上在学し、卒業に必要な124単位以上を修得し、かつ入学時からの通算ＧＰＡが3. 6以上 ２．TOEIC®700点以上を有し、かつそのスコアを用いて技能審査による単位認定を受けていること（注３）	

（注１）一定以上の能力を有すると認められた者、もしくはその他要件を満たした者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。（卒業要件単位数124単位から免除科目分の単位は差し引かれません）
　外国人留学生等（日本語を母語としない者。以下同じ。）は、「英語ＩＡ・ＩＢ・ⅡＡ・ⅡＢ・ⅢＡ・ⅢＢ・ⅣＡ・ⅣＢ」に替えて「日本語専門基礎ＡⅠ・ＡⅡ・B」を各２回、合計10単位を修得しなければなりません。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。
（注２）外国人留学生等は、外国人留学生履修規定のとおり修得してください。
（注３）技能審査による単位認定の申請方法ついてはP. 210を参照してください。

４．専攻コース案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻コースが置かれています。アビエーションマネジメント学類の専攻科目で構成される専攻コースを登録すると、「学業成績単位修得証明書」にメジャーを登録中であることが記載されます。修了要件を満たすと、卒業後の「学業成績単位修得証明書」にメジャーを修了したことが記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業要件となっています。ただし、アビエーションマネジメント学類以外の専攻プログラム・専攻コースをメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、他学群のものをマイナーとして登録することができます。

ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

１．マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。

２．他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。

３．他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

アビエーションマネジメント学類の専攻コースは人数制限があるため２セメスター目に選考試験があります。詳細については別途掲示します。

マイナーの登録は、５セメスター目に受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日まで、変更もできます。

アビエーションマネジメント学類

専攻コース	メジャー	マイナー
エアライン・ビジネス	○	
エアライン・ホスピタリティ	○	

エアライン・ビジネスコース

１．教育目的

航空輸送産業は近年、変革と競争の時代を迎えています。国内では、羽田空港4本目の滑走路・国際線ターミナルの完成、成田空港発着枠拡大、国際線ハブ機能強化と新規格安航空会社（LCC）の設立など拡大基調があり、海外では近隣アジア諸国のハブ空港争い、中国航空市場拡大、LCC の路線網拡大など、国内外共に拡大成長が期待されています。

こうした状況を背景に、本コースでは航空会社旅客・貨物・運航部門、航空関連企業や航空関連商社、航空会社代理店などの分野において、時代の要請に応える「国際的センスとコミュニケーション力」「価値創造力」と「豊かな人間性と教養」をもった人財育成を目標としています。

２．カリキュラムの特徴

エアライン・ビジネスコースのカリキュラムは、単に航空業界での「専門知識」を学ぶだけでなく、「幅広い教養」「国際的センスとコミュニケーション力」の修得を目的とすることから、航空ビジネス専門分野としての安全管理、営業、旅客・貨物、運航、整備、航空関連法規、などの専門知識の習得とビジネスの広い視野と国際センスの修得を目指すカリキュラムとなっています。

具体的には、「エアラインの整備事業」「エアラインの事業計画」「航空貨物輸送論Ⅰ、Ⅱ」「航空実務概論」「航空関連法規基礎」などの科目があります。この他、航空関連会社でのインターンシップ、航空業界関係者による特別講義、企業訪問などが織り込まれている講義科目も設定されています。

メジャー：アビエーションマネジメント学類に属する専門基礎科目および「エアライン・ビジネス科目群」より合計26単位以上修得してください。

マイナー：なし

エアライン・ホスピタリティコース

１．教育目的

航空会社が政府の厳しい規制と保護下におかれ、競争が抑制されていた時代には、企業の経営にとって重要な要件は制度によって定められていました。しかし、1980年代以降の世界的な規制緩和・競争促進政策の流れのもと、現代の航空会社は、政府に頼ることなく、自身の経営政策によって市場を切り開き、生き残っていくことを求められています。

このような中にあって、現代に求められる航空輸送におけるサービス分野の人財とは、相手の気持ちを思うホスピタリティ・マインドと実践力に加え、時々刻々変化するグローバルな市場におけるさまざまな変化要因に対して、自分の頭で考え、行動することのできる経営的なセンスも身につけた人財でなければなりません。

当コースは、そのような時代要請に基づいて、単に実用的な知識の習得だけではなく、航空市場とサービス業務についての基本を学び、そのあとは自らの頭で考えることのできる「経営センスとホスピタリティ・マインドにあふれたキャビン・アテンダントやグランド・スタッフ」を育てることを目的としています。

２．カリキュラムの特徴

エアライン・ホスピタリティコースの特徴は、「ホスピタリティ・コミュニケーションＡ・B」「ホスピタリティマネジメント」などホスピタリティ分野の科目や「グローバル教養論」など、国際的な視点を養う科目を用意していることです。航空輸送事業の採用は安定的ではなく、必ずしも希望どおりの就職が常に可能とは限りませんが、この基本的な理論や知識を習得しておけば、広範な他のビジネス分野への方向転換も容易です。

むろん、コンピュータ・リザベーション・システムを実際に扱って情報戦略を実践的に学ぶ「観光情報戦略論Ⅰ、Ⅱ」をはじめ、自己表現方法やホスピタリティの提供方法を学ぶ科目や、航空業界の実態を経験するインターンシップ科目など、実用的な科目も多彩に用意されています。そして、英語力と国際感覚を磨くために、２年次の秋に「海外留学」が組み込まれていることも、当コースのカリキュラムの大きな特徴です。

メジャー：アビエーションマネジメント学類に属する専門基礎科目および「エアライン・ホスピタリティ科目群」より合計26単位以上修得してください。

マイナー：なし

５．ガイダンス・専攻科目と諸注意

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修※1	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
学群指定科目	CHR1000B	キリスト教と建学の精神	講義	2	1	×		
	JLS1470B	日本語表現Ⅰ	演習	2	1	×		
	JLS1471B	日本語表現Ⅱ	演習	2	1	×		日本語表現Ⅰ
	IST1400B	情報リテラシーⅠ	演習	2	1	×		
	IST1401B	情報リテラシーⅡ	演習	2	1	×		情報リテラシーⅠ
	HUM1001B	異文化理解	講義	2	2	×		
	MGM1290B	ビジネスマナー	講義・演習	2	2	×		
ガイダンス科目	ACG1400B	アカデミックリテラシーⅠ	演習	2	1	×		
	ACG1401B	アカデミックリテラシーⅡ	演習	2	1	×		アカデミックリテラシーⅠ
	ACG1000B	キャリアデザインＡ	講義	2	1	×		
	MGM1000B	現代経営入門	講義	2	1	○		
	ACC1000B	現代会計入門	講義	2	1	○		
	LAW1000B	現代法入門	講義	2	1	○		
	MTH1070B	統計入門	講義	2	1	×		
外国語科目	ENG1400B	英語ⅠＡ	演習	2	1	×		
	ENG1401B	英語ⅠＢ	演習	2	1	×		
	ENG1402B	英語ⅡＡ	演習	2	1	×		英語ⅠＡ
	ENG1403B	英語ⅡＢ	演習	2	1	×		英語ⅠＢ
	ENG2400B	英語ⅢＡ	演習	2	2	×		英語ⅡＡ
	ENG2401B	英語ⅢＢ	演習	2	2	×		英語ⅡＢ
	ENG3400B	英語ⅣＡ	演習	2	2	×		英語ⅢＡ
	ENG3401B	英語ⅣＢ	演習	2	2	×		英語ⅢＢ
	ENG4480B	英語パスポート（Test Preparation Ⅰ）	演習	4	1	×		担当教員の許可を得て履修可
	ENG4481B	英語パスポート（Test Preparation Ⅱ）	演習	4	1	×		担当教員の許可を得て履修可 英語パスポート（Test Preparation Ⅰ）
	JPN140＊C	日本語専門基礎ＡⅠ	演習	2	1	×		外国人留学生のみ履修可、重複して4単位を履修
	JPN140＊C	日本語専門基礎ＡⅡ	演習	2	1	×		外国人留学生のみ履修可、重複して4単位を履修
	JPN140＊C	日本語専門基礎Ｂ	演習	1	1	×		外国人留学生のみ履修可、重複して2単位を履修
実習・演習科目	###36＊＊B	インターンシップ	実習	2～6	2	△		
	###36＊＊＊B	国内ビジネス研修	実習	2～6	2	△		
	###3＊＊＊B	海外ビジネス研修	実習・演習	2～6	2	△		
	###＊＊＊＊B	ビジネス演習	演習	2～6	2	△		
	###6＊＊B	フィールドトリップ	実習	1～4	2	△		
	AER362＊B	航空輸送産業実習	実習	2～4	2	×	×	アビエーションマネジメント学類生のみ履修可
学群共通科目	ACG1001B	キャリアデザインＢ	講義	2	2	×		
	ACG2000B	キャリアデザインＣ	講義	2	3	×		
	ACG2001B	キャリアデザインＤ	講義	2	3	×		
	ENG2462B	ビジネスコミュニケーション英語A	演習	2	1	○		
	ENG2465B	ビジネスコミュニケーション英語B	演習	2	2	○		
	ENG3461B	ビジネスコミュニケーション英語C	演習	2	2	○		
	ENG3464B	ビジネスコミュニケーション英語D	演習	2	2	○		
	CHN2474B	ビジネスコミュニケーション中国語A	演習	2	1	○		
	CHN2475B	ビジネスコミュニケーション中国語B	演習	2	2	○		
	CHN3476B	ビジネスコミュニケーション中国語C	演習	2	2	○		
	CHN3477B	ビジネスコミュニケーション中国語D	演習	2	2	○		
	MGM1300B	ビジネスコミュニケーション日本語A	講義	2	1	○		
	MGM2301B	ビジネスコミュニケーション日本語B	講義	2	2	○		

「###」：３文字コードが複数存在する科目

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修※1	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
学群共通科目	MGM2096B	ビジネストピックス	講義	2	1	○		
	###20**B	特別講義Ⅰ	講義	2	2	○		
	###20**B	特別講義Ⅱ	講義	2	2	○		
	###20**B	特別講義Ⅲ	講義	2	2	○		
	###20**B	特別講義Ⅳ	講義	2	2	○		
	####0**B	特別講義Ⅴ	講義	2	2	○		
	###29**B	専攻演習Ⅰ	演習	2	2	○		
	###39**B	専攻演習Ⅱ	演習	2	3	○		
	###39**B	専攻演習Ⅲ	演習	2	3	○		
	###39**B	専攻演習Ⅳ	演習	2	4	○		
論文・レポート科目	MGM2400B	ビジネスレポート	演習	2	3	○		
	MGM3400B	研究レポート	演習	2	3	○		
	###49**B	卒業論文	演習	2	4	○		早期卒業希望者は教員の承認を得て3年次で履修可
学類共通科目	ECO1000B	経済学入門	講義	2	1	○		
	MGM1090B	日本の経営者	講義	2	1	○		
	ACC1001B	ビジネス数字の読み方	講義	2	1	○		
	ECO1042B	金融入門	講義	2	1	○		
	TOR1000B	現代ホスピタリティ	講義	2	1	○		
	MGM1004B	企業経営と情報	講義	2	1	○		
	ECO2000B	日本経済入門	講義	2	2	○		
	MGM2050B	経営戦略入門	講義	2	2	○		
	CMS2010B	マーケティング入門	講義	2	2	○		
	CMS2020B	消費者心理入門	講義	2	2	○		
	MGM2001B	ビジネス統計	講義	2	2	○		
	LAW2050B	ビジネス法務	講義	2	2	○		
	ACC2020B	管理会計入門	講義	2	2	○		
	MGM2020B	組織と心理	講義	2	2	○		
	MGM2021B	ビジネス倫理	講義	2	2	○		
	REL1030B	宗教とグローバル社会	講義	2	2	○		
	MGM2060B	異文化経営論	講義	2	2	○		
	MGM2061B	グローバル経営入門	講義	2	2	○		
	ECO2041B	外国為替入門	講義	2	2	○		
	CMS2050B	貿易論	講義	2	2	○		
	CMS2051B	貿易実務	講義	2	2	○		
	ECO3042B	金融リスク管理	講義	2	2	○		
	CMS3030B	国際ロジスティクス	講義	2	2	○		
	CMS1034B	物流ビジネス	講義	2	1	○		
	CMS1035B	流通ビジネス	講義	2	1	○		
	CMS1014B	広告ビジネス	講義	2	1	○		
	CMS2062B	マーケティング理論	講義	2	2	○		
	CMS2063B	サービスマーケティング	講義	2	2	○		
	CMS3013B	ICT マーケティング	講義	2	2	○		
	CMS3022B	消費者心理・行動論	講義	2	2	○		
	TOR1001B	レジャー論	講義	2	1	○		
	TOR1002B	観光学概論	講義	2	1	○		
	TOR1003B	観光地理	講義	2	1	○		
	TOR3010B	観光交通論	講義	2	1	○		

「###」：３文字コードが複数存在する科目

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

注意「卒業論文」は、卒業を希望するセメスターに登録してください。

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修※1	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
学類共通科目	TOR3012B	旅行マーケティング	講義	2	2	○		
	TOR3031B	観光リゾート開発論	講義	2	2	○		
	MGM2013B	ホスピタリティ経営論	講義	2	2	○		
	LAW2000B	ホスピタリティと法律	講義	2	2	○		
	LAW3050B	企業法Ⅰ（会社法）	講義	2	2	○		
	LAW3051B	企業法Ⅱ（商法・金融商品取引法）	講義	2	2	○		
	MGM2047B	経営史	講義	2	2	○		
	LAW2040B	民法Ⅰ（財産・取引）	講義	2	2	○		
	LAW2041B	民法Ⅱ（契約・不法行為・家族）	講義	2	2	○		
	MGM2040B	リスクマネジメント入門	講義	2	2	○		
	MGM2049B	経営管理論	講義	2	2	○		
	MGM3122B	経営組織論	講義	2	2	○		
	MGM3050B	経営戦略論	講義	2	2	○		
	MGM3160B	国際経営論	講義	2	2	○		
	ACC2019B	財務管理基礎	講義	2	2	○		
	ACC2117B	財務管理応用	講義	2	2	○		
	MGM2071B	人事資源管理論	講義	2	2	○		
	MGM3170B	人材育成論	講義	2	2	○		
	MGM3084B	生産管理論	講義	2	2	○		
	ACC2030B	現代社会と監査	講義	2	2	○		
	ACC2018B	財務会計基礎	講義	2	2	○		
	ACC2115B	財務会計応用	講義	2	2	○		財務会計基礎
	ACC3064B	税務会計基礎	講義	2	2	○		
	ACC3163B	税務会計応用	講義	2	2	○		税務会計基礎
	LAW3053B	自由な競争の法律（経済法Ⅰ）	講義	2	2	○		
	LAW3054B	公正な競争の法律（経済法Ⅱ）	講義	2	2	○		
	LAW3040B	国際取引法	講義	2	2	○		
	LAW2044B	消費者法	講義	2	2	○		
	LAW2020B	税法概説	講義	2	2	○		
	ACC1240B	簿記Ⅰ	講義	2	1	○		
	ACC2240B	簿記Ⅱ	講義	2	1	○		
	IST1080B	経営情報リテラシー	講義	2	1	○		
専門基礎科目	AER1013B	航空法入門Ａ	講義	2	1	○	○	
	AER1014B	航空法入門Ｂ	講義	2	1	○	○	
	SOC2000B	国際社会論	講義	2	1	○	○	
	SOC2001B	国際コミュニケーション論	講義	2	1	○	○	
	AER2023B	オペレーションコントロール概論	講義	2	2	○	○	
	AER2026B	航空輸送概論	講義	2	2	○	○	
	AER3002B	航空事業論	講義	2	2	○	○	
	ENG2467B	エアラインコミュニケーション機内Ⅰ（英語）	演習	2	2	○	○	
	ENG3468B	エアラインコミュニケーション機内Ⅱ（英語）	演習	2	3	○	○	エアラインコミュニケーション機内Ⅰ（英語）
	ENG2463B	エアラインコミュニケーション空港（英語）	演習	2	2	○	○	
	TOR3001B	国際ツーリズム論	講義	2	2	○	○	
	AER3025B	国際交通論	講義	2	2	○	○	
	AER302*B	海外航空実務概論	講義	2～4	2	×	△	担当教員の許可を得て履修可
	AER3022B	航空マーケティング	講義	2	2	○	○	
	MGM3014B	日本企業経営論（英語）	講義	2	2	○	○	
	MGM3064B	国際ビジネス戦略論	講義	2	3	○	○	

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

演習

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修※1	自学群他メジャー生の履修	先修条件ほか
専門基礎科目	ENG2466B	Business Interviews & Presentations	講義	2	2	○	○	
	AER2061B	Airline History	講義	2	2	○	○	
エアライン・ビジネス科目群	AER2010B	航空関連法規基礎	講義	2	2	○	○	
	AER2021B	エアラインにおける安全管理	講義	2	2	○	○	
	AER2020B	航空貨物輸送論Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	AER3021B	航空貨物輸送論Ⅱ	講義	2	2	○	○	航空貨物輸送論Ⅰ
	AER2062B	エアラインの整備事業	講義	2	2	○	○	
	AER2029B	航空産業と環境	講義	2	2	○	○	
	AER2024B	航空実務概論	講義	2	2	○	○	
	AER2063B	エアラインの事業計画	講義	2	2	○	○	
	MGM2002B	航空とICT	講義	2	2	○	○	
	MGM3001B	交通経営論	講義	2	2	○	○	
	ECO3050B	交通経済論	講義	2	2	○	○	
	AER2002B	国際航空論	講義	2	3	○	○	
エアライン・ホスピタリティ科目群	MGM3041B	サービスマネジメント	講義	2	2	○	○	
	SOC2002B	サービス・コミュニケーション	講義	2	2	○	○	
	MED2000B	救急救命法	講義	2	2	×	○	
	ENG3466B	ホスピタリティ・コミュニケーションA（英語）	演習	2	2	○	○	
	ENG3467B	ホスピタリティ・コミュニケーションB（英語）	演習	2	2	○	○	
	SOC2003B	グローバル教養論	講義	2	2	○	○	
	TOR3410B	観光情報戦略論Ⅰ	演習	2	2	×	○	
	TOR3411B	観光情報戦略論Ⅱ	演習	2	2	×	○	
	TOR3026B	ホスピタリティマネジメント	講義	2	2	○	○	
	TOR3028B	ホスピタリティ特論A	講義	2	2	○	○	
	TOR3029B	ホスピタリティ特論B	講義	2	3	○	○	
	TOR3027B	日本ホスピタリティ産業論（英語）	講義	2	2	○	○	
	TOR3041B	ホスピタリティと食文化論	講義	2	3	×	○	
	ENG2474B	Studying & Living Abroad A	講義	2	2	×	×	
	ENG2475B	Studying & Living Abroad B	講義	2	2	×	×	

※1：新宿キャンパスでは、「○」や「△」の場合であっても年度や学期によって履修条件が付加されたり、履修不可となる場合があります。
詳細は別途掲示等でお知らせしますのでご確認ください。

６．健康福祉学群

１．健康福祉学群について

健康福祉学群は、本学の教育目標にある、「キリスト教主義に基づく教養豊かな識見の高い国際的人材の育成」を基本に据えています。その上で、乳幼児から高齢者、障害者まで、さまざまな人を対象とした「健康」と「福祉」について学ぶことを目的にしています。健康福祉学群には「社会福祉」「精神保健福祉」「健康科学」「保育」の４つの専修があり、各分野で活躍できる高い専門性を持ったスペシャリストを養成するプロフェッショナルアーツをめざしています。少子・高齢社会にある現代のわが国において、健康や福祉を学び、人々の生活の質を向上させる人材の育成に関する社会的ニーズは高いといえます。４つの専修のいずれの専門分野も、「ひと」とのつながりが重要な要素となる対人援助職が中核となっています。そのため、「人を活かす」カウンセリング・マインドをもった人材養成を重視しています。また、今日の日本では、専門性の高さはもちろんのこと、他分野と連携し総合的に活躍できる人材が望まれています。本学群は、隣接する４つの分野で構成されており、関連他分野についても学ぶことができます。他者の悩みや喜びに共感できる豊かな人間性と、専門知識に基づいて物事に冷静に対処する力を併せ持つ人材は、福祉、スポーツ、幼児教育といった幅広い現場で即戦力としての活躍が期待できます。

２．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学群は、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを基本理念とし、健康福祉分野における専門的知識と技能を身につけ、グローバルな視野をもって人々の健康と福祉に貢献することを目的としています。

そのため、本学群では目的実現のため編成されたカリキュラムのもと、定められた在学期間に通算 GPA1.5以上、所定の卒業単位（「基礎教育科目」20単位以上、「専攻科目」54単位以上、その他「自由選択」、計124単位以上）を修得し、以下の知識、技能、能力を身につけた者に対し卒業を認定し、それぞれの専修、コースに応じて「学士（社会福祉学）」「学士（精神保健福祉学）」「学士（健康科学）」「学士（保育学）」「学士（健康福祉学）」の学位を授与します。また、この「卒業認定・学位授与の方針」は、「教育課程編成・実施の方針」において具現化されており、本学群の学びは全て学園の行動指針である「学而事人（学びて人に仕える）」に結びつくようになっています。

（１）健康と福祉及びその関連領域に関する知識・理解

グローバルな視点に立ち、多様なニーズをもつ人々の健康と福祉に寄与するための知識を身につけることができる。

（２）人々の健康と福祉に寄与できる技能

多様なニーズをもつ人々の健康と福祉に寄与するための技能を身につけ、活用することができる。

（３）問題発見・解決能力

課題に直面した際の対処に役立つ情報収集力、論理的・批判的思考能力を身につけ、活用することができる。

（４）コミュニケーション能力

他者の希望や苦悩を聴きとり、自分の気持ちや考えを的確に表現、伝達する力を身につけ、活用することができる。

（５）常識とモラル

社会人として活躍するために必要な倫理観、常識とモラルを身につけ、活用することができる。

（６）志向性・積極性

自己の可能性を最大限に活かすよう前向きに物事に臨むことができる。

（７）カウンセリング・マインド

人の気持ちを受けとめ、相手の立場に立って理解しようとする姿勢・態度を身につけることができる。

（８）チームワーク

課題を達成するために他者と協働する姿勢、態度を身につけることができる。また、共通の目標を達成するために、チーム全体の力が最大限に発揮されるように、自らの役割を果たすことができる。

３．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学群は、「社会福祉専修」「精神保健福祉専修」「健康科学専修」「保育専修」の４専修で構成されています。また、精神保健福祉専修には「精神保健福祉コース」と「実践心理コース」があります。各領域に関連する資格取得に向け

た実践的なカリキュラムを中心に据えています。また、それぞれの資格に係る学修のみでなく、人間の一生を「福祉、健康、メンタルサポート」の３点から総合的に学ぶことを目標として、「学群共通科目」を設定しています。

（１）教育課程の編成

①「基礎教育科目」は、本学学生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎知識と技能を身につけるための科目で、「ガイダンス科目」及び「コア科目」によって編成しています。「コア科目」はキリスト教科目や、口語表現、文章表現、コンピュータ、英語、キャリアに関する科目などを中心に、学園の建学の精神、教育目標を具現化するための知識を修得します。「ガイダンス科目」は各専修の入門科目で、各専修の学修内容を理解する上で必要な基礎知識を習得します。

②「専攻科目」は「基礎教育科目」で得た知識・技能を踏まえ、各専修の専門分野についてさらに理解を深めるために設置する科目で、「学群共通科目」及び「専修科目」によって編成しています。「学群共通科目」は「福祉、健康、メンタルサポート」の幅広い視点を養うための科目で、所定の単位数を履修することを義務付けています。また、「専攻演習」や「卒業論文」、「卒業研究」といった、自己の関心を一層深め大学の学修の集大成を目指すための科目も設置しています。「専修科目」は専修別に設置される科目で、専門的理論や技能を身につけるための科目です。「専修科目」には、演習・実験・実習・実技科目があり、現場での経験も積むことができます。

③「自由選択」では、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することができます。他専修、他学群、他大学等の科目を修得することで、自らの専門性をさらに深める、あるいは自身の知識の幅を広げることが可能になります。このように本学群のカリキュラムは総合大学ならではの視野の広いプロフェッショナルを育成することが可能な構成となっています。

（２）学修方法・学修過程

教育課程の実施については、１年次にコア科目とともに各専修の「ガイダンス科目」（社会福祉専修は「社会福祉とマネージメント」、精神保健福祉専修は「精神保健学」、健康科学専修は「健康科学論」、保育専修は「保育学」）を履修し、専門とする分野の基礎を学びます。そして１年次又は２年次に、他専修の「ガイダンス科目」や「今日の健康と福祉」「心理学」「人間関係論」など、「学群共通科目」を履修し、「福祉、健康、メンタルサポート」の幅広い視点を養います。さらに、各専修の専門科目である「専修科目」を履修することにより、専門性を強化します。自己が関心を持つ領域に焦点をあてて、より深く学ぶために、３年次から「専攻演習」（ゼミ）があり、各自が関心を持つテーマでゼミ論文を作成します。ゼミ論文をさらに発展させ、大学での学びの集大成である「卒業論文」「卒業研究」に取り組むこともできます。また、「社会福祉」「健康科学」「実践心理」の各専攻コースには、マイナー制度があり、要件を満たすことによって、専門として学修したことが認められます。

（３）学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定され、シラバスに記載されています。

②学修成果がどのように評価されるのかは、シラバスにおいて具体的に評価方法を科目ごとに記載しており、授業の目標に対する学生の到達度を担当教員が厳格に評価します。

社会福祉専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、現代の福祉ニーズに対応できるよう、「環境」「経営」「ケア」「人権」の多様な視点から福祉を学ぶことができます。さらに、少人数でグループワークを行う演習やボランティアの機会も豊富に備えていますので、どのような職業についても求められるチームワークやコミュニケーション能力を高めることができます。また、新たな福祉ビジネスの提案などの科目を通して創造力や課題解決力を育むことができ、知性と対人援助能力、実践力を兼ね備えたバランスのとれた人材として社会で活躍することができます。

計画的な学修を進めていくことで、自治体の公務員、地域包括支援センターの職員、社会福祉協議会の職員、コミュニティ・ソーシャルワーカー、福祉施設の相談員・施設長、医療ソーシャルワーカー、ケアワーカー、福祉機器の販売員、大学・専門学校の教員をはじめとする社会福祉関連の職業への道が拓かれます。

社会福祉のプロフェッショナルを養成する専修として、社会福祉士、社会福祉主事、児童指導員、福祉住環境コーディネーターなどの資格取得に関わる科目が体系的に編成されています。

①教育課程の編成

ア）社会福祉士国家試験受験資格を得るために、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する「指定科目」として、

28科目を設置しています。

イ）社会福祉士国家試験受験資格、社会福祉主事任用資格、児童指導員任用資格、福祉住環境コーディネーター２級の資格取得に対応した構成となっています。

ウ）現代の福祉ニーズに応える科目として、【環境】の視点から福祉を考える「地域住環境論」「地域エンパワーメント方法論」、【経営】の視点から福祉を考える「社会福祉とマネージメント」「福祉事業経営論」「福祉施設経営論」、【ケア】の視点から福祉を考える「介護サービスの基礎」「介護予防の理論と実践」「認知症ケア論」「介護概論」、【人権】の視点から福祉を考える「子ども法」「社会福祉法制論」等を設置しています。このように本専修独自の科目が豊富に用意されていますので、現代の福祉ニーズについて多角的に学ぶことができます。

エ）資格試験合格をめざした講座を用意しています。社会福祉士国家試験への受験対策として「福祉のための諸科学Ⅰ・Ⅱ」及び夏休みには特別講座を実施しています。また、福祉住環境コーディネーター２級については、「地域住環境論」の中で試験対策を行っています。このような科目を通し、在学中に合格できるよう力強くサポートします。

オ）他専修科目の計画的な履修により、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者、初級障がい者スポーツ指導員の資格申請も可能になります。

カ）所定の科目の計画的な履修により、認定心理士・認定健康心理士の資格申請も可能になります。

②学修方法・学修過程

ア）基礎から応用まで福祉に関する高度な知識や技能を習得できます。１年次には、社会福祉への関心を喚起できるよう、多様な領域で実務を行っている方々をお呼びする科目や、手話が実際に学べる科目等を用意しています。また、心理学、老年学といった周辺領域を学べる科目を用意し、広い視野から福祉を学びます。２年次以降は、専門科目を学ぶことで、福祉への理解を深め、広げていきます。３年次以降は、実習指導や演習を通して、実践的なスキルを磨いていきます。

イ）職業についた時に、チームの一員として働く力を高めるために、チーム力やコミュニケーション力を高める科目を段階的に用意しています。１年次では「実習のための社会福祉入門」で、学生同士の出会いを促し、関係性を深めるワークを行います。２年次以降の専門科目の中には、グループワークやワークショップを取り入れた授業が含まれます。３年次の「相談援助現場実習」、「相談援助演習」では、グループワークを中心とした科目を履修することでチーム力を養うことができます。また、ボランティア活動に参加しやすい機会も豊富に用意されています。具体的には、ボランティア体験学習を必修としている科目の履修、学内にあるボランティア部を通しての参加、実習支援センターで提供される学外のボランティア情報等があげられます。ボランティアを豊富に体験することで、コミュニケーション力を高めるだけでなく、どのような分野が自分に向いているかを知れたり、感謝されることで自分に自信がもてるなど、大きな成長につながる学びとなります。

ウ）創造力や課題解決力を高めることができます。１年次以降の「社会福祉とマネージメント」においては、新たな福祉ビジネスを提案します。２年次以降の「地域エンパワーメント方法論」では、地域を元気にする方法を、実践をもとに提案します。３・４年次の「相談援助現場実習指導Ⅱ・Ⅲ」で実習を通して実習での学びからの気づきをまとめ、課題や提案を発表していきます。このような科目を通して、創造力とプレゼンテーション力を高めていきます。

エ）本専修には、マイナー（副専攻）制度があり、他専修他学群生であっても要件を満たすことによって、「社会福祉」を専門として学修したことが認められます。

③学修成果の評価の在り方

ア）学修成果は卒業認定・学位授与の方針に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ）各科目の内容と到達目標、評価方法はシラバスに明示され、目標への達成度が教員により評価されます。

精神保健福祉専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、社会福祉学と心理学の二つのアプローチを学び、心の健康の回復、増進を支援する仕事に結びつけることができます。健康には、身体面、精神面、社会的側面があり、互いに関連し合っているため、医療、心理、福祉など多くの専門職のチームワークによる総合的な支援が必要です。特に心の健康の分野は、まだ社会的に理解や支援

がゆきわたらず、今後の専門職に期待される役割は大きいといえます。

初年次には、心の健康に関するガイダンス科目「精神保健学」をはじめ、「心理学」の基礎知識や、福祉の相談援助の基本的理念を学び、２年次以降の学習の土台を築きます。その後、社会福祉学と心理学のどちらに重点を置いて学ぶか、どのような進路をめざすのかを考え、方向性を見定めて専攻コースを選択します。

【精神保健福祉コース】

精神保健福祉コースでは、精神保健福祉士の養成教育をカリキュラムの中心に置いています。精神保健福祉士は、心の健康の分野でソーシャルワーカーとして福祉の視点で援助を担う国家資格です。学修は、社会福祉学を基盤に、医療保健、心理的支援を加えた３本の柱で構成され、まさに学群の学びのキーワード「福祉、健康、メンタルサポート」を総合的に修得するコースといえます。精神障害のある当事者や福祉の現場の支援者と接点を持ちながら、人の生きる権利を尊重する態度を身につけ、多角的な視点で知識や技術を学びます。

①教育課程の編成

ア）精神保健福祉士の指定科目は、社会福祉の理念や制度、相談援助の技術などを学ぶ社会福祉科目と、「精神医学Ⅰ・Ⅱ」や「精神科リハビリテーション学」などの精神医療に関する科目に大別されます。また、演習・実習・実習指導に多くの時間を割り当て、実践的な学修を積み重ねます。指定科目をすべて履修し、本専修を卒業することにより、精神保健福祉士の国家試験の受験資格を取得することができます。

イ）専修科目より38単位を履修し、「精神保健福祉」主専攻となります。専修科目の中で「福祉心理学」「臨床心理学概論」「心理学的支援法」「グループ・アプローチ」などの心理学科目も併せて学ぶことにより、相談援助の幅を拡げます。

ウ）所定の科目の計画的な履修により、認定心理士・認定健康心理士の資格申請も可能になります。

②学修方法・学修過程

ア）精神保健福祉士に必要な知識・技能・考え方が無理なく計画的に学修できるよう、科目履修の道筋をチャートで示し、履修指導を行っています。

イ）比較的少人数の参加型の授業が多く、話し合いや発表を通して、コミュニケーション力、問題解決能力、チームワーク等を養います。特に演習科目では、相談の実技練習、援助事例の検討、グループワークなどで実践力を高めます。

ウ）体験を通して自ら考え、問題解決を学ぶ過程として、実習教育を重視しています。「精神保健福祉実習指導」は２年次から４年次まで通年で配置しています。２年次の「精神保健福祉実習指導Ⅰ」では、精神保健福祉に関する各種の施設での見学や利用者との交流を行い、現場実習への準備とします。「精神保健福祉現場実習Ⅰ・Ⅱ」は、３年次および４年次に２回に分けて行い、事前・事後学習に十分な時間をかけ、学習の深化を図ります。

③学修成果の評価の在り方

ア）学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定され、シラバスに記載されています。

イ）各科目の内容と到達目標、評価方法はシラバスに明示され、授業目標への達成度が教員により厳正に評価されます。この点は、学群全体に共通します。

ウ）「精神保健福祉現場実習Ⅰ・Ⅱ」では、施設からの評価を基本としつつ、学生との面談や記録から得た情報を勘案し、担当教員で協議の上、総合的に評価します。評価は、単なる結果の伝達にとどまらず、学生自身が成果を振り返り、今後の課題を明確にするための重要なステップとして位置づけています。

【実践心理コース】

実践心理コースでは、病気・障害の有無にかかわらず、すべての人が環境と関わる中で起こる心理・社会的諸問題を解決し、身体的、精神的、社会的に良好な状態（健康）で充実した生活をおくるための支援を実践的かつ体系的に学ぶことができます。また、本学群の特色である健康と福祉に関する科目を組み合わせ、心と身体の健康に関する心理・社会・生物学的アプローチを学び、トータルな支援に生かすことができます。計画的な学修を通して心理学の専門性を身につけたうえで、隣接領域も学ぶことで、一般企業や行政、教育機関など、幅広い業界・職種への道が拓かれます。同時に、国家資格である公認心理師の受験要件を満たすための学士課程科目が体系的に編成されています。また、認定心理士や健康心理士の資格取得に関わる科目も配置されています。

①教育課程の編成

ア）「専修科目」は、心理学に関連する「基礎系科目」と「発展系科目（応用・実践）」を積み上げて学修するように構成されています。１年次春学期に心理学の概要や心理学研究の基礎をなす統計法を学び、２年次からは、研究法を履修して基礎固めを行うと同時に、幅広い心理学の知識と技能を様々な実践の場で適用するために必要な科目を、応用・実践系科目を中心にして体系的に学びます。公認心理師国家試験の受験資格取得を目指す場合、３年次、４年次の必修科目である「心理演習Ⅰ・Ⅱ」「心理実習」を含めた指定科目27科目60単位を修得することで、学士課程における要件を満たすことができます。「心理演習Ⅰ・Ⅱ」「心理実習」の履修には、先修条件となる科目を全て修得する必要があります。「心理演習Ⅰ・Ⅱ」「心理実習」は、履修希望者多数の場合、公認心理師や実習に対する理解や意欲、これまでの学修結果等を総合的に判断して選考を行うことがあります。

イ）健康や福祉、スポーツなど、他専修の科目や学群共通科目をあわせて履修することで、より多角的な視点から心と身体の健康について学びます。

ウ）所定科目の計画的な履修により、認定心理士・健康心理士の資格申請も可能になります。

エ）本コースには、マイナー制度があり、他専修他学群生であっても要件を満たすことによって、「実践心理」を専門（副専攻）として学修したことが認められます。

②学修方法・学修過程

ア）年次毎の科目履修の道筋を示したチャートに沿って、自分の興味・関心やニーズに合った履修計画を作成し、心理学の「基礎」から「応用」そして「実践」へと高度な知識・技能を積み重ねていきます。

イ）グループワークや参加型授業での話し合いや発表などを通して、対人的なサポートに欠かせないコミュニケーション力とカウンセリング・マインドを養い、またチームの一員として互いを尊重し支援し合う姿勢を身につけます。

ウ）公認心理師指定科目では、１年次秋学期に「公認心理師の職責」を履修し、公認心理師の職責と義務、倫理について学ぶことで職業意識を養います。３年次には少人数制の「心理演習Ⅰ・Ⅱ」を履修し、心理支援を要する人とのコミュニケーション、心理検査、心理面接などをロールプレイで学び、かつ事例検討を通して実践力を高めます。４年次には、保健医療、教育、福祉などの分野に関する施設見学に事前・事後学習を含めた少人数制の「心理実習」（80時間）を通して、対人援助に必要な資質・能力を体験的に修得します。

③学修成果の評価の在り方

ア）学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定され、シラバスに記載されています。

イ）各科目の内容と到達目標、評価方法はシラバスに明示され、授業の目標に対する学生の到達度を担当教員が厳正に評価します。この点は、学群全体に共通します。

ウ）公認心理師の指定科目である「心理実習」では、実習施設の指導者および実習担当教員による評価を基本としつつ、学生との面談や記録からの情報を勘案し、教員間で協議し、総合的に評価します。

エ）評価は、単なる結果の伝達にとどまらず、学生自身が成果を振り返り、今後の課題を明確にするための重要なステップとして位置づけています。

健康科学専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の健康、スポーツの競技力向上及びスポーツビジネスに関して学べる科目群を提供しています。さらに、学校、スポーツおよび健康福祉の現場において、現代社会で重要視されている心身のケアに関する指導ができるよう、心理学（カウンセリング理論を含む）や障がい者スポーツなどに関する科目も設定しています。また、スポーツの競技力向上を実践する機会もあります。

計画的な学修を進めていくことで、保健体育科教員、スポーツインストラクター、スポーツ指導員（幼児体育指導員等）、スポーツトレーナー、スポーツビジネスやマネジメントをはじめとする健康・スポーツ関連の職業への道が拓かれていくものと考えます。プロフェッショナル養成の専門学群として、保健体育科教員、健康運動実践指導者、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者、初級障がい者スポーツ指導員、JPSU（一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会）認定スポーツトレーナー、認定心理士、健康心理士などの資格取得に関わる科目が体系的に編成されています。

①教育課程の編成

ア）「専修科目」は“健康科学”や“スポーツ科学”の専門的知識や技能を身につけるための科目です。

イ）中学校１種免許状「保健体育」、高等学校１種免許状「保健体育」、健康運動実践指導者、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者、初級障がい者スポーツ指導員及びJPSU認定スポーツトレーナーの資格取得に対応した構成となっています。また、講義科目だけでなく、実習・演習・実技科目も多く用意され、実践的な学修を積み重ねます。

ウ）「自由選択」のうち、所定の科目を計画的に履修することにより、認定心理士・認定健康心理士の資格申請も可能になります。

②学修方法・学修過程

ア）１年次にコア科目と共に本専修ガイダンス科目である「健康科学論」を履修し、専門とする分野の基礎を学びます。そして、１年次または２年次に、他専修のガイダンス科目や学群共通科目を履修し、「福祉、健康、メンタルサポート」の幅広い視点を養います。さらに、専修科目を履修することにより、専門性を強化します。

イ）計画的に科目を履修し、目標とする免許・資格に必要な知識・技能・考え方が無理なく学修できるよう、科目履修の道筋を履修モデルで示し、履修指導を行っています。

ウ）講義科目では、「生理学」「運動学」「栄養学」などの基礎科目から「スポーツコーチ学」「スポーツ心理学」などの応用科目まで学修し、常識・モラルと共に高い専門的知識を養います。

エ）実習・演習科目では、「体力測定評価演習」「専攻演習」「トレーニング演習」など、少人数・参加型の授業を行い、話し合いや発表、共同作業を通して、問題解決能力、志向性・積極性などを養います。

オ）スポーツ実技科目では、「ソフトボール」「陸上競技」「サッカー」など複数の種目について、技能を高めるだけでなく、コミュニケーション力、チームワークなどを養います。

カ）なお、本専修には、マイナー制度があり、他専修他学群生であっても要件を満たすことによって、「健康科学」を専門として学修したことが認められます。

③学修成果の評価の在り方

ア）学修成果は卒業認定・学位授与の方針に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップなど）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって、学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ）各科目の内容と到達目標、評価方法はシラバスに明示され、目標への達成度が教員により評価されます。この点は、学群全体に共通します。

ウ）評価は、単なる結果の伝達にとどまらず、学生自身が成果を振り返り、今後の課題を明確にするための重要なステップとして位置づけています。

保育専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

グローバル化する現代社会では、保育に対するニーズは増加するだけでなく、多様化し、これまでの保育者のあり方も問われています。本専修では、４年間の少人数教育を中心とした学生一人ひとりへのきめ細かい指導を通じて、保育の本質や目的、保育の対象となる子ども、保育の内容・方法についての知識・技能を修得します。さらに海外での保育体験プログラムに参加すれば、保育のあり方は一つではないことをより理解できます。また、学群共通科目・他専修科目等を履修することで、保育領域に限定されない幅広い専門性と、精神面・健康面から子ども・保護者をサポートできる視野の広さを獲得できます。これらを通じて、自らの保育実践を振り返り、社会の変化にも対応するよりよい実践を追求できる、「自ら考え、社会に貢献する保育者」の育成を目指します。

①教育課程の編成

ア）「基礎教育科目」（20単位必修）は、本学学生として「卒業認定・学位授与の方針」に則った学修成果をあげるための基礎知識と技能を身につけるための「コア科目」（16単位）と、「保育学」（学群ガイダンス科目４単位）から成ります。「保育学」は、入学直後の１年次春学期に履修し、保育領域の基礎知識と保育者にとって必要なものの見方を学びます。

イ）「専攻科目」（54単位）は、「学群共通科目」（16単位必修）と、「専修科目」（38単位必修）から成ります。「専修科目」では、保育の本質や目的、保育の対象となる子ども、保育の内容・方法についての知識・理解を深め、人々の健康と福祉に寄与できる技能や、論理的思考力を修得します。また、「学群共通科目」を学ぶことで、保育領域に限定されない幅広い専門性と、精神面・健康面から子ども・保護者をサポートできる視野の広さを獲得

できます。

ウ）本専修学生は、保育士および幼稚園教諭免許取得を目指して学びをすすめるため、「保育専修科目」群から「専修科目」としての38単位にとどまらない単位数（科目数）を修得します。38単位を超えた単位数については、「自由選択」の学修区分の単位数として換算されます。また、「自由選択」は、学生の多様な関心や目的を達成するために学生が自ら計画し、学内外の授業科目の中から自由に選択履修することも可能です。

エ）正課外カリキュラムとして、保育専修導入基礎プログラムが１年次から２年次前半に設定され、必ず学生全員が参加します。本プログラムでは、自ら考え、行動できる保育者の養成を目指して、学生自らが季節行事や地域交流等を踏まえた企画・運営を行います。授業での知識・技能を実際に活用することで、知識・理解を深めるとともに、問題発見・解決能力を修得します。また、異学年の学生と交流することで、カウンセリング・マインドとチームワーク、自己管理能力を身につけます。

オ）さらに保育のあり方は一つではないことをより理解できるよう、海外での保育体験プログラムに参加することで、グローバル化にも対応したコミュニケーション能力を修得します。

②学修方法・学修過程

ア）本専修は、１学年50人の少人数教育が特徴です。「保育専修科目」群では、各授業とも50人以下の履修者数が原則となっており、学生の主体的・能動的な学び（アクティブ・ラーニング）が促進されやすい学修環境を維持し、志向性・積極性を身につけます。少人数による対話的授業を通じて、学生自らが考える機会を尊重し、保育の知識・理解を深めるだけでなく、コミュニケーション能力、論理的思考力といった力を修得します。

イ）保育士および幼稚園教諭免許（一種）の取得が可能であり、そのため、保育現場（フィールド）での学びの機会である「実習」（保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）、保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ、教育実習）も４年間で４期間設定されています。これら実習教育では、問題発見・解決能力を修得するとともに、カウンセリング・マインドと常識とモラル、自己管理能力を身につけます。

③学修成果の評価の在り方

「卒業認定・学位授与の方針」に定められた資質・能力が、カリキュラム・マップに示されるように各教科に割り振られています。各科目のシラバスには、割り振られた資質・能力が学生自身にどの程度身についたかを評価するための具体的な方法を記載しています。

4．卒業要件　　※○数字は科目の単位数を表します。

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="5">健　康　福　祉　学　群</td></tr>
<tr><td>社会福祉専修</td><td colspan="2">精神保健福祉専修</td><td>健康科学専修</td><td>保 育 専 修</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td><td>精神保健福祉コース</td><td>実践心理コース</td><td rowspan="2"></td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎教育科目

20単位
（最低必要単位）</td><td>コア科目
（注）
16単位必修</td><td colspan="5">キリスト教入門②
口語表現Ⅰ②
文章表現Ⅰ②
英語コアⅠA②　　英語コアⅠB②
英語コアⅡA②　　英語コアⅡB②
コンピュータリテラシーⅠ②</td></tr>
<tr><td>ガイダンス
科　　目
4単位必修</td><td>社会福祉と
マネージメント④</td><td colspan="2">精神保健学④</td><td>健康科学論④</td><td>保育学④</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専攻科目

54単位
（最低必要単位）</td><td>学群共通
科　　目
16単位必修</td><td>学群共通科目、ガイダンス科目から16単位（「社会福祉とマネージメント」を除く）</td><td>学群共通科目、ガイダンス科目から16単位（「精神保健学」を除く）</td><td>学群共通科目、ガイダンス科目から16単位（「精神保健学」を除く、「心理学」を必修とする）</td><td>学群共通科目､ガイダンス科目から16単位（「健康科学論」を除く）</td><td>学群共通科目､ガイダンス科目から16単位（「保育学」を除く）</td></tr>
<tr><td>専修科目
38単位必修</td><td>社会福祉専修科目より
38単位</td><td>精神保健福祉専修科目より
38単位</td><td>実践心理コース科目（P.176表参照）より、「心理学統計法」または「心理学研究法」を含む38単位</td><td>健康科学専修科目より
38単位</td><td>保育専修科目より
38単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">自由選択</td><td colspan="5">・基礎教育科目、専攻科目で、最低必要単位を超えて修得した単位
・自学群他専修科目
・他学群専攻科目
・基盤教育の科目（外国語科目を含む）
・他大学等（短期大学・海外留学の科目を含む）認定単位（P. 209）
・各種技能審査による認定単位（P. 210～212）</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業要件単位合計
基礎教育科目、専攻科目、
自由選択、あわせて

124単位以上</td><td colspan="5">【その他の要件】
1．入学時からの通算ＧＰＡが1.50以上
2．各自所属のコースをメジャーとして必ず修了すること</td></tr>
</table>

（注）一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。
　外国人留学生等（日本語を母語としない者）は、「文章表現Ⅰ」「英語コアⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」に替えて「日本語専門基礎ＡⅠ・ＡⅡ・Ｂ」各２回合計10単位を必修しなければなりません。ただし、日本語の能力が一定以上であると認められた者は、履修を免除される場合があります。外国人留学生履修規定を参照し、規定のとおり修得してください。

５．専攻コース案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻コースが置かれています。健康福祉学群の専攻科目で構成される専攻コースを登録すると、「学業成績単位修得証明書」に登録中のメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。登録したメジャーまたはマイナーの修了要件を満たした上で卒業すると、卒業後の「学業成績単位修得証明書」にはメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業の要件となっています。ただし、健康福祉学群以外の専攻プログラム・専攻コース等をメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、健康福祉学群の専攻コースからだけでなく、他学群のものをマイナーとして登録することもできます。

ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

１．マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。

２．他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。

３．他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

マイナーは、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日まで変更することができます。

専攻コースの種類は、以下のとおりです。

健康福祉学群

専攻コース	メジャー	マイナー
社会福祉	○	○
精神保健福祉	○	
実践心理	○	○
健康科学	○	○
保育	○	

社会福祉コース

１．教育目的

一人ひとりの人間が安心できる社会生活を送れるようにするために、ライフコースにわたって援助する事業が福祉です。人間が生まれてから死ぬまでの生活問題をテーマに多面的に探究するのが学問としての福祉です。児童期から政策といった包括的な視点から福祉を学修します。一人ひとりの人間はかけがえのない存在です。現代の福祉は、一人ひとりの個性を正しくとらえ、その人らしい生き方のできる援助を考えています。この専修は、福祉についての総合的な知識やスキルを習得し、正しい人間理解と援助を身につけることをねらいとしています。「福祉マインド」を有する人間性の向上と科学的思考方法を身につけることに力点を置いた教育を目的としています。そして、福祉のさまざまな課題に取り組むことができる人材の育成を目指しています。

２．カリキュラムの特徴

（１）オリジナルに富むカリキュラム

本コースでは社会福祉専修の特色をもつ科目を開講しています。地域を基盤にした新しい観点から［人―環境］を考える「地域住環境論」「地域エンパワーメント方法論」などがあります。聴覚の障害をもつ人をより身近に考え関われる「聴覚障害者のコミュニケーション」もあります。また、現代社会には欠かせない［経営］の視点から福祉を考える「福祉事業経営論」「福祉施設経営論」などがあります。

（２）理論と実践とをつなぐ実習教育と演習科目

社会福祉士資格取得を目指す専門職養成に向けた24日間以上の「相談援助現場実習」と実習前後の学修をより効果的にするために「相談援助現場実習指導（Ⅰ～Ⅲ）」を設け、よりきめ細かい実習プログラムで一人一人の実習生に応じた指導を行っています。また、「相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」も開講し、理論と実践をつなぐ応用的な科目があり

ます。

メジャー：「社会福祉とマネージメント」４単位、学群共通科目、ガイダンス科目から16単位（「社会福祉とマネージメント」を除く）、社会福祉専修科目より38単位、合計58単位以上修得してください。

マイナー：「社会福祉とマネージメント」４単位、社会福祉専修科目より20単位、合計24単位以上修得してください。

精神保健福祉コース

１．教育目的

このコースでは、精神保健福祉士をめざす人の教育を主軸としています。精神科ソーシャルワーカー（PSW）の国家資格である精神保健福祉士は、精神障害のある人のさまざまな相談を受け、生活支援や社会復帰の援助を行う大切な職種です。

我が国の精神保健福祉のあり方については、精神障害者の長期入院やいわゆる社会的入院等の問題が指摘されています。精神保健福祉士は、医療機関におけるチームの一員として、また精神障害者地域生活の支援者として、ますます重要な役割を担っています。近年、司法・教育・産業などの分野においても多様な精神保健福祉の課題に取り組むことが求められるようになりました。ストレス社会といわれる現代では心の病は特別なものではなく、だれもが危機と背中合わせに生きていますから、心の健康が損なわれたときに安心して治療を受け回復していけるようなシステムづくりも重要です。こうした時代の要請に応えて精神保健福祉を担う人材を育成します。

２．カリキュラムの特徴

精神保健福祉は社会福祉の一分野であると同時に、精神障害者の保健医療にかかわる専門領域でもあります。福祉系科目（「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）・（専門）」「障害者福祉論」など）と、精神保健系科目（「精神保健学」「精神医学Ⅰ・Ⅱ」など）の双方を学び、その上に「精神保健福祉援助技術各論」「精神保健福祉に関する制度とサービス」といった専門的な学修を積み重ねます。

相談援助の専門職、ソーシャルワーカーとして実践力を高めるため、カリキュラムで重視されるのは、演習・実習などを通しての主体的な学修です。本学では、２年次に精神科病院や福祉施設を訪問して現場についての理解を深め（見学実習）、３年からの配属実習に備えます。また、実習後の振り返りに十分な時間をかけるなど、実習教育には特に力を入れています。少人数であることを生かし、発表・討議や、コミュニケーションスキルの向上を図る体験学習など、頭だけでなく心と身体を働かせる授業が多いのも特徴です。

本専修には多くの心理学科目が設置されており、相談援助職に必要な心理的支援の学修も充実しています。所定の単位を修得し、学会への申請手続きを行うことで、認定心理士、認定健康心理士の資格取得も可能です。

メジャー：「精神保健学」４単位、学群共通科目、ガイダンス科目から16単位（「精神保健学」を除く）、精神保健福祉専修科目より38単位、合計58単位以上修得してください。

実践心理コース

１．教育目的

心理学は、人間の「こころ」を科学的アプローチから探究する学問です。実践心理コースでは、心理学理論の基礎と応用を幅広く体系的に学びながら、社会のさまざまな領域において役立つ実践的な心理的支援のアプローチを学修します。同時に、2017年に国家資格として誕生した公認心理師の養成を目指します。公認心理師は、保健医療、福祉、教育、司法、産業の分野で、心理学に関する専門的知識・技術をもって心理的支援を要する人の問題把握と分析、相談や助言、指導などの援助を行う心理の専門職です。また、心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報提供といった役割も担います。ストレス社会といわれる現代において、人々が心や社会の諸問題によりよく対処し、身体的、精神的、社会的に良好な状態を維持し、充実した生活を営むための支援ができる専門性の高い人材の育成を目指しています。

２．カリキュラムの特徴

実践心理コースでは、心理学の基礎をなす「心理学」「心理学統計法」や「心理学研究法」などの「基礎系科目」から「健康・医療心理学」「福祉心理学」「心理学的支援法」といった「発展系科目（応用・実践）」へと積み上げ式で学修し、心理学の専門性を身につけるためのカリキュラムが設定されています。理論の学習はもちろん、実験やロールプレイなどいろいろな方法を用いてスキルを獲得できるように工夫されています。学修過程が進むと演習や実

習の授業も加わり、体系的に学ぶことができます。公認心理師を目指す場合は、３年次、４年次に必修となる「心理演習Ⅰ・Ⅱ」「心理実習」を含めた所定の27科目60単位を修得することで、学士課程における要件を満たすことができます。また、所定の単位を修得し、必要となる手続きを行うことで、認定心理士、認定健康心理士の資格取得も可能です。

なお、次に示す実践心理コース科目は、公認心理師になるために大学において履修が必要な科目（P. 251表参照）とは異なるため、注意してください。

メジャー：「精神保健学」４単位、学群共通科目、ガイダンス科目から16単位（「心理学」４単位は必修、「精神保健学」を除く）、~~実践心理コース科目より「心理学統計法」または「心理学研究法」２単位を含む38単位~~、合計58単位以上修得してください。

マイナー：「心理学」（学群共通科目）４単位、~~実践心理コース科目より「心理学統計法」または「心理学研究法」のいずれか２単位を含む20単位~~、合計24単位以上修得してください。

実践心理コース科目より38単位（方法論科目である「心理学統計法」または「心理学研究法」のいずれか2単位は必修）

実践心理コース科目より20単位（方法論科目である「心理学統計法」または「心理学研究法」のいずれか2単位は必修）

	カテゴリー	授業科目	科目ナンバリングコード	授業の方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか	主専攻	副専攻
学群共通	基礎	心理学（注）	PSY1002H	講義	4	1	○	－		必修	必修
実践心理コース科目	方法論	心理学統計法	PSY1211H	講義	2	1	○	○		2単位（いずれか）選択必修	2単位（いずれか）選択必修
		心理学研究法	PSY2210L	講義	2	2	○	○			
	基本科目	学習・言語心理学	PSY2131L	講義	2	2	○	○		方法論科目と合わせ38単位選択必修	方法論科目と合わせ20単位選択必修
		知覚・認知心理学	PSY3131L	講義	2	2	○	○			
		神経・生理心理学	PSY2133L	講義	2	2	○	○			
		感情・人格心理学	PSY2151L	講義	2	2	○	○			
		社会・集団心理学	PSY2141L	講義	2	2	○	○			
		家族心理学	PSY3141L	講義	2	2	○	○			
		障害者（児）心理学	PSY2156H	講義	2	2	○	○			
		公認心理師の職責	PSY1003H	講義	2	1	○	○	心理学		
	応用・実践科目	臨床心理学概論	PSY2154L	講義	2	2	○	○			
		心理的アセスメント	PSY2157H	講義	2	2	○	○	心理学		
		心理学的支援法	PSY2155L	講義	2	2	○	○			
		グループ・アプローチ	PSY2351H	講義	2	2	○	○			
		健康・医療心理学	PSY2171L	講義	2	2	○	○			
		福祉心理学	PSY2172H	講義	2	2	○	○			
		教育・学校心理学	PSY2170L	講義	2	2	○	○			
		司法・犯罪心理学	PSY2173H	講義	2	2	○	○			
		産業・組織心理学	PSY3170L	講義	2	3	○	○			
		関係行政論	PSY3300H	講義	2	3	○	○	公認心理師の職責		
		精神医学Ⅰ	MED2352H	講義	2	1	○	○			
		精神医学Ⅱ	MED2353H	講義	2	2	○	○	精神医学Ⅰ(同時履修可)、精神医学(同時履修可)		
	実習・演習	心理学実験	PSY3511L	実験	2	2	△	△	心理学研究法、心理学統計法 健康福祉学群生／リベラルアーツ学群生のみ履修可		
		心理演習Ⅰ	PSY3450H	演習	2	3	△	×	公認心理師の職責、臨床心理学概論、心理学的支援法、心理的アセスメント 精神保健福祉専修生／リベラルアーツ学群生のみ履修可		
		心理演習Ⅱ	PSY3451H	演習	2	3	△	×	心理演習Ⅰ 精神保健福祉専修生／リベラルアーツ学群生のみ履修可		
		心理実習	PSY3650H	実習	4	4	△	×	心理演習Ⅱ、健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学、関係行政論 精神保健福祉専修生／リベラルアーツ学群生のみ履修可		
										上記必修・選択必修計42単位	上記必修・選択必修計24単位

（注）「心理学」は学群共通科目であり、専修科目（38単位必修）および「実践心理コース科目」に含みません。

健康科学コース

１．教育目的

健康科学コースでは、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の「からだの健康」を探求し、よりよく生きるための“生活の質”（Quality of Life：QOL）を追究します。そして、総合的に、健康と運動・スポーツをはじめとする身体活動との関係を、「からだ」と「こころ」の両面から理論的に理解することを目的とします。さらに、体育・スポーツ現場や児童厚生施設、高齢者福祉施設、障がい者福祉施設をはじめとする福祉現場などにおいて応用できるスポーツ科学やスポーツ実技を学び、現場で実践するための技量を養います。また、社会福祉、精神保健福祉、保育などの関連分野と連携することで、障がい者・高齢者福祉、幼児・児童に関心をもつことによる「Sports for All」の実現と、心のケアもできる“カウンセリング・マインド”をもった保健体育科教員、健康運動実践指導者、初級障がい者スポーツ指導員、インストラクター、コーチ、トレーナーなどになることも期待されます。加えて、所定の単位を修得し、学会への申請手続きを行うことで認定心理士、健康心理士の資格取得も可能です。

２．カリキュラムの特徴

健康科学コースでは、「健康科学」や「スポーツ科学」について、体系的に学ぶためのカリキュラムを設定しています。まず、「健康科学論」を履修し、健康、体のしくみと働き、スポーツ傷害・救急処置法など健康科学に必要な基礎知識を学修します。そして、将来の目的や進路に応じ、基礎科目（「生理学」「運動学」「栄養学」各種スポーツ実技など）、専門科目（「スポーツ生理学」「スポーツコーチ学」「スポーツ栄養学」「スポーツ心理学」「体力測定評価演習」「スポーツ経営学」各種スポーツ指導法など）を履修します。また、健康の観点からは、「ストレスマネジメント」「ヘルスカウンセリング」などを学ぶことができます。さらに専攻科目を深く学ぶために、３年次から専攻演習（ゼミ）があります。ここでは、各自が関心を持つテーマでゼミ論文を作成します。また、これをさらに発展させ、卒業論文を作成することもできます。

メジャー：「健康科学論」４単位、学群共通科目、ガイダンス科目から16単位（「健康科学論」を除く）、健康科学専修科目より38単位、合計58単位以上修得してください。

マイナー：「健康科学論」４単位、健康科学専修科目より20単位、合計24単位以上修得してください。

保育コース

１．教育目的

現代社会では、女性の社会進出、親子関係の変化、外国籍の子どもの増大など、子どもをとりまく状況が大きく変化し、このような社会の変化に柔軟に対応できる保育士の養成が求められています。

保育コースでは、一般的には２年間とされる保育士養成プログラムを４年と捉え、乳幼児の健康や発達の知識にとどまらず、社会福祉、精神保健福祉、健康科学といった隣接領域の学びを通じて、幅広い知識を身につけた質の高い保育士の養成をめざします。さらに子どもが置かれているさまざまな状況への理解を深めるために、カウンセリング能力、外国籍の子どもや保護者とのコミュニケーション能力を養います。また講義だけでなく、保育実習などの現場体験活動を通じて、児童福祉専門職としての基礎的な経験を積み重ねます。

こうした学びを通じて、精神と健康の両面から子どもをしっかりとサポートできる保育士の養成を目的とします。さらに、幼稚園教諭を目指す学生に対しては、幼稚園教諭１種免許状取得のための教職課程が用意されています。

２．カリキュラムの特徴

①保育士資格取得の科目

保育コースでは、保育士の資格を得るために、75科目を設置しています。本学授業科目より指定された単位数を修得し、なおかつ卒業要件を満たすことにより保育士資格が取得できます。

②保育の多様なニーズに応える科目

保育士として福祉を学ぶための基礎学修である「社会福祉とマネージメント」「健康科学論」「老年学」「社会学」「法学」「今日の健康と福祉」「人間関係論」「健康心理学概論」が選択必修として設定されています。また、子育て支援や国際化に応えるために、「子ども家庭支援論」「教育相談（子育て支援を含む）」や「児童英語教育入門」「保育の英語」などの科目も設定されています。

③幅広い視点で健康や福祉などに関する知識、技能を身に付ける科目

福祉のエキスパートを養成するために、「地域福祉論」「学校ソーシャルワーク論」「健康心理カウンセリング概論」など広範囲に科目が設定されています。また、自由選択において、全学の科目から学びたい科目を履修することで、深い教養と豊かな人間性を培います。

メジャー：「保育学」４単位、学群共通科目、ガイダンス科目から16単位（「保育学」を除く）、保育専修科目より38単位、合計58単位以上修得してください。

6．ガイダンス・専攻科目と諸注意

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
ガイダンス科目	SWE1080H	社会福祉とマネージメント	講義	4	1	○	－	
	MED1340H	精神保健学	講義	4	1	○	－	
	HSS1000H	健康科学論	講義	4	1	○	－	
	CCR1000H	保育学	講義	4	1	○	－	
学群共通科目	PSY1002H	心理学	講義	4	1	○	－	
	GTL1000H	老年学	講義	4	1	○	－	
	SWE2030H	児童福祉論	講義	4	2	○	－	
	MED1000H	医学一般	講義	4	1	○	－	
	SOC1000H	社会学	講義	4	1	○	－	
	LAW1000H	法学	講義	4	1	○	－	
	SWE1001H	今日の健康と福祉	講義	2	1	○	－	
	PSY2142H	人間関係論	講義	2	1	○	－	
	PSY1060H	健康心理学概論	講義	2	1	○	－	
	###39**H	専攻演習	演習	4	3	△	－	（注）
	###49**H	卒業論文	演習	6	4	△	－	専攻演習
	###49**H	卒業研究	演習	6	4	△	－	〃
社会福祉専修科目	SWE2092H	介護サービスの基礎	講義	2	2	○	○	
	SWE2050H	老人福祉論	講義	4	2	○	○	
	SWE2040H	障害者福祉論	講義	4	1	○	○	
	SWE2060H	地域福祉論	講義	4	2	○	○	
	SWE2211H	社会福祉援助技術論Ⅰ	講義	2	2	○	○	
	SWE2212H	社会福祉援助技術論Ⅱ	講義	2	2	○	○	
	SWE3411H	相談援助演習Ⅰ	演習	4	3	×	×	相談援助の基盤と専門職、障害者福祉論、地域福祉論、老人福祉論、実習のための社会福祉入門、社会保障論、なお、相談援助現場実習指導Ⅰを同時履修すること
	SWE3412H	相談援助演習Ⅱ	演習	4	3	×	×	児童福祉論、医学一般、相談援助演習Ⅰ、社会福祉援助技術論Ⅰ
	SWE3413H	相談援助演習Ⅲ	演習	2	4	×	×	社会福祉援助技術論Ⅱ、相談援助演習Ⅱ
	SWE2610H	相談援助現場実習	実習	4	3	×	×	相談援助現場実習指導Ⅰ、なお、相談援助演習Ⅱ、相談援助現場実習指導Ⅱを同時履修すること
	SWE2411H	相談援助現場実習指導Ⅰ	演習	2	3	×	×	相談援助の基盤と専門職、障害者福祉論、地域福祉論、老人福祉論、社会保障論、実習のための社会福祉入門
	SWE2412H	相談援助現場実習指導Ⅱ	演習	2	3	×	×	児童福祉論、医学一般、社会福祉援助技術論Ⅰ、相談援助現場実習指導Ⅰ、なお、相談援助演習Ⅱ、相談援助現場実習を同時履修すること
	SWE3410H	相談援助現場実習指導Ⅲ	演習	2	4	×	×	相談援助現場実習、相談援助現場実習指導Ⅱ、社会福祉援助技術論Ⅱ、相談援助演習Ⅱ、なお、相談援助演習IIIを同時履修すること
	PSY1001H	心理学概論	講義	4	1	○	○	
	SOC1001H	社会学概論	講義	4	1	○	○	
	LAW1320H	憲法	講義	4	1	○	○	
	LAW3320H	行政法	講義	2	2	○	○	
	SWE2090H	介護概論	講義	2	2	○	○	
	SWE2190H	介護予防の理論と実践	講義	2	2	○	○	
	SWE2360H	地域住環境論	講義	4	2	○	○	
	SWE2380H	福祉事業経営論	講義	4	2	○	○	
	SSC3310H	社会政策論	講義	4	2	○	○	
	SWE2381H	福祉施設経営論	講義	4	2	○	○	
	SWE3101H	福祉のための諸科学Ⅰ	講義	2	3	×	△	国家試験（社会福祉士、精神保健福祉士）受験者対象科目
	SWE3102H	福祉のための諸科学Ⅱ	講義	2	3	×	△	国家試験（社会福祉士、精神保健福祉士）受験者対象科目
	LAW3370H	社会福祉法制論	講義	2	2	○	○	
	LAW3371H	子ども法	講義	2	2	○	○	

「###」：３文字コードが複数存在する科目

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
社会福祉専修科目	SWE2390H	医療ソーシャルワーク論	講義	4	2	○	○	
	SWE1340H	聴覚障害者のコミュニケーション	講義	2	1	○	○	
	SWE3260H	地域エンパワーメント方法論	講義	2	2	○	○	
	SWE1200H	実習のための社会福祉入門	講義	2	1	×	○	
	SWE3310H	社会調査の基礎	講義	2	3	○	○	
	SWE1010H	相談援助の基盤と専門職	講義	4	1	○	○	
	SWE3070H	福祉行財政と福祉計画	講義	2	3	○	○	
	SWE2080H	福祉サービスの組織と経営	講義	2	2	○	○	
	SWE3311H	相談援助活動と就労支援・更生保護	講義	2	2	○	○	
	SWE3370H	権利擁護と成年後見制度	講義	2	3	○	○	
	SWE1090H	加齢及び障害に関する理解	講義	2	1	○	○	
	SWE3401H	福祉マネジメント演習 A（対人援助サービス）	演習	2	2	×	△	
	SWE3402H	福祉マネジメント演習 B（ユニバーサルデザイン）	演習	2	3	×	△	
	SWE3403H	福祉マネジメント演習 C（経営・福祉ビジネス）	演習	2	2	×	△	
	SWE2350H	認知症ケア論	講義	2	2	○	○	
	SWE2000H	社会福祉原論	講義	4	2	△	○	
	SWE2070H	社会保障論	講義	4	2	○	○	
精神保健福祉専修科目	MED2352H	精神医学Ⅰ	講義	2	1	○	○	
	MED2353H	精神医学Ⅱ	講義	2	2	○	○	精神医学Ⅰ(同時履修可)、精神医学(同時履修可)
	MED2351H	精神科リハビリテーション学	講義	4	2	○	○	精神保健学
	SWE2070H	社会保障論	講義	4	2	○	○	
	SWE2370H	公的扶助論	講義	2	2	○	○	
	SWE2091H	保健医療サービス	講義	2	2	○	○	
	SWE1021H	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	講義	2	1	○	○	
	SWE1022H	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	講義	2	1	○	○	
	SWE2220H	精神保健福祉援助技術各論	講義	4	2	○	○	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）、精神保健福祉相談援助の基盤（専門）
	SWE3330H	学校ソーシャルワーク論	講義	2	3	○	○	
	SWE3310H	社会調査の基礎	講義	2	3	○	○	
	SWE2060H	地域福祉論	講義	4	2	○	○	
	SWE3070H	福祉行財政と福祉計画	講義	2	3	○	○	
	SWE3370H	権利擁護と成年後見制度	講義	2	3	○	○	
	SWE2040H	障害者福祉論	講義	4	1	○	○	
	SWE2000H	社会福祉原論	講義	4	2	△	○	
	SWE3371H	精神保健福祉に関する制度とサービス	講義	4	3	○	○	
	SWE3320H	精神障害者の生活支援システム	講義	2	3	○	○	
	SWE2420H	精神保健福祉援助演習Ⅰ	演習	2	2	×	×	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）、精神保健福祉相談援助の基盤（専門）
	SWE3420H	精神保健福祉援助演習Ⅱ	演習	4	3	×	×	精神保健福祉援助演習Ⅰ
	SWE2421H	精神保健福祉実習指導Ⅰ	演習	4	2	×	×	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）、精神保健福祉相談援助の基盤（専門）、または精神医学Ⅰ
	SWE3422H	精神保健福祉実習指導Ⅱ	演習	4	3	×	×	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）、精神保健福祉相談援助の基盤（専門）、精神医学Ⅱ、精神保健福祉実習指導Ⅰ
	SWE3423H	精神保健福祉実習指導Ⅲ	演習	4	4	×	×	精神保健福祉実習指導Ⅱ、精神科リハビリテーション学、精神保健福祉援助技術各論
	SWE3621H	精神保健福祉現場実習Ⅰ	実習	2	3	×	×	精神保健福祉実習指導Ⅱと同時履修
	SWE3622H	精神保健福祉現場実習Ⅱ	実習	2	4	×	×	精神保健福祉実習指導Ⅲと同時履修
	PSY2351H	グループ・アプローチ	講義	2	2	○	○	

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
精神保健福祉専修科目	PSY2154L	臨床心理学概論	講義	2	2	○	○	
	PSY2157H	心理的アセスメント	講義	2	2	○	○	心理学
	PSY2155L	心理学的支援法	講義	2	2	○	○	
	PSY1003H	公認心理師の職責	講義	2	1	○	○	心理学
	PSY1211H	心理学統計法	講義	2	1	○	○	
	PSY2210L	心理学研究法	講義	2	2	○	○	
	PSY3511L	心理学実験	実験	2	2	△	△	心理学研究法、心理学統計法 健康福祉学群生／リベラルアーツ学群生のみ履修可能
	PSY2131L	学習・言語心理学	講義	2	2	○	○	
	PSY3131L	知覚・認知心理学	講義	2	2	○	○	
	PSY2133L	神経・生理心理学	講義	2	2	○	○	
	PSY2151L	感情・人格心理学	講義	2	2	○	○	
	PSY2141L	社会・集団心理学	講義	2	2	○	○	
	PSY3141L	家族心理学	講義	2	2	○	○	
	PSY2156H	障害者（児）心理学	講義	2	2	○	○	
	PSY2172H	福祉心理学	講義	2	2	○	○	
	PSY2171L	健康・医療心理学	講義	2	2	○	○	
	PSY2170L	教育・学校心理学	講義	2	2	○	○	
	PSY2173H	司法・犯罪心理学	講義	2	2	○	○	
	PSY3170L	産業・組織心理学	講義	2	3	○	○	
	PSY3300H	関係行政論	講義	2	3	○	○	公認心理師の職責
	PSY3450H	心理演習Ⅰ	演習	2	3	△	×	公認心理師の職責、臨床心理学概論、 心理学的支援法、心理的アセスメント 精神保健福祉専修生／リベラルアーツ学群生のみ履修可能
	PSY3451H	心理演習Ⅱ	演習	2	3	△	×	心理演習Ⅰ 精神保健福祉専修生／リベラルアーツ学群生のみ 履修可能
	PSY3650H	心理実習	実習	4	4	△	×	健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、 司法・犯罪心理学、産業・組織心理学、関係行政論、 心理演習Ⅱ 精神保健福祉専修生／リベラルアーツ学群生のみ 履修可能
健康科学専修科目	HSS1050H	運動学	講義	2	1	○	○	
	HSS1001H	健康とスポーツ	講義	2	1	○	○	
	HSS1051H	生理学	講義	2	1	○	○	
	HSS1054H	スポーツ社会学	講義	2	1	○	○	
	HSS2150H	スポーツ経営学	講義	2	2	○	○	
	HSS1010H	栄養学	講義	2	1	○	○	
	MED1341H	学校保健学	講義	2	1	○	○	
	HSS1053H	障害学	講義	2	1	○	○	
	MED2340H	衛生学	講義	2	2	○	○	
	MED2341H	公衆衛生学	講義	2	2	○	○	
	HSS2310H	高齢者レクリエーション	講義	2	2	○	○	
	HSS2311H	障害者レクリエーション	講義	2	2	○	○	障害学
	HSS3310H	足の健康科学	講義	4	2	○	○	
	HSS3350H	スポーツコーチ学	講義	4	2	○	○	生理学または運動学
	HSS2351H	スポーツ栄養学	講義	4	2	○	○	栄養学
	HSS2152H	スポーツ心理学	講義	4	2	○	○	心理学または心理学概論
	HSS1052H	解剖学	講義	2	1	○	○	
	HSS1110H	発育発達学	講義	2	1	○	○	
	HSS1352H	スポーツ医学概論	講義	2	1	○	○	
	HSS2450H	救急処置法	演習	2	1	△	○	解剖学
	HSS2151H	スポーツ生理学	講義	2	2	○	○	生理学

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
健康科学専修科目	HSS2451H	体力測定評価演習	演習	2	2	△	○	生理学
	HSS2130H	ストレスマネジメント	講義	2	1	○	○	心理学
	HSS2330H	健康行動科学	講義	2	2	○	○	
	HSS2131H	健康支援学	講義	2	2	○	○	
	HSS3230H	ヘルスカウンセリング	講義	4	2	○	○	
	HSS1351H	スポーツ・体育史	講義	2	1	○	○	
	HSS2350H	スポーツ倫理学	講義	2	1	○	○	
	PSY3163H	健康心理カウンセリング概論	講義	2	3	○	○	健康・医療心理学
	PSY3157H	学校カウンセリング論	講義	2	3	△	○	健康福祉学群生／リベラルアーツ学群生のみ履修可能
	PSY2122H	生涯発達心理学	講義	2	1	○	○	
	TOR2034H	スポーツ産業論	講義	2	2	○	○	
	HSS1055H	スポーツ組織論	講義	2	1	○	○	
	HSS3352H	スポーツ産業経営論	講義	2	2	○	○	~~スポーツ経営学~~
	HSS2352H	スポーツ・体育と法	講義	2	1	○	○	
	HSS2353H	体育・運動の観察法	講義	2	1	○	○	
	HSS2354H	遊び・運動と発育・発達	講義	2	1	○	○	
	HSS3353H	健康スポーツ指導論	講義	2	3	×	△	運動学、生理学、解剖学、スポーツ心理学
	HSS2355H	コンディショニング	講義	2	1	△	○	
	MED2354H	スポーツ医学（内科）	講義	2	1	△	○	
	MED2360H	スポーツ医学（運動器）	講義	2	1	△	○	
	HSS3450H	トレーニング演習	演習	2	2	×	×	コンディショニング
	HSS3451H	コンディショニング演習	演習	2	2	×	×	コンディショニング
	HSS4650H	アスレティックトレーナー現場実習	実習	1	3	×	×	トレーニング演習、コンディショニング演習
	HSS1002H	特別講義	講義	2	1	○	○	
	＊	スポーツ（ウィークリースポーツ）	実技	1	別記	○	○	スポーツ実技科目一覧参照
	＊	スポーツ（シーズンスポーツ）	実技	1	別記	○	○	〃
保育専修科目	CCR1001H	保育原理	講義	2	1	○	○	
	CCR2301H	社会的養護Ⅰ	講義	2	2	×	○	
	EDU1000H	教育原理（保育）	講義	2	1	×	×	
	SWE1330H	子ども家庭福祉	講義	2	1	×	○	
	SWE1000H	社会福祉	講義	2	1	○	○	
	PSY2100H	子ども家庭支援の心理学	講義	2	3	×	○	
	PSY2021H	発達心理学（保育の心理学）	講義	2	2	×	○	
	PSY2420H	教育心理学（保育）	演習	2	2	×	×	
	CCR2333H	子どもの保健	講義	2	2	×	○	
	CCR2433H	子どもの健康と安全	演習	1	2	×	×	「乳児保育Ⅰ」・「乳児保育Ⅱ」と同時履修
	CCR2430H	子どもの食と栄養	演習	2	2	×	×	
	CCR3400H	保育内容総論	演習	2	2	×	×	
	CCR3432H	保育内容（健康）	演習	2	2	×	×	
	CCR3440H	保育内容（人間関係）	演習	2	3	×	×	
	CCR3453H	保育内容（環境）	演習	2	2	×	×	
	CCR3460H	保育内容（言葉）	演習	2	3	×	×	
	CCR3471H	保育内容（表現）	演習	2	2	×	×	
	CCR2320H	乳児保育Ⅰ	講義	2	2	×	○	保育専修生は、「子どもの健康と安全」・「乳児保育Ⅱ」と同時履修
	CCR2422H	乳児保育Ⅱ	演習	1	2	×	×	「子どもの健康と安全」・「乳児保育Ⅰ」と同時履修

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他専修学生の履修	先修条件ほか
保育専修科目	CCR2423H	特別支援教育（保育）	演習	2	2	×	×	
	CCR2403H	社会的養護Ⅱ	演習	1	3	×	×	
	CCR2472H	保育内容の理解と方法（音楽）	演習	2	1	×	×	
	CCR2473H	保育内容の理解と方法（造形）	演習	2	2	×	×	
	CCR2470H	保育表現技術（体育）	演習	2	2	×	×	
	CCR2411H	保育実習指導Ⅰ	演習	2	2	×	×	保育学、保育原理
	CCR2612H	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2	3	×	×	保育学、保育原理
	CCR2611H	保育実習Ⅰ（施設）	実習	2	3	×	×	保育学、保育原理
	EDU2421H	教育相談（子育て支援を含む）	演習	2	2	×	×	
	ELS2301H	保育の英語Ⅰ	講義	2	2	×	○	
	ELS2303H	保育の英語Ⅱ	講義	2	3	×	○	保育の英語Ⅰ
	ELS1300H	児童英語教育入門	講義	2	1	×	○	
	MUS1601H	音楽実技Ⅰ	実習	1	1	×	×	
	MUS2601H	音楽実技ⅡA	実習	1	2	×	×	音楽実技Ⅰ
	MUS2602H	音楽実技ⅡB	実習	1	2	×	×	音楽実技Ⅰ
	MUS2603H	音楽実技ⅡC	実習	1	2	×	×	音楽実技Ⅰ
	FNA1401H	造形表現	演習	2	1	×	○	
	CCR3414H	保育実習指導Ⅱ	演習	1	3	×	×	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）
	CCR3612H	保育実習Ⅱ	実習	2	3	×	×	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）
	CCR3415H	保育実習指導Ⅲ	演習	1	3	×	×	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）
	CCR3613H	保育実習Ⅲ	実習	2	3	×	×	保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ（保育所）、保育実習Ⅰ（施設）
	CCR2451H	児童文化	演習	2	1	×	○	
	CCR2312H	子ども家庭支援論	講義	2	3	×	○	
	EDU1030H	教職入門（保育）	講義	2	1	×	×	
	EDU2392H	教育制度論（保育）	講義	2	3	×	×	
	EDU2393H	教育関係法規（保育）	講義	2	3	×	×	
	EDU2020H	教育課程論（保育）	講義	2	2	×	×	
	EDU2221H	教育方法論（保育）	講義	2	3	×	×	
	CCR3451H	子どもとメディア	演習	2	3	×	○	
	CCR2424H	子ども理解の理論と方法	演習	2	2	×	×	
	CCR3461H	子どもとことば	演習	2	3	×	○	
	CCR3452H	あそびと生活	演習	2	3	×	○	
	MUS1401H	音楽表現	演習	2	2	×	○	
	CCR3431H	子どものからだと健康	演習	2	3	×	○	保育学
	EDU3433H	教育実習指導	演習	1	4	×	×	
	EDU3633H	教育実習	実習	4	4	×	×	教職入門（保育）、教育原理（保育）、保育内容（健康）、保育内容（環境）、保育内容（表現）
	EDU4431H	保育・教職実践演習（幼）	演習	2	4	×	×	

諸注意

①スポーツ実技科目（ウィークリースポーツ、シーズンスポーツ）一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	種　目　名	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
スポーツ（ウィークリースポーツ）	SPE1741H・SPE1742H	バスケットボールⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1743H・SPE1744H	バスケットボールⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2742H	バスケットボール指導法	実技	1	2	○	
	SPE1761H・SPE1762H	バレーボールⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1763H・SPE1764H	バレーボールⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2763H	バレーボール指導法	実技	1	2	○	
	SPE1751H・SPE1752H	サッカーⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1753H・SPE1754H	サッカーⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2743H	サッカー指導法	実技	1	2	○	
	SPE1781H・SPE1782H	ソフトボールⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1783H・SPE1784H	ソフトボールⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2781H	ソフトボール指導法	実技	1	2	○	
	SPE1746H・SPE1747H	ハンドボールⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1748H・SPE1749H	ハンドボールⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1786H・SPE1787H	軟式野球Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1788H・SPE1789H	軟式野球Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1771H・SPE1772H	テニスⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1773H・SPE1774H	テニスⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2764H	テニス指導法	実技	1	2	○	
	SPE1776H・SPE1777H	バドミントンⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1778H・SPE1779H	バドミントンⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2765H	バドミントン指導法	実技	1	2	○	
	SPE1791H・SPE1792H	ゴルフⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1793H・SPE1794H	ゴルフⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1871H・SPE1872H	エアロビクスⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1873H・SPE1874H	エアロビクスⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1836H・SPE1837H	リズムダンスⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1838H・SPE1839H	リズムダンスⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1881H・SPE1882H	レクリエーションⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1883H・SPE1884H	レクリエーションⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1876H・SPE1877H	フィットネスⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1878H・SPE1879H	フィットネスⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1886H・SPE1887H	トレーニングⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1888H・SPE1889H	トレーニングⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1811H・SPE1812H	柔道Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1813H・SPE1814H	柔道Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1816H・SPE1817H	剣道Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1818H・SPE1819H	剣道Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1711H・SPE1712H	器械体操Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1713H・SPE1714H	器械体操Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1721H・SPE1722H	陸上競技Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1723H・SPE1724H	陸上競技Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1831H・SPE1832H	創作ダンスⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1833H・SPE1834H	創作ダンスⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	種　目　名	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
スポーツ（ウィークリースポーツ）	SPE1701H・SPE1702H	体つくり運動Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1703H・SPE1704H	体つくり運動Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1756H・SPE1757H	ラグビーⅠ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1758H・SPE1759H	ラグビーⅢ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE1766H・SPE1767H	卓球Ⅰ・Ⅱ	実技	1	1	○	
	SPE1768H・SPE1769H	卓球Ⅲ・Ⅳ	実技	1	2	○	
	SPE2812H	柔道指導法	実技	1	2	○	
	SPE2813H	剣道指導法	実技	1	2	○	
	SPE2711H	器械体操指導法	実技	1	2	○	
	SPE2721H	陸上競技指導法	実技	1	2	○	
スポーツ（シーズンスポーツ）	SPE1851H	キャンプⅠ	実技	1	1	○	
	SPE1852H	キャンプⅡ	実技	1	2	○	
	SPE1853H	キャンプⅢ	実技	1	3	○	
	SPE1854H	キャンプⅣ	実技	1	4	○	
	SPE1861H	スキーⅠ	実技	1	1	○	
	SPE1862H	スキーⅡ	実技	1	2	○	
	SPE1863H	スキーⅢ	実技	1	3	○	
	SPE1864H	スキーⅣ	実技	1	4	○	
	SPE2731H	水泳指導法	実技	1	2	○	

スポーツ実技科目の履修制限

イ．末尾に「Ⅰ～Ⅳ」の付いている種目は、Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順で履修してください。なお、e-Campus 等においては「１～４」とそれぞれ表記される場合がありますが、「Ⅰ～Ⅳ」と同じ意味となります。

ロ．同一年度の同一学期に、同一種目を履修することはできません。ただし、「指導法」はこの限りではありません。

（例）「サッカーⅠ」と「サッカー指導法」は履修できます。

「柔道Ⅱ」と「柔道指導法」は履修できます。

ハ．ウィークリースポーツとシーズンスポーツを、同時に履修することができます。

②専修およびコースの変更

専修およびコースの変更は、定められた期間に願い出て、審査のうえ認められることがあります。

（注）「専攻演習」

イ．３年次より、「専攻演習」を履修することができます。この「専攻演習」の登録は２年次の秋学期に事前登録をしてください。希望者が集中した場合には選抜が行われ、その際はそれまでに修得した科目及び成績が考慮されます。

ロ．「専攻演習」を履修する場合には、原則として担当教員の指定する科目が修得済みでなければなりません（詳細は別途「専攻演習」履修案内を参照してください）。

7．グローバル・コミュニケーション学群

1．グローバル・コミュニケーション学群について

産業や経済が急速に高度化し、グローバル化が進む現代の社会では、豊かな語学力やコミュニケーション力を持ち、異文化を理解し、国や社会を越えて国際的に活躍できる「グローバル人材」の重要性が年々高まっています。これら「グローバル人材」は、世界展開をする日本企業や外資系企業をはじめとして、国際機関、政府機関や地方公共団体等で、中核的、専門的な働きを期待されています。

グローバル・コミュニケーション学群では、単に外国語能力を身につけた人物ではなく、「深い教養」を身につけ、「コミュニケーション能力」と「課題解決能力」の両方を持ち合わせた人物を育成することを目的としています。具体的には、多角的な視野と知識を基に分析を行い、実行可能な解決策を提示する力、複雑な事象を具体的かつ論理的に説明・説得するための高いコミュニケーション能力を有し、能動的に課題解決を行うリーダーシップを併せ持つ人物を育成することを目的として、カリキュラムを設定しています。

グローバル・コミュニケーションの学生は、１～２年次のときはまず目標言語を、実際の使用言語として徹底的に学び、３セメスターまたは４セメスター目には原則として全員が留学します（日本語特別専修の学生は希望者のみ）。留学においては、語学力の向上のみならず、グローバル社会で協働できる力をコミュニティ・アウトリーチ活動等を通して身につけ、留学終了後は、メジャーとする言語で行われるグローバル・スタディーズ科目等を履修して、広い知識とコミュニケーション能力、思考力、実行力を養います。

また、本学群では英語、中国語、日本語の「特別専修」という形で学修の体系化を図っています。さらに、母語以外の２言語を学修したいという学生の要望に応えることを可能とした「グローバル教養専修」も設けています。なお、英語特別専修においては、卒業要件となる科目を全て英語で修得した場合において、英語による学位を取得することも可能となっています。

2．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学群は、単に外国語能力を身につけた人物ではなく、「深い教養」を身につけ、「コミュニケーション能力」と「問題解決能力」の両方を持ち合わせた人物を育成することを目的としています。具体的には、多角的な視野と知識を基に分析を行い、実行可能な解決策を提示する力、複雑な事象を具体的かつ論理的に説明・説得するための高いコミュニケーション能力を有し、能動的に問題解決を行うリーダーシップを併せ持つ人物を育成することを目的としています。

そのため、本学群では目的実現のため編成されたカリキュラムのもと、定められた在学期間に通算 GPA1.5以上、所定の卒業単位（「基礎教育科目」:「ガイダンス科目」10単位含め16単位、「専攻科目」:「語学技能科目」36単位、「グローバル・スタディーズ科目」36単位（原則として受講科目言語は学修言語とする）、その他自由選択、計124単位以上）を修得し、以下の要件を満たす学生に対し、本学の教育の基本理念と「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」に基づき、「学士（グローバル・コミュニケーション）」を授与します。

（1）自己管理能力・生涯学習力

国際社会における自分の役割を自覚し、自律的、積極的に学び続けることができる。

（2）コミュニケーション・スキル

高い実用レベルでの外国語能力とグローバル社会で通用するコミュニケーション能力を修得している。

（3）チームワーク・リーダーシップ・問題解決能力

国際社会における諸課題を発見し、自らの解決策を立案するとともに、協調性、主体性をもったリーダーシップを発揮し、創造性を合わせ持つことができる。

（4）多文化・異文化に関する知識の理解

異文化理解、経済、政治、ジェンダーなどのテーマを学ぶことで、多様な価値観に気づき、情報を鵜呑みにするのでなく客観的に選択し、幅広い視野で物事を考えることができる。

（5）市民としての社会的責任

キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材として、「学而事人（学びて人に仕える）」を実践することができる。

3．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学群は、「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組みとしての教育課程を

「基礎教育科目」、「専攻科目」及び他学群や他大学、各種技能審査等を単位認定する「自由選択」という区分に分けて編成しています。授業は、講義、演習、実験、実習、実技のいずれかの方法、又はこれらの併用により行います。また、カリキュラムの体系化のために「ナンバリング（科目ごとの関連性や難易度を示す）」を行い、科目の構造を明示し体系的な学修に役立つようにしています。このような教育課程の編成と、学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方を以下のように定めています。

（1）教育課程の編成

①「基礎教育科目」は、「ガイダンス科目」及び「学群共通科目」により構成しています。「ガイダンス科目」として、外国語によるコミュニケーションに必要な総合的理解力や外国語修得方法（「グローバル・コミュニケーション入門」「外国語修得法」）、世界情勢の全体動向の把握、リーダーシップやイノベーションマインドの養成、論理的思考力の養成、数学的能力の錬成等の各導入科目（「グローバリゼーションと社会」「イノベーションとリーダーシップ」「論理的思考とコミュニケーション」「数的理解と統計」）を配置し、これらの科目を履修することで、専門分野を学ぶための知識を身につけていきます。また、「学群共通科目」として、言語の起源や第一・第二言語の修得方法等、言語に関する知識、心理と言語の関係、国内外の企業や団体等における就業や活動体験等に関わる幅広い科目（「応用言語学」「言語と心理」「インターンシップ」「フィールド・スタディーズ」等）を配置しています。

②「専攻科目」は、徹底した語学教育により、外国での大学教育にも十分対応できる能力を身につける「語学技能科目」、及び英語・中国語・日本語による授業を展開する「グローバル・スタディーズ科目」（日本語特別専修の学生については日本語による授業）によって構成しています。

ア）「語学技能科目」は、「英語コミュニケーション科目群」「中国語コミュニケーション科目群」「日本語コミュニケーション科目群」の３つの科目群に分かれています。また、次の４点を重視して母語以外を選択して集中的に学びます。

１）スキル

４技能（聞く、話す、読む、書く）、デジタルリテラシー、テストスキル、アカデミックスキル

２）クリティカルシンキング

考える力（情報を取捨選択し、その背景を理解し、仮説を立て、情報を統合し、明確に伝える力）

３）学修者オートノミー

振り返り、学修目標設定、学修計画、将来目標設定、スタディスキル

４）異文化理解

時事問題、文化背景（歴史、宗教、習慣、伝統）、多様性の受容、新しい価値観の創造

イ）「グローバル・スタディーズ科目」を「日本文化系科目群」「グローバル社会系科目群」の二つに分け、学修対象の言語を使って日本の文化や歴史･思想、世界経済、国際政治、ジェンダー等について学ぶ科目を配置しています。

（2）学修方法・学修過程

①１～２年次は、「語学技能科目」として英語・中国語・日本語のいずれかの目標言語を、実際の使用言語として、徹底的に学びます。

②３または４セメスター目は原則として全員が留学します（日本語特別専修の学生は希望者のみ）。

③帰国後は、留学等を通じて向上した語学力を用いて、学修対象の言語（英語・中国語・日本語）で開講される授業を受けることで、日本や世界の様々な問題や課題に関する理解を深めます。

④グループプロジェクトを通じて「イノベーション」を生む能力や「リーダーシップ」を醸成するとともに、組織の中心になって活躍できる人材を育てます。本学群ではグループプロジェクトや、ディスカッションやプレゼンテーションを積極的に取り入れています。これにより、テーマに対して複数の領域や視点から総合的にアプローチする力を養います。

（3）学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定され、シラバスに記載されています。

②学修成果がどのように評価されるのかは、シラバスにおいて具体的に評価方法を科目ごとに記載しており、授業の目標に対する学生の到達度を担当教員が厳格に評価します。

グローバル・コミュニケーション学群の学生が卒業するために必要な単位数の内訳は次のとおりです。

(1)　英語特別専修

英語特別専修をメジャーとして卒業するために必要な単位数の内訳は次のとおりです。なお、英語を母語とする（または英語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業することはできません。

基礎教育科目：ガイダンス科目10単位以上、合計16単位以上

専　攻　科　目：語学技能科目36単位（受講科目言語は英語に限る。「英語ＩＡ」「英語ＩＢ」「英語ⅡＡ」「英語ⅡＢ」４科目16単位を含む。留学先で修得した単位を含む）、グローバル・スタディーズ科目36単位（受講科目言語は英語に限る。留学先で修得した単位を含む）、合計72単位以上

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位以上

入学時からの通算 GPA が1.5以上

(2)　中国語特別専修

中国語特別専修をメジャーとして卒業するために必要な単位数の内訳は次のとおりです。なお、中国語を母語とする（または中国語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業することはできません。

基礎教育科目：ガイダンス科目10単位以上、合計16単位以上

専　攻　科　目：語学技能科目36単位（受講科目言語は中国語に限る。「中国語ＩＡ」「中国語ＩＢ」「中国語ⅡＡ」「中国語ⅡＢ」の４科目16単位を含む。留学先で修得した単位を含む）、グローバル・スタディーズ科目36単位（受講科目言語は中国語に限る。留学先で修得した単位を含む）、合計72単位以上

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位以上

入学時からの通算 GPA が1.5以上

(3)　日本語特別専修

日本語特別専修をメジャーとして卒業するために必要な単位数の内訳は次のとおりです。なお、日本語を母語とする（または日本語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業することはできません。

基礎教育科目：ガイダンス科目10単位以上、合計16単位以上

専　攻　科　目：語学技能科目36単位（受講科目言語は日本語に限る。「日本語ＩＡ」「日本語ＩＢ」「日本語ⅡＡ」「日本語ⅡＢ」の４科目16単位を含む）、グローバル・スタディーズ科目36単位（受講科目言語は日本語に限る）、合計72単位以上

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位以上

入学時からの通算 GPA が1.5以上

(4)　グローバル教養専修

本専修は日本語を母語とする学生と日本語を母語としない学生では、メジャーとして卒業するための要件が異なります。日本語を母語としない学生については、どの言語が母語であるかによって履修方法が異なりますので、担当のアドバイザーと十分に相談した上で、「グローバル教養専修卒業要件表（日本語非母語話者）」を参照し、履修してください。なお、日本語を母語とする（または日本語が母語に準ずる）学生が、英語および中国語で履修の上、グローバル教養専修として卒業するために必要な単位は次のとおりです。

基礎教育科目：ガイダンス科目10単位以上、合計16単位以上

専　攻　科　目：語学技能科目36単位（「英語ＩＡ」「英語ＩＢ」「英語ⅡＡ」「英語ⅡＢ」の４科目16単位を含む。留学先で修得した単位を含む）、グローバル・スタディーズ科目36単位（英語で12単位以上、中国語で12単位以上）、合計72単位以上

基礎教育科目、専攻科目、自由選択、合計124単位以上

入学時からの通算 GPA が1.5以上

４．卒業要件

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="4">グローバル・コミュニケーション学類</th></tr>
<tr><th>英語特別専修
（注１）</th><th>中国語特別専修
（注２）</th><th>日本語特別専修
（注３）</th><th>グローバル教養専修
（注４）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">基礎教育科目
16単位
（最低必要単位）</td><td>ガイダンス科目
10単位以上必修</td><td colspan="4">グローバル・コミュニケーション入門②　外国語修得法②
上記２科目４単位必修
グローバリゼーションと社会②　論理的思考とコミュニケーション②
イノベーションとリーダーシップ②　数的理解と統計②
上記４科目のうち３科目６単位選択必修</td></tr>
<tr><td>学群共通科目</td><td colspan="4">応用言語学④　キャリアデザインＡ②
言語と心理④　キャリアデザインＢ②
グローバル・リーダーシップ・セミナーⅠ②　キャリアデザインＣ②
グローバル・リーダーシップ・セミナーⅡ②　キャリアデザインＤ②
国際ボランティア②
インターンシップ④
フィールド・スタディーズ④</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専攻科目
72単位
（最低必要単位）</td><td>語学技能科目
36単位必修</td><td>英語ⅠA④
英語ⅠB④
英語ⅡA④
英語ⅡB④
（注５）
上記４科目16単位必修に加え、英語コミュニケーション科目群から選択20単位</td><td>中国語ⅠA④
中国語ⅠB④
中国語ⅡA④
中国語ⅡB④
（注５）
上記４科目16単位必修に加え、中国語コミュニケーション科目群から選択20単位</td><td>日本語ⅠA④
日本語ⅠB④
日本語ⅡA④
日本語ⅡB④
（注５）
上記４科目16単位必修に加え、日本語コミュニケーション科目群から選択20単位</td><td>英語ⅠA④
英語ⅠB④
英語ⅡA④
英語ⅡB④
（注５）
上記４科目16単位必修に加え、英語と中国語コミュニケーション科目群からあわせて20単位以上選択（注6）</td></tr>
<tr><td>グローバル・
スタディーズ科目
36単位必修</td><td colspan="4">日本文化系科目群、グローバル社会系科目群から選択36単位
受講言語は「英語」に限る　受講言語は「中国語」に限る　受講言語は「日本語」に限る　受講言語は英語・中国語に限る。英語・中国語ともそれぞれ12単位以上選択（注4）</td></tr>
<tr><td colspan="2">自由選択</td><td colspan="4">・基礎教育科目、専攻科目で、最低必要単位を超えて修得した単位
・メジャーとしない科目群の科目
・他学群専攻科目
・他大学等（短期大学、海外留学の科目を含む）認定単位（P. 209）
・各種技能審査による認定単位（P. 210～212）（注７）</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業要件単位合計

基礎教育科目、専攻科目
自由選択、あわせて
124単位以上</td><td colspan="4">【その他の要件】
１．入学時からの通算 GPA が1.5以上
２．メジャーとして卒業することを希望する専修の修了要件単位数を満たすこと。</td></tr>
</table>

（注１）英語特別専修をメジャーとして卒業を希望する者は、専攻科目を全て英語で履修し、単位を修得することが必要です。また、英語特別専修をメジャーとして卒業を希望し、かつ英語による学位取得を目指す者は、基礎教育科目、専攻科目の全てを英語で履修し、124単位以上を修得することが必要です。
ただし、英語を母語とする（または英語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業を希望することはできません。

（注２）中国語特別専修をメジャーとして卒業を希望する者は、専攻科目を全て中国語で履修し、単位を修得することが必要です。
ただし、中国語を母語とする（または中国語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業を希望することはできません。

（注３）日本語特別専修をメジャーとして卒業を希望する者は、専攻科目を全て日本語で履修し、単位を修得することが必要です。
ただし、日本語を母語とする（または日本語が母語に準ずる）学生は、本専修をメジャーとして卒業を希望することはできません。

（注４）グローバル教養専修をメジャーとして卒業を希望する、日本語を母語としない者は、グローバル・スタディーズ科目の受講言語の指定はありません（英語・中国語・日本語の組み合わせ自由で、36単位選択必修）。詳細は、入学後に配布される「グローバル教養専修卒業要件表（日本語非母語話者）」を確認してください。

（注５）一定以上の能力を有すると認められた者は、履修を免除される場合があります。免除された単位数は他の科目を修得することで卒業要件単位数を満たしてください。詳細は、オリエンテーション等でアドバイザーに確認してください。
（注６）英語コミュニケーション科目群から20単位以上、または中国語コミュニケーション科目群から20単位以上を修得することも可能です。
（注７）グローバル・コミュニケーション学群生は、認定単位数６単位以上のスコアのみ認定可能です。詳細は、P. 210～212を確認してください。

５．専修等案内

専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための特別専修・専修が設けられています。グローバル・コミュニケーション学群の専攻科目で構成される専修を登録すると、「学業成績単位修得証明書」に登録中のメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。登録したメジャーまたはマイナーの修了要件を満たした上で卒業すると、卒業後の「学業成績単位修得証明書」には修了したメジャーまたはマイナーの名称が記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業の要件となっています。ただし、グローバル・コミュニケーション学群以外の専攻プログラム・専攻コースをメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業の要件ではありませんが、グローバル・コミュニケーション学群以外の他学群のものをマイナーとして登録することができます。

ただし、他学群のマイナーを登録しようとする場合は、以下に注意してください。

１．マイナーの必修科目（または選択必修の全て）について、科目一覧ページの「他学群学生の履修」欄が「×」になっている専攻プログラム・専攻コース等の場合は、他学群生はそのマイナーを登録できません。

２．他学群生は、専攻プログラム・専攻コース等の抽選科目の優先順位によっては、マイナーの必修科目（または選択必修の全て）を履修できず、マイナーを修了できない場合があります。

３．他学群のマイナーの登録にあたっては、予め各キャンパス事務室教務担当に相談してください。

マイナーの登録は、４セメスター目より受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。マイナーの変更は、その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日までできます。

専修の種類は、以下のとおりです。

グローバル・コミュニケーション学類

専修等	メジャー	マイナー
英語	○	
中国語	○	
日本語	○	
グローバル教養	○	
グローバル研究（E）		○※
グローバル研究（C）		○※

※　他学群生のみマイナー登録可

上記のうち、英語・中国語・日本語特別専修の語学教育では、次の４点を重視しています。

①スキル
４技能（聞く、話す、読む、書く）、デジタルリテラシー、テストスキル、アカデミックスキル

②クリティカルシンキング
考える力（情報を取捨選択し、その背景を理解し、仮説を立て、情報を統合し、明確に伝える力）

③学修者オートノミー
振り返り学修目標設定、学修計画、将来目標設定、スタディスキル

④異文化理解
時事問題、文化背景（歴史、宗教、習慣、伝統）、多様性の受容、新しい価値観の創造

英語特別専修

⑴　教育目的

英語特別専修では、英語を修得する中で、言語の構造や機能および英語が話されている社会や文化を深く学び、日本と世界を比較対照することができる見識を培いながら、協働活動を通してグローバル人材に求められるリーダーシップの基本を身につけることを目的とした教育を行います。

具体的には、次の力を身につけることを目指します。

１）英語を高い実用レベルで運用する力

２）自国・世界の社会・文化等を理解・比較検証し、英語で発信する力

３）多言語環境の学生生活を通して得る、グローバル社会・多文化共生の中で生きる力

４）イノベーションやリーダーシップのプロジェクトを通して得る高い協働力・問題解決能力

また、本専修の具体的な到達目標として、卒業時までに TOEFL iBT®67点以上、TOEIC®710点以上、IELTS™6.0以上、又は CEFR B2 以上の語学力の修得および英語圏の地域文化の理解を基に高度な内容でコミュニケーションができることを設定しています。

英語特別専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、本学の教育の基本理念と本学群の「教育課程編成・実施の方針」、本学群の教育目標を踏まえた上で、目的を達成するための教育課程を編成しています。

①教育課程の編成

ア）語学技能科目では、英語を高い実用レベルで運用する力を身につけます。「入学時の語学力から卒業時の語学力までの上達度」「各種語学力試験のスコア等が保証する一定レベルの語学力」「言語に関する構造や機能、及び言語文化等に関する専門的な理解」の３つの柱を実現するため、「基礎」、「演習」、「特別演習」、「コミュニケーション」のカテゴリーで多面的かつ体系的に学びます。

イ）グローバル・スタディーズ科目では、「日本文化系科目群」「グローバル社会系科目群」からそれぞれ英語で受講することで、自国・世界の社会・文化等を理解・比較検証し、英語で発信する力を身につけます。またこれらの科目では、短期留学生と学びを共にすることで、日本の大学にいながらにして「生きたグローバル感覚」を醸成します。

ウ）英語圏の大学への留学では、多言語環境の学生生活を通して、グローバル社会・多文化共生の中で生きる力を、コミュニティ・アウトリーチ活動を通して、高い協働力・問題解決能力を身につけます。

②学修方法・学修過程

ア）１セメスターから２セメスター

集中的な英語教育プログラムを展開し、徹底した語学トレーニングを行うことで、全ての学生を本専修で設定する語学レベルまで引き上げていきます。授業以外の語学学修の補強として、授業の内容とリンクしたオンライン学修コンテンツを活用します。語学学修の補強とは別に、各授業において予習・復習として与えられる多くの課題もあるため、毎日が英語漬けとなるような教育プログラムです。また留学に向けて、留学先の歴史や文化を学び、様々なグループプロジェクトの実践を通して、異文化理解について学ぶ事前学修を行います。

イ）３セメスター

１学期間、原則として全員が海外の大学へ留学します。留学先では、語学力のさらなる向上のためのトレーニングに加えボランティア活動などの学外での活動を通じて、協働力やリーダーシップを身につけます。

ウ）４セメスター以降＊

日本や世界の様々な問題や課題に関する授業を履修します。授業は全て英語で開講しますので、これらの科目を履修するには、指定された英語の語学技能試験で、一定の基準をクリアすることが必要です。

＊基準とするレベルに達している場合は３セメスター以降

③学修成果の評価の在り方

ア）学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ）学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価などを取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

中国語特別専修

⑴教育目的

中国語特別専修では、中国語を修得する中で、言語の構造や機能および当該言語が話されている社会や文化を深く学び、日本と世界を比較対照することができる見識を培いながら、協働活動を通してグローバル人材に求められるリーダーシップを身につけることを目的とした教育を行います。

具体的には次のような力を身につけることを目指します。

１）中国語を高い実用レベルで運用する力

２）自国・世界の社会・文化等を理解・比較検証し、中国語で発信する力

３）多言語環境の学生生活を通して得る、グローバル社会・多文化共生の中で生きる力

４）イノベーションやリーダーシップのプロジェクトを通して得る高い協働力・問題解決能力

また、本専修の具体的な到達目標として、卒業時までにＨＳＫ（漢語水平考試）５級以上または中国語検定２級以上の語学力の修得、および中国語圏の地域文化の理解を基に高度な内容でコミュニケーションができることを設定しています。

中国語特別専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、本学の教育の基本理念と本学群の「教育課程編成・実施の方針」、本学群の教育目標を踏まえた上で、目的を達成するための教育課程を編成しています。

①教育課程の編成

ア）語学技能科目では、中国語を高い実用レベルで運用する力を身につけます。「入学時の語学力から卒業時の語学力までの上達度」「各種語学力試験のスコア等が保証する一定レベルの語学力」「言語に関する構造や機能、及び言語文化等に関する専門的な理解」の３つの柱を実現するため、「基礎」、「演習」、「特別演習」、「コミュニケーション」のカテゴリーで多面的かつ体系的に学びます。

イ）グローバル・スタディーズ科目では、「日本文化系科目群」「グローバル社会系科目群」からそれぞれ中国語で受講することで、自国・世界の社会・文化等を理解・比較検証し、中国語で発信する力を身につけます。またこれらの科目では、短期留学生と学びを共にすることで、日本の大学にいながらにして「生きたグローバル感覚」を醸成します。

ウ）中国語圏の大学への留学では、多言語環境の学生生活を通して、グローバル社会・多文化共生の中で生きる力を、コミュニティ・アウトリーチ活動を通して、高い協働力・問題解決能力を身につけます。

②学修方法・学修過程

ア）１セメスターから３セメスター

中国語による中国語授業（直接法）の集中的な教育プログラムを展開し、徹底した語学トレーニングを行うことで、すべての学生を本専修で設定したレベルまで引き上げていきます。授業では中国本土でも権威のある教材を導入し、授業時間外ではコミュニケーション課題を中国語で完成するなど、毎日中国語漬けとなる教育プログラムで語学力のさらなる効果的な修得を目指します。また、留学に向けて留学先の歴史や文化を学び、様々なグループプロジェクトの実践を通して、リーダーシップを学ぶ事前学修を行います。

イ）４セメスター

原則として全員が海外の大学へ留学します。留学先においては、語学力のさらなる向上のためのトレーニングを行いながら中国の社会や文化等についての知識を修得していきます。本学の学生だけでなく、各国から集まってきた留学生と一緒に学修するため、文化や習慣の違い等も尊重しながら進めることが必要です。

ウ）５セメスター以降＊

日本や世界の様々な問題や課題に関する授業を履修します。授業は全て中国語で開講しますので、これらの科目を履修するには、ＨＳＫ４級以上またはそれに相当する中国語能力があることを示す証明書の提示等が必要です。

＊基準とするレベルに達している場合は３セメスター以降

③学修成果の評価の在り方

ア）学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ）学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。またルーブリック評価などを取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

日本語特別専修

⑴教育目的

日本語特別専修では、第二言語としての日本語を修得する中で、言語の構造や機能、および日本社会や日本文化を深く学び、日本と母国、そして世界を比較対照することができる見識を培いながら、協働活動を通してグローバル人材に求められるリーダーシップの基本を身につけることを目的とした教育を行います。

具体的には、次のような力を身につけることを目指します。

１）第二言語としての日本語を高い実用レベルで運用する力

２）自国・世界の社会・文化等を理解・比較検証し、日本語で発信する力

３）多言語環境の学生生活を通して得る、グローバル社会・多文化共生の中で生きる力

４）イノベーションやリーダーシップのプロジェクトを通して得る高い協働力・問題解決能力

また、学生が自律的に学修を管理できるよう学修の意識化を促し、各自の目標に合わせた努力ができるようになることを目指しています。本専修の具体的な到達目標として、卒業時までにJF日本語教育スタンダードＣ１またはＣ２（CEFR Ｃ１ またはＣ２相当）、日本語能力試験Ｎ１の高得点合格（９割以上）、J.TEST実用日本語検定Ａ級、BJTビジネス日本語能力テストＪ1レベルの修得および、日本文化の理解を基に高度な内容でコミュニケーションができることを設定しています。

日本語特別専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、本学の教育の基本理念と本学群の「教育課程編成・実施の方針」、本学群の教育目標を踏まえた上で、目的を達成するための教育課程を編成しています。

①教育課程の編成

ア）語学技能科目では、第二言語としての日本語を高い実用レベルで運用する力を身につけます。「入学時の語学力から卒業時の語学力までの上達度」「各種語学力試験のスコア等が保証する一定レベルの語学力」「言語に関する構造や機能、及び言語文化等に関する専門的な理解」の３つの柱を実現するため、「基礎」、「演習」、「特別演習」、「コミュニケーション」のカテゴリーで多面的かつ体系的に学びます。

イ）グローバル・スタディーズ科目では、「日本文化系科目群」「グローバル社会系科目群」からそれぞれ日本語で受講することで、自国・世界の社会・文化等を理解・比較検証し、日本語で発信する力を身につけます。また、これらの科目では日本人学生・短期留学生と学びを共にすることで、日本の大学にいながらにして「生きたグローバル感覚」を醸成します。

②学修方法・学修過程

ア）１セメスターから４セメスター

集中的な日本語教育プログラムを展開し、徹底した日本語トレーニングを行うことで、すべての学生を本専修で設定したレベルまで引き上げていきます。また、各学生の日本語のレベルやニーズに応じて自律的に学べる個別学修システムを導入しており、学生一人ひとりにまで行き届いたきめ細かな日本語教育を行っていきます。

イ）５セメスター以降＊

様々な言語・文化背景の学生とともに、日本や世界の様々な問題や課題に関する授業を履修します。授業は全て日本語で開講しますので、これらの科目を履修するには日本語能力試験Ｎ２以上又は、それに相当する日本語能力があることを示す証明書の提示等が必要です。

＊基準とするレベルに達している場合は３セメスター以降

③学修成果の評価の在り方

ア）学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ）学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価などを取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

グローバル教養専修

⑴教育目的

グローバル教育専修は、母語以外の２言語の学修を目指す学生の要望等に応えることを可能とした、英語特別専修、

中国語特別専修、日本語特別専修とは異なる専修です。

一つの言語の視点からでは得ることのできない俯瞰的な視点から、グローバル社会の全体像を見直し、独自の視点を持てるようになることが本専修の目的です。母語を含めた３言語を修得し、自国・世界の社会・経済・文化等を、それぞれの言語で学修することで、多様な価値観や世界観をより正確に比較・対照を行うことが可能となります。

グローバル教養専修の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本専修では、本学の教育の基本理念と本学群の「教育課程編成・実施の方針」、本学群の教育目標を踏まえた上で、目的を達成するための教育課程を編成しています。

①教育課程の編成

ア）語学技能科目では、母語以外の２言語（英語・中国語・日本語）を学修します。「入学時の語学力から卒業時の語学力までの上達度」「各種語学力試験のスコア等が保証する一定レベルの語学力」「言語に関する構造や機能、及び言語文化等、言語学や文学に関する専門的な理解」の３つの柱を実現するため、「基礎」、「演習」、「特別演習」、「コミュニケーション」のカテゴリーで多面的かつ体系的に学びます。

イ）グローバル・スタディーズ科目では、「日本文化系科目群」「グローバル社会系科目群」から複数言語で受講することにより、異なる言語・文化から生まれる複数の解釈を学修し、広い視野を身につけます。具体的には日本を含む世界の文化・経済・ジェンダー・教育等の様々な科目を用意しています。またこれらの科目では、短期留学生と学びを共にすることで、日本の大学にいながらにして「生きたグローバル感覚」を醸成します。

②学修方法・学修過程

ア）入学時に英語、中国語、日本語いずれかの言語（母語の学修は不可）の学びを深めます。

イ）３セメスター以降、第二・第三言語でグローバル・スタディーズ科目を履修し、単位を修得することを可能としています。第二言語で履修した科目と同一の科目を、第三言語でも履修することにより、両外国語の語彙や文法上の差異、両外国語の習熟度を客観的に把握します。

※日本人学生と外国人留学生等によって卒業要件が異なります。

③学修成果の評価の在り方

ア）学修成果は「卒業認定・学位授与の方針」に定められた項目と、学修方法・学修過程（カリキュラム・マップ等）により示された、科目が目標とする学修の到達度が学生自身にとってどの程度であったかを示すものです。したがって学修成果は科目それぞれで設定されています。

イ）学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示します。また、ルーブリック評価などを取り入れることによって、成績評価を分かりやすく可視化し、厳格に評価します。

グローバル研究（E）マイナープログラム

⑴教育目的

グローバル研究（E）マイナープログラムは、日本の文化等および英語が話されている国や地域の社会や文化を広く研究し、日本と世界を比較対照することができる見識を培うことを目的としています。

⑵カリキュラムの特徴

授業はすべて英語で開講し、日本の社会や文化およびグローバル社会等について学びます。

具体的な特徴として、日本の文化、芸術、歴史、思想、宗教等の概論を通して、広く日本について学ぶことによって視野を広げ、視点を確立します。同時に世界にも目を向け、異文化理解、経済、経営、政治、ジェンダー等、グローバル社会において重要視されているテーマについても理解を深めます。母語のみならず、英語でも議論ができるように、語学力やコミュニケーション能力も高めていきながら、言語や文化の異なる学生とともに学修する仕組みとしています。

なお、本プログラムは、一定の英語力を必要とします。

マイナー：グローバル・スタディーズ科目（受講科目言語は英語に限る）から合計20単位以上を修得してください。

グローバル研究（C）マイナープログラム

⑴教育目的

グローバル研究（C）マイナープログラムは、日本の文化等および中国語が話されている地域の社会や文化を広く研究し、日本と中国、そして世界を比較対照することができる見識を培うことを目的としています。

⑵カリキュラムの特徴

授業はすべて中国語で開講し、日本の社会や文化およびグローバル社会等について学びます。

具体的な特徴として、日本の文化、芸術、歴史、思想、宗教等の概論を通して、広く日本について学ぶことによって視野を広げ、視点を確立します。同時に世界にも目を向け、異文化理解、経済、経営、政治、ジェンダー等、グローバル社会において重要視されているテーマについても理解を深めます。母語のみならず、中国語でも議論ができるように、語学力やコミュニケーション能力も高めていきながら、言語や文化の異なる学生とともに学修する仕組みとしています。

なお、本プログラムは、一定の中国語力を必要とします。

マイナー：グローバル・スタディーズ科目（受講科目言語は中国語に限る）から合計20単位以上を修得してください。

６．科目一覧と諸注意

①履修年次欄に１とある科目は１年生以上が履修可能です。２～４も同様です。

②他学群学生の履修欄が○の場合、他学群の学生も履修できます。△は担当教員の許可を得た上で履修できます。×は他学群の学生は履修できません。他学群の学生が、母語以外で開講される科目を履修する場合、一定の語学の要件をクリアする必要があります。また、母語で開講される科目を履修する場合でも、所定の手続きが必要です。

③開講言語とは、各授業科目がどの言語で開講されるかを示しています。E は英語、C は中国語、J は日本語で開講することを意味します。

④先修条件とは、当該科目を履修するために先に修得しなければならない科目です。

科目区分			科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	開講言語	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
基礎教育科目	ガイダンス科目		ACG100*X	グローバル・コミュニケーション入門	講義	E･C･J	2	1	×	※４
			LIN100*X	外国語修得法	講義	E･C･J	2	1	×	※４
			INT1*0*X	グローバリゼーションと社会	講義	E･J	2	1	×	※４
			MGM100*X	イノベーションとリーダーシップ	講義	E･J	2	1	×	※４
			PHL103*X	論理的思考とコミュニケーション	講義	E･J	2	1	×	※４
			MTH1000X	数的理解と統計	講義	J	2	1	○	
	学群共通科目		LIN3430X	応用言語学	演習	E	4	2	△	
			LIN3330X	言語と心理	講義	E	4	2	○	
			###39**X	グローバル・リーダーシップ・セミナーⅠ	演習	E･C･J	2	3	△	※４
			###49**X	グローバル・リーダーシップ・セミナーⅡ	演習	E･C･J	2	4	△	グローバル・リーダーシップ・セミナーⅠ※４
			###16**X	国際ボランティア	実習	E･C･J	2	1	△	※４
			###36**X	インターンシップ	実習	E･C･J	4	3	△	※４
			###36**X	フィールド・スタディーズ	実習	E･C･J	4	3	△	※４
			ACG1002X	キャリアデザインＡ	講義	J	2	1	×	
			ACG1003X	キャリアデザインＢ	講義	J	2	2	×	
			ACG2000X	キャリアデザインＣ	講義	J	2	3	×	
			ACG2001X	キャリアデザインＤ	講義	J	2	3	×	
専攻科目	語学技能科目	英語コミュニケーション科目群※1	ENG1400X	英語Ⅰ Ａ	演習	E	4	1	×	
			ENG1401X	英語Ⅰ Ｂ	演習	E	4	1	×	
			ENG1402X	英語Ⅱ Ａ	演習	E	4	1	×	英語Ⅰ Ａ
			ENG1403X	英語Ⅱ Ｂ	演習	E	4	1	×	英語Ⅰ Ｂ
			ENG14**X	初級英語演習	演習	E	2	1	×	英語レベル１の者のみ履修可※４
			ENG24**X	中級英語演習	演習	E	2	1	×	英語レベル１と２の者のみ履修可※４
			ENG*4**X	上級英語演習	演習	E	2	1	×	英語レベル２と３の者のみ履修可※４
			ENG44**X	英語特別演習Ⅰ	演習	E	4	1	×	担当教員の許可を得て履修可※４
			ENG44**X	英語特別演習Ⅱ	演習	E	4	1	×	英語特別演習Ⅰ 担当教員の許可を得て履修可※４
			ELS2410X	英語コミュニケーションＡ	演習	E	2	2	×	
			ELS2420X	英語コミュニケーションＢ	演習	E	2	2	×	
			ELS3470X	翻訳 Ａ	演習	J	4	3	△	

「＊」：数字コードが複数存在する科目

「###」：３文字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分			科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	開講言語	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
専攻科目	語学技能科目	英語コミュニケーション科目群 ※1	ELS4470X	翻訳Ｂ	演習	J	4	3	△	
			ELS3471X	英語通訳Ⅰ	演習	J	4	3	△	
			ELS4471X	英語通訳Ⅱ	演習	J	4	3	△	英語通訳Ⅰ
			ENG3470X	実践英語Ａ	演習	E	2	2	×	
			ENG3471X	実践英語Ｂ	演習	E	2	2	×	
			ENG3472X	実践英語Ｃ	演習	E	2	2	×	
			ENG3473X	実践英語Ｄ	演習	E	2	2	×	
			ENG3474X	実践英語Ｅ	演習	E	2	2	×	
			ENG3475X	実践英語Ｆ	演習	E	2	2	×	
			ENG3476X	実践英語Ｇ	演習	E	2	2	×	
			ENG3477X	実践英語Ｈ	演習	E	2	2	×	
			ENG3478X	実践英語Ⅰ	演習	E	2	2	×	
			ENG3479X	実践英語Ｊ	演習	E	2	2	×	
		中国語コミュニケーション科目群 ※2	CHN1400X	中国語ⅠＡ	演習	C	4	1	○	
			CHN1401X	中国語ⅠＢ	演習	C	4	1	○	
			CHN2400X	中国語ⅡＡ	演習	C	4	1	○	中国語ⅠＡ
			CHN2401X	中国語ⅡＢ	演習	C	4	1	○	中国語ⅠＢ
			CHN140*X	初級中国語演習	演習	C	2	1	○	※4
			###24**X	中級中国語演習	演習	C	2	1	○	※4
			CLS34**X	上級中国語演習	演習	C	2	1	○	※4
			CLS4450X	中国語特別演習Ⅰ	演習	C	4	1	○	担当教員の許可を得て履修可
			CLS4451X	中国語特別演習Ⅱ	演習	C	4	1	○	中国語特別演習Ⅰ 担当教員の許可を得て履修可
			CLS3450X	中国語コミュニケーションＡ	演習	C	2	2	○	
			CLS3451X	中国語コミュニケーションＢ	演習	C	2	2	○	
			CLS3420X	日中翻訳技法	演習	C	2	2	○	
			CLS344*X	日中通訳技法	演習	C	2	2	○	※4
			CHN3470X	実践中国語Ａ	演習	C	2	2	○	
			CHN3471X	実践中国語Ｂ	演習	C	2	2	○	
			CHN3472X	実践中国語Ｃ	演習	C	2	2	○	
			CHN3473X	実践中国語Ｄ	演習	C	2	2	○	
			CHN3474X	実践中国語Ｅ	演習	C	2	2	○	
			CHN3475X	実践中国語Ｆ	演習	C	2	2	○	
			CHN3476X	実践中国語Ｇ	演習	C	2	2	○	
			CHN3477X	実践中国語Ｈ	演習	C	2	2	○	
			CHN3478X	実践中国語Ⅰ	演習	C	2	2	○	
			CHN3479X	実践中国語Ｊ	演習	C	2	2	○	
		日本語コミュニケーション科目群 ※3	JPN1400X	日本語ⅠＡ	演習	J	4	1	×	
			JPN1401X	日本語ⅠＢ	演習	J	4	1	×	
			JPN1402X	日本語ⅡＡ	演習	J	4	1	×	日本語ⅠＡ
			JPN1403X	日本語ⅡＢ	演習	J	4	1	×	日本語ⅠＢ
			JPN14**X	初級日本語演習	演習	J	2	1	×	※4
			JPN24**X	中級日本語演習	演習	J	2	1	×	※4
			JPN34**X	上級日本語演習	演習	J	2	1	×	※4
			JPN3481X	日本語特別演習Ⅰ	演習	J	4	1	×	担当教員の許可を得て履修可
			JPN3482X	日本語特別演習Ⅱ	演習	J	4	1	×	日本語特別演習Ⅰ 担当教員の許可を得て履修可
			JPN3461X	日本語コミュニケーションＡ	演習	J	2	2	×	
			JPN3462X	日本語コミュニケーションＢ	演習	J	2	2	×	

「*」：数字コードが複数存在する科目
「###」：３文字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分			科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	開講言語	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
専攻科目	グローバル・スタディーズ科目 ※4 ※5	日本文化系科目群	JPF304*X	日本の文化	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			JPF334*X	近代の日本文化論	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			LIT308*X	比較文化論	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			JPF307*X	日本文学概論	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			JPF317*X	日本文学作品論	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			LIT338*X	比較文学研究	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			JPF306*X	日本の芸術	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			JPF336*X	日本の映像芸術	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			JPF303*X	日本の舞台芸術	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			JPF303*X	日本の歴史	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			JPF333*X	日本の近代史	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			JPF338*X	日本の思想と宗教	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			###3***X	比較人文学特論	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
		グローバル社会系科目群	ELS341*X	英米文化講読	演習	E	4	2	○	
						J	4	2	△	
			LIT317*X	英米文化研究	講義	E	4	2	○	
						J	4	2	△	
			HIS332*X	中国文化史	講義	C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			ANS314*X	中国文化論	講義	C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			COM334*X	異文化コミュニケーション論	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			ECO334*X	金融と経済	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	

「＊」：数字コードが複数存在する科目
「###」：３文字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分			科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	開講言語	単位数	履修年次	他学群学生の履修	先修条件ほか
専攻科目	グローバル・スタディーズ科目 ※4 ※5	グローバル社会系科目群	MGM301*X	日本型経営論	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			ECO337*X	現代の産業と企業	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			POL300*X	国際政治論	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			INT334*X	国際関係論	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			SOC335*X	日本人と国際社会	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			ANT333*X	グローバル社会とジェンダー	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			SOC335*X	比較社会論	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			EDU332*X	比較教育論	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			###3***X	グローバル社会特論	講義	E	4	2	○	
						C	4	2	○	
						J	4	2	△	
			COM344*X	国際教養研究Ａ	演習	E	2	2	○	
						C	2	2	○	
			COM347*X	国際教養研究Ｂ	演習	E	2	2	○	
						C	2	2	○	
			COM347*X	国際教養研究Ｃ	演習	E	2	2	○	
						C	2	2	○	
			COM343*X	国際教養研究Ｄ	演習	E	2	2	○	
						C	2	2	○	

「＊」：数字コードが複数存在する科目

「###」：３文字コードが複数存在する科目

※１　英語を母語とする（または英語が母語に準ずる）学生は、履修することができません。（翻訳Ａ、翻訳Ｂ、英語通訳Ⅰ、英語通訳Ⅱを除く）

※２　中国語を母語とする（または中国語が母語に準ずる）学生は、履修することができません。（日中翻訳技法、日中通訳技法を除く）

※３　日本語を母語とする（または日本語が母語に準ずる）学生は、履修することができません。

※４　これらの授業科目の後に続く（　）内のサブタイトルが異なれば、複数の科目を履修することが可能です。

※５　開講言語により、以下の履修条件があります。

英　語：指定された英語の語学技能試験で、一定の基準をクリアすること。

中国語：HSK（漢語水平考試）４級以上またはそれに相当する中国語能力があることを示す証明書を提出すること。

日本語：日本語能力試験Ｎ２以上またはそれに相当する日本語能力があることを示す証明書を提出すること。

８．航空・マネジメント学群

１．航空・マネジメント学群について

航空・マネジメント学群では、「高度な専門性と卓越した英語力を備えた航空の各分野で活躍できるジェネラリストの養成」を目的として、教養豊かな専門的職業人の養成に係る教育等を行います。

本学群では「フライト・オペレーションコース」、「航空管制コース」、「整備管理コース」、「空港マネジメントコース」といった、航空業界において隣接し合う４つの学問領域を配置しており、この中から重点的に学修する専攻コースを選び学修していきます。

これら４つのコースでは、本学の建学の精神である「キリスト教主義に基づく国際的な人材の養成」に基づき、航空の基礎となる必須の知識や技倆を併せ持った、そして、グローバル化された社会を生き抜くための必須な要素ともいえる卓越した英語力を有し、主として航空の分野に於いて、中核的かつ専門的に活躍できる人材、すなわち、現代の航空業界が求める人材を養成し、社会に輩出することを目標にしています。

２．卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学群では、以下の基本要件を満たす学生に対し、「学士（航空・マネジメント）」を授与します。

⑴　倫理観

「高度な専門性と卓越した英語力を備えた航空の各分野で活躍できるジェネラリスト」としての社会常識やモラル、倫理観、マナーを備えること。

⑵　専攻する各分野における知識・理解と論理的思考力

航空を中心としたビジネスの基本とマネジメント能力を備え、論理的な思考と意思決定ができ、自らのキャリアについて明確なビジョンを持つとともに、それぞれの専攻分野に関する高度な専門的知識や技倆を身につけ、航空分野における有用な人材となり得る能力を有すること。

⑶　チームワークとリーダーシップ

自らとは異なる様々な背景を持つ人々との相互理解が可能で、相手の気持ちを思いやる豊かな人間性を持ち、組織の中で協調し、また中心的・中核的な存在として最後まで仕事をやり遂げることができること。

⑷　問題解決能力

ビジネスの現場において、日々発生する様々な問題や課題を感知し、失敗を恐れることなく解決のための行動を起こすことができ、たとえ困難が生じたとしても、諦めることなく最後まで成し遂げることができること。

⑸　コミュニケーション能力と多文化・異文化に関する知識の理解

航空の専攻各分野において求められる高い語学力を有すること。そのコミュニケーション能力を駆使して異文化を理解し、より広い視野に立ち、国際的なビジネスセンスを持って行動できるよう、弛まない努力を続けること。

３．教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学群は「卒業認定・学位授与の方針」に掲げた学修成果を得るために、その具体的取組としての教育課程を「学群指定科目」「ガイダンス科目」「外国語科目」「学群共通科目」「専門基礎科目」「専門応用科目」という区分に分けて編成し、科目は講義、演習、実習、実技といった授業方法を組み合わせた授業を展開しています。またカリキュラムの体系化のために「科目ごとの難易度等を示すナンバリング」を行い体系的な学修に役立つようにしています。本学群では航空に関連する様々な分野で活躍できる人材を育成するため、以下の基本方針をもとに高い英語能力と高度な専門的能力の修得に向けた科目を効果的に配置しています。

⑴　教育課程の編成

１．高い英語能力と高度な専門性を備えた人材の育成に向け英語科目を３年次まで履修可能にし目標達成のための履修時間を確保します（フライト・オペレーションコースを除く）。専門性については航空界の世界標準ともいえる ICAO Annex 概論及び詳論から各専門分野への導入を図っています。

２．国際性豊かな人材の育成に向けて本学群独自の２年次秋学期からの海外研修を原則とし、提携先の大学において生きた英語を身につけると同時に、専攻に関連する授業、実習を受けられる多様な学修機会を提供しています。

３．航空の各分野を幅広く理解しそれぞれの専攻に活かすため、また本学群の卒業生が将来航空界の横糸を形成する存在になるために１年次は専攻コースに分かれることなく混成クラスで横断的に航空の基礎を学びます。

「学群指定科目」

学群指定科目では、本学の教育目的として普遍的に必要な科目を中心に「キリスト教と異文化理解」「日本語表現Ⅰ」「日本語表現Ⅱ」「情報リテラシー」について、本学群の学生が共通して履修する必修科目としています。

「ガイダンス科目」

航空関係に係る専門学修の入口となる「ICAO 概論」「航空法Ⅰ」を必修にするほか「飛行の基礎」「基礎数学」「統計入門」等の科目を配置しています。

「外国語科目」

本学群の学生全員に英語科目を必修とし、十分な学修量と学修時間を確保し TOEIC® IPT 650点を最低目標とし国際化社会に対応できる英語の基礎を１年次に養います。２年次秋学期の海外研修での学びと体験を挟んで、３年次では４技能（読む・書く・話す・聞く）のスキルアップを図れるカリキュラムを組んでいます。これらの科目では入学時のプレースメントテストや TOEIC® 等の外部試験を活用したテストの得点を勘案した能力別クラス編成とします。また各コースに応じて必要な専門英語を学ぶ科目も設定しています。

「学群共通科目」

「航空施設」「航空法」「航空機の仕組みと構造」等を必修としています。また海外研修中に行う科目として「フィールドワーク」「実用海外英語」を設定しています。

「専門基礎科目」

「航空気象Ⅰ」「ICAO 詳論」を必修とし「航空力学」「空中航法」をはじめヒューマンファクター、リスクマネジメント、リソースマネジメント等を学ぶ科目を配置し、すべての学生に幅広い知識を与え専攻分野に偏らない基盤を構築できるように設定しています。

「専門応用科目」

フライト・オペレーション、航空管制、整備マネジメント、空港マネジメントという４つの科目群により構成されるこれらの応用科目を体系的に学修することによって航空分野を目指す人材として高い能力を養成します。

「専攻演習（ゼミ）」

隣接するコースの専攻演習とのコラボレーションも含め学生主体の様々な活動の中でリソースマネジメント、リーダーシップやフォロワーシップを理解し、アクティブラーニングを実践する機会となし、コミュニケーション能力を醸成し、社会に求められる人材となるため、原則としてそれまでに学んだ学知の集大成となる論文・レポートを作成します。

⑵　学修方法・学修過程

１．１年次には大学での学びのための基礎的な知識とスキルを修得します。各コースに分かれることなく航空・マネジメント学群として学んでおくべき幅広い基礎知識を修得します。加えて多角的視野を得ることを目標にした多くの授業の履修を通し、複眼的視野を育成します。

２．２年次春学期からは各専攻に分かれそれぞれの専門科目に関連する学群共通科目を履修します。

３．２年次秋学期は米国での海外研修を原則としています。

フライト・オペレーションコースはアリゾナ州フェニックスの桜美林学園フライト・トレーニングセンターにて飛行訓練を開始します。

その他の３コースは航空産業の集積地であるシアトルにある３つの大学に分かれて英語能力の向上の他、各専門分野での知識と経験を獲得します。

海外研修中の授業についても、学生の語学レベルに合わせて履修するコースを用意し、レベルに合わせて言語運用能力の更なる向上を図ります。

海外での研修・訓練を開始するには、TOEIC® IPT650点を超えることが求められています。

４．外国語教育は基礎的な英語４科目を必修とするほか、４技能の英語スキルを修得すべく十分な教育時間を確保しています。具体的には３年次終了時まで英語の履修を可能にし、加えて海外研修中も英語の授業を実施して卒業時にはCEFR® B2以上を目指します。

⑶　学修成果の評価の在り方

①学修成果は「卒業認定、学位授与の方針」に定められた項目とカリキュラムにより示された、科目の目標に関して履修者がどの程度到達したかを示すものです。したがって学修成果は科目夫々で設定されています。

②学修成果の評価方法は科目ごとのシラバスにおいて示されています。また科目によってはルーブリック評価（成功の度合いを示すレベルや、それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した評価基準からなる表）などを取り入れることによって、成績評価をわかりやすく可視化し、厳格に評価します。

各コースの教育の目的とカリキュラムの特徴

グローバル化が進んだ現代の社会においては、人の往来を支える航空産業の役割はますます重要になっています。日本においてもビジット・ジャパン事業が推進され2030年6,000万人の訪日観光客の達成に向けて様々な施策が打たれています。航空交通の量が増えるにつれて、パイロットや管制、整備を支える人材や、機能強化され民営化されていく空港の管理運営に携わる人材の育成が求められています。国際的な舞台で活躍し、社会の役に立つ人を育てるという建学の精神に則り、更なる変革と競争の時代を迎えようとしている我が国の航空界が求める人材を育成します。

4．卒業要件

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="4">航空・マネジメント学類</th></tr>
<tr><th>フライト・オペレーションコース</th><th>航空管制コース</th><th>整備管理コース</th><th>空港マネジメントコース</th></tr>
<tr><td rowspan="5">基礎教育科目

34単位
（最低必要単位）</td><td>学群指定科目
８単位必修</td><td colspan="4">キリスト教と異文化理解②　日本語表現Ⅰ②
日本語表現Ⅱ②　情報リテラシー②
上記４科目８単位必修</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ガイダンス科目
10単位必修</td><td colspan="4">ICAO 概論②　航空法Ⅰ②
上記２科目４単位必修</td></tr>
<tr><td colspan="4">航空無線②　電波法規②
飛行の基礎②　基礎数学②
統計入門②　アカデミックリテラシーA③
アカデミックリテラシーB②　アカデミックリテラシーC①
アカデミックリテラシーD②
上記９科目のうち６単位選択必修</td></tr>
<tr><td>外国語科目
16単位必修</td><td colspan="4">英語ⅠA②　英語ⅠB②
英語ⅡA②　英語ⅡB②
上記４科目８単位必修に加え、外国語科目群から選択８単位</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専攻科目

60単位
（最低必要単位）</td><td>学群共通科目
16単位必修</td><td colspan="4">航空施設①　航空法Ⅱ②
飛行場概論②　航空機の仕組みと構造Ⅰ①
航空機の仕組みと構造Ⅱ②
上記５科目８単位必修に加え、学群共通科目群から選択８単位</td></tr>
<tr><td>専門基礎科目
６単位必修</td><td colspan="4">航空気象Ⅰ②　航空気象Ⅱ②
ICAO 詳論②
上記３科目６単位必修</td></tr>
<tr><td>専門応用科目
24単位必修</td><td>フライト・オペレーション科目群より24単位</td><td>航空管制科目群より24単位</td><td>整備マネジメント科目群より24単位</td><td>空港マネジメント科目群より24単位</td></tr>
<tr><td>その他科目
14単位必修</td><td colspan="4">上記必修として修得した学群共通科目、専門基礎科目、専門応用科目に加えて、専攻科目より合計14単位必修</td></tr>
<tr><td colspan="2">自由選択</td><td colspan="4">・ガイダンス科目、外国語科目、学群共通科目、専門基礎科目、専門応用科目で最低必要単位数を超えて修得した単位
・自学群他コース専攻科目
・他学群専攻科目
・基盤教育の科目
・他大学等（短期大学・海外留学の科目を含む）認定単位（P. 209）
・各種技能審査による認定単位（P. 210～212）</td></tr>
<tr><td colspan="2">卒業要件単位合計

基礎教育科目、専攻科目
自由選択、あわせて

124単位以上</td><td colspan="4">【その他の要件】
１．入学時からの通算 GPA が2. 0以上　1.50
２．各自所属のコースをメジャーとして必ず修了すること

【早期卒業の要件】
本学に３年以上在学し、卒業に必要な124単位以上を修得し、かつ入学時からの通算 GPA が3. 6以上</td></tr>
</table>

５．専攻コース案内

本学には、専攻科目を中心として、学生各自の目的や関心に応じて専門的に学ぶための専攻コースが置かれています。航空・マネジメント学群の専攻科目で構成される専攻コースを登録すると、「学業成績単位修得証明書」にメジャーを登録中であることが記載されます。修了要件を満たすと、卒業後の「学業成績単位修得証明書」にメジャーを修了したことが記載されます。

メジャー：メジャーを修了することは卒業要件となっています。ただし、航空・マネジメント学群以外の専攻プログラム・専攻コースをメジャーとして登録することはできません。

マイナー：マイナーを修了することは卒業要件ではありませんが、他学群のものをマイナーとして登録することもできます。

マイナーの登録は、５セメスター目に受け付けます。アドバイザーの承認を得て、所定の期間に手続きを行ってください。その後、卒業を希望する学期の定期試験期間最終日まで、変更もできます。

航空・マネジメント学群の専攻コースは、原則として１年次終了までに行われる希望調査によりますが、希望するコースに極端な偏りがあった場合、選抜を行います。

（フライト・オペレーションコースの選考は入学時に終了しています。）

航空・マネジメント学類

専攻コース	メジャー	マイナー
フライト・オペレーション	○	
航空管制	○	
整備管理	○	
空港マネジメント	○	

フライト・オペレーションコース

１．教育目的

2030年には深刻なパイロット不足に直面するといわれています。多くの人命を預かるパイロットの養成には、厳しい訓練に立ち向かう強じんな精神力と自律心が求められることは言うまでもなく、近年特に求められているのがマネジメント能力と英語能力です。

このような時代の要請に応え、ただ単に資格を持ったパイロットを養成するのではなく豊かな教養と知性、そして強い使命感・高い倫理観とマネジメント能力を兼ね備えたパイロットを育成します。

２．カリキュラムの特徴

フライト・オペレーションコースでは、上記の考え方に基づき、学群指定科目と ICAO 概論や航空法といったガイダンス科目を学び、同時に海外で行われる飛行訓練とその間の生活の基盤となる英語力とコミュニケーションスキルを磨くことに取り組みます。これらに加えて操縦士免許の取得を目的として、航空機の操縦に必要な知識と技倆を養う科目を配置しています。専門領域として、「航空施設」「航空気象」「航空力学」「空中航法」「航空機のデザインと搭載されるエンジン」「健康管理と航空生理」「操縦の基礎」「航空安全」「操縦実技」「電子航法」「航空交通管制」等の科目を系統立てて学び、本学のフライト・トレーニングセンターでの飛行訓練課程で操縦技倆を修得します。

【取得可能な資格】

国土交通省航空局：「事業用操縦士技能証明（多発）」、「計器飛行証明」、「ICAO 航空英語検定 Level 4 」

アメリカ連邦航空局：「自家用操縦士技能証明」、「事業用操縦士技能証明（多発）」、「計器飛行証明」

総　　務　　省：「航空無線通信士」

※詳細は、P. 268を参照してください。

航空管制コース

１．教育目的

管制方式のみならず航空気象、空港の施設、航空機の性能や耐空性まで、広く航空に関する基礎的な知識や国際標準を学びます。また増大する航空交通の需要に対する課題について騒音対策も含めた先進国の取り組みを学ぶなど幅広い観点から航空管制を捉え、航空管制にかかわる総合的な学修を展開します。

本コースでは航空管制に関する幅広い視野とともに論理的に思考する能力及びコミュニケーション能力を養い航空管制の発展に寄与できる人材を育成します。

２．カリキュラムの特徴

本コースでは単に航空管制の方式や知識といった専門知識を学ぶだけでなく、管制の効率、流量調整、気象や航空機の性能、リソースマネジメント、安全管理、出発進入経路や航空路の設計、環境問題等について幅広く学び、「国際的センスとコミュニケーション能力」と「豊かな教養」の修得を目指すカリキュラムになっています。したがって専門応用科目の航空管制科目群には「管制と気象」「出発進入経路設置基準」「空港と地域環境との共生」「Safety Management System」等の科目を配しています。また英語力と国際感覚を身につけ、米国の大学における管制官養成コースを肌で感じてもらうために２年次秋学期に海外研修科目として「フィールドワーク」及び「実用海外英語」の履修を原則としています。

【取得可能な資格】

総務省：航空無線通信士

整備管理コース

１．教育目的

航空各分野の基礎知識を横断的に学び品質管理、技術管理や生産管理等の知識を包括した整備管理業務を理解し、英語表記の各種規程類にも慣れ親しみ、航空無線通信士、危険物取扱者、第２種放射線取扱主任者等の必要な資格にチャレンジします。一方でインターンシップ、米国ボーイング社でのフィールドトリップ及び提携先大学施設での実習等を通して航空機整備業務の一部を体験することで経済、経営の素養と経営マインドをもって社会に貢献できる整備管理のプロフェッショナルを育成します。

２．カリキュラムの特徴

整備管理とは、安全運航を支える整備の品質や技術、生産計画など、整備のソフト面、ハード面の全体像を把握してマネジメントするもので、具体的には部品の調達から整備マニュアルの策定、整備スケジュールや整備士の人員計画など多岐にわたります。

その観点から専門基礎科目の「ICAO 詳論」に始まり専門応用科目の整備マネジメント科目群の「整備管理論」にその大部分を包括し、さらに「安全管理システム論」「労働安全衛生の仕組み」「航空保安」を配しています。また将来のキャリアパスを見据えて２年次秋学期には米国の提携校の施設で整備基本作業の実習を可能にしているのも大きな特徴です。

【取得可能な資格】

総務省：航空無線通信士

空港マネジメントコース

１．教育目的

国は空港の所有権は残したまま、その運営を民間会社に任せる方針を固め「民間の能力を活用した国管理空港等の運営等に関する法律（民活空港運営法）」を施行し、民間企業による空港運営を推進しています。民営化により巨大インフラである空港を運営するだけでなく、新しい空港を作っていく気構えを持ち、独自の経済圏、市場を持つ空港に着目した新たなビジネスが創り出されています。空港の社会的役割、規模、施設と機能、アクセス、空港及び地域社会の経済をはじめ空港のマネジメントを学び空港の中だけでなく、地域活性化に貢献するなど広い視野で事業の幅を広げていくマインドがある人材を育成します。

２．カリキュラムの特徴

空港では一般旅客や送迎の人々の目に触れないところで様々な経済活動が営まれておりその業種業態は多岐に及びます。

本コースは、アクセスや地域経済との関係を踏まえた空港経営を考える観点から経済、経営、施設、設備の規格と解説、空港民営化にかかわる法体系までを網羅しています。具体的には「飛行場概論」「ICAO 詳論」に始まり学群共通科目で「経営戦略入門」「マクロ経済」「ミクロ経済」等を学び専門応用科目の空港マネジメント科目群では「空港の管理（監理）と運用」「空港の消火救難体制」「空港施設論」「空港経営論」「空港経済論」「空港運営と不動産関連法」など多岐にわたる科目を配しています。また英語能力と海外の空港運営を目の当たりに学ぶために学群共通科目に「フィールドワーク」と「実用海外英語」を２年次秋学期に配し海外研修を原則としているのが本コースのカリキュラムの特徴です。

【取得可能な資格】

総務省：航空無線通信士

6．科目一覧

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他コース学生の履修	先修条件ほか
学群指定科目	CHR1001Y	キリスト教と異文化理解	講義	2	1	×		
	JLS1401Y	日本語表現Ⅰ	演習	2	1	×		
	JLS1402Y	日本語表現Ⅱ	演習	2	1	×		
	IST1400Y	情報リテラシー	演習	2	1	×		
ガイダンス科目	AER2100Y	ICAO 概論	講義	2	1	×		
	AER1011Y	航空法Ⅰ	講義	2	1	×		
	AER2141Y	航空無線	講義	2	1	×		
	AER1049Y	電波法規	講義	2	1	×		
	AER1043Y	飛行の基礎	講義	2	1	×		
	MTH1001Y	基礎数学	講義	2	1	×		
	ECO1001Y	統計入門	講義	2	1	×		
	ACG1401Y	アカデミックリテラシーA	演習	3	1	×		
	ACG1402Y	アカデミックリテラシーB	演習	2	1	×		
	ACG1403Y	アカデミックリテラシーC	演習	1	1	×		
	ACG1404Y	アカデミックリテラシーD	演習	2	1	×		
外国語科目	ENG1400Y	英語ⅠA	演習	2	1	×		
	ENG1401Y	英語ⅠB	演習	2	1	×		
	ENG1402Y	英語ⅡA	演習	2	1	×		
	ENG1403Y	英語ⅡB	演習	2	1	×		
	ENG1404Y	英語ⅡC	演習	1	1	×		
	ENG2401Y	英語ⅡD	演習	1	2	×		
	ENG2402Y	英語ⅡE	演習	1	2	×		
	ENG2403Y	英語ⅢA	演習	2	~~2~~ 1	×		
	ENG2404Y	英語ⅢB	演習	2	~~2~~ 1	×		
	ENG3401Y	英語ⅣA	演習	2	3	×		
	ENG3402Y	英語ⅣB	演習	2	3	×		
	ENG3403Y	英語ⅤA	演習	2	3	×		
	ENG3404Y	英語ⅤB	演習	2	3	×		
	ENG3405Y	英語ⅥA	演習	2	3	×		
	ENG3406Y	英語ⅥB	演習	2	3	×		
	ENG1405Y	アビエーションイングリッシュⅠA	演習	2	1	×		
	ENG1406Y	アビエーションイングリッシュⅠB	演習	2	1	×		
	ENG2405Y	アビエーションイングリッシュⅡA	演習	2	2	×		
	ENG2406Y	アビエーションイングリッシュⅡB	演習	2	2	×		
	ENG2407Y	海外研修英語A	演習	1	2	×		
	ENG2408Y	海外研修英語B	演習	1	2	×		
	ENG2409Y	海外研修英語C	演習	1	2	×		
	ENG2411Y	海外研修英語D	演習	1	2	×		
	ENG248*Y	ICAO 英語テストスキル	演習	2	1	×		※
	ENG1483Y	CEFR 英語スキル	演習	2	2	×		
	ENG3481Y	英語特論Ⅰ	演習	1	3	×		
	ENG3482Y	英語特論Ⅱ	演習	3	4	×		

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分	科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他コース学生の履修	先修条件ほか
学群共通科目	AER1044Y	航空施設	講義	1	1	×		
	AER2112Y	航空法Ⅱ	講義	2	1	×		航空法Ⅰ
	AER2061Y	飛行場概論	講義	2	1	×		
	AER1045Y	航空機の仕組みと構造Ⅰ	講義	1	1	×		
	AER1046Y	航空機の仕組みと構造Ⅱ	講義	2	1	×		
	AER2081Y	航空管制概論	講義	2	1	×		
	MGM1090Y	日本の経営者	講義	2	1	×		
	ACC1001Y	ビジネス数字の読み方	講義	2	1	×		
	TOR1000Y	現代ホスピタリティ	講義	2	1	×		
	ECO1000Y	経済学入門	講義	2	2	×		
	ECO2103Y	ビジネス統計と解析	講義	2	2	×		
	CMS2010Y	マーケティング入門	講義	2	2	×		
	MGM2151Y	経営戦略入門	講義	2	2	×		
	MGM1004Y	企業経営と情報	講義	2	2	×		
	MGM2020Y	組織と心理	講義	2	3	×		
	MGM2021Y	ビジネス倫理	講義	2	3	×		
	MGM3041Y	サービスマネジメント	講義	2	3	×		
	TOR3026Y	ホスピタリティマネジメント	講義	2	3	×		
	MGM2013Y	ホスピタリティ経営論	講義	2	3	×		
	ECO2101Y	マクロ経済学	講義	2	3	×		
	ECO2102Y	ミクロ経済学	講義	2	3	×		
	AER1600Y	フィールドワーク	実習	7	2	×		
	ENG2489Y	実用海外英語	演習	7	2	×		
	AER1401Y	SPI 対策Ⅰ	演習	2	3	×		
	AER1402Y	SPI 対策Ⅱ	演習	2	3	×		SPI 対策Ⅰ
	AER39**Y	専攻演習Ⅰ	演習	2	3	×		
	AER39**Y	専攻演習Ⅱ	演習	2	3	×		
	AER49**Y	専攻演習Ⅲ	演習	2	4	×		
	AER49**Y	専攻演習Ⅳ	演習	2	4	×		
専門基礎科目	AER1051Y	航空気象Ⅰ	講義	2	1	×		
	AER1052Y	航空気象Ⅱ	講義	2	1	×		航空気象Ⅰ
	AER2151Y	航空気象Ⅲ	講義	2	2	×		航空気象Ⅱ
	AER21**Y	ICAO 詳論	講義	2	2	×		ICAO 概論
	AER3241Y	航空力学Ⅰ	講義	2	1	×		
	AER3242Y	航空力学Ⅱ	講義	2	2	×		航空力学Ⅰ
	AER1031Y	空中航法Ⅰ	講義	2	1	×		
	AER1032Y	空中航法Ⅱ	講義	2	2	×		空中航法Ⅰ
	AER2131Y	空中航法Ⅲ	講義	2	2	×		
	AER3232Y	空中航法Ⅳ	講義	2	2	×		
	AER2101Y	ヒューマンファクターとリスクマネジメント	講義	2	2	×		
	AER1042Y	航空機のデザインと搭載されるエンジン	講義	2	2	×		
	AER4331Y	ジェット機の基礎	講義	2	2	×		
	AER3231Y	CRM	講義	2	3	×		ヒューマンファクターとリスクマネジメント
	AER1030Y	自家用操縦士課程	講義	2	1	×		

「＊」：数字コードが複数存在する科目

（次のページに続く）

科目区分		科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他コース学生の履修	先修条件ほか
専門応用科目	フライト・オペレーション科目群	AER2136Y	健康管理と航空生理	講義	2	2	×	×	
		AER2130Y	操縦の基礎	講義	2	2	×	×	
		AER2139Y	フライトオペレーション特論Ⅰ	講義	2	2	×	×	
		AER2132Y	フライトオペレーション特論Ⅱ	講義	1	2	×	×	
		AER3233Y	フライトオペレーション特論Ⅲ	講義	3	3	×	×	
		AER2137Y	航空安全Ⅰ	講義	1	2	×	×	
		AER2138Y	航空安全Ⅱ	講義	1	2	×	×	
		AER3240Y	航空安全Ⅲ	講義	1	3	×	×	
		AER2133Y	航空に関する知識Ⅰ	講義	2	2	×	×	
		AER2134Y	航空に関する知識Ⅱ	講義	2	2	×	×	
		AER3235Y	航空に関する知識Ⅲ	講義	2	3	×	×	
		AER3236Y	操縦に関する知識Ⅰ	講義	1	2	×	×	
		AER3237Y	操縦に関する知識Ⅱ	講義	1	2	×	×	
		AER3238Y	操縦に関する知識Ⅲ	講義	1	3	×	×	
		AER2630Y	操縦実技Ⅰ	実技	4	2	×	×	
		AER2631Y	操縦実技Ⅱ	実技	3	2	×	×	
		AER3630Y	操縦実技Ⅲ	実技	5	3	×	×	操縦実技Ⅰ、操縦実技Ⅱ
		AER3631Y	操縦実技Ⅳ	実技	3	3	×	×	
		AER3632Y	操縦実技Ⅴ	実技	2	3	×	×	操縦実技Ⅲ、操縦実技Ⅳ
		AER3230Y	電子航法	講義	2	2	×	~~×~~ ○	
		AER3239Y	実用機の性能	講義	2	3	×	○	
		AER4330Y	大型機の操縦	講義	2	4	×	×	
		AER4332Y	エアラインパイロットのための航空事故防止	講義	2	4	×	×	
		AER4333Y	エアラインパイロットのためのATC	講義	2	4	×	×	
		AER3254Y	応用航空気象Ⅰ	講義	2	4	×	×	
		AER4255Y	応用航空気象Ⅱ	講義	2	4	×	×	応用航空気象Ⅰ
		AER4336Y	アドバンスド計器飛行	講義	2	4	×	×	
		AER4337Y	国内ATCと飛行方式	講義	2	4	×	×	
		AER4338Y	国内のフライトにおける留意点	講義	2	4	×	×	
		AER4430Y	FMS操作演習	演習	2	3	×	○	
	航空管制科目群	AER2160Y	空港情報業務論	講義	2	3	×	○	
		AER4380Y	管制と気象	講義	2	3	×	~~×~~ ○	
		AER4383Y	最低気象条件設定基準	講義	2	3	×	×	
		AER4388Y	出発進入経路設置基準	講義	2	3	×	×	
		AER3201Y	空港と地域環境との共生	講義	2	2	×	○	
		AER4381Y	ATM/CNS計画	講義	2	3	×	×	
		AER4382Y	管制情報処理システム	講義	2	2	×	×	
		AER3200Y	Safety Management System	講義	2	3	×	×	
		AER2484Y	航空交通管制コミュニケーション	演習	2	2	×	×	
		AER1085Y	航空交通管制の仕組みⅠ	講義	1	2	×	~~○~~ ×	
		AER1086Y	航空交通管制の仕組みⅡ	講義	1	2	×	~~○~~ ×	
		AER2187Y	航空交通管制の仕組みⅢ	講義	2	3	×	×	航空交通管制の仕組みⅠ
		AER3288Y	航空管制特論Ⅰ	講義	2	3	×	×	
		AER3389Y	航空管制特論Ⅱ	講義	6	4	×	×	

（次のページに続く）

科目区分		科目ナンバリングコード	授業科目	授業方法	単位数	履修年次	他学群学生の履修	自学群内他コース学生の履修	先修条件ほか
専門応用科目	整備マネジメント科目群	AER2197Y	安全管理システム論	講義	2	3	×	×	
		AER2198Y	航空機および装備品整備の仕組み	講義	2	3	×	×	
		AER3299Y	整備マニュアル英語	講義	2	2	×	×	
		AER3290Y	整備管理論Ⅰ	講義	2	2	×	×	
		AER3291Y	整備管理論Ⅱ	講義	2	2	×	×	
		AER3292Y	整備管理論Ⅲ	講義	2	3	×	×	
		AER3293Y	整備管理論Ⅳ	講義	2	3	×	×	
		AER3294Y	整備管理論Ⅴ	講義	2	3	×	×	
		AER2495Y	整備基本業務演習	演習	2	3	×	×	
		AER3296Y	空港グランドハンドリング論	講義	2	3	×	○	
		AER3297Y	労働安全衛生の仕組み	講義	2	2	×	~~×~~ ○	
		AER2199Y	航空保安	講義	2	3	×	○	
		AER4399Y	整備関連航空法	講義	2	3	×	×	
	空港マネジメント科目群	AER3264Y	ロジスティックス論	講義	2	3	×	○	
		AER2165Y	航空輸送論	講義	2	2	×	×	
		AER3265Y	交通経済論	講義	2	3	×	×	
		AER3267Y	国際交通論	講義	2	3	×	×	
		AER3268Y	交通経営論	講義	2	3	×	×	
		AER3269Y	航空事業論	講義	2	3	×	×	
		AER3361Y	空港の管理（監理）と運用	講義	2	3	×	×	
		AER3262Y	空港の騒音対策	講義	~~2~~ 1	3	×	×	
		AER3260Y	空港の消火救難体制	講義	~~1~~ 2	3	×	~~×~~ ○	
		AER3224Y	航空政策論	講義	2	3	×	×	
		AER2166Y	空港施設論	講義	2	3	×	×	
		AER3266Y	空港経営論	講義	2	3	×	×	
		AER2167Y	空港経済論	講義	2	3	×	×	
		AER2168Y	民活空港運営法と空港民営化	講義	2	3	×	×	
		AER3261Y	空港運営と不動産関連法	講義	2	3	×	×	

※（　）内のサブタイトルが異なれば、複数の科目を履修することが可能です。

Ⅳ　他大学等における履修

１．海外留学による修得単位の認定

１．本学と単位互換の協定を結んでいる提携校への留学
⑴　修得した単位が本学のどの分野の科目として認定されるかは、各学群教授会の認定によります。
⑵　２年以内に限り、留学期間も本学における在学期間に算入されます。
⑶　事前にアドバイザーに相談してください。
２．提携校以外への留学
⑴　教育上有益と認められる場合、修得した単位が本学卒業に必要な単位として認められることがあります。
⑵　事前にアドバイザーに相談してください。

２．特別聴講学修プログラム

１．他大学等における履修（海外留学を除く）

他大学等において授業科目を履修し、単位を修得したとき、その単位を本学の卒業に必要な単位に算入することができます。

ただし、大学・短期大学で修得した単位であること、本学の教育上有益であると認められるものであることが条件となります。なお、履修に際してはアドバイザーの承認を必要とし、**履修単位は学期ごとの履修単位数の上限に含まれます。**

本学においては、以下のとおり他大学との単位互換協定に基づいた相互交流（特別聴講生としての派遣と受入れ）が可能となっています。各々の募集や追加項目については、掲示等でお知らせします。

＜単位互換協定校＞
⑴　沖縄国際大学、名桜大学、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学
⑵　放送大学
⑶　首都圏西部大学単位互換協定会加盟校
⑷　学術・文化・産業ネットワーク多摩加盟校

V　技能審査による単位認定

1．英語

各種技能審査（実用英語技能検定、TOEFL®、TOEIC®、IELTS™）のスコアにもとづき、以下の要領で単位認定を行います。

名　　称	級・スコア	認定単位数
実用英語技能検定	1級	8
	準1級	4
TOEFL iBT®	100～120	8
	92～99	6
	79～91	4
	61～78	2
TOEIC® Listening & Reading Test	875～990	8
	810～874	6
	730～809	4
	700～729	2
IELTS™（アカデミック・モジュール）	7 ～ 9	8
	6.5	6
	6	4
	5.5	2

1）英語を母語または母語に準ずる言語とする者は、単位認定申請できません。該当する可能性のある者は、申請内容確認のため面談を行う場合がありますので、あらかじめ各キャンパス事務室教務担当※に確認してください。

2）単位認定申請は、各学期定期試験期間終了日の２週間前より、定期試験期間終了日まで~~、各キャンパス事務室教務担当※~~で受け付けます。複数の技能審査を申請する場合は、まとめて申請してください。入学以前に取得したものについては、入学直後のオリエンテーション期間に申請してください。ただし、入学日より遡って７ヶ月以内に取得したものに限ります。

申請期間終了日

3）申請時には、学生証、スコア等証明書の原本を提出する必要があります。詳細についてはe-Campus掲示で確認してください。

4）資格・スコアについては、~~申請受付開始日~~より遡って７ヶ月以内に取得したものが対象となります（受験日＝スコア取得日。ただし、英検およびIELTS™は合格証書に記載された発行日）。単位は申請した学期の単位（自由選択）として認定しますが、履修登録単位数の上限には含まれません。

5）２回目以降の単位認定申請については以下のとおりです。　下位の認定単位数との差分にあたる単位数が追加登録されます。

ａ．同一技能審査の級・スコアが上がったことによる認定単位数は、~~上位の認定単位数に置き換えられます。~~

ｂ．技能審査の種類ごとに単位を認定します。

6）単位認定は言語ごとに12単位（組み合わせ自由）を上限とし、卒業要件単位として認めます。なお、本学学則第45条に基づき、本学において修得したものとみなすことができる単位数の上限60単位に含まれます。

7）TOEFL-ITP®、TOEIC®-IP、TOEIC®-Speaking & Writing Tests、IELTS™ ジェネラル・トレーニング・モジュールのスコアは対象としません。

*ITP/IP=Institutional（Testing）Program…大学等での団体受験

8）~~郵送による申請、~~本人以外からの申請は受け付けません。

9）休学中の申請はできません。

10）グローバル・コミュニケーション学群の学生は、「認定単位数」６単位以上の級・スコアが対象です。

~~※受け付け事務室については e-Campus 掲示で確認してください。~~

２．中国語

各種技能審査（漢語水平考試 HSK および中国語検定試験）のスコアに基づき、以下の要領で単位認定を行います。

名　　称	級	認定単位数
漢語水平考試（HSK）	６級（180点以上）※	8
	５級（180点以上）※	4
	４級	2
中国語検定試験	１級	8
	準１級	6
	２級	4
	３級	2

※ただし、聞き取り、読解、作文の各分野で60点以上を取得していること。

１）中国語を母語または母語に準ずる言語とする者は、単位認定申請できません。
２）単位認定申請前に上記１）の確認のための面談をあらかじめ受けて「単位認定申請資格証明書」を取得し、申請時に提出してください。
３）「単位認定申請資格証明書」が無い場合は、申請を受け付けません。ただし、２回目以降の申請時には必要ありません。
４）単位認定申請は、各学期定期試験期間終了日の２週間前より、定期試験期間終了日まで~~、各キャンパス事務室教務担当※~~で受け付けます。複数の技能審査を申請する場合は、まとめて申請してください。入学以前に取得したものについては、入学直後のオリエンテーション期間に申請してください。ただし、入学日より遡って７ヶ月以内に取得したものに限ります。申請期間終了日　詳細についてはe-Campus掲示で確認してください。
５）申請時には、学生証、スコア等証明書の原本、単位認定資格証明書を提出する必要があります。
６）級については、~~申請受付開始日~~より遡って７ヶ月以内に取得したものが対象となります（受験日＝スコア取得日。ただし、中検は合格証書に記載された発行日）。単位は申請した学期の単位（自由選択）として認定しますが、履修登録単位数の上限には含まれません。
７）２回目以降の単位認定申請については以下のとおりです。
　ａ．同一技能審査の級が上がったことによる認定単位数は、~~上位の認定単位数に置き換えられます。~~
　ｂ．技能審査の種類ごとに単位を認定します。　下位の認定単位数との差分にあたる単位数が追加登録されます。
８）単位認定は言語ごとに12単位（組み合わせ自由）を上限とし、卒業要件単位として認めます。なお、本学学則第45条に基づき、本学において修得したものとみなすことができる単位数の上限60単位に含まれます。
９）HSK 口試のスコアは対象としません。
10）~~郵送による申請、~~本人以外からの申請は受け付けません。
11）休学中の申請はできません。
12）グローバル・コミュニケーション学群の学生は、認定単位数６単位以上の級が対象です。

~~※受け付け事務室については e-Campus 掲示で確認してください。~~

３．簿記

日本商工会議所主催簿記検定試験の合格に基づき、以下の要領で単位認定を行います。

名　　称	級	認定単位数
日本商工会議所主催簿記検定試験	２級	4
	３級	2

１）ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類所属の学生は「会計・財務科目群」の単位として認定され、ビジネスマネジメント学群アビエーションマネジメント学類所属の学生は「学類共通科目」の単位として認定されます。
ビジネスマネジメント学群以外に所属する学生は、「自由選択」として単位認定されます。なお、技能審査による単位認定は、履修登録単位数の上限には含まれません。

２）単位認定申請は、各学期定期試験期間終了日の２週間前より、定期試験期間終了日まで~~、各キャンパス事務室教務担当※~~で受け付けます。単位認定申請には、合格証明書の原本が必要です。~~詳細についてはe-Campus掲示で確認してください。~~

３）~~申請受付開始日より遡って６ヶ月以内~~に取得したものが対象となります（取得日＝合格証書に記載された発行日）。
※入学以前に取得したものについては、申請することができません。

４）同一技能審査の級が上がったことによる認定単位数は、~~上位の認定単位数に置き換えられます。~~

５）言語ごとの単位認定の上限12単位とは別に、最大で４単位認定されます。なお、本学学則第45条に基づき、本学において修得したものとみなすことができる単位数の上限60単位に含まれます。

６）~~郵送による申請、~~本人以外からの申請は受け付けません。

７）休学中の申請はできません。

８）入学前に取得した資格については、本単位認定の対象となりません。

~~※受け付け事務室については e-Campus 掲示で確認してください。~~

申請期間終了日より遡って7ヶ月以内

下位の認定単位数との差分にあたる単位数が追加登録されます。

Ⅵ 資 格 等

本学で取得できる資格等一覧

本学で取得できる資格は以下の表のとおりです。詳細は、次ページ以降のそれぞれの資格の項目を参照してください。

	リベラルアーツ学群	芸術文化学群	ビジネスマネジメント学群	健康福祉学群	グローバル・コミュニケーション学群	航空・マネジメント学群	取扱い窓口	備　考
教育職員免許状 中学校教諭１種免許状 高等学校教諭１種免許状 〈国家資格〉	○	○		○			教職センター事務室	学群によって取得できる免許状の種類・教科は異なります。 課程修了後、大学が一括申請します。 卒業と同時に免許状が授与されます。
学校図書館司書教諭 〈国家資格〉	○	○		○				教職課程（中・高）の履修登録者のみ。 資格取得には教員免許状取得が条件。 所定の科目を修得し、卒業年度に資格申請してください。 卒業後に修了証が交付されます。
博物館学芸員 〈国家資格〉	○	○	○	○	○	○		課程修了後、卒業年度に申請してください。卒業と同時に資格が取得できます。
日本語教員養成課程	○	○	○	○	○	○	町田キャンパス事務室教務担当	２種類の各コース修了後、卒業年度に申請してください。 卒業と同時に資格が取得できます。
社会福祉士 〈国家資格〉※受験資格のみ				○ 社会福祉専修のみ			サレンバーガー館事務室／実習支援センター	所定の科目を修得してください。 卒業と同時に受験資格が得られます。
精神保健福祉士 〈国家資格〉※受験資格のみ				○ 精神保健福祉専修のみ				所定の科目を修得してください。 卒業と同時に受験資格が得られます。
公認心理師 〈国家資格〉※大学における必要な科目の履修	○			○ 精神保健福祉専修のみ				所定の科目を修得してください。 大学における必要な科目を修めて卒業しただけでは受験資格は得られないことに注意してください。
認定心理士 〈(公社)日本心理学会認定〉	○			○			町田キャンパス事務室教務担当	所定の科目を修得し、卒業年度に資格申請してください。 卒業と同時に資格が取得できます。
健康心理士 〈日本健康心理学会認定〉	○			○				所定の科目を修得し、卒業年度に資格申請してください。 卒業と同時に資格が取得できます。
JPSU認定スポーツトレーナー 〈(一社)全国体育スポーツ系大学協議会)〉 ※認定試験合格等が条件				○ 健康科学専修のみ			サレンバーガー館事務室／実習支援センター	所定の科目の修得およびBLS資格の取得後、講習会の受講と認定試験の合格によって、卒業と同時に受験資格が得られます。
健康運動実践指導者 〈(公財) 健康・体力づくり事業団認定〉 ※認定試験合格が条件				○			サレンバーガー館事務室／実習支援センター	所定の科目を修得し、認定試験に合格後、財団に登録してください。 卒業と同時に資格が取得できます。
スポーツ指導者養成講習会 (共通科目Ⅰ＋Ⅱ) 免除適応コース 〈(公財)日本スポーツ協会公認〉				○				所定の科目を修得すると、講習会・試験の一部が免除となります。
初級障がい者スポーツ指導員 〈(公財)日本障がい者スポーツ協会公認〉	○	○	○	○	○	○	町田キャンパス事務室教務担当	所定の科目を修得し、資格申請してください。 認定されると資格が取得できます。
保育士 〈国家資格〉				○ 保育専修のみ			サレンバーガー館事務室／実習支援センター	課程修了後、大学が一括申請します。 卒業と同時に資格が取得できます。
幼稚園教諭１種免許状 〈国家資格〉				○ 保育専修のみ			教職センター事務室	課程修了後、大学が一括申請します。 卒業と同時に免許状が授与されます。
社会福祉主事任用資格	○	○	○	○	○	○	サレンバーガー館事務室	所定の科目を修得してください。 卒業と同時に任用資格が得られます。
児童指導員任用資格	○※			○				卒業と同時に任用資格が得られます。
操縦士 〈国家資格〉 ※国家試験合格が条件						○ フライト・オペレーションコースのみ	多摩キャンパス事務室	養成課程を経て、国家試験に合格する必要があります。
航空無線通信士 〈国家資格〉						○	多摩キャンパス事務室	所定の科目を修得し、国家試験に合格する必要があります。
ECO-TOP プログラム 〈東京都認証〉	○	○	○	○	○	○	町田キャンパス事務室教務担当	所定の科目を修得すると、東京都に認証され登録されます。

※
心理学専攻
社会学専攻
教育学専攻
メジャー
修了学生のみ

※資格取得に必要な所定の科目は、それぞれ開講されるキャンパスで履修する必要があります。所定の科目が開講されるキャンパスを事前に確認してください。時間割の関係上、４年間でも資格取得が困難な場合があるため、ご注意ください。

児童福祉司任用資格　・リベラルアーツ学群（心理学専攻、社会学専攻、教育学専攻メジャー修了）
・健康福祉学群（社会福祉専修、精神保健福祉専修、保育専修）

児童心理司任用資格　・リベラルアーツ学群　心理学専攻メジャー修了
・健康福祉学群　精神保健福祉専修　実践心理メジャー修了

１．教育職員免許状（国家資格）

１．教育職員免許状の取得について

教員になろうとする者は、国・公・私立学校を問わず、それぞれの学校の相当の教育職員免許状（以下、免許状という）を取得していることが必要です。

免許状は「教育職員免許法」に定められるとおり、基礎資格（学士の学位）を有し、文部科学省の認定を受けた大学の課程で所定の単位を修得し、当該免許状の授与権者である都道府県の教育委員会に申請することで、免許状が授与されます。

したがって、教員になることを志望する学生は、免許状を取得するために本学教職課程における所定の単位を修得しなければなりません。

また、公立学校の教員になろうとする場合には、さらに都道府県の教育委員会が行う「教員採用候補者選考試験」に合格しなければ採用されません。私立学校については各都道府県の私学団体が適性検査を実施している場合もあります。中学校・高等学校一括方式の教員採用が増加しているので中学校教諭１種免許状及び高等学校教諭１種免許状の両方を取得することが望まれます。

２．本学の教職課程

本学において、文部科学省の認定を受けている各学群の教職課程は以下に示すとおりです。

学　群	種　類	教　科
リベラルアーツ学群	中学校教諭１種免許状	国語
		社会
		数学
		理科
		英語
		中国語
	高等学校教諭１種免許状	国語
		地理歴史
		公民
		数学
		理科
		情報
		英語
		中国語
芸術文化学群	中学校教諭１種免許状	音楽　※１
		美術　※２
	高等学校教諭１種免許状	音楽　※１
		美術　※２
健康福祉学群	中学校教諭１種免許状	保健体育
	高等学校教諭１種免許状	保健体育
	幼稚園教諭１種免許状　※３	

※１　芸術文化学群音楽専修の学生のみ履修できます。

※２　芸術文化学群ビジュアル・アーツ専修の学生のみ履修できます。

※３　健康福祉学群保育専修の学生のみ履修できます。

３．教職課程履修上の注意事項

① 課程の登録について

教職課程の履修に際しては強い意志と早い段階から綿密な学修計画が必要となるため、教職の意義などについて深く学び、自己の適性について考えることが必要です。１年次秋学期に教職課程ガイダンスで履修の詳細について説明を行いますので、履修希望者は必ず出席してください。正式には２年次春学期の定められた期間中に課程登録費の納入及び個人票、その他必要書類の提出により、課程の登録を行ってください。登録者には『教職課程履修のてびき』と『履修カルテ』をお渡しします。

課程登録後は、教職課程専任教員によるクラス担任制で指導を行います。個別な教職に関する相談や質問は各クラス担当教員へメールで連絡を行い、オフィスアワーに教員オフィスを訪問してください。

教職課程に関係する事務手続きは教職センター事務室で行っています。留学・休学・教職課程の辞退を希望する場合、進行中の手続きを確実に停止させる必要があるため、必ず事前に教職センター事務室で教職課程に関する履修相談を受け、必要な手続きを行ってください。

② 『履修カルテ』について

『履修カルテ』とは、教職課程の学修や活動について各自が記録するものです。教職課程登録時より記入を開始し、４年次に「教職実践演習」を履修するための基礎データとして使用されます。この『履修カルテ』を作成しない者は「教職実践演習」を履修することができません。また、４年次まで使用するので、提出・返却については教職センター事務室からの連絡をよく確認し、各自で責任をもって大切に保管してください。

③ 教職課程の履修単位の取り扱いについて

教職課程の修得単位は、すべて卒業要件単位に含まれます。また、各学期の履修の上限単位数にも含まれます。抽選科目や教育実習関連の科目の履修については単位数や履修方法に注意して履修登録を行ってください。

④ 各種説明会・掲示連絡・履修相談について

オリエンテーション期間中に教職課程オリエンテーションを行います。学年ごとに事務手続き等の説明を行うので、必ず出席してください。教育実習、介護等体験、教員免許状大学一括申請については別途説明会を開催し、詳細な説明を行います。

教職課程に関する連絡は e-Campus 掲示板【資格教職】で行います。見落とした場合、履修や実習、免許状取得に支障をきたすことがあります。 連絡を受けたら迅速に対応してください。

履修や事務手続きについての相談は教職センター事務室まで十分な時間の余裕をもって問い合わせてください。（原則電話による相談は受け付けていません）。

⑤ 教職指導室・教職演習教室の利用について

教職指導室は教職に関する図書の貸出しや資料の閲覧、自習などに利用できます。教育関係の就職情報や教員採用試験に関する情報も揃えています。教職演習教室では模擬授業や板書の練習を行うことができます。積極的に活用してください。

⑥ 開講キャンパスについて

教職課程に関する科目は町田キャンパスで開講されます。（「音楽」「美術」の「教科及び教科の指導法に関する科目」を除く。）

４．教職課程における最低修得単位数

教育職員免許法施行規則に定められた教職課程の最低修得単位数は第１表に示すとおりです。

第１表　教職課程において修得することを必要とする最低修得単位数

	教科及び教職に関する科目						施行規則第６６条の６に定める科目
施行規則に定める科目区分等	教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目	合計	
中学校１種	28	10	10	7	4	59	8
高等学校１種	24	10	8	5	12	59	8

第２表　桜美林大学教職課程　免許種・教科ごと最低修得単位数

開設学群	施行規則に定める科目区分等／教科・校種		教科及び教職に関する科目						施行規則第６６条の６に定める科目
			教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育実践に関する科目	大学が独自に設定する科目	合計	
リベラルアーツ学群	国語	中１	32	12	10	7	1	62	8
		高１	30	12	8	5	4	59	8
	社会	中１	34	12	10	7	1	64	8
	地理歴史	高１	24	12	8	5	10	59	8
	公民	高１	24	12	8	5	10	59	8
	数学	中１	30	12	10	7	1	60	8
		高１	30	12	8	5	4	59	8
	理科	中１	40	12	10	7	1	70	8
		高１	40	12	8	5	0	65	8
	情報	高１	28	12	8	5	6	59	8
	英語	中１	34	12	10	7	1	64	8
		高１	34	12	8	5	0	59	8
	中国語	中１	32	12	10	7	1	62	8
		高１	32	12	8	5	2	59	8
芸術文化学群	音楽	中１	38	12	10	7	1	68	8
		高１	38	12	8	5	0	63	8
	美術	中１	30	12	10	7	1	60	8
		高１	28	12	8	5	6	59	8
健康福祉学群	保健体育	中１	32	12	10	7	1	62	8
		高１	32	12	8	5	2	59	8

５．教職課程の履修方法

本学における教職課程の免許状取得に必要な「教科及び教職に関する科目」と履修方法は第３表に示すとおりです。

第３表　「教科及び教職に関する科目」開講科目一覧

第１欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項	本学における授業科目	単位	履修方法	履修年次	備考
第２欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	授業科目および必要単位数は各教科【1】～【12】を参照。			1～4	
		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				2～3	
第３欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	必修	1	
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職入門	2	必修	1	
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育制度論	2	必修	2	
			教育関係法規※	2		2	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学※	2	必修	2	
		特別の支援を必要する幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育※	2	必修	2	
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2	必修	2	
第４欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育論	2	中１種必修	2	
		総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	必修	2	
		特別活動の指導法					
		教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法論	2	必修	2	
		生徒指導の理論及び方法	生徒指導論（生徒理解と教育相談）	2	必修	2	
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					
		進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導論	2	必修	2	
第５欄	教育実践に関する科目	教育実習	教育実習事前・事後指導※	1	必修	3	
			教育実習Ａ※	2	中１種必修	4	
			教育実習Ｂ※	2	必修	4	
		教職実践演習	教職実践演習（中・高）※	2	必修	4	先修条件「教育実習Ｂ」
第６欄	大学が独自に設定する科目		授業科目及び単位数はP. 232の【13】を参照。			2～3	

※教職課程登録者のみ履修可能です。

【1】「国語」の教科及び教科の指導法に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中学校１種免許状「国語」は、科目区分『国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）』『国文学（国文学史を含む。）』『漢文学』『書道（書写を中心とする。）』『各教科の指導法』より、必修、選択必修科目を含め、32単位以上を修得する。

高等学校１種免許状「国語」は、科目区分『国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）』『国文学（国文学史を含む。）』『漢文学』『各教科の指導法』より、必修科目及び選択必修科目を含め、30単位以上を修得する。

教科に関する専門的事項	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の「専攻科目と諸注意」を参照
国語学 （音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学概論	2	○
	日本語の文字・表記	2	1科目選択必修
	日本語の表現	4	
	日本語の語彙・意味	4	
	日本語の音声	2	
	日本語の文法	4	
	日本語史	2	
	言語表現A	2	1科目選択必修
	言語表現B	2	
国文学 （国文学史を含む。）	日本文学史A	4	1科目選択必修
	日本文学史B	4	
	古代文学講読	2	1科目選択必修
	平安文学講読	2	
	中世文学講読	2	
	江戸文学講読	2	
	近代文学講読	2	
	平安文学の世界	4	1科目選択必修
	中世文学の世界	4	
	江戸文学の世界	4	
	近代文学の世界	4	
	現代文学の世界	4	
	児童文学研究	2	
漢文学	中国文言文講読	2	○
	中国古典文学研究	4	1科目選択必修
	中国古代思想研究	4	
	中国思想史	4	
書道（書写を中心とする。）※	書写	2	○
	書道研究Ⅰ	2	
	書道研究Ⅱ	2	

※中学校１種のみ

各教科の指導法	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中等国語科教育法Ⅰ	2	○
	中等国語科教育法Ⅱ	2	○（中等国語科教育法Ⅰ）
	中等国語科教育法Ⅲ	2	○（中等国語科教育法Ⅱ）
	中等国語科教育法Ⅳ	2	○（中等国語科教育法Ⅲ）

【2】「社会」の教科及び教科の指導法に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中学校１種免許状「社会」は、科目区分『日本史・外国史』『地理学（地誌を含む。）』『「法律学、政治学」』『「社会学、経済学」』『「哲学、倫理学、宗教学」』『各教科の指導法』より、必修科目及び選択必修科目を含め、34単位以上を修得する。

教科に関する専門的事項	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の「専攻科目と諸注意」を参照	備考※
日本史・外国史	日本史概論	4	○	地歴
	日本の歴史Ⅰ	4		地歴
	日本の歴史Ⅱ	4		地歴
	世界史概論	4	○	地歴
	国際関係史Ⅰ	4		地歴
	国際関係史Ⅱ	4		地歴
	アメリカの歴史	4		地歴
	アジアの歴史Ⅰ	4		地歴
	アジアの歴史Ⅱ	4		地歴
地理学（地誌を含む。）	地理学概論	4	○	地歴
	文化地理学	4		地歴
	自然地理学概論	4		地歴
	地球規模環境論Ⅰ	2		地歴
	地球規模環境論Ⅱ	2		地歴
	地誌学概論	2	○	地歴
	アジア研究概論	4		地歴
	アメリカ研究概論	4		地歴
「法律学、政治学」	政治学概論	4	1科目選択必修	公民
	法律学概論（国際法を含む）	4		公民
	国際法	4		公民
	国際協力法	4		公民
	国際政治論	4		公民
	比較政治学	4		公民
	国際機構論	4		公民
	平和論	4		公民
「社会学、経済学」	経済学概論	4	1科目選択必修	公民
	社会学概論	4		公民
	比較社会学	4		公民
	国際経済論	4		公民
	経済開発論	4		公民
「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論	4	1科目選択必修	公民
	倫理学概論	4		公民
	宗教学概論	4		公民

※備考欄　地歴：高等学校１種「地理歴史」　公民：高等学校１種「公民」の教科に関する専門的事項の科目

各教科の指導法	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2	○
	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2	○（中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ）
	中等社会科・公民科教育法Ⅰ	2	○
	中等社会科・公民科教育法Ⅱ	2	○（中等社会科・公民科教育法Ⅰ）

【3】「地理歴史」の教科及び教科の指導法に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

高等学校１種免許状「地理歴史」は、科目区分『日本史』『外国史』『人文地理学・自然地理学』『地誌』『各教科の指導法』より、必修科目を含め、24単位以上を修得する。

教科に関する専門的事項	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の「専攻科目と諸注意」を参照	備考※
日本史	日本史概論	4	○	社会
	日本の歴史Ⅰ	4		社会
	日本の歴史Ⅱ	4		社会
外国史	世界史概論	4	○	社会
	国際関係史Ⅰ	4		社会
	国際関係史Ⅱ	4		社会
	アメリカの歴史	4		社会
	アジアの歴史Ⅰ	4		社会
	アジアの歴史Ⅱ	4		社会
人文地理学・自然地理学	地理学概論	4	○	社会
	文化地理学	4		社会
	自然地理学概論	4		社会
	地球規模環境論Ⅰ	2		社会
	地球規模環境論Ⅱ	2		社会
地誌	地誌学概論	2	○	社会
	アジア研究概論	4		社会
	アメリカ研究概論	4		社会

※備考欄　社会：中学校１種「社会」の教科に関する専門的事項の科目

各教科の指導法	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	2	○
	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	2	○（中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ）

【4】「公民」の教科及び教科の指導法に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

高等学校１種免許状「公民」は、科目区分『「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」』『「社会学、経済学（国際経済を含む。）」』『「哲学、倫理学、宗教学、心理学」』『各教科の指導法』より、必修科目及び選択必修科目を含め、24単位以上を修得する。

教科に関する専門的事項	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の「専攻科目と諸注意」を参照	備考※
「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	政治学概論	4	○	社会
	法律学概論（国際法を含む）	4		社会
	国際法	4		社会
	国際協力法	4		社会
	国際政治論	4		社会
	比較政治学	4		社会
	国際機構論	4		社会
	平和論	4		社会
「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	経済学概論	4	○	社会
	社会学概論	4		社会
	比較社会学	4		社会
	国際経済論	4		社会
	経済開発論	4		社会
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学概論	4	１科目選択必修	社会
	倫理学概論	4		社会
	宗教学概論	4		社会
	心理学概論	4		

※備考欄　社会：中学校１種「社会」の教科に関する専門的事項の科目

各教科の指導法	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中等社会科・公民科教育法Ⅰ	2	○
	中等社会科・公民科教育法Ⅱ	2	○（中等社会科・公民科教育法Ⅰ）

【5】「数学」の教科及び教科の指導法に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中学校１種免許状「数学」、高等学校１種免許状「数学」は、科目区分『代数学』『幾何学』『解析学』『「確率論、統計学」』『コンピュータ』『各教科の指導法』より、必修科目及び選択必修科目を含め、30単位以上を修得する。

教科に関する専門的事項	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の「専攻科目と諸注意」を参照
代数学	線形代数学	4	○
	代数学	4	
	数学概論	2	○
幾何学	幾何学	4	○
	離散数学	4	
解析学	微分積分学	4	○
	数学演習	2	1科目選択必修
	解析学	4	
「確率論、統計学」	確率論と統計学	4	○
コンピュータ	コンピュータとデータ解析	2	○

各教科の指導法	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中等数学科教育法Ⅰ	2	○
	中等数学科教育法Ⅱ	2	○（中等数学科教育法Ⅰ）
	中等数学科教育法Ⅲ	2	○（中等数学科教育法Ⅱ）
	中等数学科教育法Ⅳ	2	○（中等数学科教育法Ⅲ）

【6】「理科」の教科及び教科の指導法に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中学校１種・高等学校１種免許状「理科」は、科目区分『物理学』『化学』『生物学』『地学』『物理学実験（コンピュータ活用を含む。）』『化学実験（コンピュータ活用を含む。）』『生物学実験（コンピュータ活用を含む。）』『地学実験（コンピュータ活用を含む。）』『各教科の指導法』より、必修科目及び選択必修科目を含め、40単位以上を修得する。

教科に関する専門的事項		本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の「専攻科目と諸注意」を参照
中学校１種	高等学校１種			
物理学	物理学	物理学概論	2	○
		力学Ⅰ	2	○
		力学Ⅱ	2	
		電磁気学Ⅰ	2	○
		電磁気学Ⅱ	2	
		統計力学	2	
		熱力学	2	
		量子力学Ⅰ	2	
		量子力学Ⅱ	2	
		物理学特論Ⅰ	2	
		物理学特論Ⅱ	2	
化学	化学	化学概論	2	○
		基礎有機化学	2	○
		有機合成化学	2	
		化学熱力学・反応速度	2	
		量子化学	2	
		基礎分析化学	2	
		機器分析化学	2	
		無機化学Ⅰ	2	○
		無機化学Ⅱ	2	
		化学特論	2	
		エネルギー化学	2	
生物学	生物学	生物学概論	2	○
		植物学Ⅰ	2	○
		植物学Ⅱ	2	
		動物学Ⅰ	2	○
		動物学Ⅱ	2	
		生態学Ⅰ	2	
		生態学Ⅱ	2	
		生理学Ⅰ	2	
		生理学Ⅱ	2	
		遺伝と進化	2	
		生化学	2	
		生物学特論（注）	2	

（注）重複履修可の科目であるが、２回目以降の単位数は教職課程の修得単位に含めない。

（次ページに続く）

教科に関する専門的事項		本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の 「専攻科目と諸注意」を参照
中学校１種	高等学校１種			
地学	地学	地学概論	2	○
		地球物理学Ⅰ	2	①「地球物理学Ⅰ」又は「地質学Ⅰ」から１科目選択必修
		地球物理学Ⅱ	2	
		気象学Ⅰ	2	
		気象学Ⅱ	2	
		天文学Ⅰ	2	②「気象学Ⅰ」又は「天文学Ⅰ」から１科目選択必修
		天文学Ⅱ	2	
		地質学Ⅰ	2	
		海洋学	2	
		古生物学	2	
		地球科学特論（注）	2	
物理学実験（コンピュータ活用を含む。）	「物理学実験（コンピュータ活用を含む。）、化学実験（コンピュータ活用を含む。）、生物学実験（コンピュータ活用を含む。）、地学実験（コンピュータ活用を含む。）」	物理学実験Ⅰ	2	○
		物理学実験Ⅱ	2	
化学実験（コンピュータ活用を含む。）		化学実験Ⅰ	2	○
		化学実験Ⅱ	2	
生物学実験（コンピュータ活用を含む。）		生物学実験Ⅰ	2	○
		生物学実験Ⅱ	2	
地学実験（コンピュータ活用を含む。）		地学実験Ⅰ	2	○
		地学実験Ⅱ	2	

（注）重複履修可の科目であるが、２回目以降の単位数は教職課程の修得単位に含めない。

各教科の指導法	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中等理科教育法Ⅰ	2	○
	中等理科教育法Ⅱ	2	○（中等理科教育法Ⅰ）
	中等理科教育法Ⅲ	2	○（中等理科教育法Ⅱ）
	中等理科教育法Ⅳ	2	○（中等理科教育法Ⅲ）

【7】「情報」の教科及び教科の指導法に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

高等学校１種免許状「情報」は、科目区分『情報社会・情報倫理』『コンピュータ・情報処理（実習を含む。）』『情報システム（実習を含む。）』『情報通信ネットワーク（実習を含む。）』『マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）』『情報と職業』『各教科の指導法』より、必修科目を含め、28単位以上を修得する。

教科に関する専門的事項	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の 「専攻科目と諸注意」を参照
情報社会・情報倫理	情報と社会	2	○
	情報と倫理	2	○
コンピュータ・情報処理 （実習を含む。）	ソフトウェア概論	4	○
	情報デザイン論	2	
	プログラミングⅠ	2	○
	プログラミングⅡ	2	
	Web ページプログラミング	2	
	知識表現とプログラミング	2	
情報システム （実習を含む。）	情報システム論	4	○
	応用表計算	2	○
	システム設計論	4	
	ヒューマンコンピュータインターフェイス	4	
	情報分析論	4	
	データベースⅠ	4	
	データベースⅡ	4	
情報通信ネットワーク （実習を含む。）	情報ネットワーク	2	○
	情報セキュリティ論	2	
	情報ネットワーク演習	2	
マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）	マルチメディア表現Ⅰ	4	○
	マルチメディア表現Ⅱ	4	
情報と職業	情報と職業	2	○

各教科の指導法	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中等情報科教育法Ⅰ	2	○
	中等情報科教育法Ⅱ	2	○（中等情報科教育法Ⅰ）

【8】「英語」の教科及び教科の指導法に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中学校１種免許状「英語」、高等学校１種免許状「英語」は、科目区分『英語学』『英語文学』『英語コミュニケーション』『異文化理解』『各教科の指導法』より、必修科目及び選択必修科目を含め、34単位以上を修得したうえで、さらに下記のとおり８単位を修得する。

①「英語エレクティブⅡ－中級」「英語エレクティブⅢ－上級」「英語エレクティブⅣ－特設」「英語エレクティブⅤ－特設」から合計４単位修得する。ただし、そのうち１単位以上を「英語エレクティブⅢ－上級」以上のレベルから修得すること。（この４単位は、リベラルアーツ学群のＧＯプログラム参加による「外国語」８単位免除によって替えることはできない。

②「英語総合演習Ⅰ」「英語総合演習Ⅱ」（リベラルアーツ学群専攻科目）をそれぞれ２単位以上履修すること。

また上記①②は教職課程の修得単位に含めない。

教科に関する専門的事項	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の 「専攻科目と諸注意」を参照
英語学	英語学入門	4	○
	英語の音声	4	○
	英語の歴史	4	
	英語の構造	4	
	英語の意味	4	
	応用言語学	4	
	英文法Ⅰ	2	
	英文法Ⅱ	2	
	第二言語習得法	4	
	英語学講読	4	
英語文学	英米文学入門	4	○
	英米小説（注）	4	
	英米詩	4	
	英米児童文学	4	
	テーマで読む英米文学（注）	4	
英語コミュニケーション	Oral Communication Skills	4	○
	Written Communication Skills	4	○
	English for Academic Purposes	2	○
	翻訳（英→日）	4	
	翻訳（日→英）	4	
	通訳	4	
異文化理解	イギリスの文化	4	1科目選択必修
	英米文化講読	4	
	アメリカの文化	4	

（注）重複履修可の科目であるが、２回目以降の単位数は教職課程の修得単位に含めない。

各教科の指導法	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中等英語科教育法Ⅰ	2	○
	中等英語科教育法Ⅱ	2	○（中等英語科教育法Ⅰ）
	中等英語科教育法Ⅲ	2	○（中等英語科教育法Ⅱ）
	中等英語科教育法Ⅳ	2	○（中等英語科教育法Ⅲ）

【9】「中国語」の教科及び教科の指導法に関する科目（リベラルアーツ学群の課程）

中学校１種免許状「中国語」、高等学校１種免許状「中国語」は、科目区分『中国語学』『中国文学』『中国語コミュニケーション』『異文化理解』『各教科の指導法』より、必修科目及び選択必修科目を含め、32単位以上を修得する。

教科に関する専門的事項	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の 「専攻科目と諸注意」を参照
中国語学	中国語学概論	2	○
	中国語音声学	4	○
	中国語文法研究	4	○
	日中対照言語研究	4	
中国文学	中国文学概論	4	○
	中国古典文学史	4	
	中国近現代文学史	4	
中国語コミュニケーション	中国語リスニング	2	1科目以上必修
	中国語基礎トレーニングⅠ	2	
	中国語基礎トレーニングⅡ	2	
	中国語応用トレーニングⅠ	2	1科目以上必修
	中国語応用トレーニングⅡ	2	
	中国語講読	2	1科目以上必修
	中国語作文	2	
	時事中国語	2	
	日中翻訳技法	2	
	日中通訳技法	2	
異文化理解	中国芸術研究	4	1科目以上必修
	日中比較文化	4	
	中国文化概論	4	

各教科の指導法	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中等中国語科教育法Ⅰ	2	○
	中等中国語科教育法Ⅱ	2	○（中等中国語科教育法Ⅰ）
	中等中国語科教育法Ⅲ	2	○（中等中国語科教育法Ⅱ）
	中等中国語科教育法Ⅳ	2	○（中等中国語科教育法Ⅲ）

【10】「音楽」の教科及び教科の指導法に関する科目（芸術文化学群の課程）

中学校１種免許状「音楽」、高等学校１種免許状「音楽」は科目区分『ソルフェージュ』『声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）』『器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）』『指揮法』『音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）』『各教科の指導法』より、必修科目及び選択必修科目を含め38単位以上を修得する。

教科に関する専門的事項	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の「専攻科目と諸注意」を参照
ソルフェージュ	ソルフェージュⅠ	1	○
	ソルフェージュⅡ	1	○
声楽 （合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）	声楽Ⅰ	2	２単位以上必修
	声楽（副科）Ⅰ	1	
	声楽（副科）Ⅱ	1	
	合唱Ａ（注）	1	○
	合唱Ｂ（注）	1	○
器楽 （合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）	器楽概論	2	○
	管弦楽概論	2	
	器楽実技Ⅰ	2	
	器楽実技（副科）Ⅰ～Ⅷ	各1	「尺八」「箏」「三味線・地歌」から２単位以上必修
	ピアノⅠ	2	４単位以上必修
	ピアノⅡ	2	
	ピアノ（副科）Ⅰ～Ⅳ	各1	
	管楽合奏Ⅰ	1	
	弦楽合奏Ⅰ	1	
	管弦楽合奏Ⅰ	2	
	伴奏法Ⅰ	2	
	伴奏法Ⅱ	2	
指揮法	指揮法	2	○
音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む。）	音楽学Ａ	2	○
	音楽学Ｂ	2	○
	西洋音楽史Ａ	2	○
	西洋音楽史Ｂ	2	○
	東洋音楽史	2	○
	民族音楽研究	2	○
	宗教音楽史Ａ	2	
	宗教音楽史Ｂ	2	
	和声学Ⅰ	2	○
	現代の作曲技法	2	

（注）重複履修可の科目であるが、２回目以降の単位数は教職課程の修得単位に含めない。

各教科の指導法	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中等音楽科教育法Ⅰ	2	○
	中等音楽科教育法Ⅱ	2	○（中等音楽科教育法Ⅰ）
	中等音楽科教育法Ⅲ	2	○（中等音楽科教育法Ⅱ）
	中等音楽科教育法Ⅳ	2	○（中等音楽科教育法Ⅲ）

【11】「美術」の教科及び教科の指導法に関する科目（芸術文化学群の課程）

中学校１種免許状「美術」は、科目区分『絵画（映像メディア表現を含む。)』『彫刻』『デザイン（映像メディア表現を含む。)』『工芸』『美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)』『各教科の指導法』より、必修科目及び選択必修科目を含め30単位以上を修得する。

高等学校１種免許状「美術」は、科目区分『絵画（映像メディア表現を含む。)』『彫刻』『デザイン（映像メディア表現を含む。)』『美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。)』『各教科の指導法』より、必修科目及び選択必修科目を含め28単位以上を修得する。

教科に関する専門的事項	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の 「専攻科目と諸注意」を参照
絵画 （映像メディア表現を含む。）	美術演習Ａ（各種）	2	２単位以上必修
	美術演習Ｂ（各種）	2	
	造形実技入門Ｂ（各種）	2	
	コンピュータ造形Ａ	4	
	コンピュータ造形Ｂ	4	
	コンピュータ造形Ｃ（各種）	4	○
	フォトアートⅠ	2	
	フォトアートⅡ	2	
彫刻	美術演習Ｄ（各種）	2	○
デザイン （映像メディア表現を含む。）	デザイン論Ａ	2	○
	デザイン論Ｂ	2	○
	造形実技入門Ａ	2	
	造形実技入門Ｃ（各種）	2	
	デザイン演習Ａ（各種）	4	
	デザイン演習Ｂ	4	
	デザイン演習Ｃ（各種）	4	
	デザイン演習Ｄ（各種）	4	
	デザイン演習Ｅ（各種）	4	
	デザイン演習Ｇ（各種）	4	
工芸※	工芸概論	2	○
	美術演習Ｃ（各種）	2	
	テキスタイル演習Ａ（各種）	2	
	テキスタイル演習Ｂ（各種）	2	
美術理論・美術史 （鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）	現代美術論Ａ	2	１科目選択必修
	現代美術論Ｂ	2	
	色彩構成演習（各種）	1	
	西洋美術史Ａ	2	○
	西洋美術史Ｂ	2	
	日本美術史Ａ	2	１科目選択必修
	日本美術史Ｂ	2	
	東洋美術史Ａ	2	１科目選択必修
	東洋美術史Ｂ	2	

※中学校１種のみ

（　　）名の付く科目は、１種類のみ教職課程の修得単位とする。

各教科の指導法	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中等美術科教育法Ⅰ	2	○
	中等美術科教育法Ⅱ	2	○（中等美術科教育法Ⅰ）
	中等美術科教育法Ⅲ	2	○（中等美術科教育法Ⅱ）
	中等美術科教育法Ⅳ	2	○（中等美術科教育法Ⅲ）

【12】「保健体育」の教科及び教科の指導法に関する科目（健康福祉学群の課程）

中学校１種免許状「保健体育」、高等学校１種免許状「保健体育」は、科目区分『体育実技』『「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法等を含む。）』『生理学（運動生理学を含む。）』『衛生学・公衆衛生学』『学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）』『各教科の指導法』より、必修科目を含め、32単位以上を修得する。

教科に関する専門的事項	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件は各学群の 「専攻科目と諸注意」を参照
体育実技	スポーツ（ウィークリースポーツ）	1	別表のとおり 指定種目12単位以上選択必修
	スポーツ（シーズンスポーツ）	1	
「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）	スポーツ心理学	4	
	スポーツ社会学	2	
	スポーツ経営学	2	
	運動学	2	○
	スポーツコーチ学	4	
	スポーツ・体育史	2	○
	スポーツ倫理学	2	
	体育・運動の観察法	2	
生理学 （運動生理学を含む。）	生理学	2	○
	栄養学	2	
	スポーツ栄養学	4	
	解剖学	2	
	発育発達学	2	
	スポーツ生理学	2	
	体力測定評価演習	2	
	遊び・運動と発育・発達	2	
衛生学・公衆衛生学	衛生学	2	○
	公衆衛生学	2	○
学校保健 （小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	学校保健学	2	○
	健康心理カウンセリング概論	2	
	学校カウンセリング論	2	
	救急処置法	2	
	ストレスマネジメント	2	
	ヘルスカウンセリング	4	
	スポーツ・体育と法	2	

各教科の指導法	本学における授業科目	単位	履修方法（○は必修） 先修条件
各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	中等保健体育科教育法Ⅰ	2	○
	中等保健体育科教育法Ⅱ	2	○（中等保健体育科教育法Ⅰ）
	中等保健体育科教育法Ⅲ	2	○（中等保健体育科教育法Ⅱ）
	中等保健体育科教育法Ⅳ	2	○（中等保健体育科教育法Ⅲ）

《別表》

スポーツ（ウィークリースポーツ、シーズンスポーツ）指定種目

種　　目	履修方法（○は必修）
体つくり運動Ⅰ	○
陸上競技指導法	○
器械体操指導法	○
水泳指導法	○
サッカー指導法	○
ハンドボールⅠ	○
バスケットボール指導法	○
バレーボール指導法	○
ソフトボール指導法	○
バドミントン指導法	1単位選択必修
テニス指導法	
柔道指導法	1単位選択必修
剣道指導法	
創作ダンスⅠ	1単位選択必修
リズムダンスⅠ	

＊各種目「指導法」を履修する際は、事前に各種目「Ⅰ」を修得済みであることが望ましい。

【13】「大学が独自に設定する科目」の履修方法

「大学が独自に設定する科目」に必要な単位数は第４表－１に示すとおりです。

P. ~~217~~第３表の~~第２欄~~「教科及び教科の指導法に関する科目」、~~第３欄~~「教育の基礎的理解に関する科目」、~~第４欄~~「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、~~第５欄~~「教育実践に関する科目」の最低修得単位数を超えた単位数と第４表－２の授業科目（選択科目）の単位数を充てることができます。

第４表－１

大学が独自に設定する科目の最低修得単位数	中学校１種	４単位
	高等学校１種	12単位

第４表－２

科　　目	授業科目	単位数	備　　考
大学が独自に設定する科目	介護等体験事前・事後指導	1	中学校１種必修 但し、すでに介護等体験終了者を除く。
	学校経営と学校図書館	2	学校図書館司書教諭講習の開講科目 ※ P. 239の（2）を参照
	学校図書館メディアの構成	2	
	学習指導と学校図書館	2	
	読書と豊かな人間性	2	
	情報メディアの活用	2	

６.「教育職員免許法施行規則66条の６に定める科目」の履修方法

「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」からそれぞれ２単位以上を修得します。できる限り１年次に修得することが望ましい。

第５表

科　目	授　業　科　目	単位	履　修　方　法	
日本国憲法	日本国憲法	2	必修	リベラルアーツ学群 専攻科目
体育	健康とスポーツ	2	２単位必修	健康福祉学群 専攻科目
	スポーツ（ウィークリースポーツ）	各１		
	スポーツ（シーズンスポーツ）	各１		
	健康科学	2		芸術文化学群 学群共通科目
	スポーツ	各１		
外国語コミュニケーション	英語コアⅠA	2	２単位必修	コア科目
	英語コアⅠB	2		
	英語コアⅡA	2		
	英語コアⅡB	2		
	英語エレクティブⅠ－初級	各１		外国語科目
	英語エレクティブⅡ－中級	各１		
	英語エレクティブⅢ－上級	各１		
	英語エレクティブⅣ－特設	各１		
	英語エレクティブⅤ－特設	各２		
情報機器の操作	コンピュータリテラシーⅠ	2	２単位必修	コア科目
	コンピュータリテラシーⅡ	2		基盤教育科目

７.「介護等体験」「教育実習」について

◎ 「介護等体験事前・事後指導」の履修と介護等体験について

「小学校及び中学校の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」の制定に伴い、中学校教諭の免許状を取得する場合に、社会福祉施設等においての介護等体験が義務づけられました。本学教職課程においては「大学が独自に設定する科目」に中学校免許状取得の必修科目として開設します。

本学における介護等体験の流れ

⑴ 「介護等体験事前・事後指導」の履修

中学校１種免許状の取得を希望する学生は、３年次春学期に「介護等体験事前・事後指導」（通年授業・指定クラス）の履修登録を行ってください。履修単位（１単位）は秋学期に加算されます。
通常の授業の形式と異なるため、日程はシラバス等にてお知らせします。

⑵ 介護等体験の受け入れ先と体験日数

原則として、社会福祉施設等５日間、特別支援学校２日間、計７日間実施します。

⑶ 介護等体験の申し込み手続きと介護等体験

３年次春学期のオリエンテーション期間に説明会を行います。各自、必要書類を期限までに必ず提出してください。大学が一括して申し込み手続きを行いますので、個人での申し込みはできません。また申し込みを行った後には、原則として、途中で取り止めることができないので、十分に検討して申し込み手続きをしてください。体験先の施設・学校と体験日は５月以降に決定し次第、掲示でお知らせします。体験先の資料等を教職センター事務室で受け取ってください。なお、施設・体験日は原則として変更することはできません。
体験先により必要書類（細菌検査等）が異なり、事前に準備が必要です。また、体験当日の遅刻や無断欠席の場合は体験が中止となることもあります。

⑷ 介護等体験証明書

介護等体験の終了後、施設長及び学校長より「介護等体験証明書」に施設名・住所、体験内容、施設長名等の記載と証明印を頂き、教職センター事務室に提出してください。中学校教諭１種免許状申請の際に必要な書類となります。

◎ 「教育実習事前・事後指導」「教育実習Ａ」「教育実習Ｂ」の履修と教育実習について

教育実習は教職課程の科目として履修するものであり、学外の実習校において、実地に授業その他の教育活動に参加して行われるものです。本学が責任を持ち、受け入れ側の実習校との緊密な連絡のもとに実施するものですから、必ず所定の手続きを踏み、指導事項を遵守しなければなりません。教育実習中の就職活動や部活動は一切行うことはできません。

本学における教育実習の流れ

⑴ 教育実習校の内諾について

教育実習前年度の12月までに、教育実習予定校から教育実習の内諾を得てください。学校によっては面接を行う場合や先着順で受付を締切ってしまう場合もあります。各自責任を持って、実習予定校と連絡を取ってください。実習校を訪問する際には服装や言動に充分注意してください。内諾が得られなければ、教育実習はできません。また、実習校によっては教育委員会の手続きが必要となる場合もあります。すみやかに教職センター事務室まで連絡を取ってください。

(2)「教育実習事前・事後指導」の履修

教育実習を予定する年度の前年度秋学期に「教育実習事前・事後指導」（通年授業・指定クラス）の履修登録を行います。履修単位数（１単位）は春学期に加算されます。通常の授業の形式と異なる為日程はシラバス等にてお知らせします。

(3) 教育実習派遣の決定

「教育実習事前・事後指導」の履修者は教育実習派遣審査の対象となります。派遣審査は実習校種・教科の観点で行われます。教育実習前年度までの単位修得状況が下記派遣条件を満たしているかどうかを審査します。審査の結果が不合格の場合は教育実習を行うことはできません。派遣決定者は3月後半に掲示にて発表します。

【派遣審査の目的】

教育実習は中学校・高等学校の協力のもとに行われるものであり、学生は、現場の教員の指導を受けながら、生徒の学習指導や学校運営に関わる業務を行う。従って、教育実習は学生自身の学びで完結するものではなく、生徒や学校との関わりにおいて教育者としての責任が伴う学習活動である。実習生として派遣される学生はこうした責任を伴う教育実習を全うできる学力や資質を備えていることが必須である。この派遣の条件はそうした学力や資質を確認する基準として設けられている。派遣の条件を満たすよう履修・学修計画を立てるとともに、充実した教育実習を行うことができるようさらに高い目標を持って取り組んでほしい。

【派遣条件】

(1) 本学からの教育実習派遣は以下のすべての条件を教育実習予定の前年度までに満たしていることを基準とする。
　① 『教育の基礎的理解に関する科目』及び『道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目』の必修科目すべての単位修得済みであること。
　② 「教科に関する専門的事項」は、必修科目を含んだ20単位以上を単位修得済みであること。ただし、各免許教科で特に必要とされる科目についての細則は、別途定めることとする。
　③ 教育実習予定科目にかかわる必修科目である「教科教育法」を、すべて単位修得済みであること。
　④ 必修科目である「66条の6に定める科目」（「日本国憲法」「外国語コミュニケーション」「体育」「情報機器の操作」各2単位）を、すべて単位修得済みであること。
　⑤ 卒業に必要な単位の修得が100単位以上であること。
(2) ３年次終了段階で通算 GPA が3.0未満の学生は派遣審査において保留となり、派遣できない場合もある。
(3) 停学、訓告などの懲戒処分を受けた者又は法律違反などの触法的行為を行った者は原則として教育実習に派遣しない。
(4) 教育実習が秋学期に予定されている場合も、同一の基準による。

細則「理科」

(1) ②に関わる「理科」の細則については、以下の通りとする。
講義科目に関して、概論科目に加え、免許状取得のための必修科目「物理・化学・生物・地学」の４科目区分からそれぞれ２単位以上を単位修得済みであること。実験科目に関して、Ｉを付した科目から６単位以上を単位修得済みであること。また、４領域のうち概論科目と実験科目とを含め、少なくとも一つの領域で８単位以上を単位修得済みであること。
上記が満たされていない場合、「教科に関する専門的事項」での修得単位数が必修科目を含んだ24単位以上を単位修得済みであっても、教育実習派遣条件を満たしていないと判断する。

⑷「教育実習 A」「教育実習 B」の履修方法について

取得希望免許状に応じて下記の科目を４年次春学期に履修します。授業は指定クラスとなるので、該当するクラスで履修登録を行ってください。

免許状種類	科目名称	単位数	実習期間
中学校１種のみ	「教育実習 A」	2	３週間以上
	「教育実習 B」	2	
中学校１種及び高等学校１種	「教育実習 A」	2	３週間以上
	「教育実習 B」	2	
高等学校１種のみ	「教育実習 B」	2	２週間以上

教育実習の辞退について

教育実習予定校より内諾をいただいた後に教育実習を行うことが不可能となった場合は、すみやかに教職センター事務室に連絡をし、その後の指示を受けてください。教育実習の直前に辞退することは、事前に受け入れ準備を行なっていただいた実習校へ多大な迷惑をかけることになり、大学の責任を問われる結果となります。４月以降に実習辞退を行うことがないよう、健康管理を十分に行い、将来の進路についても方針を定めておくことが必要です。

８．教育職員免許状の申請

免許状は、教育職員免許法第５条第７項により、各都道府県教育委員会が授与します。卒業年度の９月以降に申請手続きについての学内説明会を行いますので申請希望者（課程修了見込みの学生）は申し込み書を提出してください。大学が一括して東京都教育委員会へ免許状授与の申請を行います（大学一括申請)。日程等の詳細は掲示にてお知らせします。

なお、一括申請に該当しない場合は個人での申請となります（個人申請)。個人申請は住所地の教育委員会への申請となりますので、各教育委員会へ必要書類等を確認してください。その際、必要となる本学教職課程における修得期間、修得単位に関する証明書（「学力に関する証明書」）を発行いたしますので、教職センター事務室で申請してください。詳細については教職センター事務室まで問い合わせてください。

９．各種証明書

教職センター事務室で発行する証明書は以下の通りです。（有料）

・教育職員免許状取得見込証明書（１通200円）

・「学力に関する証明書」（１通300円）

※発行には日数を要するので、必要と思われる場合には早めに申し込んでください。

10. 教職課程の履修と事務手続きの日程

※内容及び予定は事情により変更になる場合があります。

学期	1年次	2年次	3年次	4年次
春学期		4月 **教職課程オリエンテーション** 課程登録費の納入 個人票の提出（課程登録） **各教科の指導法の履修開始** **「履修カルテ」提出**	4月 **教職課程オリエンテーション** 個人票の提出（履修継続の意志確認） **「履修カルテ」提出** **教育実習予定校へ内諾申請（4月～12月）** **介護等体験事務説明会** **「介護等体験事前・事後指導」** **春秋通年の履修** **介護等体験開始（6月～3月）**	4月 **教職課程オリエンテーション** 個人票の提出（履修継続の意志確認） **教育実習直前事務説明会** **「教育実習A」・「教育実習B」の履修** **教育実習開始（5月～12月）**
秋学期	9月 **教職課程ガイダンス**	9月 **教職課程オリエンテーション** **「履修カルテ」返却**	9月 **「教育実習事前・事後指導」** **秋春通年の履修** 12月 **教育実習校の決定** 1月 **「介護等体験事前・事後指導」（事後指導）授業** 3月 **教育実習派遣審査** **教育実習派遣者の決定**	9月 **履修説明会（教職課程の単位修得状況の確認）** **「教職実践演習（中・高）」の履修** **「履修カルテ」返却** 12月 **大学一括申請宣誓書捺印** **「学校図書館司書教諭講習修了書交付」申請** 3月 **免許状授与**
教職課程履修のめやす	◎「教科及び教職に関する科目」から下記の科目を履修する。 ＊教職入門 ◎コア科目に加えて下記の科目を履修する。 ＊日本国憲法 健康とスポーツ スポーツ （ウィークリースポーツ） （シーズンスポーツ） 健康科学 スポーツ	◎「教科及び教職に関する科目」から下記の科目のうち5～7科目を履修する。 ＊教職入門 ＊中等教科教育法Ⅰ ＊中等教科教育法Ⅱ ＊教育原理 ＊教育心理学 ＊特別支援教育 ＊教育制度論 ＊教育課程論 道徳教育論 ＊特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 ＊教育方法論 ＊生徒指導論（生徒理解と教育相談） ＊進路指導論 ◎各教科の専門的事項の必修、選択必修科目を中心に履修する。	◎「教科及び教職に関する科目」から下記の科目の履修を完了する。 ＊中等教科教育法Ⅲ ＊中等教科教育法Ⅳ 介護等体験事前・事後指導 ＊教育実習事前・事後指導 ＊教育原理 ＊教育心理学 ＊特別支援教育 ＊教育制度論 ＊教育課程論 道徳教育論 ＊特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 ＊教育方法論 ＊生徒指導論（生徒理解と教育相談） ＊進路指導論 ◎各教科の専門的事項の必修、選択必修科目を中心に派遣審査の基準を満たすように履修する。	◎「教科及び教職に関する科目」から下記の科目を履修する。 教育実習A ＊教育実習B ＊教職実践演習（中・高） ◎「教科及び教職に関する科目」の必要単位数をすべて満たすように履修する。

＊は教職課程の必修科目
下線の科目は当該年次に必修科目

11.「教科及び教職に関する科目」と諸注意

履修年次欄に１とあるのは１年生以上が履修可能、２とあるのは２年生以上が履修可能です。

科目ナンバリングコード	授　業　科　目	授業の方法	単位数	履修年次	備　　考
EDU2300L	教育原理（教職課程）	講義	2	1	
EDU1030Q	教職入門	講義	2	1	
EDU2390L	教育制度論	講義	2	2	
EDU3093Q	教育関係法規	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
PSY2220L	教育心理学（教職課程）	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EDU2261Q	特別支援教育	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EDU2340L	教育課程論	講義	2	2	
EDU3340L	道徳教育論	講義	2	2	
EDU3342L	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	講義	2	2	
EDU3320L	教育方法論	講義	2	2	
EDU3321L	生徒指導論（生徒理解と教育相談）	講義	2	2	
EDU3322L	進路指導論	講義	2	2	
EDU3633Q	教育実習事前・事後指導	実習	1	3	教職課程登録者のみ履修可
EDU4631Q	教育実習Ａ	実習	2	4	教職課程登録者のみ履修可
EDU4632Q	教育実習Ｂ	実習	2	4	教職課程登録者のみ履修可
EDU4430Q	教職実践演習（中・高）	演習	2	4	教職課程登録者のみ履修可
ECS2001Q	中等国語科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2002Q	中等国語科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS3103Q	中等国語科教育法Ⅲ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS3104Q	中等国語科教育法Ⅳ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS2021Q	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2022Q	中等社会科・地理歴史科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2025Q	中等社会科・公民科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2026Q	中等社会科・公民科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2031Q	中等数学科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2032Q	中等数学科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS3133Q	中等数学科教育法Ⅲ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS3134Q	中等数学科教育法Ⅳ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS2041Q	中等理科教育法Ⅰ	講義	2	2	リベラルアーツ学群の教職課程登録者のみ履修可
ECS3042Q	中等理科教育法Ⅱ	講義	2	2	リベラルアーツ学群の教職課程登録者のみ履修可
ECS3143Q	中等理科教育法Ⅲ	講義	2	3	リベラルアーツ学群の教職課程登録者のみ履修可
ECS4144Q	中等理科教育法Ⅳ	講義	2	3	リベラルアーツ学群の教職課程登録者のみ履修可
EOS2041Q	中等情報科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EOS2042Q	中等情報科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2051Q	中等英語科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2052Q	中等英語科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS3153Q	中等英語科教育法Ⅲ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS3154Q	中等英語科教育法Ⅳ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS2081Q	中等中国語科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS2082Q	中等中国語科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
ECS3183Q	中等中国語科教育法Ⅲ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
ECS3184Q	中等中国語科教育法Ⅳ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可

（次のページに続く）

科目ナンバリングコード	授　業　科　目	授業の方法	単位数	履修年次	備　　考
EOS2011Q	中等音楽科教育法Ⅰ	講義	2	2	芸術文化学群音楽専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS2012Q	中等音楽科教育法Ⅱ	講義	2	2	芸術文化学群音楽専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS3111Q	中等音楽科教育法Ⅲ	講義	2	3	芸術文化学群音楽専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS3112Q	中等音楽科教育法Ⅳ	講義	2	3	芸術文化学群音楽専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS2015Q	中等美術科教育法Ⅰ	講義	2	2	芸術文化学群ビジュアル・アーツ専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS2022Q	中等美術科教育法Ⅱ	講義	2	2	芸術文化学群ビジュアル・アーツ専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS3115Q	中等美術科教育法Ⅲ	講義	2	3	芸術文化学群ビジュアル・アーツ専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS3116Q	中等美術科教育法Ⅳ	講義	2	3	芸術文化学群ビジュアル・アーツ専修の教職課程登録者のみ履修可
EOS2021Q	中等保健体育科教育法Ⅰ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EOS2022Q	中等保健体育科教育法Ⅱ	講義	2	2	教職課程登録者のみ履修可
EOS3123Q	中等保健体育科教育法Ⅲ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
EOS3124Q	中等保健体育科教育法Ⅳ	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
EDU2632Q	介護等体験事前・事後指導	実習	1	3	教職課程登録者のみ履修可
EDU3290L	学校経営と学校図書館	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
EDU3220L	学校図書館メディアの構成	講義	2	3	
EDU3221L	学習指導と学校図書館	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
LIS3200L	読書と豊かな人間性	講義	2	3	
LIS3270L	情報メディアの活用	講義	2	3	

２．学校図書館司書教諭（国家資格）

学校図書館司書教諭は、学校図書館の専門的職務にたずさわることを目的とし、「学校図書館法」によって定められたもので、文部科学省令で規定している講習を受けてはじめて与えられる資格です。

⑴　学校図書館司書教諭の資格取得

学校図書館司書教諭講習の受講生は教職課程を必ず履修登録していなければなりません。

また、「学校図書館司書教諭講習規定（文部科学省令）」の定めによって、相当する単位（５科目10単位）を大学で修得しなければなりません。

※教育職員免許状（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）を取得していないと申請できません。

⑵　学校図書館司書教諭の資格を取得するための必修単位

所定の単位は、学校図書館司書教諭講習規程第３条第１項に示されていますが、関連する本学における開講科目は次表の通りです。

≪学校図書館司書教諭講習の開講授業科目≫

科目ナンバリングコード	本学の授業科目名	授業方法	単　位	履修年次	先修条件ほか
EDU3290L	学校経営と学校図書館	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
EDU3220L	学校図書館メディアの構成	講義	2	3	
EDU3221L	学習指導と学校図書館	講義	2	3	教職課程登録者のみ履修可
LIS3200L	読書と豊かな人間性	講義	2	3	
LIS3270L	情報メディアの活用	講義	2	3	

⑶　学校図書館司書教諭の修了書交付申請について

本学の学校図書館司書教諭講習での所定の単位を修得した学生は、講習規定第６条の規定により、教育職員免許状を交付された後（卒業後）に所定の手続きに沿って学校図書館司書教諭講習修了証（以下、「修了証」という）の交付申請を行います。

この修了証の交付を申請する学生は、卒業年度12月に教職センター事務室で申請手続きをしてください（詳細については掲示します）。なお、申請者には卒業後約１年後に、修了証を本学より郵送します。

３．博物館学芸員（国家資格）

１．開設の趣旨

博物館は、近代社会が生んだ最高の文化装置のひとつと言われています。日本はもちろん世界各国において、社会の近代化と国民文化・教育の振興のために、博物館は重要な貢献をしてきました。

博物館はまた、現代社会の中で、市民に開かれた自由な学習の場として、時には非日常的な啓示的体験の場として、いつまでも心に残る魅力的な娯楽の場として、さらには強力な情報メディアとして、多様な姿を現しつつあります。ゆとりある精神的に充実した未来社会の現実は、博物館なしでは考えられないでしょう。

そのような博物館で、調査研究活動や教育活動の中心となって働くのが学芸員です。本学の博物館学芸員課程では、激しく変化しつつある現代社会における博物館の地位と役割をしっかりと見据え、その中でリーダーシップを発揮して新しい博物館活動を推進していけるような、積極的で創造的な学芸員資質の教育を目指しています。

２．履修方法

博物館学芸員に関する科目としては、「博物館法施行規則（文部科学省令）」により定められた必修科目を19単位以上修得することが定められていますが、本学の課程では、次の通りの単位修得が必要です。

⑴　必修科目　９科目19単位

⑵　選択科目　本学独自に指定する５分野の科目から２分野以上にわたり８単位以上

なお、資格取得に必要な所定の科目は、それぞれ開講されるキャンパスで履修する必要があるため、所定の科目が開講されるキャンパスを事前に確認してください。時間割の関係上、４年間でも資格取得が困難な場合があるため、ご注意ください。

⑴　必修科目（リベラルアーツ学群専攻科目）

本学開設授業科目	単位	履修年次	先修条件ほか
生涯学習概論	2	1	
博物館概論	2	1	
博物館教育論	2	1	
博物館経営論	2	2	博物館概論
博物館資料論	2	2	博物館概論
博物館資料保存論	2	2	博物館概論
博物館展示論	2	2	博物館概論
博物館情報・メディア論	2	2	博物館概論
博物館実習	3	3	他の全ての必修科目

◎「博物館実習」（３単位）の履修方法

「博物館実習」を履修するには、博物館学芸員課程の他のすべての必修科目の単位を修得し、課程登録をすることが必要です。課程登録は、実習を希望する前年度の秋学期中に行われる２回のガイダンスに出席して仮登録を行います。その上で、実習年度４月に課程登録費（３万円）を納入し、「博物館実習」の履修登録を行い本登録となります。なお、「博物館実習」（通年授業）の履修単位（３単位）は秋学期に加算されます。

また、本学の「博物館実習」は、学内実習プログラム（A、B群）及び館務実習（C群）を組み合わせたポイント制で履修します。下記A、B、C群から各１ポイント以上、合計７ポイント以上の取得をもって３単位の修得とします。

	実習プログラム		ポイント	履　修　方　法
A群	Ⅰ	博物館実習入門	1	春学期オリエンテーション期間中に２回の集中講義（必修）
	Ⅱ	博物館見学実習	各0.5	学内実習プログラムより選択
B群	Ⅲ	視聴覚教育技術実習	各１	学内実習プログラムより選択
	Ⅳ	調査研究実習	各１	学内実習プログラムより選択
	Ⅴ	博物館資料収集・整理実習	各１	学内実習プログラムより選択
	Ⅵ	博物館教育普及活動実習	各１	学内実習プログラムより選択
	Ⅶ	展示実習	各１	学内実習プログラムより選択
	Ⅷ	バリアフリー実習	各１	学内実習プログラムより選択
C群	Ⅸ	博物館館務実習	１～３	博物館園での委託館務実習（日数によりポイントは異なる）

(2)　選択科目

本学の独自のカリキュラムとして、次のⅠ～Ⅴの５分野のうちから２分野以上にわたり、それぞれの分野から４単位以上、計８単位以上の修得が必要です。充実した専門知識は博物館学芸員として不可欠のものであるため、各分野ともできるだけ多く修得することが望まれます。

分　野		授業科目名	単位	履修年次	科目の開講学群	先修条件
Ⅰ	民俗／民族学分野	文化地理学	4	1	リベラルアーツ学群	
		日本民俗学	2	3	リベラルアーツ学群	
		文化人類学	4	1	リベラルアーツ学群	
		宗教人類学	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本の民俗	2	1	リベラルアーツ学群	
Ⅱ	歴史／文化史分野	中国文化概論	4	1	リベラルアーツ学群	
		日本考古学	2	3	リベラルアーツ学群	
		韓国文化論	4	2	リベラルアーツ学群	
		中国文化論	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本の歴史Ⅰ	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本の歴史Ⅱ	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本文化論	4	2	リベラルアーツ学群	
		日本文化論A	2	2	芸術文化学群	
		~~日本文化論B~~	~~2~~	~~2~~	~~芸術文化学群~~	
Ⅲ	美術／美術史分野	アートマネージメント論	2	3	芸術文化学群	
		西洋美術史A	2	1	芸術文化学群	
		西洋美術史B	2	1	芸術文化学群	
		日本美術史A	2	1	芸術文化学群	
		日本美術史B	2	1	芸術文化学群	
		東洋美術史A	2	1	芸術文化学群	
		東洋美術史B	2	1	芸術文化学群	
		現代美術論A	2	3	芸術文化学群	
		現代美術論B	2	3	芸術文化学群	
Ⅳ	生物分野	植物学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	
		植物学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	植物学Ⅰ
		動物学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	
		動物学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	動物学Ⅰ
		生態学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	
		生態学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	生態学Ⅰ
		生理学Ⅰ	2	3	リベラルアーツ学群	
		生理学Ⅱ	2	3	リベラルアーツ学群	生理学Ⅰ
		生化学	2	3	リベラルアーツ学群	
		遺伝と進化	2	3	リベラルアーツ学群	
Ⅴ	地学分野	地球物理学Ⅰ	2	3	リベラルアーツ学群	物理学概論
		地球物理学Ⅱ	2	3	リベラルアーツ学群	地球物理学Ⅰ
		気象学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	物理学概論
		気象学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	気象学Ⅰ
		天文学Ⅰ	2	3	リベラルアーツ学群	物理学概論
		天文学Ⅱ	2	3	リベラルアーツ学群	天文学Ⅰ
		地質学Ⅰ	2	2	リベラルアーツ学群	
		地質学Ⅱ	2	2	リベラルアーツ学群	地質学Ⅰ
		古生物学	2	3	リベラルアーツ学群	
		海洋学	2	3	リベラルアーツ学群	

3．資格証明書の発行

「博物館法施行規則」に基づいた所要資格を充たすために必要な本学の博物館学芸員課程の科目を修得し、学士の学位を得た学生には「学芸員資格証明書」を卒業時に発行します。博物館学芸員資格取得見込みがあり、卒業を希望する場合は必ず所定の期限内に「学芸員資格証明書発行申請書」を教職センター事務室まで提出してください。

4．博物館学芸員課程の流れ（資格取得まで）

実施時期	博物館学芸員課程	備　　考
春学期 オリエンテーション期間	博物館学芸員課程説明会 ★以下の必修８科目を履修	対象：１年生～３年生で博物館学芸員資格に興味・関心のある者 博物館課程の概要及び資格取得の流れについて説明
春・秋開講	＊「博物館概論」 （博物館経営論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館展示論、博物館情報・メディア論の先修条件） ＊「生涯学習概論」 ＊「博物館教育論」 ＊「博物館経営論」 ＊「博物館資料論」 ＊「博物館資料保存論」 ＊「博物館展示論」 ＊「博物館情報・メディア論」	修得には２セメスター以上を要す （ただし、１年次から履修の場合は、２年間を要す。）
春・秋開講	★選択科目　２分野各分野より４単位以上、計８単位以上を履修	P. 240を参照 （館務実習までに履修しておくことが望ましい。）
「博物館実習」履修前年秋学期	**第１回博物館実習仮登録ガイダンス（11月上旬）** **第２回博物館実習仮登録ガイダンス（12月上旬）** 仮登録票の提出 ↓	対象：必修８科目を修得見込みで次年度に「博物館実習」の履修を希望する者 仮登録に関する説明（館務実習先博物館の選定や手続きについて） 両日とも必ず出席すること。
春学期 オリエンテーション期間	**博物館実習本登録ガイダンス　※１** 本登録票の提出	対象：仮登録を行った者全員 本登録に関する説明（館務実習先博物館の決定とその他の手続きについて） 課程登録費納入
春→秋通年	★「博物館実習」（３単位）の履修 ・必修プログラム（博物館実習入門①②）※２ ・学内実習プログラム（抽選申し込み ※３） ・館務実習 ↓ 必修科目、選択科目の修得及び学位取得の確認 ↓	※２　集中授業 ポイント制　（７ポイント）の取得　詳細はP. 240 ※１、※２、※３とも春学期オリエンテーション時期に実施される。 無断欠席・遅刻の場合ポイントはＦとなる。
卒業時	「学芸員資格証明書」発行	

説明会及び各種ガイダンスの日程、教室等についてはオリエンテーション日程表、e-Campus 掲示でお知らせします。

４．日本語教員養成課程

１．日本語教員養成課程とは

（2020年4月1日現在の最新版）

「日本語教員養成課程」は、多文化共生社会の担い手となる日本語教育人材（日本語教師、地域の日本語支援者等）を養成するための課程です。本学の「日本語教員養成課程」は、2016年に策定された法務省「日本語教育機関の告示基準」および文科省の「日本語教育機関の告示基準解釈指針」~~（以下、「新基準」）~~に基づいて設置され、日本語教育人材の養成において必要とされる５つの区分（「社会・文化・地域」「言語と社会」「言語と心理」「言語と教育」「言語」）の教育内容から成ります。

「45単位コース」と「26単位コース」の二種類がありますが、どちらのコースにおいても、上記５区分の教育内容を幅広く学び、所定の修了要件を満たすことで各コースの「修了証明書」が発行されます。日本語教育人材の活動分野は、生活者としての外国人のための日本語教育をはじめ、留学生、日本語指導を必要とする児童生徒、技能実習生等の日本語教育等、多種多様です。指定された５区分の教育内容を幅広く学びつつ、選択必修科目については、それぞれの活動分野で必要とされる内容を把握した上で、履修を進めていくことをお勧めします。

２．日本語教員養成課程における２種類の各コース修了に必要な科目と単位数

【45単位コース】

- 「社会・文化・地域」から２単位
- 「言語と社会」から２単位
- 「言語と心理」から２単位
- 「言語と教育」から10単位（「日本語教育実習」４単位は必修）
- 「言語」から６単位

（注）45単位を満たすために必要な上記単位数以外の23単位分は、「５区分」および「５区分関連スキル・方法論」のどの区分から履修してもよい。

【26単位コース】

- 「社会・文化・地域」から２単位
- 「言語と社会」から２単位
- 「言語と心理」から２単位
- 「言語と教育」から10単位（「日本語教育実習」４単位は必修）
- 「言語」から２単位

（注）26単位を満たすために必要な上記単位数以外の８単位分は、「５区分」および「５区分関連スキル・方法論」のどの区分から履修してもよい。

１に示す告示基準および解釈基準

３．日本語教員養成課程「修了証明書」の申請方法

~~日本語教員に関する「新基準」~~に基づいた教育内容に必要な本学の「日本語教員養成課程」を修了し、学士の学位を得た学生には、「日本語教員養成課程」の修了証明書を卒業時に発行します。「日本語教員養成課程」の各コース修了要件を満たす見込みがあり、卒業を希望する場合は必ず所定の期限内に「日本語教員養成課程修了証明書発行申請書」を提出してください。詳細は掲示等でお知らせします。

【注意事項】45単位コースの修了証明書の申請を行った場合でも、修了要件が満たされていない場合は、26単位コースの修了証明書の発行となる場合があります。

【45単位、26単位両コースにおける推奨科目】
文化庁(2019)『日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）改定版』が示す「必須の教育内容」50項目の要件を満たす科目には「＊」がついています（以下、＊マーク科目という。）45単位コース、26単位コースともに、今後、履修計画をする際は、必修科目に加え、＊マーク科目を積極的に履修することを推奨します。

日本語教員養成課程　履修科目リスト

5区分	授業科目	単位	履修年次	リベラルアーツ学群 日本語教育専攻 プログラム科目	45単位コース	26単位コース
社会・文化・地域	日本語教育学Ａ＊	2	1	○（必修）	2単位選択必修	2単位選択必修
	年少者日本語教育	2	3	○		
	文化人類学	4	1	○		
	日本文化論	4	2			
	日本研究概論	4	2			
	韓国文化論	4	2	○		
	社会学概論	4	1			
	世界史における日本	4	2			
	難民・移民の人権	4	2			
	国際人権法	4	2			
	国際交流論	4	2			
	国際関係論	4	1			
	平和構築論	4	2			
	現代日本の政治	4	2			
	宗教と教育	2	2			
	日本の宗教	4	2			
	イスラーム文化論	4	2			
	キリスト教文化論	4	2			
	仏教文化論	4	2			
	家族社会学	4	2			
	家庭と教育	2	1			
	日本文学史Ａ	4	1			
	日本文学史Ｂ	4	1			
言語と社会	言語と文化＊	4	2	○	2単位選択必修	2単位選択必修
	多言語交流演習	2	1	○		
	言語政策論	4	2			
	社会言語学	4	2			
	言語とジェンダー	4	2			
	情報と社会	2	1			
言語と心理	言語習得法＊	2	1	○	2単位選択必修	2単位選択必修
	第二言語習得法＊	4	3			
	学習・言語心理学	2	2			
	現代コミュニケーション理論	4	1			
	対人コミュニケーション	4	2	○		
	異文化コミュニケーション	4	2			
	国際コミュニケーション	4	2			
	異文化理解教育＊	4	3			
	教育心理学（教職課程）	2	2			
	社会・集団心理学	2	2			

５区分	授業科目	単位	履修年次	リベラルアーツ学群 日本語教育専攻 プログラム科目	45単位コース	26単位コース
言語と教育	日本語教育学Ｂ＊	2	1	○（必修）	６単位選択必修	６単位選択必修
	日本語教育文法＊	2	2	○		
	日本語教授法＊	4	2	○（必修）		
	日本語教材開発	2	3	○		
	マルチメディア日本語教育	2	3	○		
	日本語の評価法＊	2	2	○		
	カリキュラムデザイン	2	3	○		
	海外教育実習	2〜4	3	○		
	日本語教育実習＊	4	3	○（メジャーのみ必修）	必修	必修
言語	日本語学概論	2	1		６単位選択必修	２単位選択必修
	日本語の音声	2	1	○		
	日本語の語彙・意味	4	1	○		
	日本語の文字・表記	2	1	○		
	日本語の表現	4	1	○		
	日本語の文法	4	2	○		
	ことばの比較	2	1	○		
	日中対照言語学	2	3	○		
	日本語史	2	3	○		
	プラグマティックス	4	3	○		
	談話分析	4	2	○		
	応用言語学	4	2			
５区分関連スキル・方法論	言語データ分析	2	2	○		
	社会統計学	2	2			
	コンピュータリテラシーⅡ	2	1			
	プレゼンテーション演習	2	2			
					合計　45単位	**合計　26単位**

【注】科目によっては、先修条件等の履修の条件が付されているものがあります。履修の際は、各科目の先修条件等を確認してください。

５．社会福祉士（国家資格）

「社会福祉士」になるためには、大学等において厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する「指定科目」を修めて卒業することにより受験資格を取得して、毎年１回行われる国家試験に合格し、登録しなければなりません。

この資格の課程を履修できるのは、健康福祉学群社会福祉専修の学生に限られます。

１．社会福祉士の資格制度の目的

我が国の人口構造の高齢化は、平均寿命の延びや出生率の低下により一層急速なテンポで進展してきています。それとともに、高齢者や障害者等福祉に関する相談や介護を必要とする人が急激に増大することが確実になってきており、それらの人々が信頼し、安心して相談や助言・指導を受けることができる専門家が求められています。

このような社会的要請にこたえて、我が国の社会福祉分野における初めての国家資格制度として、昭和62年５月26日、「社会福祉士及び介護福祉士法（昭和62年法律第30号）」が制定され、「社会福祉士」が誕生しました。この資格制度は名称独占制度ですが、「社会福祉士」でない者はその仕事をしてはならないという規定はありません。したがって業務独占ではありません。

２．社会福祉士の業務内容

「社会福祉士」は、専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連携及び調整その他の援助を行うことを業とする者をいいます。多くの人が、「社会福祉士」の資格を得て、福祉の専門家として地域や機関・施設で中心的役割を果たすことが期待されています。

３．社会福祉士の国家試験の受験資格を取得するための要件

本学健康福祉学群社会福祉専修では、国家試験の受験資格を得るために、「社会福祉士及び介護福祉士法」第７条１号の規定に基づいて、次頁の表の通り28科目を設置しています。国家試験受験資格取得のためには、本学授業科目より23科目以上を修得しなければなりません。

４．履修上の注意

履修にあたっては、科目の履修年次や先修条件等を確認の上、履修してください。

⑴　相談援助演習の履修方法

３年次に社会福祉士国家試験受験資格取得希望学生が履修することができる。ただし、２年次までの成績や社会福祉士国家試験受験資格に必要な履修状況等を鑑みて履修制限を行うため、選考を実施する。

⑵　相談援助現場実習指導及び相談援助現場実習の履修方法

３年次に社会福祉士国家試験受験資格取得希望学生が履修することができる。ただし、先修条件を満たす者のうち、２年次までの成績や社会福祉士国家試験受験資格に必要な履修状況等を鑑みて、履修制限を行うため、選考を実施する。

⑶　相談援助現場実習の時間数

相談援助現場実習を行う学生は、配属実習先において合計180時間以上の実習を行うものとする。

「社会福祉士」指定科目及び本学科目対照表

領域	指定科目	本学授業科目	単位	履修年次	備考
知識領域	現代社会と福祉	社会福祉原論	4	2	必修
	地域福祉の理論と方法	地域福祉論	4	2	〃
	福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	2	3	〃
	福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	2	2	〃
	社会保障	社会保障論	4	2	〃
	高齢者に対する支援と介護保険制度	老人福祉論	4	2	〃
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	4	1	〃
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉論	4	2	〃
	低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2	2	〃
	保健医療サービス	保健医療サービス	2	2	〃
	就労支援サービス	相談援助活動と就労支援・更生保護	2	2	1科目選択必修
	更生保護制度				
	権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	2	3	
技術領域	社会調査の基礎	社会調査の基礎	2	3	必修
	相談援助の基盤と専門職	相談援助の基盤と専門職	4	1	〃
	相談援助の理論と方法	社会福祉援助技術論Ⅰ	2	2	〃
		社会福祉援助技術論Ⅱ	2	2	〃
	相談援助演習	相談援助演習Ⅰ	4	3	〃
		相談援助演習Ⅱ	4	3	〃
		相談援助演習Ⅲ	2	4	〃
	相談援助実習指導	相談援助現場実習指導Ⅰ	2	3	〃
		相談援助現場実習指導Ⅱ	2	3	〃
		相談援助現場実習指導Ⅲ	2	4	〃
	相談援助実習	相談援助現場実習	4	3	〃
関連知識領域	人体の構造と機能及び疾病	医学一般	4	1	1科目選択必修
	心理学理論と心理的支援	心理学	4	1	
		心理学概論	4	1	
	社会理論と社会システム	社会学	4	1	
		社会学概論	4	1	

６．精神保健福祉士（国家資格）

「精神保健福祉士」になるためには、受験資格を取得して、毎年１回行われる国家試験に合格しなければなりません。

この資格の課程を履修できるのは、健康福祉学群精神保健福祉専修の学生に限られます。

１．精神保健福祉士の資格制度の目的

我が国の精神保健福祉の現状については、精神障害者の長期入院やいわゆる社会的入院の問題等が指摘されており、精神障害者の社会復帰を促進し、地域生活を支援することが緊急の課題となっています。

このため、精神障害者が社会復帰を果たす上で障害となっている諸問題の解決を図る必要があり、相談援助にたずさわる人材の養成・確保を図るため精神保健福祉士の資格制度が創設されました。

２．精神保健福祉士の業務内容

「精神保健福祉士」は、精神障害者の保健及び福祉に関する専門知識や技能をもって、精神科病院その他の医療機関、障害福祉サービス事業所、福祉行政機関等において、精神障害者の社会復帰・社会参加のための支援を行う専門職です。その主な業務には、精神障害者の①療養中の相談援助、②福祉サービスの活用等により地域生活を支援するための相談、助言、指導、③日常生活への適応のために必要な訓練などがあります。また、近年、司法・教育・産業などの幅広い分野において、精神保健福祉の課題に取り組む役割も期待されています。

３．精神保健福祉士の国家試験の受験資格を取得するための要件

本学の健康福祉学群では、国家試験の受験資格を得るために、「精神保健福祉士法」第７条第１号の規定に基づいて、次頁の表の通り指定科目27科目を設置しています。受験資格取得のための最少必要科目は25科目ですが、実際の国家試験は全科目から出題されますので、すべてを修得しておくことが望まれます。

４．履修上の注意

履修にあたっては、履修年次や先修条件に特に注意してください。精神保健福祉士の国家資格を取得する場合、１年次には「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）」、「精神保健福祉相談援助の基盤（専門）」の両方、または「精神医学Ⅰ」の履修が必要です。また、「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）」、「精神保健福祉相談援助の基盤（専門）」と「精神医学Ⅰ」、「精神医学Ⅱ」のすべてを２年次終了までに修得しておかなければ、３年次の「精神保健福祉実習指導Ⅱ」の履修ができません。

２年次に「精神保健福祉実習指導Ⅰ」を終えた後、３年次で「精神保健福祉実習指導Ⅱ」に進み、１回目の施設での配属実習を行います。この科目は、「精神保健福祉現場実習Ⅰ」として登録します。２度目の配属実習は「精神保健福祉現場実習Ⅱ」として、４年次の「精神保健福祉実習指導Ⅲ」と同時に履修登録を行うことになります。このように精神科医療機関や障害福祉サービス事業所などでの実習が資格取得には必須なので、「精神保健福祉士」になるという目的意識を明確に持ち、学修を計画的に進めていくことが望まれます。こうした履修上の重要事項については、入学時や各学期始めのオリエンテーションで説明するので、情報収集に留意し、不明な点は教員に確認してください。

「精神保健福祉士」指定科目及び本学科目対照表

領域	指定科目	本学授業科目	単位	履修年次	備考
社会福祉士との共通科目	人体の構造と機能及び疾病	医学一般	4	1	1科目選択必修
	心理学理論と心理的支援	心理学	4	1	
	社会理論と社会システム	社会学	4	1	
	現代社会と福祉	社会福祉原論	4	2	必修
	地域福祉の理論と方法	地域福祉論	4	2	〃
	社会保障	社会保障論	4	2	〃
	低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2	2	〃
	福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	2	3	〃
	保健医療サービス	保健医療サービス	2	2	〃
	権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見制度	2	3	〃
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	4	1	〃
精神保健福祉士専門科目	精神疾患とその治療	精神医学Ⅰ	2	1	〃
		精神医学Ⅱ	2	2	〃
	精神保健の課題と支援	精神保健学	4	1	〃
	精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	精神保健福祉相談援助の基盤(基礎)	2	1	〃
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2	1	〃
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健福祉援助技術各論	4	2	〃
		精神科リハビリテーション学	4	2	〃
	精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉に関する制度とサービス	4	3	〃
	精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援システム	2	3	〃
	精神保健福祉援助演習（基礎）	精神保健福祉援助演習Ⅰ	2	2	〃
	精神保健福祉援助演習（専門）	精神保健福祉援助演習Ⅱ	4	3	〃
	精神保健福祉援助実習指導	精神保健福祉実習指導Ⅰ	4	2	〃
		精神保健福祉実習指導Ⅱ	4	3	〃
		精神保健福祉実習指導Ⅲ	4	4	〃
	精神保健福祉援助実習	精神保健福祉現場実習Ⅰ	2	3	〃
		精神保健福祉現場実習Ⅱ	2	4	〃

７．公認心理師（国家資格）

この資格の課程を履修できるのは、リベラルアーツ学群および健康福祉学群精神保健福祉専修の学生に限られます。

１．公認心理師の資格とは

公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。

⑴　心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
⑵　心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
⑶　心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
⑷　心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

２．公認心理師の資格を取得するためには

文部科学大臣及び厚生労働大臣が行う公認心理師試験に合格した者は、公認心理師となる資格を有します。公認心理師試験の受験資格は、以下の者に与えられます。

⑴　大学において必要な科目を修めて卒業し、かつ、大学院において必要な科目を修めてその課程を修了した者
⑵　大学において必要な科目を修めて卒業した者その他その者に準ずるものとして施行規則で定める者であって、公認心理師施行規則で定める施設において施行規則で定める期間以上（２年以上）、１の⑴から⑶までに掲げる行為の業務に従事したもの
⑶　文部科学大臣及び厚生労働大臣が⑴および⑵に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認定した者

すなわち、大学において必要な科目を修めて卒業しただけでは受験資格は得られないことに注意して下さい。
公認心理師となるために大学において履修することが必要な科目は以下の通りです。

「公認心理師」指定科目及び本学科目対照表

⑴　リベラルアーツ学群の授業科目

番号	授業科目名（括弧内は公認心理師科目名称）	単位数	履修年次
1	公認心理師の職責［注１］	2	1
2	心理学（心理学概論）［注２］［注３］	4	1
3	臨床心理学概論	2	2
4	心理学研究法	2	2
5	心理学統計法Ⅰ（心理学統計法）［注２］	2	1
6	心理学実験［注１］	2	2
7	知覚・認知心理学	2	2
8	学習・言語心理学	2	2
9	感情・人格心理学	2	2
10	神経・生理心理学	2	2
11（１）	社会・集団心理学（社会・集団・家族心理学Ａ）［注２］［注４］	2	2
11（２）	家族心理学（社会・集団・家族心理学Ｂ）［注２］［注４］	2	2
12	生涯発達心理学（発達心理学）［注２］	2	1
13	障害者（児）心理学（障害者・障害児心理学）［注２］	2	2
14	心理的アセスメント［注１］	2	2
15	心理学的支援法	2	2
16	健康・医療心理学	2	2
17	福祉心理学	2	2
18	教育・学校心理学	2	2
19	司法・犯罪心理学	2	2
20	産業・組織心理学	2	3
21	医学一般（人体の構造と機能及び疾病）［注２］	4	1
22	精神医学（精神疾病とその治療）［注２］	2	1
23	関係行政論［注１］	2	3
24（１）	心理演習Ⅰ［注１］［注５］［注６］	2	3
24（２）	心理演習Ⅱ［注１］［注５］［注６］	2	3
25	心理実習［注１］［注６］	4	4

⑵　健康福祉学群の授業科目

番号	授業科目名（括弧内は公認心理師科目名称）	単位数	履修年次
1	公認心理師の職責［注１］	2	1
2	心理学（心理学概論）［注２］［注３］	4	1
3	臨床心理学概論	2	2
4	心理学研究法	2	2
5	心理学統計法	2	1
6	心理学実験［注１］	2	2
7	知覚・認知心理学	2	2
8	学習・言語心理学	2	2
9	感情・人格心理学	2	2
10	神経・生理心理学	2	2
11（１）	社会・集団心理学（社会・集団・家族心理学Ａ）［注２］［注４］	2	2
11（２）	家族心理学（社会・集団・家族心理学Ｂ）［注２］［注４］	2	2
12	生涯発達心理学（発達心理学）［注２］	2	1
13	障害者（児）心理学（障害者・障害児心理学）［注２］	2	2
14	心理的アセスメント［注１］	2	2
15	心理学的支援法	2	2
16	健康・医療心理学	2	2
17	福祉心理学	2	2
18	教育・学校心理学	2	2
19	司法・犯罪心理学	2	2
20	産業・組織心理学	2	3
21	医学一般（人体の構造と機能及び疾病）［注２］	4	1
22	精神医学Ⅰ（精神疾病とその治療）［注２］	2	1
23	関係行政論［注１］	2	3
24（１）	心理演習Ⅰ［注１］［注５］［注６］	2	3
24（２）	心理演習Ⅱ［注１］［注５］［注６］	2	3
25	心理実習［注１］［注６］	4	4

［注１］各科目の先修条件を確認の上、履修してください。
［注２］括弧内が公認心理師として必要な科目の科目名となります。
［注３］本学には「心理学」「心理学概論」のいずれの科目も設置していますが、先修条件上、公認心理師を目指す上では「心理学」を履修してください。
［注４］社会・集団心理学（社会・集団・家族心理学Ａ）および家族心理学（社会・集団・家族心理学Ｂ）を履修することにより、公認心理師として必要な科目である「社会・集団・家族心理学」の履修をしたと見なします。
［注５］「心理演習Ⅰ」および「心理演習Ⅱ」を履修することにより、公認心理師として必要な科目である「心理演習」の履修をしたと見なします。
［注６］履修希望者多数の場合は、公認心理師や実習に対する理解や意欲、これまでの学修結果等を総合的に判断して選考を行うことがあります。

８．認定心理士（公益社団法人日本心理学会認定資格）

この資格の課程を履修することができるのは、リベラルアーツ学群及び健康福祉学群の学生に限られます。

１．認定心理士の資格とは

この資格は、心理学専攻者としてのアイデンティティを持ち、専門性の向上に資するために設けられました。４年制大学における心理学科、またはそれに準ずる課程を修了した人（ないしは、それと同等の学力を有すると認められた人）を対象に、心理学の専門家としての職務を遂行するのに必要な最小限の標準的、基礎的学力と技能を習得していると日本心理学会が認定した人に対して与えられる資格です。この資格認定は、わが国の各職場で活躍している心理学専攻者の利益の擁護とともに、その資質の向上、すなわち新しい知識・技術の学習の促進のために設置されました。

２．認定心理士の資格を取得するためには

卒業見込みの学年度において以下の条件を満たしている者は、申請することができます。

⑴　16歳以降、通算２年以上日本国に滞在した経験を有する者。

⑵　学校教育法により定められた大学、または大学院における心理学専攻、教育心理学専攻、または心理学関連専攻の学科において、別表に掲げる科目を履修し、必要単位を修得し、卒業または修了した者、及び、それと同等以上の学力を有すると認められた者。

	領　　域		本学授業科目名	履修年次	単位	備　　考
基礎科目	ａ心理学概論	基本主題	心理学	1	4	ａ，ｃ領域で各４単位以上 ｂ，ｃ領域の合計が８単位以上
	ｂ心理学研究法	基本主題	心理学研究法	2	2	
		基本主題	心理学統計法Ⅰ／心理学統計法	1	2	
		基本主題	心理学統計法Ⅱ（注１）	2	2	
	ｃ心理学実験・実習	基本主題	心理学実験（注１）	2	2	
		基本主題	心理学実験実習（注１）	3	2	
選択科目	ｄ知覚心理学 ・学習心理学	基本主題	学習・言語心理学	2	2	ｄおよびｆ～ｈの４領域のうち３領域以上で、各４単位以上（必ず基本主題を含むこと）かつｄ～ｈの５領域の合計で16単位以上
		基本主題	知覚・認知心理学	2	2	
	ｅ比較心理学 ・生理心理学	基本主題	神経・生理心理学	2	2	
	ｆ教育心理学 ・発達心理学	基本主題	教育・学校心理学	2	2	
		基本主題	生涯発達心理学	1	2	

（次のページに続く）

	領　　域		本学授業科目名	履修年次	単位	備　　考
選択必修科目	g 人格心理学・臨床心理学	基本主題	感情・人格心理学	2	2	d および f ～ h の 4 領域のうち 3 領域以上で、各 4 単位以上（必ず基本主題を含むこと）かつ d ～ h の 5 領域の合計で16単位以上
		基本主題	障害者（児）心理学	2	2	
		基本主題	臨床心理学概論	2	2	
		基本主題	心理的アセスメント（注１）	2	2	
		基本主題	心理学的支援法	2	2	
		基本主題	健康心理学概論	1	2	
		基本主題	健康・医療心理学	2	2	
		基本主題	福祉心理学	2	2	
		基本主題	司法・犯罪心理学	2	2	
		基本主題	心理演習Ⅰ（注１）	3	2	
		基本主題	心理演習Ⅱ（注１）	3	2	
		基本主題	心理実習（注１）	4	4	
		基本主題	学校カウンセリング論	3	2	
		副次主題	精神保健学	1	4	
		副次主題	精神医学／精神医学Ⅰ	1	2	
	h 社会心理学・産業心理学	基本主題	社会・集団心理学	2	2	
		基本主題	家族心理学	2	2	
		基本主題	産業・組織心理学	3	2	
		基本主題	社会心理学調査実習（注1）	2	2	
その他の科目	i 心理学関連の科目・卒業論文		宗教心理学	2	2	卒業論文・卒業研究あわせて最大 4 単位までを認める
			スポーツ心理学	2	4	
			専攻演習Ⅰ（心理学）	3	2	
			専攻演習Ⅱ（心理学）（注１）	3	2	
			卒業論文（注１）	3/4	4/6	
			卒業研究（注１）	3/4	4/6	

（注１）各科目の先修条件等を確認の上、履修してください。

※上記の科目は、リベラルアーツ学群専攻科目、健康福祉学群専攻科目に置かれています。各自確認のうえ、履修してください。

３．履修上の注意

「認定心理士」の資格認定を受けるためには、別表に記載されている科目の中から合計36単位以上を修得しなければなりません。その内訳は「基礎科目」 a は４単位以上、ｂ，ｃは計８単位以上かつ最低４単位はｃの単位、合計12単位以上、「選択科目」ｄ～ｈの５領域のうち３領域以上で各４単位以上（必ず基本主題を含む）で計16単位以上、残りの８単位はａ～ｈの任意の科目または「その他の科目」ｉ領域で充当します。

各領域の副次主題に該当する本学授業科目の修得単位は申請時の認定単位が１／２になるので注意してください。

４．認定心理士の資格申請

上記の条件を満たした人は、公益社団法人日本心理学会認定心理士認定委員会の定める申請書類一式を整え、審査料を払い込んで資格申請を行います。申請書類等については公益社団法人日本心理学会認定心理士認定委員会発行の、「日本心理学会認定心理士資格申請の手引き」、又は日本心理学会のホームページを参照してください。

【注】資格認定に関する規則が変更されることがあれば、掲示等でお知らせします。

９．健康心理士（日本健康心理学会認定資格）

この資格の課程を履修することができるのは、リベラルアーツ学群及び健康福祉学群の学生に限られます。

１．「健康心理士」とは

健康の維持・増進、疾病の予防、健康的な生活習慣の形成をめざして、その実践に必要な知識と技術を備え、健康心理学を中心とした学際的視野から真の健康生活に貢献するために、専門的な立場から助言・勧告、及び援助活動を行います。

２．「健康心理士」の資格を取得するためには

卒業見込みの学年度において、資格認定委員会が認定するカリキュラムを履修したことを証明する書類を提出し、書面による資格審査に合格する必要があります。このカリキュラムとは、公益社団法人日本心理学会認定の認定心理士資格取得に必要な科目（P. 252～253を参照）、もしくは公認心理師資格取得に関連する学士課程履修科目（P. 251を参照）の履修をしていることに加えて、「健康・医療心理学（２単位）」および「健康心理学概論（２単位）」を履修していることです。「健康・医療心理学」は公認心理師の履修科目であることから、公認心理師に関連する学士課程履修科目の履修者は「健康心理学概論」を履修すれば基準を満たします。認定心理士の指定科目においても、選択科目のうち領域ｇ（人格心理学・臨床心理学）に「健康・医療心理学」と「健康心理学概論」が含まれていることから、これら2科目を選択履修すれば基準を満たします。

３．資格認定の申請方法

資格認定を希望する人は、認定委員会の定める申請書類一式を整え、審査料を添えて認定委員会に提出します。

【注】資格認定に関する規則が変更されることがあれば、掲示等でお知らせします。

10. JPSU 認定スポーツトレーナー（一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会）

JPSU 認定スポーツトレーナーの資格を取得するには、受験資格を取得し、協議会の定める認定試験に合格しなければなりません。この資格の課程を履修することができるのは、健康福祉学群健康科学専修の学生に限られます。

1．JPSU 認定スポーツトレーナーとは

この資格は、体育スポーツ系大学の特色を活かし、医療分野に特化した内容ではなく、スポーツ選手及びスポーツ実践者が、安全にかつ効果的にスポーツを行えるよう、スポーツ医科学に基づいたスポーツ外傷・障害の予防や救急処置、コンディション調整、トレーニングの指導などの、身体づくり（コンディショニング）の専門的知識・技術を習得した者に対して与えられる資格です。

2．JPSU 認定スポーツトレーナーの資格を取得するためには

本学健康福祉学群健康科学専修の所定の科目（次頁「本学授業科目一覧」）をすべて修得して受験資格を取得した後（取得見込み可）、卒業予定年度に協議会の定める修了講習会に出席し、認定試験に合格しなければなりません。認定試験の合格と卒業（卒業証明書の提出）によって、資格が認められます。

修了講習会および認定試験は毎年12月に行なわれます。認定試験は筆記試験からなります。修了講習会の出席および認定試験を受験するためには、所定の科目を履修済みまたは履修中である必要があります。所定の科目が履修中であれば、修了講習会および認定試験は受けられますが、履修中の単位が取得できなかった場合は、認定試験に合格しても資格は取得できません。

また、毎年学内で開催される本資格に関する説明会に必ず出席し、希望調査票を提出してください。希望調査票未提出者は、受験しないものとします。

3．その他の注意

⑴　先修条件がついている科目があるので、その条件を確認の上、履修登録を行ってください。

⑵　修了講習会および認定試験の受験申請時点で、BLS（Basic Life Support）資格が取得済みである必要があります。BLS 資格とは一次救命処置のための資格で、所定の条件を満たせば対象講習会、主催団体及び機関は問いません。詳細は学内の説明会等で必ず確認してください。

【注】BLS 資格の有効期限は、受験申込書に記載の際に、卒業時（資格発行時）に有効であることを証明できるものでなければなりません。

本学授業科目一覧

番号	科　　目　　名	単位数	備　　考
1	スポーツコーチ学	4	必修
2	スポーツ倫理学	2	必修
3	コンディショニング	2	必修
4	コンディショニング演習	2	必修
5	トレーニング演習	2	必修
6	アスレティックトレーナー現場実習	1	必修
7	体力測定評価演習	2	必修
8	救急処置法	2	必修
9	スポーツ生理学	2	必修
10	スポーツ栄養学	4	必修
11	スポーツ心理学	4	必修
12	運動学	2	必修
13	解剖学	2	必修
14	スポーツ医学（内科）	2	必修
15	スポーツ医学（運動器）	2	必修
16	スポーツ（ウィークリー／シーズン）	計３	（注）

（注）スポーツ（ウィークリー／シーズン）は以下のとおり合計３単位を修得すること。

番号	領　　域	種　　目　　名	単位数	備　　考
1	①記録系競技領域	陸上競技Ⅰ	1	①～④の領域から３領域を選択し、各領域から１科目を選択履修
2		陸上競技指導法	1	
3		水泳指導法	1	
4	②球技系競技領域	サッカーⅠ	1	
5		サッカー指導法	1	
6		バスケットボールⅠ	1	
7		バスケットボール指導法	1	
8		バレーボールⅠ	1	
9		バレーボール指導法	1	
10		ハンドボールⅠ	1	
11		ラグビーⅠ	1	
12		ソフトボールⅠ	1	
13		ソフトボール指導法	1	
14		テニスⅠ	1	
15		テニス指導法	1	
16		卓球Ⅰ	1	
17		バドミントンⅠ	1	
18		バドミントン指導法	1	
19		軟式野球Ⅰ	1	
20		ゴルフⅠ	1	
21	③武道領域	柔道Ⅰ	1	
22		柔道指導法	1	
23		剣道Ⅰ	1	
24		剣道指導法	1	
25	④基礎運動領域	体つくり運動Ⅰ	1	
26		器械体操Ⅰ	1	
27		器械体操指導法	1	
28		リズムダンスⅠ	1	
29		エアロビクスⅠ	1	
30		創作ダンスⅠ	1	

11. 健康運動実践指導者（公益財団法人健康・体力づくり事業団認定資格）

健康運動実践指導者になるためには、受験資格を取得し、財団の定める認定試験に合格しなければなりません。この資格の課程を履修することができるのは、健康福祉学群の学生に限られます。

１．健康運動実践指導者の資格とは

この資格は、医学的基礎知識、運動生理学の知識、健康づくりのための運動指導の知識・技術等を持ち、健康づくりを目的として作成された運動プログラムに基づき、ジョギング、エアロビックダンス、水泳及び水中運動等のエアロビックエクササイズ、ストレッチング、筋力、筋持久力トレーニング等の補強運動の実践指導を行うことが出来ると認められた者に対して与えられる資格です。

２．健康運動実践指導者の資格を取得するためには

本学健康福祉学群健康科学専修の所定の科目（下記表「本学授業科目一覧」）をすべて修得し、受験資格を取得した後、財団の定める認定試験に合格しなければなりません。受験する場合は、当該年度の春学期までに以下所定の科目の単位を修得する必要があります。認定試験は、筆記試験と指導実技試験からなります。

３．履修上の注意

先修条件がついている科目があるので、その条件を確認の上、履修登録を行ってください。資格関係以外の健康科学専修の科目の履修が望まれます。

【注】４月に行われる説明会に出席し、必ず希望調査票を提出すること。なお、希望調査票未提出者は、受験しないものとする。

４．資格認定の申請及び登録について

認定試験を希望する人は、所定の書類等を整え、受験料を添えて財団に申請します。また、合格した人は、登録の申請料を添えて財団に登録します。登録は、５年間有効で、所定の講習会を受講して登録の更新をした人は、更に５年間登録が更新されます。

本　学　授　業　科　目　一　覧

	科　　目　　名	単位数	履修年次
1	健康科学論	4	1
2	運動学	2	1
3	生理学	2	1
4	栄養学	2	1
5	公衆衛生学	2	2
6	スポーツ心理学	4	2
7	解剖学	2	1
8	発育発達学	2	1
9	救急処置法	2	1
10	スポーツ生理学	2	2
11	体力測定評価~~実習~~ 演習	2	2
12	エアロビクスⅠ	1	1
13	フィットネスⅠ	1	1
14	トレーニングⅠ	1	1
15	陸上競技Ⅰ	1	1
16	体つくり運動Ⅰ	1	1

12. 公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会（共通科目Ⅰ＋Ⅱ）免除適応コース

この資格の課程を履修することができるのは健康福祉学群の学生に限られます。

１．公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者とは

公益財団法人日本スポーツ協会及び加盟競技団体等が、資格認定する指導者で、スポーツ医・科学の知識を生かし、「スポーツを安全に、正しく、楽しく」指導し、「スポーツの本質的な楽しさ、素晴らしさ」を伝える事が出来る指導者です。

２．公認スポーツ指導者養成講習会（共通科目Ⅰ＋Ⅱ）免除適応コースとは

公益財団法人日本スポーツ協会が実施しているスポーツ指導者養成講習会と同じカリキュラム（共通科目Ⅰ＋Ⅱ）を本学健康福祉学群で履修することができ、講習会・試験の一部が免除されるシステムです。本学においては、指定の科目を履修し単位修得することで、「共通科目Ⅰ＋Ⅱコース」が免除されます。

卒業年度に修了証明書を申請することにより、「共通科目Ⅰ＋Ⅱ修了証明書」と併せて「スポーツリーダー」（地域におけるスポーツグループやサークルなどのリーダーとして、基礎的なスポーツ指導や運営にあたる者）として認定され「スポーツリーダー認定証」が発行されます。修了証明書発行にあたっては所定の費用が必要となります。卒業後の修了証明書の発行は行いません。

詳細は公益財団法人日本スポーツ協会ホームページを参照するか、または実習支援センターまでお問い合わせください。

「共通科目Ⅰ＋Ⅱ」免除適応コースは、以下の科目を修得してください。

「公認スポーツ指導者養成講習会　共通科目Ⅰ＋Ⅱ　免除適応コース」

本 学 授 業 科 目 一 覧

	科　目　名	単位数	履修年次
1	スポーツ社会学	2	1
2	障害者レクリエーション	2	2
3	スポーツコーチ学	4	2
4	発育発達学	2	1
5	スポーツ栄養学	4	2
6	スポーツ医学概論	2	1
7	救急処置法	2	1
8	スポーツ心理学	4	2
9	スポーツ経営学	2	2

13. 初級障がい者スポーツ指導員（公益財団法人日本障がい者スポーツ協会資格）

この資格の課程は、全ての学群の学生が履修できます。

１．初級障がい者スポーツ指導員とは

この資格は、障害者の適性に応じたスポーツ・レクリエーションを通じて、障害者の健康・体力の維持・増進と競技力の向上に寄与することを責務とするものです。

なお、詳細は公益財団法人日本障がい者スポーツ協会のホームページを参照してください。

２．初級障がい者スポーツ指導員の資格を取得するためには

本学は、同協会の資格認定校であり、所定の科目を修得した後、協会に申請することにより、初級障がい者スポーツ指導員の資格が取得できます。資格申請・登録には、所定用紙とともに諸費用を添える必要があります。なお、資格取得に必要な所定の科目は、それぞれ開講されるキャンパスで履修する必要があるため、所定の科目が開講されるキャンパスを事前に確認してください。

必修科目：「障害学」「障害者レクリエーション」の２科目

14．保育士（国家資格）

保育士になるためには、厚生労働大臣の指定する保育士を養成する学校その他の施設（指定保育士養成施設）を卒業するか、都道府県が実施する保育士試験に合格し、都道府県の備える保育士登録簿に氏名・生年月日その他厚生労働省令で定める事項の登録を行わなければなりません。

平成18年度より、本学健康福祉学群保育専修は厚生労働大臣指定の「指定保育士養成施設」として設置認可され、この資格の養成課程を履修できるのは健康福祉学群保育専修の学生に限ります。

１．保育士の資格制度の目的

近年、少子化社会の時代にあっても、働く女性が増えるなどの社会背景の中で、保育士のニーズは増えてきています。社会の多様化が進む中で、保育士に求められる資質も変化してきており、精神的援助が行え、健康的側面からの支援ができ、国際的な視野と語学力を備えた保育士が求められています。

このような現状から、平成13年11月30日に児童福祉法の一部を改正する法律が公布され、保育士の資格が法定化されました。この資格制度は名称独占制度であるので、保育士でない者が、保育士又はこれに紛らわしい名称を使用することは児童福祉法により禁止されています。

２．保育士の業務内容

保育士は、保育士の名称を用いて専門知識及び技術をもって児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者をいい、保育所や児童福祉施設が主な活躍の場となります。社会環境や福祉の知識、精神保健の知識、カウンセリング経験、外国籍の子どもや保護者ともコミュニケーションができる力などを身につけた人材が求められています。

３．保育士の資格を取得するためには

本学健康福祉学群保育専修では、保育士の資格を得るために、児童福祉法施行規則第６条の２第１項第３号に基づいて、次頁表の通り75科目を設置しています。保育士の資格取得のためには、表中の「教養科目」「必修科目」「選択必修科目」のそれぞれの分野から、指定された単位数を修得し、なおかつ卒業要件を満たすことが必要です。

４．履修上の注意

履修にあたっては、科目の履修年次や先修条件等を確認の上、履修してください。

「保育士」指定科目及び本学科目対照表

教科目の種別	告示による教科目		本学の科目名	授業形態	単位数	授業時間数	履修年次	備考
教養科目（10単位以上設置）	外国語、体育以外の科目		キリスト教入門	講義	2	30	1	必修
			口語表現Ⅰ	演習	2	30	1	4単位以上を選択必修
			文章表現Ⅰ	演習	2	30	1	
			文章表現Ⅱ	演習	2	30	1	
			コンピュータリテラシーⅠ	演習	2	30	1	
			コンピュータリテラシーⅡ	演習	2	30	1	
			キャリアデザインA	講義	2	30	1	
	外国語		英語コアⅠA	演習	2	60	1	
			英語コアⅠB	演習	2	60	1	
			英語コアⅡA	演習	2	60	1	
			英語コアⅡB	演習	2	60	1	
	体育		健康とスポーツ	講義	2	30	1	必修
			スポーツ（ウィークリースポーツ）	実技	1	30	1	1科目選択必修
			スポーツ（シーズンスポーツ）	実技	1	30	1	
告示別表第一による教科目　必修（51単位以上設置）	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	保育原理	講義	2	30	1	必修
		教育原理	教育原理（保育）	講義	2	30	1	必修
		子ども家庭福祉	子ども家庭福祉	講義	2	30	1	必修
		社会福祉	社会福祉	講義	2	30	1	必修
		子ども家庭支援論	子ども家庭支援論	講義	2	30	3	必修
		社会的養護Ⅰ	社会的養護Ⅰ	講義	2	30	2	必修
		保育者論	教職入門（保育）	講義	2	30	1	必修
	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	発達心理学（保育の心理学）	講義	2	30	2	必修
		子ども家庭支援の心理学	子ども家庭支援の心理学	講義	2	30	3	必修
		子どもの理解と援助	子ども理解の理論と方法	演習	2	30	2	必修
		子どもの保健	子どもの保健	講義	2	30	2	必修
		子どもの食と栄養	子どもの食と栄養	演習	2	30	2	必修
	保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	教育課程論（保育）	講義	2	30	2	必修
		保育内容総論	保育内容総論	演習	2	30	2	必修
		保育内容演習	保育内容（健康）	演習	2	30	2	必修
			保育内容（人間関係）	演習	2	30	3	必修
			保育内容（環境）	演習	2	30	2	必修
			保育内容（言葉）	演習	2	30	3	必修
			保育内容（表現）	演習	2	30	2	必修
		保育内容の理解と方法	保育内容の理解と方法（音楽）	演習	2	30	1	必修
			保育内容の理解と方法（造形）	演習	2	30	2	必修
		乳児保育Ⅰ	乳児保育Ⅰ	講義	2	30	2	必修
		乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅱ	演習	1	15	2	必修
		子どもの健康と安全	子どもの健康と安全	演習	1	15	2	必修
		障害児保育	特別支援教育（保育）	演習	2	30	2	必修
		社会的養護Ⅱ	社会的養護Ⅱ	演習	1	15	3	必修
		子育て支援	教育相談（子育て支援を含む）	演習	2	30	2	必修
	保育実習	保育実習Ⅰ	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2	90	3	必修
			保育実習Ⅰ（施設）	実習	2	90	3	必修
		保育実習指導Ⅰ	保育実習指導Ⅰ	演習	2	30	2	必修
	総合演習	保育実践演習	保育・教職実践演習（幼）	演習	2	30	4	必修

（次のページに続く）

教科目の種別	告示による教科目		本学の科目名	授業形態	単位数	授業時間数	履修年次	備考
告示別表第二による教科目選択必修（18単位以上設置）	保育の本質・目的に関する科目		地域福祉論	講義	4	60	2	6単位以上を選択必修
			児童福祉論	講義	4	60	2	
	保育の対象の理解に関する科目		発育発達学	講義	2	30	1	
			救急処置法	演習	2	30	1	
			心理学	講義	4	60	1	
			医学一般	講義	4	60	1	
			精神保健学	講義	4	60	1	
	保育の内容・方法に関する科目		児童英語教育入門	講義	2	30	1	
			保育の英語Ⅰ	講義	2	30	2	
			保育の英語Ⅱ	講義	2	30	3	
			児童文化	演習	2	30	1	
			保育表現技術（体育）	演習	2	30	2	
			運動学	講義	2	30	1	
			音楽実技Ⅰ	実習	1	30	1	
			音楽実技ⅡA	実習	1	30	2	
			音楽実技ⅡB	実習	1	30	2	
			音楽実技ⅡC	実習	1	30	2	
			造形表現	演習	2	30	1	
	保育実習	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅱ	実習	2	90	3	※
		保育実習指導Ⅱ	保育実習指導Ⅱ	演習	1	15	3	
		保育実習Ⅲ	保育実習Ⅲ	実習	2	90	3	
		保育実習指導Ⅲ	保育実習指導Ⅲ	演習	1	15	3	
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として設定されている教科目			社会福祉とマネージメント	講義	4	60	1	選択必修
			健康科学論	講義	4	60	1	
			老年学	講義	4	60	1	
			社会学	講義	4	60	1	
			法学	講義	4	60	1	
			今日の健康と福祉	講義	2	30	1	
			人間関係論	講義	2	30	1	
			健康心理学概論	講義	2	30	1	

※保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱまたは保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲのうち、いずれかを選択必修

15. 幼稚園教諭１種免許状（国家資格）

この資格の課程を履修することができるのは、健康福祉学群保育専修の学生に限られます。

１．幼稚園教諭免許状の取得について

幼稚園教諭になるためには、国・公・私立幼稚園を問わず、幼稚園の教育職員免許状（以下、免許状）を取得していることが必要です。また、認定こども園の保育教諭になるためにも、保育士資格に加えて幼稚園教諭免許状が必要となります。

免許状は「教育職員免許法」に基づき文部科学省の認定を受けた課程で所定の単位を修得することにより、取得することができます。つまり、本学を卒業し、免許状の授与を受けるために必要な単位を修得し、免許状の授与権者である都道府県の教育委員会に申請することで、免許状が授与されます。

２．幼稚園教諭１種免許状を取得するための手続き

⑴　幼稚園教職課程登録

幼稚園教諭１種免許状の取得を希望する学生は、２年次春に幼稚園教職課程の登録を行なう必要があります。

⑵　免許状取得のための条件

①　基礎資格（学士の学位）を有していること

②　免許状取得に必要な科目及び単位を修得すること

⑶　免許申請の手続き

幼稚園教職課程登録をした学生のうち、秋学期卒業の学生については、免許状取得のための東京都教育委員会への申請を本学が一括して手続きを行います（大学一括申請）。なお、一括申請に該当しない場合は個人での申請になります。

幼稚園教諭の免許状の授与を希望する学生は、４年次の一括申請手続説明会に必ず出席し、所定の手続きを行ってください。

⑷　幼稚園教職課程登録を取り下げる場合は、速やかに実習支援センターに相談し、所定の手続きを行ってください。

３．幼稚園教諭１種免許状取得に必要な科目及び単位数

＜教科及び教職に関する科目＞　51単位以上

免許法施行規則に定める科目及び単位数					本学開設授業科目	単位数	履修年次	履修方法
第１欄	教科及び教職に関する科目	各科目に含めることが必要な事項		単位数				
第２欄	領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	国語	16	子どもとことば	2	3	国語・生活・音楽・図画工作・体育のうち３教科以上から５単位選択必修
			生活		あそびと生活	2	3	
			音楽		保育内容の理解と方法（音楽）	2	1	
					音楽実技Ⅰ	1	1	
					音楽実技ⅡＡ	1	2	
					音楽実技ⅡＢ	1	2	
					音楽実技ⅡＣ	1	2	
					音楽表現	2	2	
			図画工作		保育内容の理解と方法（造形）	2	2	
					造形表現	2	1	
			体育		子どものからだと健康	2	3	
		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			保育内容総論	2	2	必修
					保育内容（健康）	2	2	必修
					保育内容（人間関係）	2	3	必修
					保育内容（環境）	2	2	必修
					保育内容（言葉）	2	3	必修
					保育内容（表現）	2	2	必修
第３欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		10	教育原理（保育）	2	1	必修
		教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教職入門（保育）	2	1	必修
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			教育制度論（保育）	2	3	必修
					教育関係法規（保育）	2	3	
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学（保育）	2	2	必修
					発達心理学（保育の心理学）	2	2	
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育（保育）	2	2	必修
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			教育課程論（保育）	2	2	必修
第４欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		4	教育方法論（保育）	2	3	必修
					子どもとメディア	2	3	
		幼児理解の理論及び方法			子ども理解の理論と方法	2	2	必修
		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			教育相談（子育て支援を含む）	2	2	必修
第５欄	教育実践に関する科目	教育実習		5	教育実習指導	1	4	必修
					教育実習	4	4	必修
		教職実践演習		2	保育・教職実践演習（幼）	2	4	必修
第６欄	大学が独自に設定する科目			14	最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について併せて 14 単位以上を修得			

＜免許法施行規則第66条の６に定める科目＞

「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」からそれぞれ２単位以上を修得します。

科目	授業科目	単位数	履修年次	履修方法	
日本国憲法	日本国憲法	2	1	必修	リベラルアーツ学群 専攻科目
体育	健康とスポーツ	2	1	必修	健康福祉学群 専攻科目
	スポーツ（ウィークリースポーツ）	各1	1	1単位 必修	
	スポーツ（シーズンスポーツ）	各1	1		
外国語コミュニケーション	英語コアⅠ A	2	1	2単位 必修	コア科目
	英語コアⅠ B	2	1		
	英語コアⅡ A	2	1		
	英語コアⅡ B	2	1		
	英語エレクティブⅠ－初級	各1	1		外国語科目
	英語エレクティブⅡ－中級	各1	1		
	英語エレクティブⅢ－上級	各1	1		
	英語エレクティブⅣ－特設	各1	1		
	英語エレクティブⅤ－特設	各2	1		
情報機器の操作	コンピュータリテラシーⅠ	2	1	2単位 必修	コア科目
	コンピュータリテラシーⅡ	2	1		基盤教育科目

４．教育実習

教育実習は「教科及び教職に関する科目」のひとつとして履修するものです。学外の実習園において、実地に保育に参加して行われるものです。しかし、それは本学が責任を持ち、受け入れ側実習園との緊密な連絡のもとに実施するものですから、必ず所定の手続きを踏み、指導事項を守らなければなりません。予定された教育実習が不可能となった場合や問題が生じた場合は、速やかに実習支援センターに連絡をして、その後の指示を受けてください。

⑴　実習時期と実習期間

幼稚園教諭１種の免許状の取得に必要な教育実習期間は、３週間です。

教育実習　（観察実習、参加実習、部分実習、責任実習）　３週間　４年次春学期

時期については事情により変更することがあります。

⑵　教育実習履修資格

教育実習を行うにあたっては、以下の科目を修得済であることが条件となります。

「教職入門（保育）」「教育原理（保育）」「保育内容（健康）」「保育内容（環境）」「保育内容（表現）」

⑶　教育実習園の決定

実習先は、幼稚園教職課程登録時に提出する希望調査票に基づいて配属を決定し、大学から幼稚園へ依頼し内諾を得ます。

⑷　「教育実習指導」の履修

教育実習を行うにあたっては「教育実習指導」の授業を同時に履修していることが条件となります。また、授業とは別に教育実習に関する書類の配布、申込方法の説明などの事前指導等を行いますので、必ず出席してください。

16. 社会福祉主事任用資格

社会福祉主事任用資格は本来、各地方自治体の福祉事務所などに従事する公務員（ケースワーカーなど）として任用される者に要求される資格ですが、社会福祉施設の職員等の資格にも準用されています。

なお、任用資格とは、所定の要件を満たし、該当する職種に就いて初めて通用するものです。

本学では、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目（以下「指定科目」という）から３科目以上を修得して卒業した者に対し、申請により証明書の発行を行っています。なお、資格取得に必要な所定の科目は、それぞれ開講されるキャンパスで履修する必要があるため、所定の科目が開講されるキャンパスを事前に確認してください。

また、指定科目の読替の範囲としてあげられている科目名と同じ名称の科目を修得していれば、指定科目を修得したこととなります。

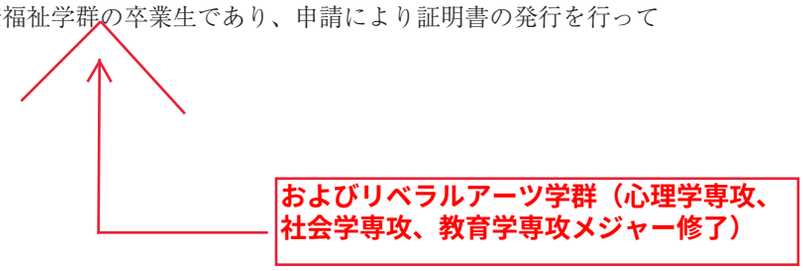
詳細は、厚生労働省のホームページを参照してください。

社会福祉概論、社会保障論、社会福祉行政論、公的扶助論、身体障害者福祉論、老人福祉論、児童福祉論、家庭福祉論、知的障害者福祉論、精神障害者保健福祉論、社会学、心理学、社会福祉施設経営論、社会福祉援助技術論、社会福祉事業史、地域福祉論、保育理論、社会福祉調査論、医学一般、看護学、公衆衛生学、栄養学、家政学、倫理学、教育学、経済学、経済政策、社会政策、法学、民法、行政法、医療社会事業論、リハビリテーション論、介護概論

17. 児童指導員任用資格

児童指導員は、家庭の事情や障害などのため、児童福祉施設で生活する児童を援助、育成、指導する職種であり、児童指導員任用資格は、児童福祉施設が児童指導員を採用する際の基準として定められた資格です。

本学における資格取得対象となり得る学生は、健康福祉学群の卒業生であり、申請により証明書の発行を行っています。



18. 操縦士（国家資格）

操縦士の資格を取得するためには、国土交通省航空局（アメリカ合衆国の資格はアメリカ連邦航空局）の定める国家試験に合格しなければなりません。

この資格の養成課程を履修できるのは航空・マネジメント学群航空・マネジメント学類フライト・オペレーションコースの学生に限ります。

1．操縦士の業務範囲

操縦士は、航空機に乗り組んで操縦を行うことを業務とします。資格によって行うことができる業務は異なっており、報酬を受けて操縦士としての業務を行う場合は「事業用操縦士技能証明」の資格が必要となります。

2．国家試験について

操縦士になるためには、一定の年齢及び飛行経歴を充足し、資格別、航空機の種類別に行われる国家試験を受け、合格する必要があります。国家試験には、学科試験と実地試験があり、学科試験に合格しなければ実地試験を受験することはできません。また、操縦士は常に健康の保持に留意しなければならず、国が指定した機関及び指定した航空身体検査医による身体検査を受験し、第１種航空身体検査証明の交付を受ける必要があります。さらに、電波法に基づく航空無線通信士（国家資格）の取得と ICAO 航空英語検定 Level 4 が要求されています。

3．本学の養成課程で取得を目指す資格

国土交通省航空局：「事業用操縦士技能証明（多発）」、「計器飛行証明」、「ICAO 航空英語検定 Level 4 」
アメリカ連邦航空局：「自家用操縦士技能証明」、「事業用操縦士技能証明（多発）」、「計器飛行証明」
総　　務　　省：「航空無線通信士」

4．資格取得までのスケジュール

１年次春学期から２年次春学期までに、国土交通省航空局「事業用操縦士技能証明」・「計器飛行証明」の学科試験合格及び総務省「航空無線通信士」の資格取得を目指します。

２年次秋学期から ３年次秋学期までは、渡航先にて、概そ１年の飛行訓練課程で操縦技倆を修得し、アメリカ連邦航空局「自家用操縦士技能証明」、「事業用操縦士技能証明」、「計器飛行証明」「ICAO 航空英語検定 Level 4」を取得し、帰国後国土交通省航空局「事業用操縦士技能証明」、「計器飛行証明」実地試験合格を目指します。

5．履修上の注意

１．１年次秋学期までの通算 GPA2.5未満の場合は、以降、フライト・オペレーションコースには在籍できません。
２．２年次秋学期から始まる渡航先での操縦実技科目を履修するためには、２年次春学期終了時に以下の①～④の要件を全て満たす必要があります。

① 国土交通省航空局「事業用操縦士技能証明」及び「計器飛行証明」の学科試験合格
② 総務省「航空無線通信士」の資格取得
③ TOEIC®650点以上。TOEIC® の SP（公開テスト）もしくは JFOU プログラムの IP（団体特別受験）のスコアが必要です。
④ GPA2.5以上（２年次春学期終了時までの通算）

本学学生としてのマナー・ルール違反、訓練委託先でのマナー・ルール違反があった場合、もしくは学修内容及び操縦適性を判断し、操縦実技科目の履修継続に支障があると認められた者に対しては、履修を中止（渡航中の場合は帰国、以後の履修は不可）させることがあります。

同一国家試験（それぞれ学科・実技共に）の受験は原則２回までとします。また操縦実技科目の履修では、個人毎に訓練進捗の差が生じるため、大幅に遅延した場合、４年次秋学期までに必要な単位数取得が困難になる場合があります。

19. 航空無線通信士（国家資格）

航空会社のパイロット、運航管理者、航空交通管制官等に従事するために必要な資格です。整備管理や空港マネジメント業務にも持っていると有利な資格です。

詳細は、公益財団法人日本無線協会のホームページを参照してください。

20. ECO-TOP プログラム（東京都認証）

1．ECO-TOP プログラムとは

「ECO-TOP プログラム」とは、今後の持続可能な社会の構築に向けて、自然環境分野で幅広い知識と専門性を備えアクティブに行動できる人材を育成し、人材の能力を認証するための、東京都の人材育成プログラムです。（「ECO-TOP」とは、「自然環境保全のための人材育成プログラム」の英語訳である、Ecological Conservation-Training of Personnel Program の頭文字を取った略称です。）

「ECO-TOP プログラム」の修了者は、東京都に登録され、自然環境分野に関する情報を定期的に得られたり、企業・NPO・行政から構成されるネットワークに入ることができるといった、フォローアップが受けられます。

詳細は、東京都の ECO-TOP プログラム　ホームページを参照してください。

http : //www.eco-top.jp/index.php

2．ECO-TOP プログラムの修了に必要な科目と単位数

授業概要に定める科目区分		単位数	科　目　名	単位数	備　　考
必修科目	カリキュラムの導入科目	４単位必修	環境と文明	4	
	カリキュラムの最終科目	２単位必修	環境科学総合演習	2	卒業論文に条件を課すもの
	安全管理 ~~救急救命~~に関する科目	1単位必修	野外安全管理 ~~救急救命演習~~	1 ~~1~~	
選択科目	カリキュラムの導入科目	２単位選択必修	自然理解（ヒトの生物学） 自然理解（生物の一様性と多様性） 生物学概論 自然理解（実感する化学） 化学概論 地学概論	2 2 2 2 2 2	 「生物学概論」との重複履修不可 「自然理解(生物の一様性と多様性)」との重複履修不可
		２単位選択必修	自然理解（環境問題入門） 社会理解（環境の科学）	2 2	
	自然環境に関する自然科学分野の科目	４単位選択必修	動物学Ⅰ 動物学Ⅱ 植物学Ⅰ 植物学Ⅱ 生態学Ⅰ 生態学Ⅱ 生物学実験Ⅰ 生物学実験Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2	
		２単位選択必修	人と自然 環境生物学 自然環境調査法 生体物質化学 エネルギーと環境 地球規模環境論Ⅰ 地球規模環境論Ⅱ 海洋学 感覚公害論	2 2 2 2 2 2 2 2 2	
		４単位選択必修（注）	専攻演習Ⅰ 専攻演習Ⅱ	2 2	（注）専攻演習Ⅰ及び専攻演習Ⅱをいずれも必修（合計４単位）とし、自然科学分野又は社会科学分野から選択
		選択科目	無機化学Ⅰ 無機化学Ⅱ 基礎有機化学 有機合成化学 気象学Ⅰ 気象学Ⅱ 地質学Ⅰ 地質学Ⅱ 自然理解（人は天を見上げて考える） 環境化学	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	

（次のページに続く）

授業概要に定める科目区分		単位数	科　目　名	単位数	備　　考
選択科目	自然環境に関する社会科学分野の科目	４単位選択必修	環境法学	4	
			環境経済論	4	
		２単位選択必修	文系のための環境科学	2	
			環境マネジメント論	2	
			環境ビジネス論	2	
			企業とエネルギー	2	
			観光リゾート開発論	2	
			観光地域振興論	2	
			国際環境交渉論	2	
		４単位選択必修（注）	専攻演習Ⅰ	2	（注）専攻演習Ⅰ及び専攻演習Ⅱをいずれも必修（合計４単位）とし、自然科学分野又は社会科学分野から選択
			専攻演習Ⅱ	2	
		選択科目	都市環境政策Ⅰ	2	
			都市環境政策Ⅱ	2	
			環境と地域	2	
			環境とまちづくり	2	
			環境社会学	4	
			持続可能な開発	4	
			食品安全論	2	
			化学と人間社会	2	
			国際関係論	4	
			国際協力論	4	
			環境 NPO・NGO	2	
			社会環境調査法	2	
			エコロジー・デザイン特殊講義	2	
			社会理解（環境問題と環境法）	2	
			エコビジネス	2	
	自然環境に関する人文科学分野の科目	２単位選択必修	環境倫理学	2	
			人間環境学	4	
			環境・生命・人権の哲学	2	
			江戸から学ぶ環境	2	
			地理学概論	4	
		２単位選択必修	オーラルコミュニケーション（話す）	2	
			オーラルコミュニケーション（きく）	2	
			集団コミュニケーション	2	
			環境教育論	2	
必修科目	インターンシップ	６単位必修	ECO-TOP インターンシップ事前研修	1	
			ECO-TOP インターンシップⅠ	2	
			ECO-TOP インターンシップⅡ	2	
			ECO-TOP インターンシップ事後研修	1	
必修科目　13単位 選択必修科目　24単位 選択科目　（０単位）		7単位（導入科目、最終科目、安全管理）＋６単位（インターン） 開設98単位のうち24単位を選択必修 開設58単位から自由選択			
修了判定基準		必修条件をクリアし、合計37単位以上			

※資格取得に必要な所定の科目は、それぞれ開講されるキャンパスで履修する必要があります。所定の科目が開講されるキャンパスを事前に確認してください。時間割の関係上、４年間でも資格取得が困難な場合があるため、ご注意ください。

参　考　資　料

以下は、2019年度の大学学則です。2020年度の大学学則は、本学ウェブサイトを参照してください。

１．桜美林大学学則

第１章　総　　則

第１節　目的及び達成の評価

（目的）

第１条　桜美林大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、専門学芸の研究と教育を行い、キリスト教精神に基づいた教養豊かな識見の高い国際的人材を育成することを目的とする。

（目的達成の点検と評価）

第２条　本学は、前条の目的を達成するため、教育研究活動の状況を点検し評価を行い、その結果を公表する。

２　前項の点検、評価及び結果の公表の方法並びに組織については、別に定める。

第２節　組　　織

（学群、学系及び学類）

第３条　本学に、学校教育法第85条但し書きに定める組織として、学群及び学系を置く。

２　前項の学群は、教育上の目的及び機能に応じて組織するものとし、その種類及び定員は次のとおりとする。

学群・学類		入学定員	３年次編入学定員	収容定員	備考
リベラルアーツ学群		950人	—	3800人	
芸術文化学群		400人	—	1600人	
ビジネスマネジメント学群	ビジネスマネジメント学類	400人	—	1600人	
	アビエーションマネジメント学類	80人	—	320人	
健康福祉学群		300人	—	1200人	入学定員に保育専修50人を含む
グローバル・コミュニケーション学群	グローバル・コミュニケーション学類	250人	—	1000人	

３　第１項の学群において、教育上の目的及び機能に応じて、学類を設けることができる。

４　第２項の学群において、学年定員に欠員が生じた場合等、特別な事情がある場合、編入学等により学生を受け入れることがある。

５　第１項の学系は、研究上の目的に応じ、かつ、教育上の必要性を考慮して学群及び大学院に対応して組織するものとし、その種類、その他必要な事項は、別に定める。

（養成する人材等）

第３条の２　前条の学群、学類の人材養成等に関する目的は、次のとおりとする。

⑴　リベラルアーツ学群は、広範な知識と深い専門性に裏付けられた思考力、分析力、柔軟な発想力を身につけた人間性豊かな人材の養成等を目的として、総合的教養及び専門的基礎学術に係る教育等を行う。

⑵　芸術文化学群は、演劇、音楽、造形デザイン、映画等の分野を幅広く追求し、アートの専門家として社会に通用するスキルを身につけた人材の養成等を目的として、総合的文化教育（芸術系分野）に係る教育等を行う。

⑶　ビジネスマネジメント学群ビジネスマネジメント学類は、国際社会で必要なビジネス感覚を養い、広範な知識から発想し、意思決定の行える、新しい経営マインドを備えた人材の養成等を目的として、幅広い職業人養成に係る教育等を行う。

⑷ ビジネスマネジメント学群アビエーションマネジメント学類は、確かな知識・技倆を身につけ、新しい経営マインドを備えた航空業界で活躍する人材の養成等を目的として、専門的な職業人養成に係る教育等を行う。
⑸ 健康福祉学群は、専門領域における確かな知識・技術を身につけ、人々の願い、悩み、喜びに共感できる、感性豊かな人間性をそなえた健康と福祉のエキスパートの養成等を目的として、専門的な職業人養成に係る教育等を行う。
⑹ グローバル・コミュニケーション学群グローバル・コミュニケーション学類は、語学に長け、コミュニケーション能力が高く、分析や創造を伴う思考力と問題解決に向けた計画力や実行力を有する人材の養成等を目的とし、協働活動を通してグローバルリーダーシップの基礎基本を修養できる教育等を行う。

（教育基本組織以外の教育組織）
第４条 本学に、第３条の教育基本組織に共通する教育を一括して行うため、教育基本組織以外の教育組織を置くことができる。
２ 教育基本組織以外の教育組織に関する規程は、別に定める。

（大学院）
第５条 本学に、大学院を置く。
２ 大学院に関する学則は、別に定める。

（別科）
第５条の２ 本学に、別科の課程として留学生別科及び中国語特別課程を置く。
２ 留学生別科及び中国語特別課程に関する規程は、別に定める。

（附置研究組織）
第６条 本学に、専門学術研究の振興を目的とし、附置研究組織を置くことができる。
２ 附置研究組織に関する規程は、別に定める。

（附属図書館）
第７条 本学に、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を教職員及び学生の閲覧に供するため、図書館を置く。
２ 図書館に関する規程は、別に定める。

第３節 教 職 員（省略）

第４節 大学運営会議、教授会（省略）

第５節 学年、学期、休業日及び授業期間

（学年）
第22条 学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。

（学期）
第23条 学年を、次の２学期に分ける。
春学期 ４月１日から９月15日まで
秋学期 ９月16日から翌年３月31日まで

（休業日）
第24条 大学における授業を行わない日（以下「休業日」という。）は、次のとおりとする。
⑴ 日曜日及び国民の祝日に関する法律で定められた休日
⑵ 創立記念日（５月29日）

⑶ 春季休業　３月20日から４月５日まで
⑷ 夏季休業　８月１日から９月15日まで
⑸ 冬季休業　12月25日から翌年１月７日まで
２　学長は、臨時に前項の休業日を変更し、又は休業日に授業を行わせ、もしくは臨時休業日を定めることができる。

（授業期間）
第25条　授業を行う期間は、試験等の期間を含め、年間35週にわたることを原則とする。

第２章　学群通則

第１節　修業年限及び在学年限

（修業年限及び在学年限）
第26条　学士課程の標準修業年限は、４年とする。なお、編入学者の標準修業年限は、第２年次に入学した者については３年、第３年次に入学した者については２年とする。
２　在学年数は、標準修業年限の２倍の年数を超えることはできない。
３　大学の学生以外の者として本学において一定の単位を修得した者が本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、修得した単位数その他の事項を勘案し、２年を上限として第１項の修業年限に通算することができる。

第26条の2　本学は、別に定めるところにより、本学の学群に３年以上在学した学生が、卒業の要件として本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、第26条第１項の規定にかかわらず、その卒業を認めることができる。

（科目等履修生の在学年限）
第27条　第26条の規定にかかわらず、科目等履修生の在学年限については、学長が別に定める。

第２節　入　　学

（入学の時期）
第28条　入学の時期は、毎学年の始めとする。但し、第29条の各号に該当する者で、教育上支障がないときは、９月に入学を許可することがある。

（入学資格）
第29条　本学に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。
⑴ 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
⑵ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
⑶ 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
⑷ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
⑸ 専修学校の高等課程（修業年限が３年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
⑹ 文部科学大臣の指定した者
⑺ 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
⑻ 学校教育法第90条第２項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
⑼ 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18

歳に達したもの

（入学の出願）
第30条　本学への入学を志願する者は、所定の入学願書その他の必要書類を入学検定料とともに、本学の指定する期日までに提出しなければならない。

（入学者の選考）
第31条　前条の入学志願者の選考については、別に定める。

（入学の手続き）
第32条　前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに本人と保証人連署の誓約保証書のほか、定められた書類を提出するとともに、定められた期日までに所定の納入金を納付しなければならない。

（入学の許可）
第33条　学長は、前条の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

（入学前の既修得単位等の認定）
第34条　本学は、教育上有益と認めるときは、新たに本学の第１年次に入学した学生の、次の各号の一に該当する既修得単位等を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
⑴　大学又は短期大学（外国の大学・短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生により修得した単位を含む。）
⑵　短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修の本学の認定による単位
２　本学において修得したとみなすことができる単位数は、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第44条及び第45条により認定された単位数と合わせて60単位を限度とし、認定は当該学群の教授会の議を経て学長が決定する。

（編入学等）
第35条　第３条第４項の場合において、次の各号の一に該当する者で、本学への編入学等を志願する者があるときは、選考のうえ第２年次もしくは、第３年次に入学を許可する。
⑴　大学を卒業した者又は大学に２年以上在籍し中途退学した者
⑵　短期大学又は高等専門学校を卒業した者
⑶　学校教育法施行規則附則第７条の規定により大学に編入学することができる者
⑷　専修学校の専門課程（修業年限が２年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（但し、学校教育法第90条第１項に規定する者に限る。）
⑸　高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）の専攻科の課程（修業年限が２年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（但し、学校教育法第90条第１項に規定する者に限る。）
２　前項の規定により入学を許可された者の既に修得した授業科目、及び単位数の取扱いについては、卒業要件単位の２分の１を上限として、当該学群の教授会の議を経て学長が決定する。

第３節　教育課程及び履修方法等

（授業科目及び単位）
第36条　本学における授業科目及びその単位数は、別表Ⅰのとおりとする。

（授業科目の区分）
第37条　授業科目はこれを分けて、必修科目、選択科目及び自由科目とする。

（授業の方法）
第37条の2　授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
２　前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることがある。
３　前項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。

（教育内容等の改善のための組織的な研修等）
第37条の3　本学は、本学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（単位の計算方法）
第38条　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の各号の基準によって計算する。
⑴　講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で定められた時間の授業をもって１単位とする。
⑵　実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で定められた時間の授業をもって１単位とする。但し、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、相応の時間の授業をもって１単位とする。
⑶　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち２以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して定められた時間の授業をもって１単位とする。
２　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作、校外学習・個別課題学習等の授業科目及び公の技能審査等による認定を受けた者については、これらの学修の成果を評価して、適切な単位を授与することができる。

（単位の授与）
第39条　単位の授与は、原則として試験によるものとする。
２　一の授業科目を履修した者に対しては、試験のうえ単位を与えるものとする。

第40条　削除

（受験資格）
第41条　一の授業科目について欠席時間数が授業時間数の３分の１を超えた者は、その科目の試験を受けることができない。
２　授業料その他の学納金未納の者は、試験を受けることができない。

第42条　削除

（成績）
第43条　履修した授業科目の成績は、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｆをもって表わし、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄを合格とする。但し、学長が必要と認めるときは、これら以外の表記で成績を表すことができる。

（他大学等における授業科目の履修等）
第44条　本学は、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）の授業科目を履修することを認める。
２　本学において修得したものとみなすことができる単位数は、第34条及び第45条により認定された単位数と合わせて60単位を限度とし、認定は当該学群の教授会の議を経て学長が決定する。

（大学以外の教育施設等における学修）
第45条　本学は、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修と認める。
２　本学において修得したものとみなすことができる単位数は、第34条及び第44条により認定された単位数と合わせて60単位を限度とし、認定は当該学群の教授会の議を経て学長が決定する。

（履修届及び履修科目の登録の上限）

第46条　学生は各学期初めに履修する科目を選定し、学長に届け出るものとする。

2　学生が１学期に履修できる単位数は、卒業の要件とはならない科目を除き、20単位を上限とする。

3　前項の規定にかかわらず、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められる学生等については、別に定めるところにより、上限を超えた履修科目の登録を認めることがある。

（取得できる資格）

第47条　本学で取得できる資格は、次の各項のとおりとする。

2　本学において取得できる教育職員免許状の種類及び教科名は、次のとおりとする。

学群・学類	免許状の種類	教科名
リベラルアーツ学群	中学校教諭１種免許状	国語
	高等学校教諭１種免許状	国語
	中学校教諭１種免許状	社会
	高等学校教諭１種免許状	地理歴史
	高等学校教諭１種免許状	公民
	中学校教諭１種免許状	数学
	高等学校教諭１種免許状	数学
	中学校教諭１種免許状	理科
	高等学校教諭１種免許状	理科
	高等学校教諭１種免許状	情報
	中学校教諭１種免許状	外国語（英語）
	高等学校教諭１種免許状	外国語（英語）
	中学校教諭１種免許状	外国語（中国語）
	高等学校教諭１種免許状	外国語（中国語）
芸術文化学群	中学校教諭１種免許状	音楽
	高等学校教諭１種免許状	音楽
	中学校教諭１種免許状	美術
	高等学校教諭１種免許状	美術
健康福祉学群	中学校教諭１種免許状	保健体育
	高等学校教諭１種免許状	保健体育
	幼稚園教諭１種免許状	

3　前項に示した教育職員免許状を得ようとする者は、学士の学位の取得に加え、教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を修得しなければならない。

4　博物館法（昭和26年法律第285号）に基づく学芸員の資格を得ようとする者は、それぞれに規定する教科目及び単位数を修得しなければならない。

5　学校図書館法（昭和28年法律第185号）に基づく司書教諭の資格を得ようとする者は、それぞれに規定する教科目及び単位数を修得しなければならない。

6　児童福祉法施行規則（昭和23年厚生省令第11号）に基づく保育士資格を得ようとする者は、別に定める教科目及び単位数を修得しなければならない。

第４節　休学・転学・留学・転群転類・退学・除籍及び再入学

（休学）

第48条　病気又はその他やむを得ない事由により就学することができないときは、事由を付して保証人連署のうえ休学願を提出しなければならない。なお、必要な場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2　前項の願い出があったときは、学長は当該学群の教授会の議を経てこれを許可する。

第49条　休学の期間が１年を超えるときは、改めて休学願を提出しなければならない。

第50条　休学の期間は、引続き２年を超えることはできない。
２　休学の期間は、在学中を通じて３年を超えることはできない。
３　前２項の期間は、在学年数に算入しない。

第51条　休学の事由が終わったときは、願い出により復学することができる。
２　復学の時期は、各学期の初めとする。

（転学）
第52条　本学から他の大学に転学を志望する者があるときは、学長は当該学群の教授会の議を経てこれを許可する。

（留学）
第53条　外国の大学への留学を志望する者は、学長に願い出てその許可を得て留学することができる。
２　許可を受けて留学した者の外国の大学での在学期間は、２年を限度として、本学における在学期間に算入することができる。
３　この規定に定める留学に関し必要な事項は、学長が定める。

（転群転類）
第54条　本学在学者で本学の他学群・他学類等への転群、転類等を志望する者があるときは、学長は当該両学群の教授会の議を経てこれを認めることがある。
２　前項の転群転類者の在学年数については、元の学群、学類等の在学年数の全部又は一部を算入することができる。

（退学）
第55条　本学を退学しようとする者は、事由を付して保証人連署のうえ退学願を提出しなければならない。
２　前項の願い出があったときは、学長は当該学群の教授会の議を経てこれを許可する。

第56条　削除

（除籍）
第57条　次の各号の一に該当する者は、当該学群の教授会の議を経て学長が除籍する。
⑴　第26条第２項に定める在学年限を超えた者
⑵　第50条第１項並びに第２項に定める休学期間を超えてなお就学できない者
⑶　学納金納付期限を超えて、所定の学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

（再入学）
第57条の2　退学者及び第57条第１項第３号により除籍された者が再入学を願い出たときは、学長は当該学群の教授会の議を経てこれを許可することがある。その場合、所定の期日までに所定の学納金を納付しなければならない。
２　再入学の時期は、各学期の初めとする。
３　懲戒処分により退学した者には、原則として再入学を許可しない。

第５節　卒業及び学位

（卒業要件）
第58条　卒業要件は、大学に４年以上在学し（第26条の２が適用される場合を除く。）、本学において定められた教育課程を履修して、別に定める基準を満たしたうえで124単位以上を修得することとする。

（学位）
第59条　本学を卒業した者には、次の学士の学位を授与する。

学群・学類		課程	学位（専門分野の名称）
リベラルアーツ学群		学士課程	学士（学術）
芸術文化学群		学士課程	学士（総合文化学）
			学士（芸術）
ビジネスマネジメント学群	ビジネスマネジメント学類	学士課程	学士（経営政策学）
	アビエーションマネジメント学類	学士課程	学士（アビエーションマネジメント）
健康福祉学群		学士課程	学士（社会福祉学）
			学士（精神保健福祉学）
			学士（健康科学）
			学士（保育学）
			学士（健康福祉学）
グローバル・コミュニケーション学群	グローバル・コミュニケーション学類	学士課程	学士（グローバル・コミュニケーション）

2　この学則に定めるもののほか、学位及びその授与に関し必要な事項は、本学学位規則に定める。

第６節　賞　　罰

（表彰）

第60条　本学の教育目的に添い、成績優秀で他の模範となる行為のあった者は、学長がこれを表彰する。

（懲戒）

第61条　学則又は学内の規則に反し、その他学生としてふさわしくない行為のあった者には、学長は当該学群の教授会の議を経て懲戒を行うことがある。

第62条　懲戒は、退学、停学及び訓告とする。

2　退学は、次の各号の一に該当する者に対して行うことができる。

⑴　性行不良で改善の見込がないと認められる者

⑵　学力劣等で成業の見込がないと認められる者

⑶　正当な事由がないにもかかわらず出席が常でない者

⑷　本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

3　懲戒処分の基準及びその手続きについては、別に定める。

第７節　学生指導

（学生指導委員会）

第63条　本学に、学長の諮問に応じ、学生の指導・厚生に関する重要な事項を審議する学生指導委員会を置く。

2　学生指導委員会に関する規程は、別に定める。

第８節　厚生施設及び寄宿舎

（厚生施設）

第64条　教職員及び学生は、別に定める規則に従って、次の施設を利用することができる。

⑴　医療保健施設及び医務室

⑵　セミナー施設

⑶　その他の施設

（寄宿舎）

第65条　本学に、寄宿舎を置くことができる。

2　寄宿舎に関する規程は、別に定める。

第９節　科目等履修生、聴講生、外国人留学生、特別聴講学生及び研究生

（科目等履修生）

第66条　本学所定の授業科目のうち１科目又は複数科目の履修を志願する者があるときは、本学学生の教育に支障のない範囲において、学長は当該学群等の教授会の選考を経て科目等履修生として履修を許可することがある。

２　科目等履修生に対する単位の授与については、第39条の規定を準用する。

３　科目等履修生として入学を志願する者は、所定の願書、その他の必要書類を選考料とともに指定の期日までに提出しなければならない。

（聴講生）

第67条　本学所定の授業科目のうち１科目又は複数科目の聴講を志願する者があるときは、本学学生の教育に支障のない範囲において、学長は当該学群等の教授会の選考を経て聴講生として聴講を許可することがある。

２　聴講生として入学を志願する者は、所定の願書、その他の必要書類を選考料とともに指定の期日までに提出しなければならない。

３　聴講生には試験を行わない。

（外国人留学生）

第68条　外国人で、大学において教育を受けることを目的として入国し、本学に入学を志願する者があるときは、学長は選考のうえ当該学群の教授会の議を経て外国人留学生として入学を許可することがある。

２　前項の外国人留学生に対しては第36条に係る別表のほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

（特別聴講学生）

第69条　他の大学等（外国の大学を含む。）の学生で、本学において授業科目を履修することを志望する者があるときは、当該他大学等との協議に基づき、学長は特別聴講学生として入学を許可することがある。

（研究生）

第70条　本学において、特定の専門事項について研究することを志望する者があるときは、本学学生の教育に支障のない範囲において、学長は当該学群の教授会の選考を経て研究生として入学を許可することがある。

２　研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

３　研究期間は、１年又は１学期とする。但し、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

（科目等履修生、聴講生、外国人留学生、特別聴講学生及び研究生に関する規程）

第71条　科目等履修生、聴講生、外国人留学生、特別聴講学生及び研究生に関する規程は、別に定める。

第10節　学 納 金

（学納金）

第72条　本学の入学検定料、入学金、施設設備費、授業料、教育充実費、実験実習費の納入額は、別表Ⅱのとおりとする。

第73条　入学検定料、入学金、施設設備費、授業料、教育充実費、実験実習費、その他臨時に定める学納金は、本学の指定する期日までに納付しなければならない。

第74条　やむを得ない事由のため学納金の納付が困難となった者については、願い出により納付期限を延長し、又は分納を許可することがある。

第75条　１学期を通じて休学する者は、別表Ⅲに定めた額を納付するものとする。

第75条の2　他の大学（外国の大学を含む。）との共同学位プログラムを学修する者の当該他大学で学修する期間の学納金は、当該他大学が定めた額を当該他大学に直接納付するものとし、本学へは別表Ⅳに定めた額を納付するものとする。

第76条　学期の途中で退学、転学、又は休学した者については、その期の学納金は徴収する。

第77条　科目等履修生、聴講生、外国人留学生、特別聴講学生及び研究生の学納金については、別に定める。

第78条　既に納付した学納金は、原則としてこれを返還しない。

第11節　公開講座

（公開講座）
第79条　本学に、随時、公開講座を開設し、学生及び地域の文化的向上に資する。

第12節　学則の改廃

（学則の改廃）
第80条　本学則の改廃は、大学運営会議及び常務理事会の議を経て理事会が行う。

附　則（一部省略）

附　則
本学則は平成31年４月１日から施行する。

2024年9月16日以降廃止

２．桜美林大学卒業規則

（趣旨）

第 １ 条　この規程は、桜美林大学学則（以下「学則」という。）第26条の２及び第58条に基づき、桜美林大学（以下「本学」という。）の学生の卒業に関する事項を定めるものとする。

（卒業の認定）

第 ２ 条　卒業の認定は、教授会の議を経て学長が行う。

２　卒業の認定は、学生が次の各号に掲げるすべての要件を満たした場合に行うことができる。

(1)　本学に４年以上在学していること。ただし、第２年次に編入学した者は３年以上、第３年次に編入学した者は２年以上在学していること。

(2)　本学において定められた教育課程を履修し、124単位以上を修得していること。

(3)　在学期間における成績平均値（以下「GPA」とする。）が1.5以上であること。

~~(4)　当該学生が卒業を希望していること。~~

(4)　所定の納付金をすべて納付済みであること。

(5)　当該学生が卒業を希望していること。

３　前項の規定にかかわらず、前項第３号の要件のみを満たしていない者で、特別の事由があると認める場合には、学長は教授会の議を経て卒業を認定することがある。

（早期卒業）

第 ３ 条　前条の規定にかかわらず、学生が次の各号に掲げるすべての要件を満たした場合には、学長は教授会の議を経て卒業の認定を行うことができる。ただし、学則第26条第３項に該当し、修業年限を通算した者を除く。

(1)　本学に３年以上在学していること。

(2)　本学において定められた教育課程を履修し、124単位以上を修得していること。

(3)　在学期間における GPA が3.6以上であること。

(4)　当該学生が卒業を希望していること。

(5)　その他教授会が必要と認め、学長が承認した要件を満たしていること。

（卒業希望届）

第 ４ 条　卒業を希望する者は、卒業を予定する学期の定められた期日までに、学長に願い出なければならない。

~~（卒業願出の要件）~~

~~第 ５ 条　前条の願出は、所定の納付金をすべて納付済みのものでなければ、これをすることができない。~~

（雑則）

第 ~~６~~5条　この規則に定めるもののほか、卒業に関する必要な事項は、学長が定める。

２　この規則の改廃は、大学運営会議の議を経て常務理事会が行う。

附　則

１　この規則は、平成15年４月１日から施行し、平成13年度入学者から適用する。

２　第２条のうち、第３号の要件のみを満たしていない者で特別の事情があると認める場合には、教授会の議を経て、卒業を認めることがある。

３　第３条の規定は、平成13年３月31日以前から引き続き大学に在学する者（同日前に大学に在学し、同日以降に再び大学に在学することとなった者を含む。）については、適用しない。

附　則

この規則は、平成23年４月１日より施行する。

附　則

この規則は、平成24年４月１日から施行し、平成24年度以降に入学した者に適用する。

附　則

この規則は、平成25年11月７日から施行する。

附　則

この規則は、平成27年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、平成31年４月１日から施行する。

附　則

この規則は、令和５年２月２日から施行し、平成26年度以降に入学した者にする。

3．科目ナンバリングコード

【表4】十の位：学問分野・領域の細分

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
CHR	キリスト教学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	聖書神学
		2	歴史神学
		3	教義学
		4	実践神学
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
ACG	アカデミック・キャリアガイダンス	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	人文科学
		2	人文科学
		3	社会科学
		4	社会科学
		5	自然科学
		6	自然科学
		7	学際・統合科学
		8	学際・統合科学
		9	－
HUM	人文科学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	哲学
		2	宗教学・神学・仏教学
		3	美学
		4	心理学
		5	文学
		6	芸術学
		7	言語学
		8	－
		9	－
SSC	社会科学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	政治学・政策科学
		2	法学
		3	経済学
		4	経営学
		5	社会学
		6	文化人類学
		7	教育学
		8	歴史学
		9	－
NSC	自然科学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	数学
		2	物理学
		3	化学
NSC	自然科学	4	生物学
		5	地球惑星科学
		6	天文学・宇宙科学
		7	－
		8	－
		9	工学
IDP	総合科学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	情報学・情報科学
		2	環境学
		3	生活科学
		4	博物学
		5	医学・歯学・薬学・看護学
		6	介護・福祉学
		7	－
		8	－
		9	－
ENG	英語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	Listening & Speaking リスニング・スピーキング
		2	Reading & Writing リーディング・ライティング
		3	Academic Skills アカデミック・スキルズ
		4	Skills Focus　スキル
		5	Contents Focus　コンテンツ
		6	Communication コミュニケーション
		7	Study Abroad　留学・異文化理解
		8	Test Preparation　テスト対策
		9	Test Preparation　テスト対策
JPN	日本語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	口頭表現・聴解
		2	文章表現・読解
		3	文化・文学・メディア
		4	社会・地理・歴史
		5	文法・文字
		6	コミュニケーション
		7	総論／総合／概論／一般／原論
		8	アカデミック・スキル
		9	体験活動
CHN	中国語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解

（次のページに続く）

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
CHN	中国語（外国語）	8	テスト対策
		9	−
ARA	アラビア語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	−
		2	−
		3	−
		4	−
		5	−
		6	−
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	−
BUR	ビルマ語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	−
		2	−
		3	−
		4	−
		5	−
		6	−
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	−
CAM	カンボジア語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	−
		2	−
		3	−
		4	−
		5	−
		6	−
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	−
FRE	フランス語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	−
		2	−
		3	−
		4	−
		5	−
		6	−
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	−
GER	ドイツ語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	−
		2	−
		3	−
		4	−
		5	−
		6	−
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	−
IND	インドネシア語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	−
		2	−
		3	−
		4	−
		5	−
		6	−
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	−
ITA	イタリア語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	−
		2	−
		3	−
		4	−
		5	−
		6	−
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	−
KOR	コリア語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	−
		2	−
		3	−
		4	−
		5	−
		6	−
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	−
LAT	ラテン語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	−
		2	−
		3	−
		4	−
		5	−
		6	−
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	−

（次のページに続く）

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
PRG	ポルトガル語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
RUS	ロシア語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
SPA	スペイン語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
THA	タイ語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
VIE	ベトナム語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
MON	モンゴル語（外国語）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	留学・異文化理解
		8	テスト対策
		9	－
PHL	哲学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	形而上学
		2	認識論
		3	論理哲学
		4	宗教哲学
		5	西洋思想
		6	東洋思想
		7	－
		8	－
		9	－
ETH	倫理学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	学説史
		2	思想史
		3	メタ倫理
		4	現代倫理
		5	社会倫理
		6	公共性
		7	人権学
		8	－
		9	－
REL	宗教学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	歴史
		2	哲学・思想
		3	諸宗教
		4	諸地域
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
ART	芸術学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	総論／総合／概論／一般／原論

（次のページに続く）

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
ART	芸術学	2	総論／総合／概論／一般／原論
		3	総論／総合／概論／一般／原論
		4	－
		5	総論／総合／概論／一般／原論
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
THE	演劇学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	戯曲
		2	演出
		3	演技
		4	演技
		5	演技
		6	演技
		7	舞台技術
		8	舞台技術
		9	制作
DNC	舞踊学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	クラシック
		2	クラシック
		3	コンテンポラリー
		4	コンテンポラリー
		5	－
		6	日本舞踊
		7	ジャズダンス
		8	コミュニティダンス
		9	－
MUS	音楽 (作曲･指揮･音楽学)	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	作曲
		2	指揮
		3	音楽学
		4	身体
		5	音楽療法
		6	音楽学
		7	－
		8	－
		9	－
VOM	音楽（声楽）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	声楽
		2	声楽
		3	声楽
		4	声楽
		5	声楽
		6	声楽
		7	声楽
VOM	音楽（声楽）	8	声楽
		9	声楽
INM	音楽（器楽）	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	器楽
		2	器楽
		3	器楽
		4	器楽
		5	器楽
		6	器楽
		7	器楽
		8	器楽
		9	器楽
VSA	ビジュアル・アーツ	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	制作
		2	ドローイング
		3	－
		4	－
		5	表現研究
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
FNA	美術	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	洋画（技法）
		2	洋画（油彩）
		3	洋画（コンテンポラリー）
		4	日本画
		5	陶芸
		6	彫塑
		7	美術論・洋画（技法）
		8	－
		9	－
DES	デザイン	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	グラフィック
		2	グラフィック
		3	ドローイング
		4	イラストレーション
		5	フォトアート
		6	テキスタイル
		7	テキスタイル
		8	建築
		9	CG
GRD	平面デザイン	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	グラフィック
		2	グラフィック
		3	ドローイング

（次のページに続く）

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
GRD	平面デザイン	4	イラストレーション
		5	フォトアート
		6	テキスタイル
		7	テキスタイル
		8	－
		9	CG
TDD	立体デザイン	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	インスタレーション
		2	プロダクト
		3	ランドスケープ
		4	空間演出
		5	－
		6	－
		7	－
		8	建築デザイン
		9	－
CIN	映画	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	総論／総合／概論／一般／原論
		2	製作
		3	演出・演技
		4	脚本
		5	撮影・照明
		6	美術
		7	録音・整音
		8	編集
		9	制作
LIT	文学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	日本
		2	韓国
		3	中国
		4	ロシア
		5	ドイツ
		6	フランス
		7	英語圏
		8	その他
		9	－
LIN	言語学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	理論言語学
		2	歴史言語学
		3	応用言語学
		4	個別言語学
		5	言語学史
		6	対照言語学
		7	コーパス言語学
		8	－
		9	－

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
JLS	日本語	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	読む
		2	書く
		3	聴く
		4	話す
		5	日本語学
		6	書道
		7	表現創作
		8	公的試験・留学対策
		9	－
ELS	英語	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	Reading
		2	Writing
		3	Listening
		4	Speaking
		5	英語学
		6	英語教育
		7	異文化理解
		8	公的試験・留学対策
		9	－
CLS	中国語	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	読む
		2	書く
		3	聴く
		4	話す
		5	中国語学
		6	中国語教育
		7	異文化理解
		8	資格
		9	－
JPE	日本語教育	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	言語知識
		2	言語知識
		3	教育・習得
		4	教育・習得
		5	スキル
		6	スキル
		7	文化・共生
		8	文化・共生
		9	－
HIS	歴史学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	日本
		2	アジア
		3	アメリカ
		4	ヨーロッパ
		5	その他の地域

（次のページに続く）

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
HIS	歴史学	6	－
		7	－
		8	－
		9	－
ANT	人類学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	宗教
		2	現代社会
		3	ジェンダー
		4	生業
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
LAW	法学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	基礎法
		2	公法
		3	国際法
		4	民事法
		5	企業法・経済法
		6	刑事法
		7	社会法
		8	新領域法
		9	－
POL	政治学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	政治思想史
		2	政治史
		3	比較政治・地域研究
		4	国際政治理論
		5	日本研究
		6	行政学・行政理論
		7	政治学・政治理論
		8	政治制度論・過程論
		9	政治文化論
INT	国際関係論	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	国際関係理論
		2	歴史
		3	ﾄﾗﾝｽﾅｼｮﾅﾙ・ｲｼｭ（国際交流論）
		4	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲｼｭ（地球規模課題）
		5	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｲｼｭ（地球規模課題）
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
ECO	経済学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	経済理論
		2	経済事情
		3	国際経済学
		4	財政・金融
		5	公共経済学
		6	労働経済学
		7	産業経済学
		8	経済史
		9	環境経済学
MGM	経営学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	企業経営
		2	経営組織
		3	経営情報
		4	経営管理
		5	経営戦略
		6	国際経営
		7	人的資源管理
		8	技術経営
		9	経営事情
CMS	商学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	マーケティング
		2	消費者行動
		3	流通
		4	保険
		5	商業
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
ACC	会計学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	財務会計
		2	管理会計
		3	会計監査
		4	簿記
		5	国際会計
		6	税務会計
		7	公会計
		8	環境会計
		9	－
SOC	社会学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	社会学史
		2	社会調査法
		3	社会・文化システム論
		4	社会集団と組織
		5	社会問題
		6	－
		7	－

（次のページに続く）

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
SOC	社会学	8	－
		9	－
COM	コミュニケーション学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	方法・調査
		2	対人・関係性
		3	集団・組織
		4	文化・共生
		5	言語・レトリック
		6	非言語
		7	社会・メディア
		8	心理
		9	－
MJS	メディア（ジャーナリズム）研究	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	新聞・言論
		2	テレビ・映像
		3	出版・電子書籍
		4	インターネット・ニューメディア
		5	広告・広報論
		6	スポーツ・芸能報道論
		7	メディア文化論
		8	国際報道論
		9	マスコミ実践論
SWE	社会福祉学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	社会福祉援助技術
		2	精神保健福祉援助技術
		3	児童
		4	障害者
		5	高齢者
		6	地域・環境
		7	制度・計画
		8	経営・運営
		9	保健医療介護
PSY	心理学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	方法論・実験
		2	教育・発達
		3	生理・認知・学習
		4	対人・社会
		5	人格・臨床
		6	健康
		7	実践
		8	－
		9	－
EDU	教育学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	教育史・教育思想・教育哲学
		2	教育方法・教育技術
		3	教師教育・教育実践

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
EDU	教育学	4	教科教育学
		5	教育心理学
		6	発達教育学・生涯教育学
		7	社会教育
		8	家庭教育
		9	教育社会学・教育行財政学・教育法
ECS	教科教育学（コア教科）	0	－
		1	国語科
		2	社会科・地理歴史科・公民科
		3	数学科
		4	理科
		5	英語科
		6	フランス語科
		7	ドイツ語科
		8	中国語科
		9	朝鮮語科
EOS	教科教育学（その他科目）	0	－
		1	芸術科・音楽科・美術科・工芸科・書道科
		2	保健体育科
		3	技術・家庭科
		4	情報科
		5	農業・工業・水産
		6	商業科
		7	福祉科（＋看護）
		8	商船
		9	宗教科
CCR	保育学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	援助技術
		2	幼児理解
		3	健康
		4	人間関係
		5	環境
		6	言葉
		7	表現
		8	－
		9	－
MTH	数学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	代数学
		2	数論
		3	解析学
		4	幾何学
		5	位相数学
		6	離散数学
		7	確率・統計学
		8	計算法
		9	中国（等）算法

（次のページに続く）

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
PHY	物理学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	力学
		2	力学
		3	電磁気学
		4	熱力学・統計力学
		5	熱力学・統計力学
		6	量子力学
		7	量子力学
		8	相対論
		9	－
ESC	地球科学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	地質学
		2	地質学
		3	古生物学
		4	自然地理学
		5	地震・火山・地球内部構造
		6	地震・火山・地球内部構造
		7	海洋学
		8	気象学
		9	惑星・天文学
CHM	化学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	無機化学
		2	有機化学
		3	物理化学
		4	分析化学
		5	生体化学
		6	環境化学
		7	応用化学
		8	－
		9	－
BIO	生物学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	植物学
		2	動物学
		3	生理学
		4	生態学
		5	生化学
		6	遺伝学
		7	生物科学
		8	生物科学
		9	生物科学
MED	医歯薬学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	薬学
		2	基礎医学
		3	境界医学
		4	社会医学
		5	内科系臨床医学
MED	医歯薬学	6	外科系臨床医学
		7	歯学
		8	看護学
		9	－
IST	情報学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	情報学基礎
		2	情報社会関連
		3	情報システム
		4	ネットワーク関連
		5	ソフトウェア・認知科学
		6	データ活用・データベース
		7	マルチメディア・コンテンツ
		8	経営情報
		9	ビジネス
LIS	図書館学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	図書館学
		2	書誌学
		3	情報工学
		4	－
		5	通信工学
		6	－
		7	メディア学
		8	－
		9	－
MSO	博物館学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	資料収集
		2	整理・保管
		3	調査・研究
		4	教育・普及
		5	管理・運営
		6	博物館実務
		7	館種各論
		8	－
		9	－
GEG	地理学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	地誌学（地域地理学）
		2	自然地理学
		3	人文地理学
		4	－
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
ENV	環境学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	環境思想・哲学・倫理学

（次のページに続く）

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
ENV	環境学	2	環境教育・環境情報
		3	環境法・経済・社会
		4	環境影響評価・環境政策
		5	自然環境・環境動態
		6	放射線・化学物質影響科学
		7	環境技術・環境材料
		8	廃棄物・リサイクル
		9	－
SSS	社会安全システム	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	－
		2	－
		3	－
		4	－
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
JPS	日本地域研究	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	政治
		2	経済
		3	歴史
		4	文化
		5	社会
		6	芸術
		7	文学
		8	学際
		9	－
ANS	アジア地域研究	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	政治
		2	経済
		3	歴史
		4	文化
		5	社会
		6	芸術
		7	文学
		8	学際
		9	－
AMS	アメリカ地域研究	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	政治
		2	経済
		3	歴史
		4	文化
		5	社会
		6	芸術
		7	文学

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
AMS	アメリカ地域研究	8	学際
		9	－
JPF	日本学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	政治
		2	経済
		3	歴史
		4	文化
		5	社会
		6	芸術
		7	文学
		8	学際
		9	－
HSS	健康・スポーツ科学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	体の健康
		2	体の健康
		3	心の健康
		4	心の健康
		5	スポーツ科学
		6	スポーツ科学
		7	－
		8	－
		9	－
SPE	スポーツ&エクササイズ（A群）	0	体つくり運動
		1	器械運動
		2	陸上競技
		3	水泳
		4	球技（ゴール型1）
		5	球技（ゴール型2）
		6	球技（ネット型1）
		7	球技（ネット型2）
		8	球技（ベースボール型）
		9	球技（ターゲット型）
SPE	スポーツ&エクササイズ（B群）	0	－
		1	武道
		2	－
		3	ダンス
		4	－
		5	野外活動（自然体験型）
		6	野外活動（競技型）
		7	エクササイズ1
		8	エクササイズ2
		9	－
GTL	老年学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	老年医学
		2	老年精神医学
		3	老年ヘルスプロモーション

（次のページに続く）

3文字コード	学問分野名称〈日本語〉	十の位	学問分野・領域の細分
GTL	老年学	4	老年心理学
		5	老年社会学
		6	老年福祉学
		7	－
		8	－
		9	－
TOR	観光学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	観光経営論
		2	ホスピタリティ経営論
		3	エンターテイメント経営論
		4	ホスピタリティマネジメント
		5	－
		6	－
		7	－
		8	－
		9	－
AER	航空学	0	総論／総合／概論／一般／原論
		1	航空法
		2	航空経営学
		3	航空操縦学
		4	航空工学
		5	航空気象学
		6	航空事業学
		7	航空気象学
		8	航空管制学
		9	航空整備学

追加ページ（2021/4/13 より）

21.児童福祉司任用資格

児童福祉司は、児童相談所において、18 歳未満の子どもや保護者等から子どもの福祉に関する相談や専門的技術に基づいて必要な援助を判断するための調査を行い、子ども、保護者、関係者等に必要な支援や指導、および関係調整などを行います。

本学における資格取得対象者は、以下のとおりです。

（1）健康福祉学群（社会福祉専修または精神保健福祉専修）で所定の科目を修得後、受験資格を得て国家試験に合格し、社会福祉士、精神保健福祉士資格を取得した者

（2）健康福祉学群（社会福祉専修、精神保健福祉専修、保育専修）の卒業生であり、かつ卒業後に厚生労働省の指定施設で 1 年以上相談援助業務に従事した者

（3）リベラルアーツ学群（心理学専攻、教育学専攻もしくは社会学専攻メジャー修了）の卒業生であり、かつ卒業後に厚生労働省の指定施設で 1 年以上相談援助業務に従事した者

※申請により、本学で修了したメジャーが記載された「学業成績単位修得証明書」の発行を行っています。

※当該資格は任用資格です。したがって、任用資格を満たした上で、各種採用試験に合格し、児童相談所等に配属されなければ効力を発揮しません。

22.児童心理司任用資格

児童心理司は、児童相談所において、心理に関する専門的な知識及び技術を必要とする指導をつかさどる所員を指し、18 歳未満の子どもや保護者の心理状況を把握するための面談や心理検査による心理診断および、その診断内容に応じた心理療法やカウンセリングを行います。

本学における資格対象者は、以下の通りです。

（1）リベラルアーツ学群（心理学専攻メジャー修了）の卒業生

（2）健康福祉学群（精神保健福祉専修　実践心理メジャー修了）の卒業生

※申請により、本学で修了したメジャーが記載された「学業成績単位修得証明書」の発行を行っています。

※当該資格は任用資格です。したがって、任用資格を満たした上で、各種採用試験に合格し、児童相談所等に配属されなければ効力を発揮しません。

桜美林大学履修規程

2024 年 7 月 25 日 制定

（趣旨）

第１条　この規程は、桜美林大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、桜美林大学（以下「本学」という。）の学生の授業科目、単位数、履修方法及び成績評価、卒業の認定等について、必要な事項を定めるものとする。

（用語の定義）

第２条　用語の定義は、次の各号に定めるものとする。

（１）「履修」とは、単位を修得する意思をともなう授業科目又は課程の学修をいう。

（２）「履修登録」とは、定められた手続きに基づき履修する授業科目を登録することをいう。

（３）「履修者」とは、授業科目を履修している学生をいう。

（４）「ＧＰＡ」とは、Grade Point Average の頭文字をとったものであり、成績平均値のことをいう。

（５）「履修条件」とは、授業科目を履修するためにあらかじめ定められた条件をいう。

（６）「履修年次」とは、授業科目ごとに定められる履修開始が可能となる年次のことをいう。なお、年次は休学期間を除く在学期間を数えるものとする。

（７）「休講」とは、休校を除く授業担当教員の都合で授業が行われないことをいう。

（８）「補講」とは、授業が休講になった場合等による不足分を調整するために行われる授業をいう。

（９）「クラス」とは、複数開講される同一授業科目のうち、特定の方法で命名される一つの授業科目をいう。

(10)「アドバイザー」とは、学生ごとに定められた、教学指導及び学生指導を行う教員をいう。

(11)「アドバイジー」とは、アドバイザーが教学指導及び学生指導を行う学生をいう。

（授業期間）

第３条　授業を行う期間は、学則第 25 条に規定する期間のうちオリエンテーション、試験、補講期間を除き、原則として春学期及び秋学期に各 14 週とする。

２　前項に基づき、学則第 23 条第２項に定める学期を分ける場合、授業を行う期間は原則として前半及び後半に各７週とする。

（履修の方法）

第４条　履修する授業科目の選択は、学生が自らの学修計画に基づいて、卒業及び資格取得等に必要な授業科目並びに単位数を確認し、各授業科目、クラスの授業内容（シラバス）、レベル、履修条件、開講時限、施設間移動時間等を十分に考慮して行うものとする。

２　前項の規定に関わらず、一部の教育課程、又は一部の授業科目については、履修登録に先立ち履修する授業科目またはクラスが指定される。学生は、当該授業科目（「自動登録科目」という。）を履修するものとする。

第５条　履修する授業科目の登録は、履修を希望する各学生が定められた期間に、その学期に履修する授業科目を所定の手続きにより、学務を主管する部署に届け出ることによって行うものとする。

２　前項にかかわらず、履修の手続きが定められた授業科目については別に定める手続きにより学務を主管する部署が行うものとする。

第６条　アドバイザーは、担当するアドバイジーの履修登録及び成績を確認し、必要に応じて指導や助言を行うものとする。

２　アドバイザーは、定められた期間内にそのアドバイジーの行った履修登録について所定の手続きにより確認を行うものとする。

（他大学等における授業科目の履修）

第７条　学則第 44 条に定める外国の大学における履修について、本学と単位互換の協定を結ぶ外国の提携校への長期留学時に修得した単位は、対応する本学の分野の科目として、本学において修得したとみなすことができる。

２　前項の規定による履修は、協定校との覚書等に履修条件の記載がある場合を除き当該大学が定める履修条件に従うものとする。

３　本学と単位互換の協定を結ぶ外国の提携校への長期留学期間は、２年以内に限り本学における在学期間に算入される。

第８条　学則第 44 条に定める外国の大学における履修について、本学と単位互換の協定を結んでいない、外国の大学への留学時に修得した単位は、教育上有益と認められる場合に限り、本学卒業に必要な単位として認められる。

第９条　学則第 44 条に定める他大学における履修について、本学と個別に単位互換協定を締結した機関において修得した単位は、対応する本学の分野の科目として、本学において修得したとみなすことができる。

２　前項の規定による履修は、協定校との単位互換協定書等に履修条件の記載がある場合を除き、授業科目を開講する大学が定める履修条件に従うものとする。

３　第１項の規定による履修単位数は、学期ごとの履修単位数の上限に含まれる。

（技能審査による単位認定）

第 10 条　学則第 45 条及び平成３年文部省告示第 68 号に基づき、以下の各号に定める技能審査の結果に応じて単位を授与する。

（１）実用英語技能検定
（２）TOEFL iBT
（３）TOEIC Listening & Reading Test
（４）IELTS（アカデミック・モジュール）
（５）漢語水平考試（HSK）
（６）中国語検定試験
（７）日本商工会議所主催 簿記検定試験

２　前項に定める認定の詳細については履修ガイドに定める。

（単位数の上限）

第 11 条　１学期に履修登録できる単位数は、専ら授業期間外において実施するものとして設置している授業科目を除き、原則として 20 単位（第９条第１項により履修する授業科目を含む。）を上限とする。ただし、第 29 条に基づき算出された前学期のＧＰＡが 3.00 以上の者は 24 単位を、2.00 未満の者は 16 単位を上限とする。

２　２学期にわたって授業が継続する授業科目の単位数の計算にあたっては、原則として定められた単位数に２分の１を乗じて得た数を、当該各学期における履修登録単位数とみなすものとする。

３　ＧＰＡを算出できない学期の翌学期に履修登録できる単位数は、その期間の直前の学期のＧＰＡにより算出する。

４　前項の規定は、復学をした学生に準用する。

５　再入学をした学生の初学期は、第３項を準用せず第１項の規定に準じて算出する。

６　第１項の規定によらず、航空・マネジメント学群航空・マネジメント学類及び教育探究科学群教育探究科学類における各学期に履修登録できる単位数については、学群において別に定める。

（履修制限）

第 12 条　同一の時限に複数の授業科目を履修することはできない。ただし、授業日が重複しない場合はこの限りでない。

第 13 条　異なるキャンパス間の同日開講される授業科目において所定の移動時間を含めて重複する授業科目を履修することができない。ただし、遠隔で行われる授業は、キャンパス間の移動時間の考慮はないものとする。

第 14 条　すでに単位を修得した授業科目及び成績評価が保留されている授業科目は、再度履修することができない。

２　前項の規定は、履修ガイドにおいて複数履修することができるものと定められている授業科目を除く。ただし、再履修においては履修ガイドに定められた条件の下で再度履修可とする。

第 15 条　履修年次が定められた授業科目については、履修開始時においてその年次に達していない学生は、履修することができない。

第 16 条　履修条件が定められた授業科目については、履修開始時においてその条件を満たしていない学生は、履修することができない。

２　教育上支障がないと認めるときは、その学群が管理する授業科目について、個別に能力を審査のうえ、前項に該当する学生に履修を許可することができる。

３　前項の規定は、特定の学群もしくは学類に所属する学生又は特定の課程を履修する学生のみに履修が認められている授業科目について準用する。

第 17 条　同一学期に開講される同一の授業科目は履修登録することができない。

第 18 条　履修希望者があらかじめ定められた人数より多い場合には、抽選によって履修者を決定することがある。

２　前項に定める抽選によって履修者に選ばれなかった学生の履修登録は抹消される。

第 19 条　休学中に授業科目を履修することはできない。

（再履修）

第 20 条　第 14 条の規定にかかわらず、学則第 43 条に定める成績評価がＦまたはＵの授業科目は翌学期以降に別途履修ガイドに定める科目を除き再履修することができる。

２　成績評価がＦの授業科目を再履修してＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄいずれかの評価を受けた場合、在学期間におけるＧＰＡ（以下、通算ＧＰＡ）は再履修後の成績評価で算出されるものとする。

（履修登録の抹消）

第 21 条　履修登録者数が５人に満たないクラスについては、原則として閉講とする。

２　閉講となったクラスの履修登録は抹消される。

（履修登録の変更）

第 22 条　第５条により行った履修登録の一部又は全部を取り消し又は新たに授業科目を履修登録することを希望する学生は、各学期の授業開始日以降の履修登録変更期間（Drop&Add 期間）として定める期間内に、履修内容の変更登録をしなければならない。ただし、第 18 条第１項の規定により履修が認められた科目（抽選科目）は対象外とする。

２　前項の規定に関わらず、教育探究科学群教育探究科学類における登録内容の変更手続きについては、学群において別に定める。

（履修登録の修正）

第 23 条　学生は、履修登録が定められた履修方法に反し又はその学生の意思と異なる状態にある場合には、履修登録の修正を申請することができる。

第 24 条　履修登録の修正を受けようとする者は、その事由を示し所定の手続きにより、学務を主管する部署の長に申請しなければならない。

２　学務を主管する部署の長は、前条に定める条件を満たす学生から修正の請求を受けた場合において、次の各号のいずれかに該当すると認めたときはその履修登録を修正し、次の各号のいずれにも該当しないと認めたときは履修登録の修正を拒否しなければならない。

（１）履修条件に不適合な履修による削除及びこれに伴う削除単位数分の追加

（２）教育組織の都合による授業時限変更により登録変更が必要となった場合の削除及びこれに伴う削除単位数分の追加

（３）クラス増設による履修クラスの変更

３　前項第２号及び第３号の事由に該当する場合、学務を主管する部署の長は、学生からの申し出によらず、当該学生に通知の上、履修登録の修正を行うことができる。

（履修の放棄）

第 25 条　第５条により行った履修登録の一部又は全部を抹消することを希望する学生は、履修登録変更期間後の定められた期間に、所定の手続きを行うことで履修登録の抹消（履修放棄）を行うことができる。

２　前項に定める履修放棄の期限は、学期の授業期間内（定期試験期間を含む）において正当な事由が確認できる場合に限り延長することができる。

（欠席の取り扱い）

第 26 条　授業への欠席回数が授業回数の３分の１を超えた場合、原則としてその学生の成績は不合格とする。

（休講・補講）

第 27 条　学則第 41 条第２号に規定する成績評価資格を保護する観点から、授業を休講した場合、授業科目担当教員は原則として休講回数と同等の補講を実施する。

２　授業科目担当教員が不在等の事由により、授業開始時刻より 15 分以上経過しても授業が開始されない場合、休講として扱う。

（ＧＰＡの計算方法）

第 28 条　本学におけるＧＰＡは、別表１に定めるＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄ、Ｆの５段階の成績評価に、Ａ＝4.00、Ｂ＝3.00、Ｃ＝2.00、Ｄ＝1.00、Ｆ＝０とグレードポイント（Grade Point）を付し、修得した授業の単位数にグレードポイントを乗じ、その合計を履修単位数の合計で除して、小数点第３位以下を切り捨てた数値とする。

GPA＝（Aの単位数×4.00+Bの単位数×3.00+Cの単位数×2.00+Dの単位数×1.00）÷履修単位数の合計（不合格Fを含む）

（成績の表記等）

第 29 条　学則第 43 条に基づき、成績の表記は別表１に定める。なお、Ｓ、Ｕ、ＴＣ、Ｉ、Ｈ、ＷはＧＰＡ計算の適用外とする。

２　合否のみで評価する場合、Ｓ、Ｕをもって表し、Ｓを合格とする。

３　次の各号に定める事情により評価を受けることが難しい場合、学生は成績評価の保留を申し出ることができる。授業担当教員が保留を認めた場合、成績評価が行われるまでの間、Ｉをもって表す。なお、成績評価が行われた時点でＧＰＡの再計算を行う。

（１）天災地変

（２）近親者の死亡

（３）事故による怪我や疾病

（４）その他１号から３号に準じる事情

４　学外実習の実施期間等の理由により、学期内に授業が完了できないと授業科目担当教員が判断した場合、成績評価を保留し、Ｈをもって表す。授業科目担当教員は成績評価が可能となった時点で速やかに成績評価を確定する。なお、成績評価が行われた時点でＧＰＡの再計算を行う。

（成績の基準及び評価）

第 30 条　授業科目担当教員はディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、当該授業科目の目標、目標に到達するために必要な学修計画・学修内容、目標に到達したかを測る適切な評価方法及び成績評価の基準を定め、あらかじめ学生に周知する。

２　授業科目の成績評価は、授業期間終了後に前項に定める基準に従って適切に行うものとする。

３　第１項の内容に変更が生じた場合は速やかに履修者に明示する。

4　学生は、成績評価について疑義がある場合は、所定の期間に授業科目担当教員に質問することができる。

（コア教育領域指定）

第 31 条　本学の基礎・教養教育を構築することを目的とし、学群に「コア教育領域指定（通称「コア７」）」プログラムを置き、学生に履修させるものとする。

2　学群は別表２に定める領域に対応する科目を第 34 条第２項第２号に規定されるレベル 100～200 の科目から指定する。

3　その他、学群のコア教育領域指定に関する事項は、履修ガイドに定める。

（メジャー・マイナー）

第 32 条　学群は専攻科目で構成される専攻プログラム又は専攻コース等を設定し、専門性の高い体系的な学びを提供する。

2　学生は前項に規定する専攻プログラム等を定められた時期にメジャー又はマイナーとして登録する。

3　その他、メジャー・マイナーに関する事項は、履修ガイドに定める。

（サービスラーニング）

第 33 条　学群は、本学の学而事人の理念を実践するための教育プログラムとしてサービスラーニング科目を置くことができる。

2　サービスラーニングに関する事項は学群とサービスラーニングセンターが協議のうえ定める。

（科目ナンバリングコード）

第 34 条　体系的な教育課程の編制及び学生の主体的な履修を支援するため、各授業科目に科目ナンバリングコードを割り振る。

2　科目ナンバリングコードは次の各号からなる。

（１）別表３に規定する学問分野を示す３文字

（２）別表４に規定するレベルを示す数字

（３）別表５に規定する授業の方法を示す数字

（卒業の認定）

第 35 条　卒業の認定は、教授会の議を経て学長が行う。

2　卒業の認定は、学生が次の各号に掲げるすべての要件を満たした場合に卒業の希望があるものとみなして卒業の認定を行う。

（１）　本学に４年以上在学していること。ただし、第２年次に編入学した者は３年以上、第３年次に編入学した者は２年以上在学していること。

（２）　本学において定められた教育課程を履修して、履修ガイドに定める基準を満たしたうえで 124 単位以上を修得していること。

（３）　通算ＧＰＡが 1.50 以上であること。

（４）　所定の納付金をすべて納付済みであること。

3　前項の規定にかかわらず、前項第３号の要件のみを満たしていない者で、特別の事由があると認める場合には、学長は教授会の議を経て卒業を認定することがある。

（早期卒業）

第 36 条　前条の規定にかかわらず、学生が次の各号に掲げるすべての要件を満たした場合には、学長は教授会の議を経て卒業の認定を行うことができる。ただし、学則第 26 条第３項に該当し、修業年限を通算した者を除く。

（１）本学に３年以上在学していること。

（２）本学において定められた教育課程を履修して、履修ガイドに定める基準を満たしたうえで 124 単位以上を修得していること。

（３）通算ＧＰＡが 3.60 以上であること。

（４）当該学生が卒業を希望していること。

（５）その他教授会が必要と認め、学長が承認した要件を満たしていること。

２　前条に定めるものの他、早期卒業に関し、必要な事項は別に定める。

（卒業延期届）

第 37 条　第 35 条第２項の要件を満たしながら、卒業の延期を希望する者は、卒業の認定をする学期の定められた期日までに、届け出なければならない。

（履修ガイド）

第 38 条　この規程に定める事項及び卒業要件を含む教育課程の具体的な内容を定め、具体の手続きや時期、期間、用語の解説等を学生にわかりやすく提示するため、学務を主管する部署は履修ガイドを発行、改訂及び管理する。

２　履修ガイドは年度ごとに発行し、当該年度のカリキュラムに対応した内容とする。

３　過年度に発行した履修ガイドの改訂及び修正については原則、現在年度より最大８年度まで遡って行う。

４　履修ガイドに定める履修手続き等の制定、変更については、教学会議の議を経て学務を主管する部署の長が行う。

５　前項の規定にかかわらず、字句の整備、誤字等の軽微な表現変更及びその他改正内容が形式的と認められる事項は、教学会議の議を経ることなく修正できるものとする。

（雑則）

第 39 条　この規程に定めるもののほか、必要な事項は学長が定める。

（規程の改廃）

第 40 条　この規程の改廃は、常務理事会の議を経て行う。

附　則

この規程は、2024 年９月 16 日より施行する。

別表１＜成績評価等の評語と意味＞（第 29 条関係）

評語	評語の意味	グレードポイント
A	Excellent：特に優秀な成績	4.00
B	Good：すぐれた成績	3.00
C	Fair：一応その科目の要求を満たす成績	2.00
D	Minimal Pass：合格と認められる最低の成績	1.00
F	Failure：不合格	0.00
S	Satisfactory：合格（合否のみで成績を評価する場合に用いる）	－
U	Unsatisfactory：不合格（合否のみで成績を評価する場合に用いる）	－
TC	Transferred Credit：他大学等で修得した単位等の認定	－
I	Incomplete：学生の申し出による履修未完了または成績評価の一時保留	－
H	Hold：授業科目担当教員の判断による成績評価の一時保留	－
W	Withdraw：履修放棄	－

別表２＜コア教育領域指定＞（第 31 条関係）

最低指定単位数	コア教育領域
４単位	外国語
４単位	論理とコミュニケーション
２単位	情報リテラシー
２単位	キリスト教理解
２単位	人間・社会
２単位	芸術・文化
２単位	生命・自然

別表３＜科目ナンバリングコード：分野名称＞（第 34 条関係）

3 文字コード	分野名称＜日本語＞	分野名称＜英語＞	3 文字コード	分野名称＜日本語＞	分野名称＜英語＞
THO	思想	Thought	STS	科学社会学	Science, Technology, and Society
ART	芸術	Art	MJS	メディア学	Media Journalism Studies
PHI	哲学	Philosophy	AVI	航空学	Aviation
RES	宗教学	Religious Studies	HUI	人文探究	Humanistic Inquiry
CHR	キリスト教学	Christianity	SOI	社会探究	Social Inquiry
LIT	文学	Literature	NAI	自然探究	Natural Inquiry
LIN	言語学	Linguistics	IDS	学際領域	Interdisciplinary Studies
COM	コミュニケーション学	Communication	CAD	キャリアデザイン科目	Career Design
HIS	歴史学	History	SEL	サービスラーニング科目	Service Learning
ARC	考古学	Archaeology	ARA	アラビア語（外国語）	Arabic
MUS	博物館学	Museology	BUR	ビルマ語（外国語）	Burmese
GEO	地理学	Geography	CAM	カンボジア語（外国語）	Cambodian
CUL	文化学	Culture	CHN	中国語（外国語）	Chinese
CUA	文化人類学	Cultural Anthropology	ENG	英語（外国語）	English
FOL	民俗学	Folklore	FRE	フランス語（外国語）	French
JUR	法学	Jurisprudence	GER	ドイツ語（外国語）	German
POL	政治学	Politics	IND	インドネシア語（外国語）	Indonesian
INT	国際学	International Studies	ITA	イタリア語（外国語）	Italian
ECO	経済学	Economics	JPN	日本語（外国語）	Japanese
MGT	経営学	Management	KOR	コリア語（外国語）	Korean
TOS	観光学	Tourism Studies	LAT	ラテン語（外国語）	Latin
SOC	社会学	Sociology	MON	モンゴル語（外国語）	Mongolian
EDU	教育学	Education	PRG	ポルトガル語（外国語）	Portuguese

3 文字コード	分野名称＜日本語＞	分野名称＜英語＞	3 文字コード	分野名称＜日本語＞	分野名称＜英語＞
EIQ	教育探究	Educational Inquiry	RUS	ロシア語（外国語）	Russian
PSY	心理学	Psychology	SPA	スペイン語（外国語）	Spanish
ALG	代数学	Algebra	THA	タイ語（外国語）	Thai
MET	幾何学	Geometry	VIE	ベトナム語（外国語）	Vietnamese
MAT	数学	Mathematics	SEM	専攻演習	Seminar
ANA	解析学	Analysis	GRT	卒業論文	Graduation Thesis
APM	応用数学	Applied Mathematics	GRP	卒業制作	Graduation Project
PHY	物理学	Physics	GRR	卒業研究	Graduation Research
CMP	物性物理学	Condensed Matter Physics			
CHE	化学	Chemistry			
BIO	生物学	Biology			
ARC	建築学	Architecture			
MES	社会医学	Medical Science			
NUS	看護学	Nursing Science			
EMM	救急医学	Emergency Medicine			
INM	内科学	Internal Medicine			
SPS	スポーツ科学	Sports Science			
PHE	体育	Physical Education			
HES	健康科学	Health Science			
BIE	人間医工学	Biomedical Engineering			
INS	情報科学	Information Science			
API	応用情報学	Applied Informatics			
ENV	環境学	Environmental Studies			

別表４＜科目ナンバリングコード：レベル＞（第 34 条関係）

科目 レベル	摘要
100	学士入門　基礎・入門・導入的な内容の科目
200	学士初級　発展・応用的な内容の科目
300	学士中級　実践・専門的な内容の科目（高度な内容科目）
400	学士上級　実践・専門的な内容の科目（高度な内容科目）・卒業論文・卒業制作

別表５＜科目ナンバリングコード：授業の方法＞（第 34 条関係）

コード	科目
A	講義
B	演習
C	実技
D	実験
E	実習
F	卒業論文・卒業制作・修士論文・博士論文